

高松市東部運動公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第9冊

奥の坊遺跡群IX  
(奥の坊遺跡 VI区)

2011年3月

高松市教育委員会

## 例　　言

- 1 本報告書は、高松市東部運動公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第9冊で、高松市高松町に所在する奥の坊遺跡VI区（おくのぼういせきVIく）の遺構と遺構出土遺物の報告を収録した。
- 2 発掘調査地ならびに調査期間は次のとおりである。

調査地：高松市高松町奥ノ坊  
発掘調査：1999年12月14日～2000年3月3日  
整理作業：2009年1月5日～2010年12月28日
- 3 発掘調査から報告書編集まで高松市教育委員会教育部文化財課（平成19年度までは文化部文化振興課）が行った（発掘調査と遺構・遺物の整理を文化財専門員大嶋和則が担当し、挿図の作成、本文の執筆・編集を大嶋と協議のうえ、文化財専門員波多野篤が行った）。
- 4 発掘調査から整理作業、報告書執筆を実施するにあたって、下記の方々および関係諸機関から御教示を得た。記して厚く謝意を表する（五十音順、敬称略）。

香川県教育委員会、片岡宏二、地元自治会、地元水利組合、乗松真也、古高松土地改良区
- 5 現地での発掘調査や整理作業にあたっては、下記の方々の御協力を得た。記して厚く謝意を表する（敬称略）。

大野宏和・川部浩司・信吉純恵・山内康郎（当時　徳島文理大学大学院）、四方大輔・高瀬智充・高崎誠・増田ゆず・水田貴士・林田真典（当時　徳島文理大学）、末光甲正（当時　讃岐文化遺産研究会）
- 6 本調査に関連して、以下の業務を委託発注により実施した。

航空写真測量　　アジア航測 株式会社  
遺物写真撮影　　西大寺フォト  
樹種同定　　株式会社 吉田生物研究所
- 7 挿図として、国土地理院発行1/25,000地形図「高松北部」「高松南部」「五剣山」「志度」を一部改変して使用した。
- 8 本報告の高度値はT.P.を基準とし、座標は国土座標第IV系（日本測地系）に従った。また、方位は座標北を示す。
- 9 本書で用いる遺構の略号は次のとおりである。

SD：溝　　SH：竪穴住居跡　　SK：土坑　　SP：柱穴
- 10 調査は複数年度・複数調査区・複数遺構面になることが予想されたため、遺構番号は調査区番号、遺構面番号、遺構番号（3桁まで）の順に5桁の数字としている（例：VI区・第1遺構面・土坑001=SK61001）。ただし、全体の平面図では遺構番号を省略した。
- 11 本書で使用している挿図の縮尺は、遺構図は1/40、土器実測図は1/4、石器実測図は1/2を原則としているが、大型の石器については一部を異なる縮尺としてその点を明示している。また、写真図版における遺物の縮尺はすべて任意である。
- 12 発掘調査で得られたすべての資料は高松市教育委員会で保管している。

# 本文目次

## 第1章 調査の経過

第1節 発掘調査と整理の経過	1
第2章 地理的・歴史的環境	
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第3章 調査の概要	
第1節 調査地の概要	5
第2節 調査区の概要と調査方法	5
第3節 基本層序	5

## 第4章 調査成果

第1節 III層出土遺物の概要	8
第2節 検出遺構	8
第3節 遺構出土遺物	26
第5章 総括	
第1節 VI区の調査成果	57
第2節 弥生時代中期の集落について	57
第3節 集落の特徴と今後の検討課題	60
付 編 自然科学分析	
SH61001出土炭化材の樹種同定	62

# 挿図目次

図1 奥の坊遺跡の位置とおもな河川	
図2 高松市東部運動公園整備事業発掘調査地 (1/2,500)	
図3 周辺道路分布図 (1/40,000)	
図4 VI区グリッド配置図	
図5 北壁土層断面図① (1/40)	
図6 北壁土層断面図② (1/40)	
図7 遺構平面図 (1/150)	
図8 壓穴住居跡 平面図・断面図① (1/80)	
図9 壓穴住居跡 平面図・断面図② (1/80)	
図10 壓穴住居跡 平面図・断面図③ (1/80)	
図11 壓穴住居跡 平面図・断面図④ (1/80)	
図12 壓穴住居跡 平面図・断面図⑤ (1/80)	
図13 土坑 平面図・断面図① (1/40)	
図14 土坑 平面図・断面図② (1/40)	
図15 土坑 平面図・断面図③ (1/40)	
図16 SH61001 出土土器実測図 (1/4)	
図17 SH61001 出土土製品実測図 (1/2)	
図18 SH61002 出土土器・土製品実測図 (土器1/2,土製1/4)	
図19 SH61003・61004・61007 出土土器実測図 (1/4)	
図20 SH61008・61009 出土土器実測図 (1/4)	
図21 SH61010 出土土器実測図① (1/4)	
図22 SH61010 出土土器実測図② (1/4)	
図23 SH61010 出土土器実測図③ (1/4)	
図24 SH61011 出土土器実測図① (1/4)	
図25 SH61011 出土土器・土製品実測図②(土器1/2土製1/4)	
図26 SH61012 出土土器実測図① (1/4)	
図27 SH61012 出土土器・土製品実測図②(土器1/2土製1/4)	
図28 SH61012 出土土器実測図③ (1/4)	
図29 SH61012 出土土器実測図④ (1/4)	
図30 SH61012 出土土器・土製品実測図⑤(土器1/2土製1/4)	

図31 SH61013 出土土器実測図 (1/4)	
図32 SH61014・61015 出土土器実測図 (1/4)	
図33 土坑 出土土器実測図① (1/4)	
図34 土坑 出土土器実測図② (1/4)	
図35 土坑 出土土器・土製品実測図③ (土製品1/2,土器1/4)	
図36 土坑 出土土器実測図④ (1/4)	
図37 土坑 出土土器実測図⑤ (1/4)	
図38 土坑 出土土器実測図⑥ (1/4)	
図39 溝 出土土器実測図 (1/4)	
図40 ピット 出土土器実測図 (1/4)	
図41 SH61001埋土一括・b上層 出土石器実測図① (1/2)	
図42 SH61001埋土一括・b上層 出土石器実測図② (1/2)	
図43 SH61001-b下層・a中央土坑 出土石器実測図① (1/2)	
図44 SH61001-b下層・a中央土坑 出土石器実測図② (S59:1/4, その他:1/2)	
図45 SH61002・61004・61006 出土石器実測図 (1/2)	
図46 SH61008・61010 出土石器実測図 (1/2)	
図47 SH61011 出土石器実測図 (1/2)	
図48 SH61012 出土石器実測図① (1/2)	
図49 SH61012 出土石器実測図② (1/2)	
図50 SH61013 出土石器実測図 (1/2)	
図51 土坑 出土石器実測図① (1/2)	
図52 土坑 出土石器実測図② (S142・148:1/4, その他:1/2)	
図53 土坑 出土石器実測図③ (1/2)	
図54 土坑 出土石器実測図④, 溝・ピット 出土石器実測図 (S162・163:1/4, その他:1/2)	
図55 SH61001 分析試料採取位置 (1/80)	

# 表 目 次

表1 東部運動公園整備事業に伴う発掘調査経過	表5 SH61001出土炭化材樹種同定結果
表2 調査地周辺の遺跡	表6 土坑 観察表(1)～(4)
表3 堪穴住居跡の石器出土量集計表	表7 弥生土器・土製品 観察表(1)～(12)
表4 VI区検出の堪穴住居跡一覧	表8 石器 観察表(1)～(3)

## 写真図版目次

### 図版1

- 1 調査区近景(北西から:左がVI区、右側がVII区)
- 2 調査区近景(北東から:手前がVI区、奥がVII区)

### 図版2

- 1 調査区垂直写真(上が北:北側がVI区、南側がVII区)

### 図版3

- 1 SH61001 調査状況(北西から)
- 2 SH61001-b 炭化材検出状況(西から)
- 3 SH61001-b 炭化材検出状況(北から)
- 4 SH61001-b西半 炭化材検出状況(北から)
- 5 SH61001-b西半 炭化材と遺物出土状況(北西から)
- 6 SH61001-b 炭化材検出状況(東から)
- 7 SH61001-a・b 完掘状況(北西から)
- 8 SH61001-b中央土坑 完掘状況(北から)

### 図版4

- 1 SH61001・61002 完掘状況(南西から)
- 2 SH61003とその周辺の住居 完掘状況(南東から)
- 3 SH61004床面の遺構検出状況(東から)
- 4 SH61005・61006床面の遺構検出状況(西から)
- 5 SH61006北西隅 炭化材出土状況(北西から)
- 6 SH61008・61009 調査状況(南西から)
- 7 SH61010・61011 完掘状況(南東から)
- 8 SH61010 完掘状況(南西から)

### 図版5

- 1 SH61011とその周辺の住居 完掘状況(北西から)
- 2 SH61011 完掘状況(南西から)
- 3 SH61012北半 埋土上半 遺物出土状況(南から)
- 4 SH61012北半 埋土上半 遺物出土状況(北西から)
- 5 SH61012北半 埋土上半 遺物出土状況(西から)
- 6 SH61012北半 埋土上半 遺物出土状況(北から)
- 7 SH61011とSH61012の重複関係(南東から)
- 8 SH61012床面の遺構配置状況(南西から)

### 図版6

- 1 SH61014床面の遺構配置状況(北から)
- 2 SH61015床面の遺構配置状況(南東から)
- 3 SK61017 完掘状況(北西から)

### 図版7

- 4 SK61033 断面(西から)
- 5 SK61051 断面(北から)
- 6 SK61053 断面(南から)
- 7 SK61057 断面(東から)
- 8 SK61069～61071 完掘状況(南西から)

### 図版8

- 1 SK61070 遺物出土状況(北東から)

### 図版9

- 2 SK61073・61074 断面(南から)

### 図版10

- 3 SK61077 断面(北東から)

### 図版11

- 4 SK61089 断面(東から)

### 図版12

- 5 SK61191 断面(東から)

### 図版13

- 6 SK61195 断面(南から)

### 図版14

- 7 SK61196 断面(南西から)

### 図版15

- 8 SK61197 断面(東から)

### 図版16

- 1 土坑出土土器②

### 図版17

- 2 土坑出土土器③

### 図版18

- 3 土坑出土土器④、溝出土土器、土製品集合

### 図版19

- 4 土石器①(堪穴住居跡、土坑、溝、ピット出土)

### 図版20

- 5 土石器②(堪穴住居跡、土坑、ピット出土)

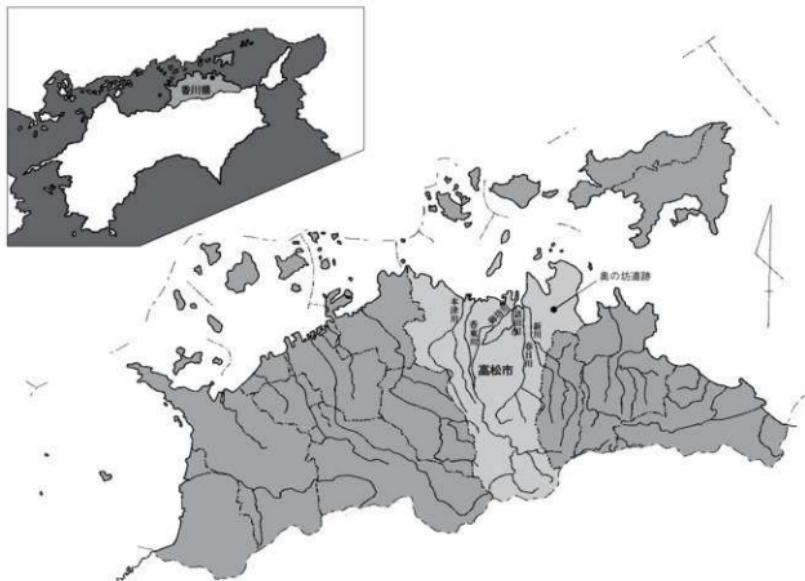


図1 奥の坊遺跡の位置とおもな河川



写真1 平成22年度現在の東部運動公園の様子

# 第1章 調査の経過

## 第1節 発掘調査と整理の経過

事業全体の経緯と経過、および発掘調査の経緯の詳細については、昨年度までに刊行している同一事業の報告書である『奥の坊遺跡群Ⅰ～Ⅶ』に記しているため、本書では省略する。なお、東部運動公園整備事業に伴い実施した発掘調査の調査区配置図を図2に。調査を実施した期間や各地区の報告書刊行年度などを表1にまとめたので、そちらも参照されたい。

### a. 発掘調査の経過

本書では、平成11年度に調査したVI区の調査成果のうち、遺物包含層（Ⅲ層）出土遺物以外の成果を掲載する。VI区は、平成21年度に刊行した『奥の坊遺跡群Ⅷ』で報告したⅦ区の南側隣接地にあたる調査区である（図2）。VI区の調査面積は約1,100m<sup>2</sup>で、先述したⅦ区の調査と並行して1999年12月14日～2000年3月3日まで行った。発掘調査のおもな経過は以下のとおりである。

#### 調査日誌抄（1999年12月14日～2000年3月3日）

1999年12月14日(火)～2000年1月18日(火) 重機掘削。

2000年2月10日(木)～同年2月28日(月) 造構の調査、および補足調査。

2000年1月14日(金)～同年2月8日(火) 遺物包含層（Ⅲ層）の人力掘削。

2000年2月25日(金) 航空写真測量を実施。遺構完掘状況の足場写真を撮影。

2000年1月27日(木)～同年2月14日(月) 造構の検出作業。

2000年3月3日(金) 全ての調査が完了。

### b. 整理作業の経過

本書で報告するVI区の整理作業は以下のとおり実施した。2001年～2002年に遺構・遺物・図面の基礎整理、2009年1月～2010年3月に遺物実測、2010年1～9月に挿図のレイアウトとトレイス、2010年4～9月に原稿の執筆を行った。

# 第2章 地理的・歴史的環境

## 第1節 地理的環境

高松市は香川県のほぼ中央に位置する県都で、2005年9月および2006年1月に近隣6町と合併し、人口約42万人、面積約375km<sup>2</sup>の新たな高松市が誕生した（図1）。市域の大部分を占めるのが高松平野と呼ばれる平野部で、讃岐山脈に端を発する中小河川によって形成された沖積地である。高松平野には、西から本津川、香東川、御坊川、詰田川、春日川、新川の6河川が瀬戸内海に向けて流れ込んでいる。とりわけ、現在の春日川以西の沖積平野を形成したのが香東川と考えられている。一方、調査地の位置する古高松（高松町・新田町・春日町）地区は春日川と新川に近い地域で、両河川は水量が少なく、平野中央部を流れる香東川のように大規模な扇状地は形成していない。また、古高松地区の北部は、江戸時代初期の干拓により陸地化されたものであり、寛永10（1633）年の『讃岐国続図』によると、その頃の海岸線はかなり内陸に入り込んでおり、古高松地区の北に位置する屋島は島として描かれている。北を屋島に面した海岸（旧地形による）、東を立石山山塊、南を久米山丘陵、西を春日川によって限られた高松平野北東部の一角は、古代・中世を通じて「高松」（讃岐国山田郡高松郷）と呼ばれたが、天正16（1588）年の生駒親正による高松城築造以後は、城下町の高松に対して「古高松」と呼称されてきた。江戸時代以前の古高松の地形を推定できる史料として、古老の話を元に香西成賀が享保4（1719）年に編纂した『南海通記』がある。その中に天正10（1582）年の頃として「…春日ノ里ニ至ル。此所ハ屋島山、石清尾山兩受ノ間、入海ニテ山田郡小山ノ下マデ瀬サシ来ル、遠干潟ナ春日里ト木太郷ノ間、海ノ中道アツテ通用ス。…」との記述がある。ここで言う小山とは、現在の高松市新田町小山にあると考えられ、この小山近辺まで海岸線あるいは河口が湾状に入り込んでいたと想定できる。

東部運動公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査事業として調査を行った「奥ノ坊」は高松町の北東端にあたり、地形的には旧高松市と旧牟礼町（現：高松市牟礼町）にまたがる標高100～200mの山塊の西側低丘陵地の尾根および谷部に位置する。現在、当地は内陸部としての景観をなすが、上記の推定海岸線を考慮すると海岸から1.0～1.5kmと非常に近い場所に位置するものと考えられる。

## 第2節 歴史的環境

調査地周辺では、おもに発掘調査によって旧石器時代から近世にかけての遺構・遺物が検出されている（図3）。各時代のおもな遺跡と概要については表2に整理したが、ここでは奥の坊遺跡の集落が最も盛行した弥生時代に限定して、周辺の遺跡を概観する。

奥の坊遺跡の南西側約100mの地点には、奥の坊現前遺跡〔4〕が位置する。遺跡の中心は後期前半であるが、調査では中期前半の堅穴住居跡もわずかに検出されており、奥の坊遺跡の集落との密接な連携が想定される。また、奥の坊遺跡から南東へ約450mの地点には、香川県の後期前半の標準となる土器が出土した大空遺跡〔10〕が所在する。

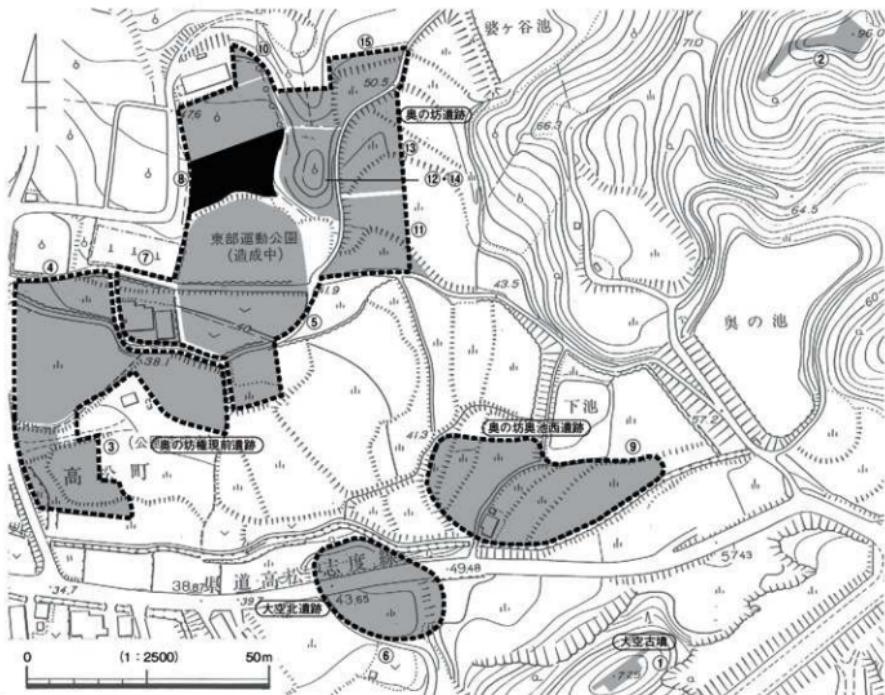


図2 高松市東部運動公園整備事業発掘調査地 (1/2500)

表1 東部運動公園整備事業に伴う発掘調査経過

番号	遺跡名	調査区名	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査方法	報告書シリーズ名 (刊行年月)
一	試掘調査	全域	1995.8.4 ~ 1997.10.8	2,997	直営	奥の坊遺跡群Ⅰ (1999.3)
①	大空古墳	全域	1996.2.14 ~ 1996.2.23	150	直営	
②	金川湖古墳	全域	1996.2.23 ~ 1996.3.8	300	直営	
③	奥の坊現前遺跡	I~III	1997.2.10 ~ 1997.3.24	1,560	委託	
④	奥の坊現前遺跡	IV~VI	1997.10.7 ~ 1998.3.13	5,200	委託	奥の坊遺跡群Ⅱ (2004.3)
⑤	奥の坊遺跡	I~II	1998.9.14 ~ 1999.2.19	4,900	委託	
		III~IV				未刊
⑥	大空北遺跡	全域	1999.4.16 ~ 1999.6.4	2,200	直営	奥の坊遺跡群Ⅲ (2004.12)
⑦	奥の坊遺跡	V	1999.5.28 ~ 1999.7.13	700	直営	奥の坊遺跡群Ⅵ (2007.12)
⑧	奥の坊遺跡	VI	1999.11.10 ~ 2000.3.3	2,300	委託	本書
		VII			委託	奥の坊遺跡群Ⅹ (2010.3)
⑨	奥の坊奥池西遺跡	全域	2000.4.17 ~ 2000.7.25	3,600	直営	奥の坊遺跡群Ⅲ (2004.12)
⑩	奥の坊遺跡	VII	2000.10.2 ~ 2000.12.28	300	直営	奥の坊遺跡群Ⅶ (2009.3)
⑪	奥の坊遺跡	IX	2000.10.5 ~ 2001.1.12	1,180	委託	奥の坊遺跡群Ⅷ (2009.3)
⑫	奥ノ坊古墳群(測量)	全域	2001.6.5 ~ 2001.6.27	-	直営	奥の坊遺跡群Ⅳ (2006.3)
⑬	奥の坊遺跡	X	2001.8.27 ~ 2002.1.18	1,320	委託	奥の坊遺跡群Ⅸ (2009.3)
⑭	奥ノ坊古墳群	全域	2001.9.4 ~ 2001.11.28	1,020	直営	奥の坊遺跡群Ⅳ (2006.3)
⑮	奥の坊遺跡	XI	2002.4.2 ~ 2002.7.5	1,180	直営	奥の坊遺跡群Ⅷ (2009.3)
-	久米池遺跡	全域	2003.1.8 ~ 2003.1.21	200	立会	奥の坊遺跡群Ⅳ (2006.3)

番号は、図2の番号に対応する。

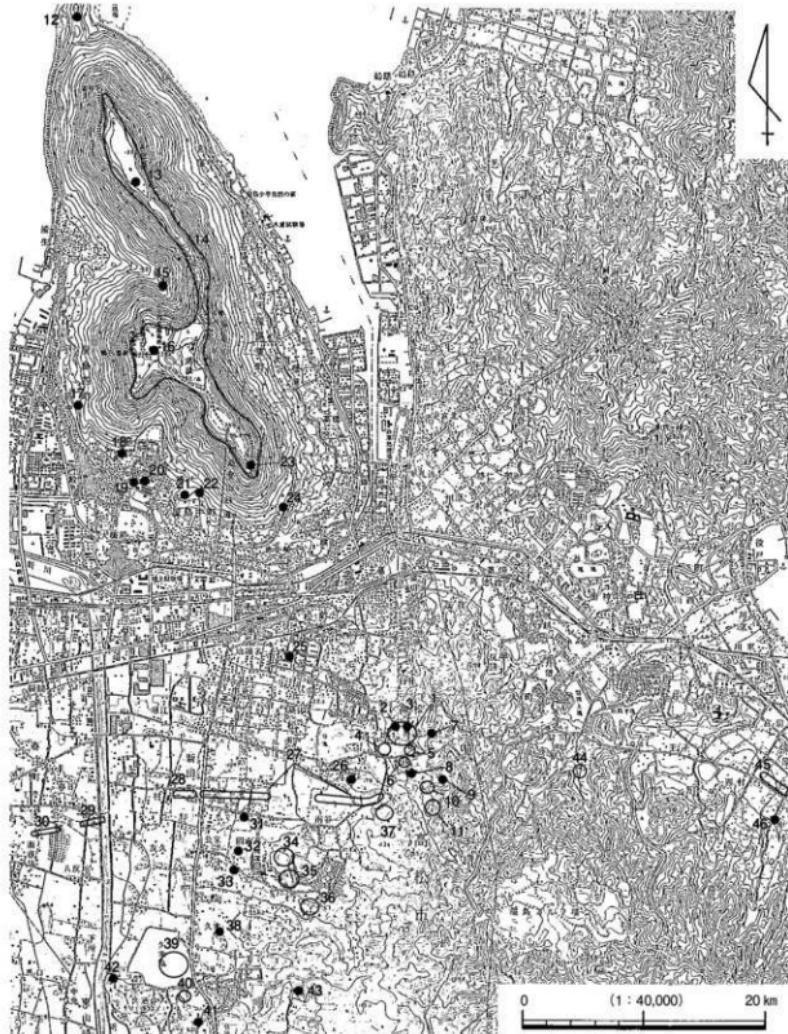


図3 周辺遺跡分布図 (1:40,000)

- |             |            |             |             |             |             |
|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 1 奥の坊遺跡     | 2 奥ノ坊1号墳   | 3 奥ノ坊2～4号墳  | 4 奥の坊稚墳現前道路 | 5 奥の坊奥池西道路  | 6 大空南北道路    |
| 7 金川古墳      | 8 大空古墳     | 9 スベリ古墳     | 10 大空道路     | 11 大空南北道路   | 12 長崎暮古墳    |
| 13 千間堂跡     | 14 羽鶴城     | 15 潟生石島     | 16 犀鳥寺      | 17 北浦1～3号墳  | 18 中筋北古墳    |
| 19 屋島中央西古墳  | 20 屋島中央東古墳 | 21 金刀比羅宮社古墳 | 22 東山地古墳    | 23 屋島經塚     | 24 湘ノ谷1～3号墳 |
| 25 高松（善岡）城跡 | 26 長尾1～3号墳 | 27 小山・南谷道路  | 28 新田本村道路   | 29 川南・東道路   | 30 川南・西道路   |
| 31 小山古墳     | 32 山下古墳    | 33 山下廻寺     | 34 岡山小古墳群   | 35 岡山古墳群    | 36 津谷古墳群    |
| 37 南谷道路     | 38 久木古墳    | 39 久米池道路    | 40 久米池南道路   | 41 高松市茶臼山古墳 | 42 調防神社道路   |
| 43 萩本神社古墳   | 44 羽間道路    | 45 原中村道路    | 46 原道路      |             |             |

表2 調査地周辺の遺跡

番号	遺跡名	所在地	概要	文献	番号	遺跡名	所在地	概要	文献
旧石器～縄文					32	山下古墳	新田町	巨大な外石室で竪穴を複数有する古墳。	14
40 久米池南遺跡	新田町	ナイフ型石器が出土。	1	43 鶴本村古墳	新田町	丁字型の石室。	15		
27 小谷・南谷遺跡	新田町	港とし六穴の土坑を14基発見。	2	38 久木本塙	新田町	石室に有り、鏡面型の龜甲型陶器を複数。	16		
5 熊の坊奥池西遺跡	高松町	港とし穴と考文される遺跡を検出。	3	36 長尾古墳群	高松町	類似は円錐形で、龜六式石室。	9		
弥生時代					35 両岡古墳群	新田町	前方後円墳と円墳からなる古墳群。	9	
42 諸説神社遺跡	新田町	前期後半頃の環濠と考えられる遺構を検出。	4	34 田岡小古墳群	新田町	円墳15基からなる古墳群。	9		
44 茅隈遺跡	牛乳町	鏡面型陶器が出土。	5	36 逢合古墳群	新田町	円墳3基からなる古墳群。	17		
49 久米池北遺跡	新田町	中期後半の高地性集落。赤陶土器や瓦片が出土。	1	23 奥の坊古墳群	高松町	円墳からなる古墳群。	18		
19 大空寺跡	高松町	中期後半の高地性となる土器が出土。	6	8 大空古墳	高松町	直徑11mの円墳。	6		
4 熊の坊後期前遺跡	高松町	駒塚・豈が田上。	7	7 金田川古墳	高松町	直徑10mの円墳。	6		
13 大空寺遺跡	高松町	既生・豈が田上。	8						
37 南谷遺跡	高松町	駒塚・豈が田上。	9						
27 小谷・南谷遺跡	新田町	駒塚土器が出土。	9	14 伊賀城	尾崎町	城址遺跡や石室が検出。	13		
46 屋根遺跡	牛乳町	後期後半の傾斜となる土器が出土。	10	28 新田本村遺跡	新田町	先史祭祀場を検出。	19		
45 須中村遺跡	牛乳町	港が付いた土器が多量に出土。	11	4 岩の坊後期前遺跡	高松町	先史祭祀場を検出。	2		
古墳時代					33 山下寺塚	新田町	既生各祭祀場を検出。	7	
42 諸説神社遺跡	新田町	堅穴式石室3基確認。	4	13 千間古墳	尾崎町	古代の瓦を採集。	20		
43 高松市新田山古墳	高松町	全長75mの後方削正墳。堅穴式石室2基を検出。	12	30 川浦・西瀬遺跡	幸田町	10～11世紀の礎石建築物などを検出。	13		
12 佐賀島古墳	高島町	河原崎附近の堅穴式石室が出土。	13	5 既生岩の坊西遺跡	高松町	16～17世紀の礎石建築物などを検出。	21		
30 小谷小塙	新田町	後谷背溝寺付近の古墳。	9	29 刈田・東洋遺跡	幸田町	土被築。	3		
								22	

\*番号は図3の番号に対応する。なお、表2は時代ごとに遺跡を整理したため、複合遺跡の場合に複数回記載する場合がある。

次に調査地の西側を概観すると、調査地の南西約3kmの地点には諭訪神社遺跡〔42〕があり、前期後半頃の環濠と考えられる溝が検出されている。諭訪神社遺跡は標高25～28mの丘陵尾根先端部に営まれた遺跡で、溝はその丘陵を閉むように配置されている。溝の内側には同時期の遺構・遺物はほとんど認められず、一般的な環濠集落とは様相を異にする点が注目される。諭訪神社遺跡では中期前半の溝も確認されているが、中期後半には木棺墓3基を造墓し、遺跡の性格が変化している点にも留意すべきだろう。諭訪神社遺跡から南東へ600mの位置には、中期後半の高地性集落である久米池南遺跡〔40〕がある。久米池南遺跡では、掘立柱建物を囲んで堅穴住居跡が構築されており、集落の外縁部には土塹墓が造墓されている。さらに、久米池南遺跡からは鉄斧や絵画土器が出土した点は注目される。一方、調査地から丘陵を隔て東へ約3kmの地点には、後期から終末期を中心に営まれた原中村遺跡〔45〕が位置し、堅穴住居などをを中心とした集落を形成している。また、奥の坊遺跡から東へ約1.5kmの地点には、明治14・15年頃の開墾中に細形鋼劍が出土した羽間遺跡〔44〕が位置する。

以上のように、調査地周辺には奥の坊遺跡、奥の坊現前遺跡、大空遺跡などの集落が中期から後期にかけて営まれ、さらに調査地から3km圏内には前期から後期にかけての遺跡が空的に分布する状況が読み取れる。いずれも長期間継続する集落や墓域は認められず、高松平野に所在する遺跡全体の動向と同様の傾向である。当事業では広範囲を調査したことでの多くの情報が把握でき、高松平野における弥生時代中期の集落の具体的な状況を示す重要な調査例となるだろう。

表2 引用文献

- 高松市教育委員会1989「久米池南遺跡発掘調査報告書」
- 香川県教育委員会1994「県道高松市度線道路改良事業に伴う発掘調査報告 小山・南谷遺跡 平成5年度」
- 香川県教育委員会1997「県道高松市度線道路改良事業に伴う発掘調査報告 小山・南谷遺跡I」
- 高松市教育委員会2004「高松市東部運動公園(仮称)整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第3章 奥の坊道跡群Ⅲ(大空北道路・奥の坊奥池西道路)」
- 高松市教育委員会2007「諭訪神社本殿移築・久米山墓地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 諭訪神社道路・久米山道路群・諭訪神社御所地区」
- 幸町字編集委員会(編)「牛乳町史」
- 高松市教育委員会1999「高松市東部運動公園(仮称)整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第1章 奥の坊道跡群Ⅰ(奥の坊地区(試掘) 大空古墳 金田古墳)」
- 高松市教育委員会2004「高松市東部運動公園(仮称)整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第2章 奥の坊道跡群Ⅱ(奥の坊現前遺跡)」
- 古高松郷土誌編集委員会(編) 1977「古高松郷土誌」
- 高松市歴史資料館1996「高松市歴史資料館収蔵資料目録～考古資料～」
- 古高松郷土誌編集委員会(編) 1977「古高松郷土誌」
- 10 六率思-1961「香川県木田郡半田村寺道跡の土器」『弥生式土器集成2』
- 11 香川県教育委員会2000「県道高松市度線緊急整備工事および隣立医療短期大学建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 原中村遺跡」
- 12 香川県教育委員会1970「高松市白石山古墳緊急発掘調査概報」
- 前田郷字編集協議会1989「前田郷土誌」
- 13 高松市教育委員会2003「史跡天然記念物 稲鳥 - 史跡天然記念物館は基礎調査事業調査報告書I-」
- 14 香川県教育委員会1980「山下古墳調査報告」
- 15 香川考古刊行会1993「香川考古 第2号」
- 16 高松市教育委員会2004「高松市度線史跡 久木古墳 - 保存整備・市道新田町61号線道路改良に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-」
- 17 高松市教育委員会2004「茅谷古墳調査」
- 18 高松市教育委員会2006「高松市東部運動公園(仮称)整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第4章 奥の坊道跡群IV(奥の坊古墳群・久米池遺跡)」
- 19 高松市教育委員会2006「都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告書 第3章 新田本村道路」
- 20 高松市史資料館1996「第11回特別展 譲岐の古瓦屍」
- 21 高松市教育委員会1999「都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告書 第1章 川浦・西道跡」
- 22 高松市教育委員会2000「都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告書 第2章 川浦・東道跡」

# 第3章 調査の概要

## 第1節 調査地の概要

VII区は、昨年度に成果を報告したVII区の南側隣接地にある（図版1-1・2）。当地点は、巨視的には東西方向にのびる丘陵の南向き緩斜面付近に位置する。一方、微視的に見ると、調査地の東西には南北へ舌状に延びる小規模な2つの尾根があり、VI区は双方の小丘陵に挟まれた谷部にある。VI区と北側に隣接するVII区の調査成果から、当地は弥生時代中期を主体とする集落域であることが明らかとなった。VII区は谷部のなかでも標高の高い地点にあるため、集落域の北端付近に位置する調査区と考えられ、その南側に位置するVI区は、VII区と比較して遺構密度が高いことから、居住域の中心付近に位置する調査区と位置付けられる。調査前の現地表面の標高は44.2~44.6mで、遺構面の特徴は、南側に向けて緩やかに下り、なおかつ東西方向は調査区の中央付近が調査区東・西端よりも低くなる地形である。なお、VII区は、後世の水田造成のために旧地形に大きな改変が加えられており、現地表面の標高もVI区と比較して1.9~5.4m程度高くなっている。このため、VI区とVII区の層序は、隣接する地区でありながら細部で違いを見せる。

## 第2節 調査区の概要と調査方法

VI区では、事業対象地内に東西方向に長い調査区を設けた（図4）。調査区の東側や南側はやや不整形な形状だが、調査面積は約1,100m<sup>2</sup>である。調査の方法は、後述する基本層序のI・II層をバックホウで掘削し、III層は人力で遺物を取り上げながら掘削した。III層を掘削したのちに、IV層上面を平面を精査し遺構の検出および調査を行った。遺構の実測は、昨年度に報告したVII区と合わせて国土座標に従って設定した10m四方のグリッドを用いた。打設した調査杭には、東西方向を西から順にアラビア数字の1~6、南北方向を北から順にアルファベットのA~Hと命名し、その交点の組み合わせを調査杭の個別名称とした。さらに、グリッドの名称は、グリッドの南東隅の調査杭の呼称を用いることにした。例えば、VI区北東端のグリッドは「D 6」となる。

## 第3節 基本層序

前述したとおり、VI区とVII区の基本層序は細部に違いを見せるが、その相違は後世の水田造成によるところが大きい。しかし、造成による変形の影響を受けないIII層以下についておむね共通する。VI区の層序は、大別4層にまとめることができる（図5・6）。I層は現代耕作土で、層厚は5~35cmである。II層は緑灰色~灰黄色砂混粘質土で、層厚は25~75cmである。III層は灰褐色や褐色などの色調を呈する砂混粘質土層で、層厚は10~35cmである。IV層はにぶい黄橙色粗砂である。II層は、包含する遺物や周辺の調査成果から、近世以降に形成された水田造成に関連した土層と判断できる。III層は、調査区中央付近に最も厚く堆積する土層で、土器や石器を大量に含む。ただし、東側に向けて地形面が高くなる調査区東端ではIII層が認められず、標高の高い地点では後世の水田造成などによって堆積層が削られたか、あるいは当初よりIII層が存在しなかったかのいずれかが考えられる。III層に含まれる遺物はおむね弥生時代中期前半に帰属することから、III層の形成年代は弥生時代中期前半以降ということになる。なお、VII区でもIII層に対応する土層を確認しており、調査地周辺の谷部にはIII層が広範囲に堆積していることが分かる。IV層は、遺物を含まず、かつ人為的に攪拌された痕跡も認められないことから、当地の基盤をなす自然堆積層と判断できる。なお、VII区では、VI区のIII層に対応する土層の上位に谷地形を埋める堆積層が認められたが、VI区ではそれに対応する堆積層は確認できなかった。VII区におけるこの土層の堆積する標高を考えると、VI区ではそれよりも深い箇所まで造成がおよんでいたためにすでに失われたのだろう。

VI区の遺構検出面はIV層上面で、堅穴住跡や土坑など多数の遺構が調査区のほぼ全域に認められた。



図4 VI区グリッド配置図

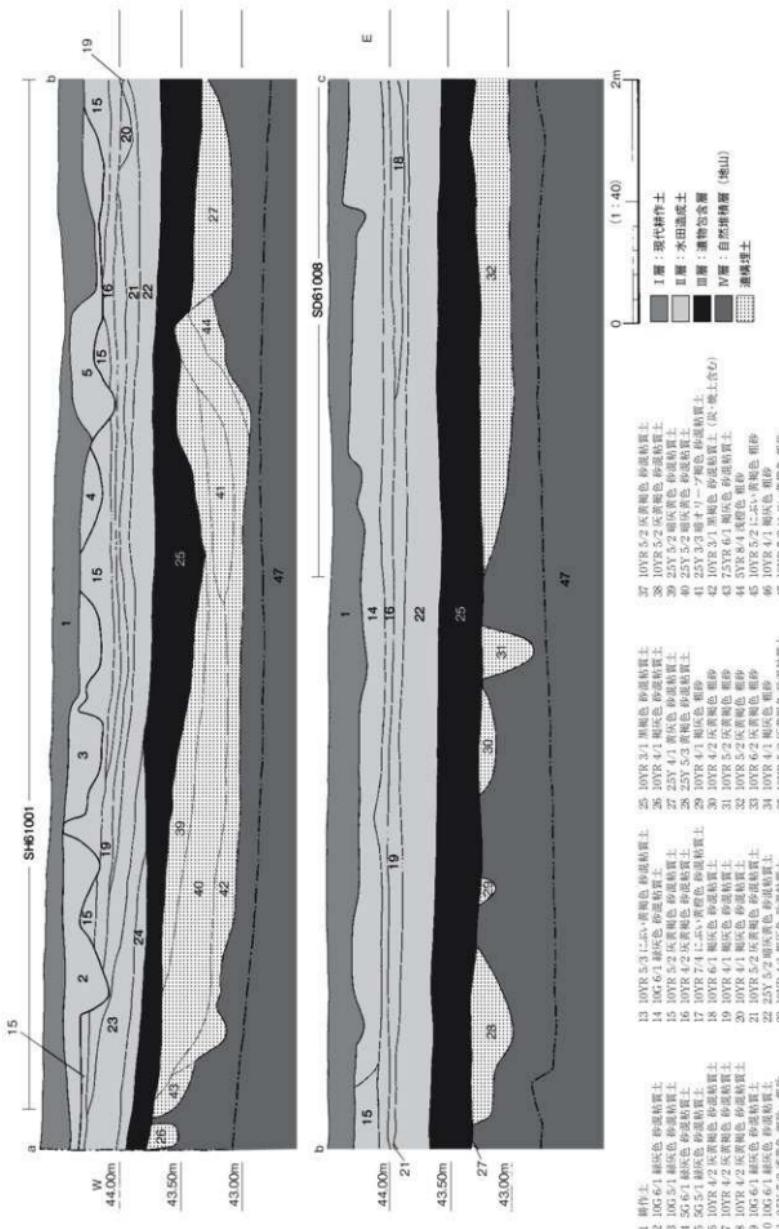


图 5 北壁土层剖面图① (1 / 40)

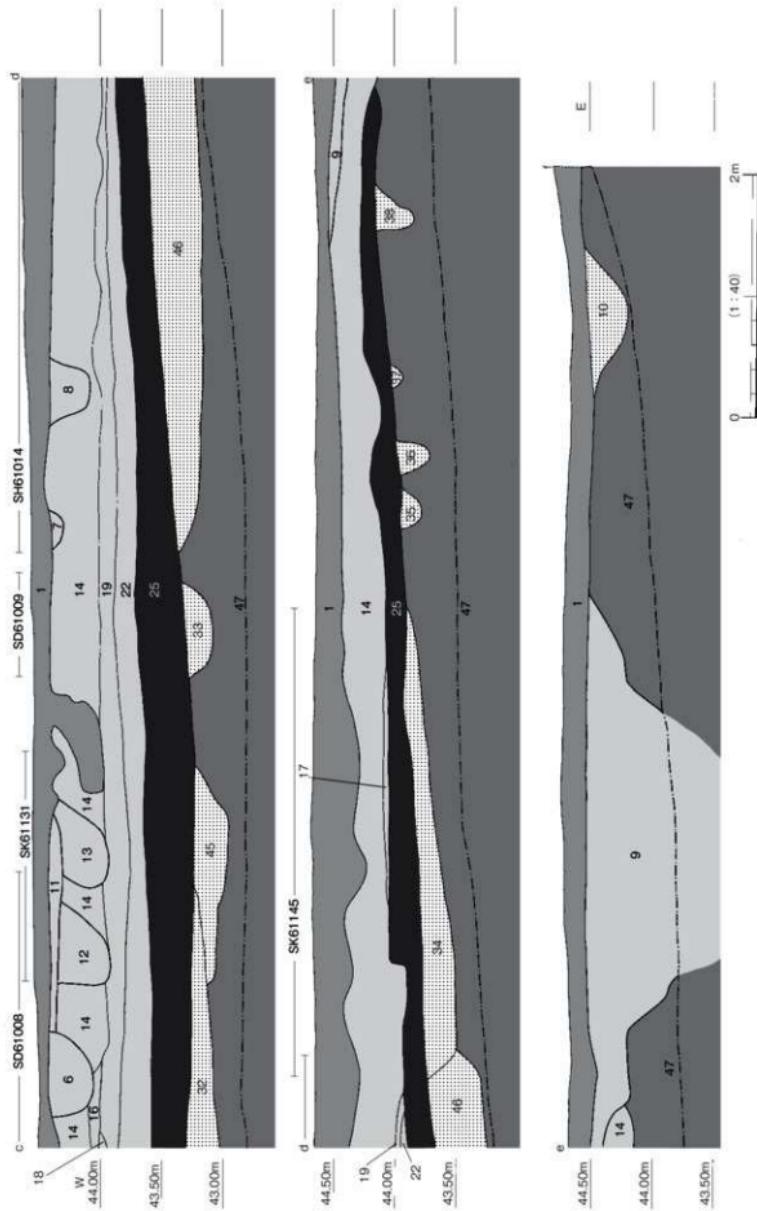


図6 北壁土層断面図② (1/40)

# 第4章 調査成果

## 第1節 III層出土遺物の概要

基本層序で述べたとおり、III層は多量の遺物を含む遺物包含層であり、当地区の北側にあるVI区でも共通する土層を確認している。昨年度に刊行したVI区の報告書で「包含層出土遺物」として報告したのがVI区のIII層出土遺物に対応する。VI区およびVII区では、III層を人力で掘削して調査しており、遺物は国土座標に従って設定した10mグリッドごとに取り上げている。

III層からは、多数の土器・土製品・石器が出土した。土器は基本的に土器片が多数を占めており、帰属時期はおおむね弥生時代中期前半の時期でまとまるようだ。なお、遺物包含層から出土した遺物のなかに古墳時代に帰属する須恵器片と近世の陶磁器片がそれぞれ2~3点ずつ認められた。しかし、これら遺物の出土点数がIII層出土遺物の総量に対して極めて少ないことから、I層やII層に含まれる遺物が調査中に混入したと見るのが妥当のようだ。なお、調査区東側の丘陵上もすでに調査しており、その際に7世紀代と考えられる古墳群と近世後半の墓を検出している。從って、VI区で出土した混入遺物は、調査地東側から流れ込んだ遺物の可能性が高いと考えられる。

III層出土遺物のなかには、擬朝鮮系無文土器4点、顔状土製品2点など、集落の性格を検討する場合に重要な遺物も含まれている。これ以外にも、III層からはコントナ整理箱2箱分の石器が出土しており、石鎌・石錐などを中心とする製品や、チップや剥片などの製作残滓が認められ、集落での生業の一端を垣間見ることができる。なお、III層の図象対象遺物は膨大な量であり、様々な制約から本書に掲載することができなかった。現在のところ、VI区のIII層出土遺物は次年度刊行する報告書に掲載予定である。

## 第2節 検出遺構

### 検出遺構の概要（図7、図版2~1）

VI区は遺構数が多く、遺構の性格を1基ずつ厳密に判断することは困難であった。よって、竪穴住居跡などの特定の遺構以外はある程度機械的に遺構の性格を判別するため、遺構の規模を判断基準のひとつとして用いた。その基準は、土坑の場合は長軸の長さがおおむね50cm以上、ピットの場合はそれ以下である。このような方法で遺構の性格を分類し整理したため、土坑とピットの区別が不明瞭なものも存在する点をあらかじめ記しておく。

VI区では弥生時代中期を主体とする遺構を検出した。遺構ごとの検出数は、竪穴住居跡15棟（SH61001は1棟とする）、土坑225基、溝25条、ピットが1,144基であり、これらの遺構の多数は重複関係を有して調査区北東端を除く調査区内に広く分布している。VI区の調査面積が約1,100m<sup>2</sup>であるから、遺構密度は比較的高いと言える。VI区の大半の遺構がVII区と同様に弥生時代中期前半に帰属し、VII区との遺構密度の比較や検出遺構の性格を考慮すると、VI区は当該集落の中心的な居住空間と見て良いだろう。

以下の遺構の報告にあたって、竪穴住居跡についてはすべての遺構図を掲載して詳細を述べるが、土坑については検出数が多いため遺物が多数出土したなどを中心に記載し、それ以外の土坑については観察表でそれを補う（表6）。ピットと溝についても同様の理由から、調査区全体の平面図で平面的な情報を示し報告とする。なお、遺構の記載では、いずれの遺構も検出面での計測値を示す。

#### a. 竪穴住居跡

VI区ではその可能性が高いものも含めて合計15棟の竪穴住居跡を検出した。北側に隣接するVII区では7棟の竪穴住居跡を確認しており、その点を比較してもVI区が居住域の中心部に近い地区であることがうかがえる。VI区で検出した竪穴住居跡は、調査区中央から西側にかけて分布しており、調査区東側には竪穴住居跡は分布しない点が特徴と言える。竪穴住居跡の大半は、住居の重複関係が著しい調査区中央付近に分布するため、当地区のなかでも比較的傾斜の少ない場所に住居を構築したと見ることができよう。また、竪穴住居跡のなかにはSH61001やSH61006のように住居内から多数の炭化材が出土した事例も見られる。さらに、SH61001は遺構の配置などからいわゆる松菊里型住居と考えられ、なおかつ住居の最終堆積層から祭祀に用いた可能性のある顔状土製品が1点出土しており注目される。なお、VI区で検出した住居の特徴のひとつとして、多量の石器が出土した点を挙げることができる。SH61005・SH61009・SH61014の3棟を除く他のすべての住居から一定量の石器が出土しており、なかでもSH61002とSH61012の2棟は他の住居と比較して、1mあたりに換算して石器出土量の割合が高い住居である。SH61001（図8、図版3）調査区の北西端で検出した。遺構の北半は調査区の外側に続き、かつ遺構の一部はSK61011によって破壊されるため、遺構の全容を明らかにすることはできない。SH61001は、平面的には円弧を描く2条の溝と、ほぼ方形の掘り形の遺構の2つの単位に分けて考えることができる。双方の単位をその平面形より竪穴住居跡と捉えるのであれば、双方が重複していることを理由に住居を建て替えたなどの状況を想定することができる。しかし、調査した際の時間的な制約から十分に観察することができず、それらの可能性を調査中に検証することができなかった。以下では、調査後の整理段階で写真や断面図などの記録類を再度検証した結果を中心に述べることをあらかじめ断っておく。

調査区北西端には、前述通り円弧を描く溝と方形の掘り形の遺構が見られる。円弧を描く溝は2条認められ、溝の形状や深さなどから一連の遺構と考えられる。さらに、この溝は平面形態から竪穴住居跡の壁溝に類似してい

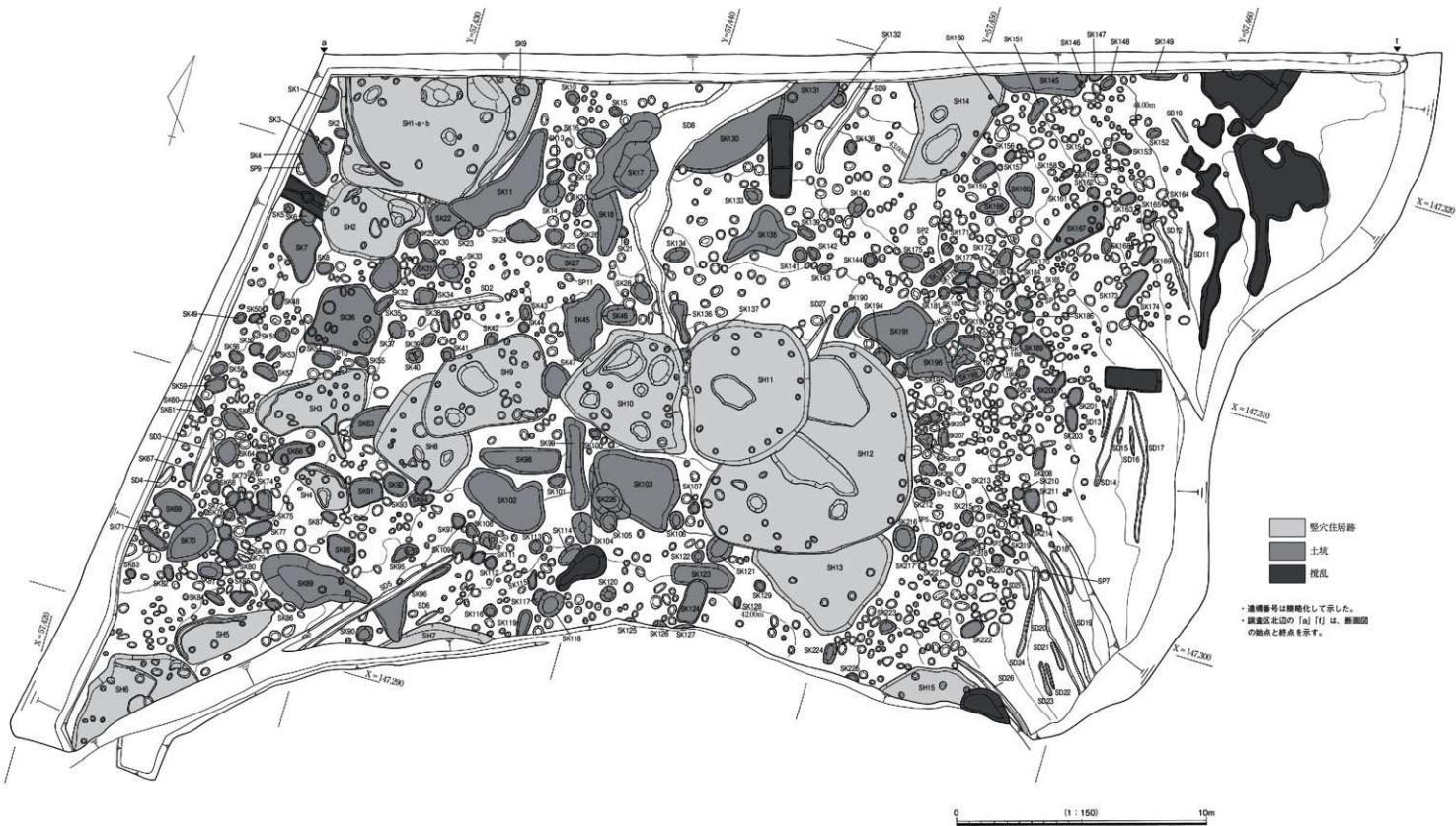


图 7 遺構平面図 (1/150)

ると判断できるため、壁溝に該当する可能性が高いものと考えられる。よって、2条の溝を同一の住居の壁溝と推定する。また、方形の掘り形の遺構については、規模や形状が当地区で検出した他の堅穴住居跡に近いため、これも堅穴住居跡の可能性が高い遺構と捉える。以上の解釈から、双方の遺構を最も可能性の高い堅穴住居跡に伴う遺構と考えて、円弧を描く壁溝を持つ一連の遺構をSH61001-a、方形の掘り形の遺構をSH61001-bとする。

次に双方の住居の前後関係について述べる。検出時の平面図ではSH61001-aのうち、東側の1条分は検出できているものの西側の溝は検出しておらず、該当箇所にはSH61001-bの掘り形が認められる。さらに、この前後関係の解釈は土壘断面でも追認できる。このことから、SH61001-aがSH61001-bに先行して構築されたことが分かる。

**SH61001-a**は、円弧を描く溝からなる遺構である。これら溝は2条に分かれて検出しているが、その平面形状からおそらく住居内に掘削された壁溝と考えられる。この見方が正しければ、SH61001-aの平面形は円形であった可能性が高い。SH61001-aの北側は調査区の外側に統くため全容は不明だが、溝の検出長は約5m、幅は15~30cm、深さは数cmである。西側と東側でそれぞれ円弧を描く溝は、遺構の南側には連続して掘削されておらず、双方の間に約3mの空白域が認められる。遺構の北半を調査していないが、SH61001-aが南に向けて低くなる緩斜面上に立地していることを考えれば、溝の空白域を住居の出入り口と捉えることには一定の蓋然性があるだろう。SH61001北半の状況は明らかでないが、SH61001-aがほぼ円形の住居とすれば、壁溝内側の直径が約7.5mであるから、床面積は約44m<sup>2</sup>と推定できる。SH61001-aに伴う遺構については、SH61001-bの東側の掘り形とSH61001-aの壁溝との間にある5基のビットはSH61001-aを構築した際のビットと考えられる。しかし、その他の遺構については不明である。SH61001-aのビットの直径は25~60cmである。このほか、SH61001-aの西側と東側の壁溝を結んだほぼ中間地点に、東西に各1基のビットを持つ楕円形の土坑が認められる。この土坑はSH61001-bに伴う遺構であることも否定できないが、SH61001-aのほぼ中央付近に位置することを重視すれば、SH61001-aに伴う土坑と解釈するのが妥当だろう。この土坑の規模は長軸約16.5m、短軸約10.0mで、西側には長軸50cm、短軸25cmの楕円形を呈するビット、東側には長軸30cm、短軸22cmの楕円形を呈するビットをそれぞれ配置する。SH61001-aは住居中央付近で両端に2基のビットを持つ楕円形の土坑を持つことから、いわゆる「松菊里型住居」に該当するものと考えられる。

**SH61001-b**も、遺構の北側が調査区の外側に統くため全容は不明だが、遺構東側の掘り形がやや歪ながらもほぼ方形の掘り形と言える。SH61001-bの東西方向の長さは最大値で約6.8m、南北方向の検出長は4.7m、床面までの深さは約30cmである。SH61001-bの一辺が約6.8mのおおむね方形の住居と仮定すれば、床面積は約46m<sup>2</sup>ということになる。SH61001で示した断面図は、基本的には後に造られたSH61001-bについての情報を示しており、SH61001-aの西側壁溝をSH61001-bが破壊していることを読み取れる。ただし、SH61001-aの東側におけるSH61001-bとの前後関係については、東西方向のセクションベルトを東側に延長していないため断面での観察はできなかった。断面図から、SH61001-bの埋土は2層に分かれるが、貼り床については認めることができなかつた。SH61001-bの上層は、炭化材を多量に含む褐灰色砂混粘土質、下層は炭化材と焼土塊を多量に含む褐褐色砂混粘土質である。この多量の炭化材の帰属についても問題になるが、平面で確認した遺構の前後関係などからSH61001-bに帰属する炭化材と捉えるのが妥当だろう。炭化材はSH61001-bの床面直上から屋根の構造が分かる程度の状態で出土しており、かつ床面には焼土も認められた。従って、SH61001-bは焼失したのちに完全に廃絶したと判断できる。炭化材の残りが良い箇所を観察すると、住居の柱材・組木材・屋根材の3種類を識別することができる。このうち、上屋構造での使用部位が分かる4点について樹種同定を実施した。その結果は、住居東半で出土した屋根材（樹種同定結果の「遺物 No. 4」）はニレ科ニレ属、住居北西側で出土した組木材（遺物 No. 2）はクスノキ科クスノキ属ヤブニッケイ、同様に住居北西側で出土した2点の柱材（遺物 No. 1・3）はいずれもクワ科クワ属であった。なお、炭化材の上位から土器片が出土しており、住居が焼失したのちに土器などを住居の窓地に投棄したようだ（SH61001-b上層出土遺物）。

炭化材を取り除くとすぐに住居の床面となる。SH61001-bの床面は、南北方向には高低差はそれほど見られないが、東西方向は住居西端が東端よりも約20cm高くなっている。SH61001-bの床面で検出した遺構については、SH61001-aに関する遺構のすべてを認定できないため、SH61001-bの遺構だけを抽出することはできない。ただし、SH61001-bの北東辺に沿うように土坑が掘削されており、これについては当住居に伴う遺構の可能性が高いと言えるだろう。この土坑は遺構の一部が調査区の外側に統くが、観察できる箇所の平面形は不整形で、深さは約25cmである。

SH61001-aとbについて簡単に述べたが、これらを整理すると、円形の住居と考えられるSH61001-aが最初に構築される。その次に、同じ場所に住居の規模がほぼ等しいSH61001-bが建てられるが、最終的に火災によって焼失し住居は廃絶する。

SH61001出土の遺物は、SH61001-bが廃絶したのちに投棄された遺物（SH61001-b 上層出土遺物）、SH61001-b内で検出した炭化材の下から出土した遺物とSH61001-aの遺物（SH61001-b 下層 + a 出土遺物）、SH61001-aの中央土坑から出土した遺物、一括して取り上げた遺物（層位不明）に分けることができる。このうち、SH61001-b上層出土遺物は、SH61001-bが廃絶した時期を示す遺物と評価することができ、特徴的な遺物として顔状土製品が挙げられる。また、当住居からは石器も出土している（表3）。SH61001における石器の出土量は、礫石器を含めた石器の総重量が7812.1g、一個体の重量が重い礫石器などを除外したtoolと製作残渣（剥片・チップ）の合計重量が840.0gである。SH61001の住居はすべてを調査していないため、住居で調査した範囲の面積

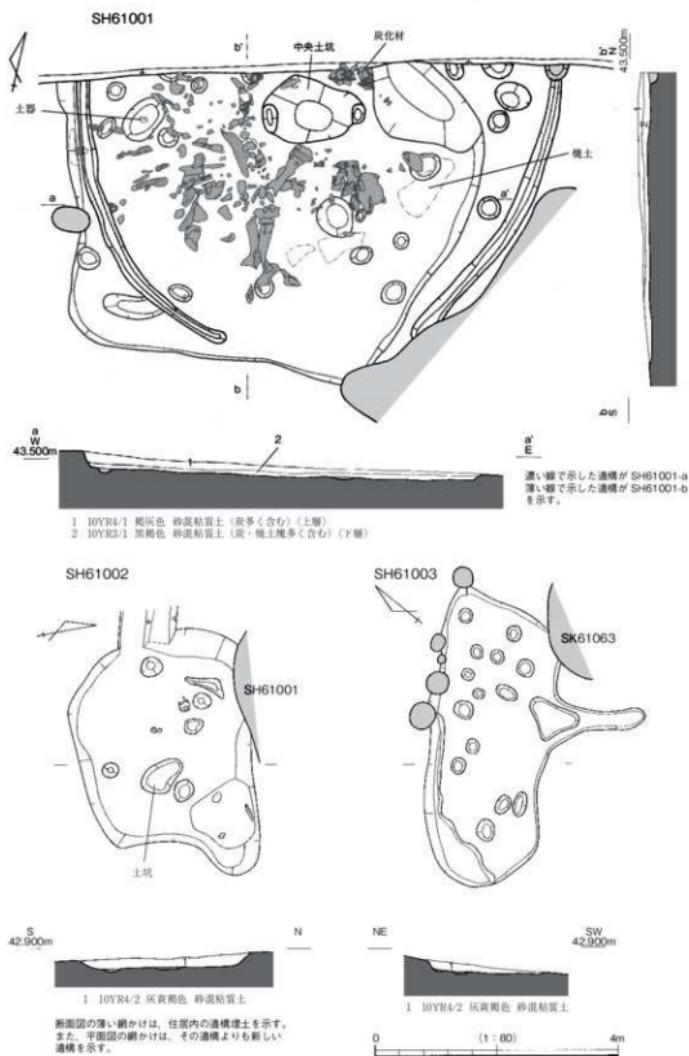


図8 壁穴住居跡 平面図・断面図① (1:80)

1mあたりの出土量に換算すると、1mあたり30.0gの石器が出土したことになる。ただし、この数値を見る場合に考慮すべきは、当住居は同一地点に2棟が重複して存在する点である。当住居では、この見方に従った遺物の取り上げを行っておらず、この数値を住居1棟あたりの純粋な出土量とは断定できない。仮に1棟分の石器出土量の値を単純にその半数と考えるのであれば1mあたり15.0gとなり、これは他の住居と比較して差ない値となる。なお、SH61001-bに帰属する埋土上層からはtoolや製作残滓が586.2g出土しており、SH61001内の土層から出土した同一条件の石器の合計重量の約7割を占めることが分かる。この点から、当住居については、住居が焼失したのちの埋没する過程で多数の石器が投棄されたと推定できる。

次にSH61001から出土した石器の組成を見ると、石錐や石錐などの製品のはかに、多数の剥片やチップも認められた。剥片・チップについては住居埋土の上層からも出土しているが、炭化材の下や床面で検出した土坑からも一定量が出土している。厳密な出土位置は記録していないが石器出土量も考慮すると、当住居において石器製作を行っていた可能性は十分に考えられる。

**SH61002**（図8、図版4-1） 調査区の北西端に位置する。SH61002は、平面の形状や埋土を除去した遺構底部で複数のピットを検出できることから、堅穴住居跡と判断した。遺構の重複関係を整理すると、SH61002はSH61001よりも古くSK61032よりも新しい時期に構築された住居であることが分かる。SH61002の平面形は一部歪な箇所もあるがおおむね円形と考えられ、東西方向の長さは最大で約3.9m、南北方向の長さは約2.85m、床面までの深さは約25cmである。埋土は灰黄褐色砂混粘質土の單層である。なお、断面で貼り床などの痕跡は認められなかった。当住居の床面はほぼ水平に造成されており、ピットや土坑などの遺構が複数掘削されている。ピットの配置は不規則だが、直径は25~32cmである。不規則な配置のため、柱穴にあたるピットは断定できなかった。

遺物は、住居の埋土と中央や南側に位置する土坑から土器・土製品・石器が出土した。特徴的な遺物として、SH61001と同様に住居埋土から頸状土製品が1点出土している。また、当住居からは縦石器を除く重量145.4gの石器が出土した。出土量は他の住居と比較して突出した値ではないが、住居を調査した範囲における1mあたりの石器出土量に換算すると18.18gとなり、SH61001を除いた他の住居の値と比較するとやや多い。SH61002の北側にはSH61001が位置するから、その周辺で石器製作が比較的活発に行われた可能性があるだろう。

**SH61003**（図8、図版4-2） 調査区の西側に位置し、SH61008の西側に構築される。埋土を除去した遺構底部で溝やピットが認められたため、堅穴住居跡と判断した。SH61003の東南隅はSK61063によって破壊されたため、住居の全容は不明である。また、住居床面までの深さは、住居北側で約15cm、住居南側で約5cmであり、このことから住居の南半は遺存状態が不良と言える。この点からも分かるとおり、住居の南側が不整形な形状をなすのは後世に削平された結果とも考えられ、本来の平面形を想定することは困難と言える。SH61003の埋土は灰黄褐色砂混粘質土の單層で、住居床面に貼り床は認められなかった。住居の床面は、南北方向に約2mを調査しただけにも関わらず、北側と南側の高低差が約10cmである。北側から南側に傾斜のある床面上に、ピットと堀溝が配置される。ピットの直径は、16~30cm程度である。堀溝は住居北西隅にしか認められないが、溝の形状をとどめている箇所で幅は約25cmである。

遺物には土器と石器があり、住居埋土から出土している。土器は甕の口縁部片、底部片が各1点出土している。石器は製品が出土しておらず、製作残滓からなる。当住居から出土した石器の1mあたりの重量は0.63gであり、他の住居と比べてその割合は少ない。

**SH61004**（図9、図版4-3） 調査区の南西側に位置し、SH61003の南側に構築される。埋土を除去した遺構の床面に溝やピットなどが認められることから、堅穴住居跡と判断した。SH61004の北端とSH61003の南端は接近した位置にあることから、直接的な重複関係はないが、双方の構築には時間差を見積もっておくべきだろう。住居の検出長は、東西方向が約2.5m、南北方向が約1.6m、床面までの深さは約10cmで、住居内には褐色砂混粘質土が堆積する。なお、当住居にも貼り床の痕跡は認められなかった。住居床面はほぼ水平に造成されており、その上面には土坑1基とピット5基が掘削される。土坑の平面形は梢円形で、長軸約80cm、短軸約45cmである。ピットの直径は、20~30cm程度である。堀溝は住居の北側しか認められず、その幅は20~25cmである。遺物は、住居埋土から土器と石器が出土した。

**SH61005**（図9、図版4-4） 調査区南西隅に位置し、さらにSH61006の北東側に構築される。SH61005は、遺構の南半を検出することができず、かつ北側も深さが約15cmであることから、遺構の遺存状態は不良である。遺構の性格については、埋土を除去した遺構の底部に溝とピットが認められることから、堅穴住居跡と判断した。SH61005とSH61006は重複関係を有さないが、SH61003・SH61004と同様の理由から、双方の住居の構築には時間差を見積もっておくべきだろう。当住居の埋土は褐色砂混粘質土の單層で、床面に貼り床の痕跡は認められなかった。住居床面を観察できたのは南北方向に約1.6mだが、住居北端が南端よりも約10cm高いという特徴が認められた。床面にはピット3基と、掘り形に沿うように溝が1条掘削される。溝は、掘削された位置関係から壁溝と考えられ、幅は14~22cmである。ピットの直径は16~30cmである。SH61005から遺物は出土していない。

**SH61006**（図9、図版4-5） SH61006は調査区の南西隅に位置する。SH61006の南側は調査区の外側に続くため住居の全容は不明だが、埋土を除去した遺構の底部でピットが認められる点と掘り形の形状から、堅穴住居跡と判断した。当住居は、円形の住居である可能性が高い。SH61006の東西方向の長さは約5.8m、床面までの深さは最も深い箇所で約30cmである。ただし、住居床面は北端の方が南端よりも30cm程度高くなっている。この点から傾斜のある床面と言える。SH61006の埋土は3層に分かれ、黒褐色~灰黄褐色砂混粘質土が堆積する。当住居でも貼り床は観察できなかった。また、埋土の最下層で、かつ住居の床面直上からは炭化材や焼土が出土した。こ

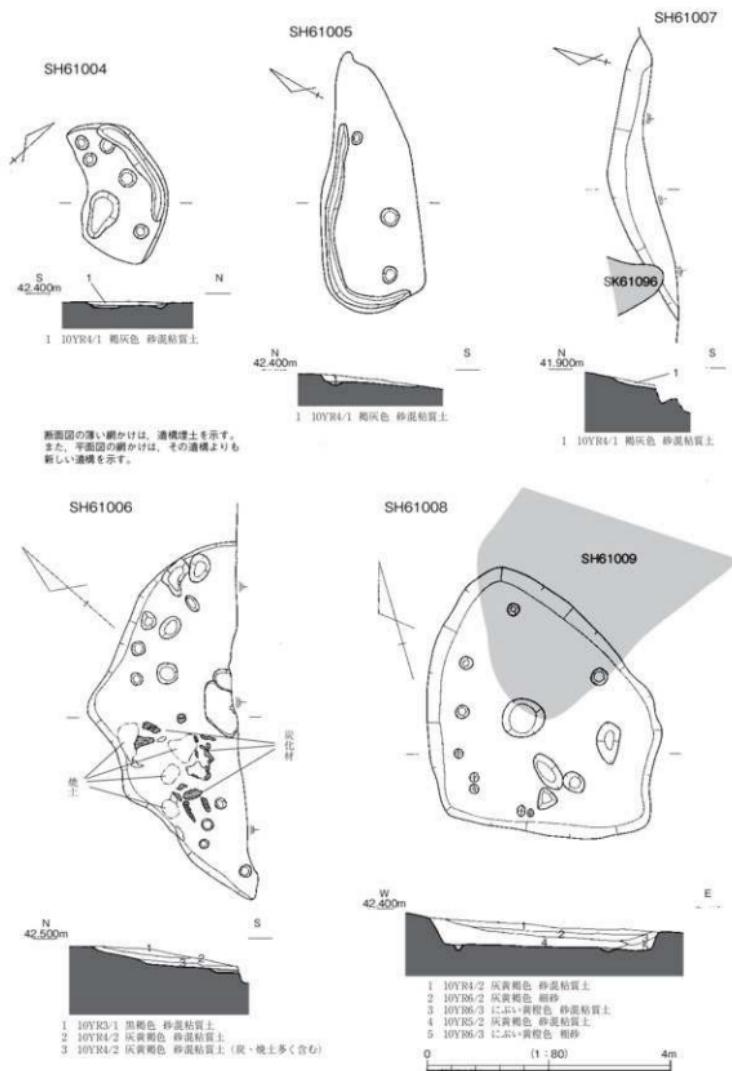


図9 壁穴住居跡 平面図・断面図② (1:80)

の炭化材は、住居西半に偏る傾向が認められた。SH61006の炭化材は柱材と思われる材もわずかに認められたが、SH61001と比較した場合に出土量は圧倒的に少ない。なお、細部の観察によれば、焼土は炭化材の一部を被覆しており、当住居の上屋構造を復元する場合に重要な知見となるだろう。住居床面で検出した遺構の配置は、住居中央付近に土坑が位置し、不規則ではあるが住居の壁面に沿うようにピットが複数配置される。中央に位置する土坑は、深さが数cmしか残っておらず、遺存状態は不良である。ピットの直径は14~30cm。出土遺物は住居埋土として一括して取り上げたが、団化できない土器片や石皿・扁平片刃石斧などの石器が出土した。

**SH61007** (図9) 調査区南西側で検出した。遺構の大半が調査区の外側に継ぐため、遺構の平面形を推定することはできない。また、SH61007は調査した範囲が一部に限られるため遺構の性格を断定することも躊躇するが、周辺で構築された他の遺構の状況から判断して堅穴住居跡と推定した。SH61007の重複関係を平面で確認した結果、SH61007がSK61096に先行して構築されたことが明らかとなった。埋土は褐灰色砂混粘質土の单層で、遺構の底部でピットなどの掘り込みは認められなかった。遺物は、埋土から弥生土器の底部片などが出土した。

**SH61008** (図9、図版4-6) 調査区中央やや西側に位置し、SH61003の東側に構築された住居である。SH61008は、他の遺構との重複関係を多数有する点が特徴と言える。SH61008と重複関係を有する遺構の構築順序は、SK61063→SH61008→SH61009・SK61093である。SH61008は、埋土を除去した遺構底部でピットや土坑を検出していることから、堅穴住居跡と判断した。SH61008は他の遺構との重複関係が多いため、遺構の各所を他の遺構に破壊されるが、平面形はやや不整形な円形と考えられる。SH61008の南北方向の長さは最大で約4.3m。東西方向の長さは約3.7m、床面までの深さは約50cmである。当住居は他の遺構に部分的に破壊されるものの検出面から床面までが深く残存しており、このことから住居の床面は他の遺構による影響をほとんど受けないものと考えられる。土層断面の観察からは貼り床の痕跡は認められず、床面で検出できたのは土坑やピットである。土坑は住居のほぼ中央に位置し平面形は楕円形、長軸は約70cm、短軸は約60cmである。ピットの大半は住居の壁面に沿うように配置されるという特徴が認められる。ピットの直径は10~26cmである。遺物は一括して取り上げており、甕や蓋などの土器片や石錐・凹石などの石器が出土している。

**SH61009** (図10、図版4-6) 調査区中央やや西側に位置し、SH61010の西側に構築される。遺構の重複関係から、SH61009はSH61008よりも新しくSH61010よりも古い遺構と位置づけられる。埋土を除去した遺構底部でピットや土坑などの遺構が認められることから、堅穴住居跡と判断した。当住居の平面形は、一部直線的な箇所もある不整形な掘り形で、南北方向の長さは最大で約3.55m。東西方向の長さは約5.3m、床面までの深さは約10cmである。当住居内には褐灰色砂混粘質土が堆積しており、それらを除去すると床面で土坑やピットが認められる。住居の中央付近に掘り込まれた土坑はやや歪な楕円形を呈し、南北方向の長さが1.0m、東西方向の長さが約1.5m、深さは10cmに満たない。ピットは、不規則に分布しているように見えるが、住居西側では住居の壁面に沿うようにピットが配置される。ピットの直径は18~38cmである。出土遺物は一括して取り上げており、鉢などのほかに団化できなかつた土器細片が出土している。一方、当住居からは石器が1点も出土していない点は特筆できる。

**SH61010** (図10、図版4-7・8) 調査区中央やや西側に位置し、SH61011の西側に構築される。平面で確認した遺構の重複関係から、SH61010がSK61047・SK61137よりも新しい遺構で、さらに間接的にはSH61009・SH61011よりも新しい時期に構築された遺構であることが分かる。SH61010は、埋土を除去した遺構底部で土坑・ピット・溝が認められたことから、堅穴住居跡と判断した。当住居は南東隅が突出する不整形な形状をなす。SH61010の東西方向の長さは最大で約4.9m、南北方向の長さは約4.75m、床面までの深さは北側で約30cm、南側で約20cmである。住居内には黒褐色シルト・細砂が堆積し、それを除去すると北側から南側に向けて緩やかに低くなる床面となる。断面の観察では、床面に貼り床の痕跡は認められなかった。やや傾斜のある床面には、土坑・ピット・壁溝が認められる。掘り形の大きい土坑は住居の北側にあるが、深さが10cm程度であるため、機能を推定することはできなかつた。ピットは、住居東側は住居の壁面に沿うような位置に掘削されるが、それ以外の箇所ではピットが不規則な配置となる。ピットの規模は18~65cmである。壁溝は幅が約40cmで、住居の北西隅で約3m分を検出した。遺物は埋土から出土した遺物を一括して取り上げたものと、床面で検出した土坑から出土したものとがあり、前者からは土器と石器、後者からは土器が出土した。住居埋土からは甕などのほかに、赤色顔料が付着した土器底部片2点や、石錐・石庖丁などの石器が出土した。なお、当住居の1mあたりの石器出土重量は、10.09gであった。

**SH61011** (図10、図版4-7・8、図版5-1・2) 調査区のほぼ中央に位置し、SH61012やSD61027が廃絶したのちに構築された住居である。埋土を除去した遺構の底部で住居の壁面に沿うようにピットが掘削されることから、堅穴住居跡と判断した。SH61011の平面形は、西辺がやや直線的になるもののおむね円形である。住居の直径は最大で約6.3m、床面積は約23m<sup>2</sup>である。推定値との比較ではあるが、SH61011はSH61001-aの床面積のおよそ半分ということになる。SH61011は床面までの深さが約15cmで、黒褐色砂混粘質土が堆積する。土層断面の観察では貼り床の痕跡は認められなかった。床面は西端の方が東端よりも数cm程度高く、やや傾斜のある床面と言える。住居の床面には中央に土坑、壁面沿いに14基のピットが配置される。床面中央の土坑は楕円形を呈し、短軸が1.1m、長軸が1.9m、床面からの深さが10cmである。ピットの直径は18~30cmで、ピット間の距離は約60~70cmの場合と100cm前後の場合が多い。なお、SH61011のピットの配置はSH61012など他の住居にも見られるが、これは住居内部の空間をより広く使うために住居中央付近にはピットを配置しなかつたと想定することができる。遺物は埋土から出土した遺物を一括して取り上げており、土器・土製品・石器が出土した。石器には石錐や石庖丁などの製品のほかに剥片なども見られる。なお、当住居からは換算値で1mあたり12.09gの石器が出土した。

**SH61012** (図11、図版5-3~8) 調査区中央やや南東側に位置する。SH61012に関わる遺構の重複関係は、S

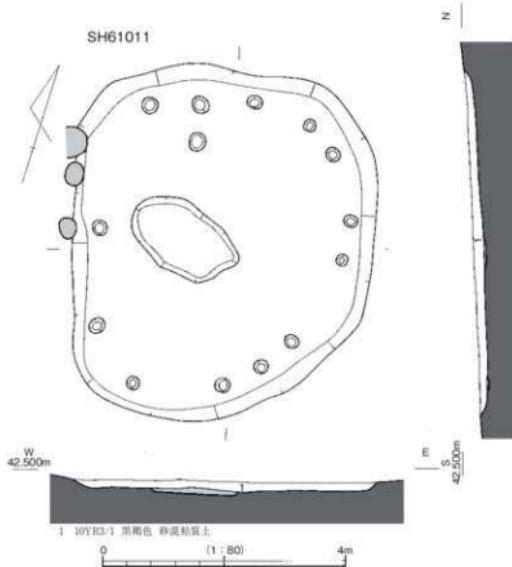
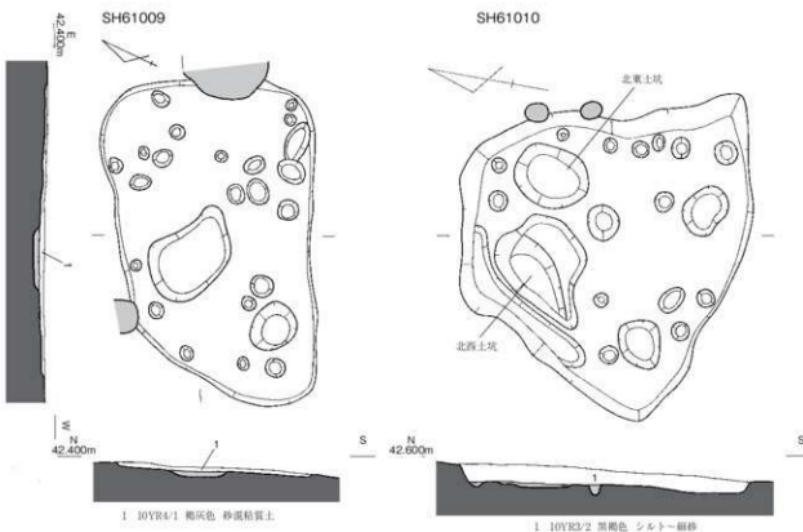


図10 穴住居 平面図・断面図③ (1/80)

H61012はSH61013・SK61121が廃絶したのちに構築され、SH61012の廃絶後にSH61011とSD61027が掘削される。SH61012は、埋土を除去した遺構底部で住居の壁面に沿うような位置にピットが認められることから、堅穴住跡と判断した。SH61012は、住居西側の一部を破壊されるがおむね円形の住居と考えられ、掘り形の直径は後世の改変を受けない箇所で計測して約9.8mである。この値から当住居の床面積を推定すると、約75.4m<sup>2</sup>となる（当住居については平面形が正な箇所もあるため、床面積が推定値よりも小さくなる可能性がある）。SH61012は、VI区で検出した他の住居の床面積との比較から、当地区の堅穴住跡のなかで最も規模の大きい住居と考えて良いだろう。SH61012は床面までの深さが約40cmで、床面の北端が南端よりも約40cm高くなっている。よって、住居床面は南に向けて傾斜することが分かり、さらに断面からも住居南側の遺存度が低いことが読み取れる。住居内の埋土は3層に分かれるが、土層断面を観察する限りでは貼り床は認められない。住居床面では土坑やピットを検出しており、住居中央付近に位置するのが北西～南東に主軸を持つ不整形な土坑である。土坑の長軸は3.5m以上、短軸は約1.8m、深さは10cm前後である。土坑の遺存度が低いため、どのような機能を果たしたのかは明らかにできなかった。また、住居の北側にも円形と思われる掘り形の土坑が見られるが、これも10cmに満たない深さしか確認できていないため、遺構の詳細は不明である。ピットは、住居南西隅付近では不規則な配置となるが、東側では0.5～2mの間隔で住居の壁面に沿うように掘削されていることが読み取れる。ピットの直径は20～70cmであり、多様な規模のピットが認められる。

SH61012からは、他の住居よりも多量の土器や石器が出土した。遺物は埋土の上半と下半、さらには中央土坑から出土している（現地調査では、遺物を上層と下層など区別して取り上げているが、断面図の層位と正確に対応させることができなかつたため、上層として取り上げた遺物を「上半」、下層として取り上げた遺物を「下半」として報告する。なお、出土層位が明確でない遺物は「埋土出土」として報告する）。このうち、埋土上半からは多くの土器と石器が出土した。埋土上半から出土した遺物の平面分布は、住居の北東隅に偏る傾向があり、特に土器が集中して出土した箇所を任意にA～Eの5群に分離して遺物実測図を提示した。埋土上半からは甕、壺などの土器片や石錐・石庖丁・石皿などが出土した。さらに、遺物B群の北西側の同じ高さから拳大の礫も集中して出土した。これらの遺物は住居床面よりも上のレベルから出土しており、その状況より住居が廃絶したのちに廃棄した遺物と推定することができる。このように解釈すれば、埋土上半出土遺物を、SH61012の廃絶時期を示す遺物と位置づけられるよう。一方、埋土下半からも土器や石器は出土しているが、出土量は埋土上半に比べて圧倒的に少ない。中央土坑からは、弥生土器底部片とともに顔状土製品が1点出土した。

次に石器全体の出土傾向を見ると、穂石器などを除く製品と剥片などの製作残滓の総出土量は577.3gであり、一見すると他の住居よりも多量の石器が出土したように見える。しかし、1m<sup>2</sup>あたりの出土重量に換算すると7.66gとなり。むしろ割合では住居の規模が小さいSH61002の方が多くの石器を出土したことになる。なお、剥片・チップなどの石器の総重量のうち、約8割にあたる463.5gが埋土上半から出土しており、住居の埋没が進行していく段階で石器を廃棄した状況が推定できる。

**SH61013**（図11） 調査区中央のやや南東側に位置し、SH61012によって遺構の北側の一部が破壊される。SH61013は、埋土を除去した遺構の底部で土坑やピットが認められることから、堅穴住跡と判断した。SH61013は、隅が丸みを持つ方形の平面形で、長軸は約5.0m、短軸は約4.55m、床面までの深さは約45cmである。住居床面は、北東端が南西端よりも20cm程度高くなっている、南西方向に低くなる床面と言えるだろう。住居床面では土坑・ピット・溝を検出した。土坑は住居の西側に位置し、平面形はほぼ円形で、直径は約90cm、床面からの深さは約20cmである。ピットは12基認められ、おむね住居の壁面に沿うような配置である。ピットの直径は20～30cmである。溝は、住居床面の西側から北側にかけて認められ、緩やかに円弧を描いて掘削される。当住居の平面形は方形と考えられるため溝の平面形とは整合しないが、この点について十分に検証することができず、溝が果たした機能については明らかにできなかった。遺物は埋土出土遺物として一括して取り上げており、甕・高杯などの土器片や石錐・削器などの石器がある。また、ナイフ形石器が1点出土した。

**SH61014**（図12、図版6-1） 調査区の中央北側で検出した。遺構の北側が調査区の外側となるため全容は不明だが、遺構の西側が緩やかに屈曲する歪な形態をなす。SH61014は遺構の一部を調査しただけではあるが、床面で検出したピットの配置がSH61011など他の堅穴住跡と類似した配置をとることから、堅穴住跡の可能性が高いと遺構と判断した。SH61014は、遺構の重複関係からSK61145・SK61150に先行して構築された遺構と判断できる。遺構の床面は、東端と西端では約30cmの高低差があり、西に向けて低くなる。その床面には土坑やピットが掘削されるが、ピットについては、おむね住居東半の壁面に沿うように配置される。ピットの直径は15～25cmである。土坑は、SH61014の南よりの位置に掘削される。南側にある土坑は椭円形で、長軸約1.9m、短軸約0.9m。床面からの深さは10cm前後である。北側の土坑も椭円形を呈し、長軸約75cm、短軸約60cm。床面までの深さは約15cmである。遺物は、住居埋土から甕などの土器片が出土した。

**SH61015**（図12、図版6-2） 調査区南東隅に位置する。SH61015は遺構の南側が調査区の外側に続き、かつ遺構の東側の一部が亂れによって破壊されるため、遺構の全容は不明である。SH61015は、埋土を除去した遺構底部で住居の壁面に沿うような位置にピットが認められたため、堅穴住跡の可能性が高いと判断した。遺構の平面形は、確認できる北側の掘り形の一部が円弧を描いていることから、円形である可能性が高い。SH61015の埋土は灰褐色砂混粘質土の单層である。床面で検出したピットの直径は22～24cmである。遺物は、住居埋土から甕や底部片などが出土した。

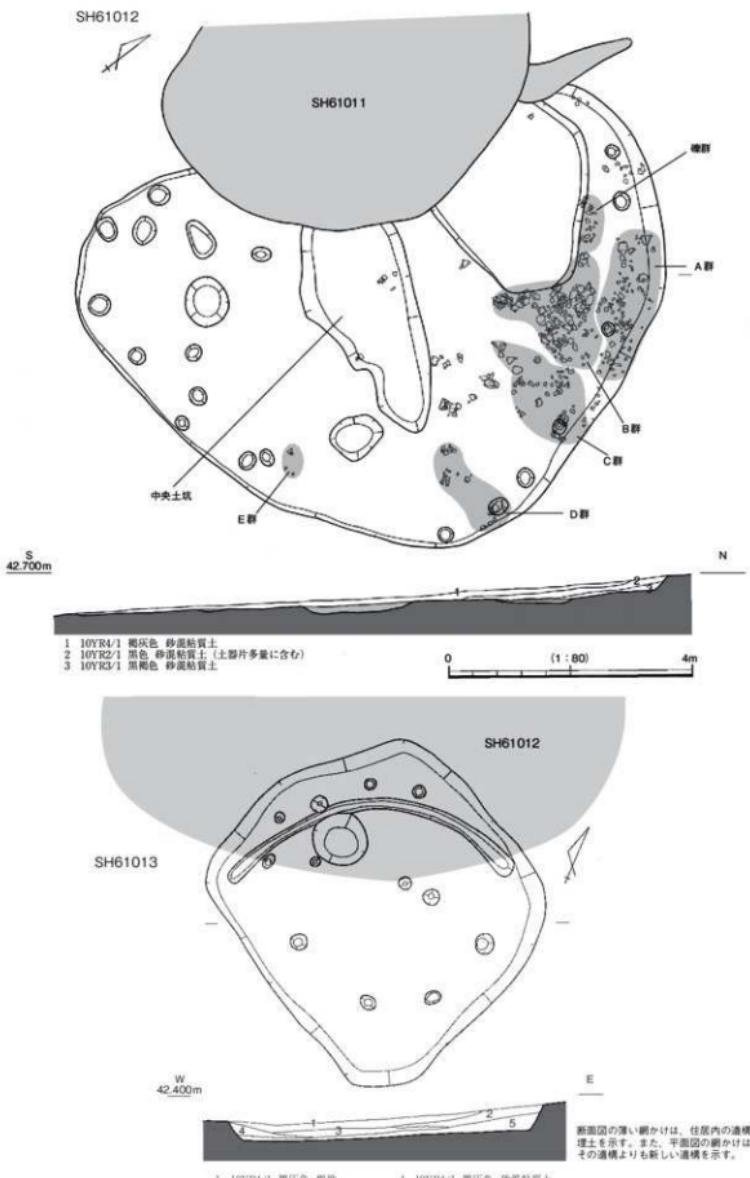


図 11 墓穴住居跡 平面図・断面図④ (1 / 80)

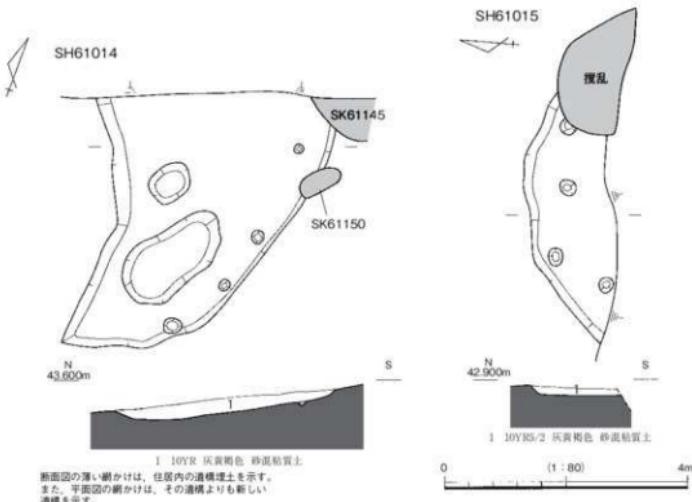


図12 堅穴住跡 平面図・断面図⑤ (1/80)

### b. 土坑

VI区では、合計225基の土坑を検出した。当地区では、遺構の長軸がおおむね50cm前後の遺構を土坑と判断し、ピットとは区別した。土坑の形状は、円形・楕円形・方形・溝状・不整形なものまで多様で、調査区の東端を除くほぼ全域に分布する。ここでは遺物が出土した土坑を中心に詳細を述べ、それ以外の土坑については表6を参照されたい。

**SK61001** (図13) 調査区北西隅に位置し、SH61001の西側に掘削された土坑である。遺構の西側は調査区の外側に続くため、土坑の全容は不明である。SK61001の長軸は1.15m、深さは8cmで、断面形状は浅いU字を呈する。埋土は褐灰色砂混粘質土の單層で、遺物は土器の口縁部片と剥片が出土した。

**SK61002** (図13) 調査区北西隅に位置し、遺構の重複関係よりSH61001が廃絶したのちに形成された土坑であることが分かる。SK61002の平面形は楕円形で、長軸60cm、短軸40cm、深さ21cm。断面形状は逆台形を呈する。埋土は黄灰色砂混粘質土の單層で、遺物は器などが出土した。

**SK61003** (図13) 調査区北西隅に位置し、SK61004が埋没したのちに形成された土坑である。SK61003の平面形は円形で、長軸67cm、短軸58cm、深さ8cm。断面形状は逆台形を呈する。埋土は灰黄褐色砂混粘質土の單層で、甕の口縁部から体部にかけての破片が出土した。

**SK61011** (図13) 調査区の北西隅に位置し、SH61001・SK61022・SK61023の3基の遺構と重複関係を有する土坑である。平面で確認した遺構の重複関係から、SK61011はSH61001・SK61022よりも新しく、SK61023よりも古い遺構であることが分かる。SK61011の平面形は溝状を呈し、長軸は約5.0m、短軸は1.53m、深さは16cm、断面形状は逆台形である。埋土は褐灰色粗砂の單層で、遺物は土器の口縁部片や削器・剥片などの石器が出土した。

**SK61017** (図13、図版6-3) 調査区中央北側に位置する土坑である。平面で確認した遺構の重複関係では、SK61017はSK61018とSD61008が埋没したのちに形成された土坑であることが分かる。SK61017は不整形な掘り形とほぼ方形の掘り形の2つの掘り込みが重複するが、土層断面では同時に埋没したと判断できたため、双方の掘り形を1基の遺構と捉えて報告する。

SK61017の長軸は4.29m、短軸は2.38m、最深部の深さは53cmである。埋土は7層に分かれ、粘質土と粗砂が

ほぼ交互に堆積する傾向が見られる。SK61017は、遺物を一括して取り上げたため、土層との対応関係は明らかではないが、土器は甕・壺など、石器は石礫・石庖丁・削器などが出土した。

**SK61022** (図13) 調査区の北西隅に位置する土坑である。SH61001など3基の遺構に一部を破壊されたため、遺構の全形は不明である。平面で確認した遺構の重複関係から、SK61022が埋没したのちにSH61001・SK61011・SK61023が形成されることが分かる。SK61022の深さは12cm、埋土は灰黄褐色粗砂の單層である。遺物は、蓋の可能性が高い土器片などが出土した。

**SK61023** (図13) 調査区北西隅に位置する土坑で、SK61011・SK61022と重複関係を有する。平面で観察した遺構の前後関係より、SK61023はSK61011・SK61022が埋没したのちに形成された土坑であることが分かる。

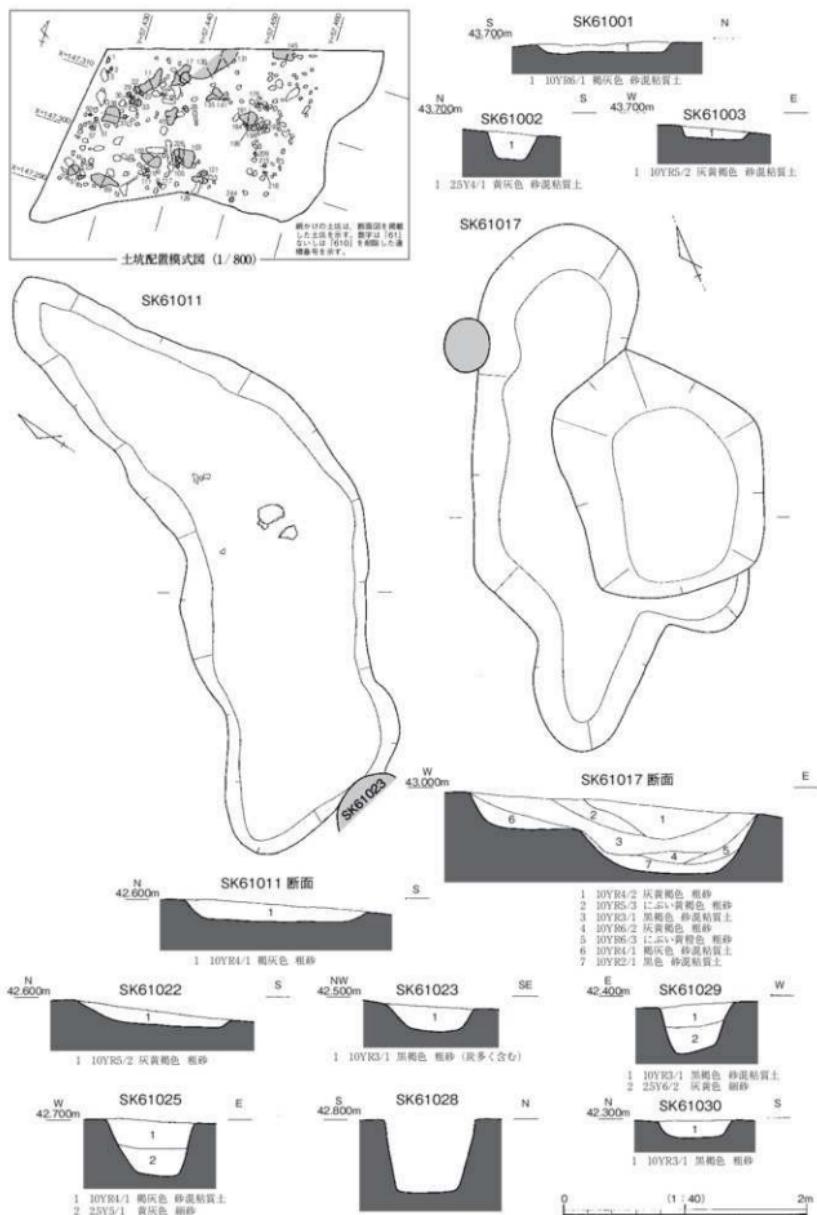


図13 土坑 平面図・断面図① (1/40)

SK61023の平面形はほぼ円形で、長軸76cm、短軸72cm、深さ20cm、断面形状は逆台形を呈する。埋土は黒褐色粗砂の单層で、炭化物を多く含む点が特徴である。遺物は、弥生土器の底部片が出土した。

**SK61025** (図13) 調査区北西側で、SK61024の東側に位置する土坑である。SK61025の平面形は楕円形で、長軸74cm、短軸64cm、深さ44cm、断面形状は逆台形を呈する。埋土は2層に分かれ、上層が褐灰色砂混粘質土、下層が黄灰色細砂である。遺物は一括して取り上げているが、壺の口縁部から体部にかけての破片や削器などが出た。

**SK61028** (図13) 調査区中央やや北側で、SH61010の1m北側に位置する土坑である。SK61028の北側の一部はピットによって破壊されるものの、おむね楕円形を呈する土坑と考えられる。SK61028の長軸は1.04m、短軸は0.74m、深さは59cm、断面形状は逆台形を呈する。SK61028からは壺や削器が出土した。

**SK61029** (図13) 調査区北西側に位置し、SH61002の東側に掘削された土坑である。SK61029の平面形は楕円形で、長軸74cm、短軸60cm、深さ40cm、断面形状は逆台形を呈する。埋土は2層に分かれ、上層が黒褐色砂混粘質土、下層が灰黄色細砂である。遺物は一括して取り上げており、土器底部の破片などが出土した。

**SK61030** (図13) 調査区北西側に位置し、かつSH61002の東側に掘削された土坑である。遺構の重複関係より、SK61031が埋没したのちにSK61030が形成されたことが分かる。SK61030の平面形は楕円形で、長軸94cm、短軸64cm、深さ15cm、断面形状は浅い逆台形を呈する。埋土は黒褐色粗砂の单層で、削器などが出土した。

**SK61031** (図14) SK61030に一部を破壊される土坑である。SK61031の平面形は楕円形で、長軸1.02m、短軸0.73m、深さ24cm、断面形状はU字を呈する。埋土は灰黃褐色砂混粘質土の单層で、壺と壺の口縁部片が出土した。

**SK61033** (図14、図版6-4) 調査区北西側に位置し、SK61031の東側に掘削された土坑である。SK61033の平面形はやや丸みを持つ隅丸方形で、長軸1.06m、短軸0.90m、深さ31cm、断面形状はU字である。埋土は3層に分かれ、上層が黒褐色砂混粘質土、中層がにぶい黄褐色粗砂、下層がにぶい黄橙色砂混粘質土である。遺物は一括して取り上げており、壺口縁部片と石鏃などが出土した。

**SK61036** (図14) 調査区西側中央付近に位置する遺構である。SK61036は、SK61035によって北東隅の一部が破壊される。SK61036は当地区で検出した堅穴住居跡と平面形が類似するが、遺構底部で検出したピットの配置が堅穴住居跡で見られる配置とはやや異なり、かつ積極的に堅穴住居跡と判断する根拠がないため土坑としたが、堅穴住居跡である可能性も考慮しておくべきだろう。SK61036は南西隅と北側中央がやや突出する不整形な平面形で、長軸3.36m、短軸2.64m、深さ10cmである。埋土は灰黃褐色砂混粘質土の单層である。遺構の底部には合計11基の遺構が認められる。ピットの分布は、土坑西半に偏る傾向がある。遺物は、バケツ形を呈する鉢の底部が出土した。

**SK61037** (図14) 調査区西側中央付近に位置する土坑である。SK61037の平面形は楕円形で、長軸約76cm、短軸約68cm、深さ約22cmで、断面の形状はU字を呈する。断面は2層に分かれ、上層は褐灰色砂混粘質土、下層は灰黄色粗砂が堆積する。遺物は一括して取り上げており、土器の底部片などが出土した。

**SK61045** (図14) 調査区中央やや西側に位置し、SH61010のすぐ北西側に掘削された土坑である。SK61045は南北に細長い不整形な平面形で、長軸3.22m、短軸1.24m、深さ16cm、断面形状は浅い逆台形である。埋土は灰白色粗砂の单層である。遺物は、体部から底部にかけて遺存する土器片などが出土した。

**SK61050** (図14) 調査区西側中央付近に位置し、SK61049の東側に掘削された土坑である。SK61050の東側の一部はピットに破壊されるが、平面形は楕円形で、長軸54cm、短軸35cm、深さ22cm、断面形状は逆台形である。遺物は、壺の口縁部片が出土した。

**SK61051** (図14、図版6-5) 調査区西側中央付近で、SK61036の南西側に位置する土坑である。SK61051の掘り形はほぼ円形で、長軸64cm、短軸57cm、深さ22cm、断面形状はU字である。埋土は3層に分かれ、いずれも褐色系の砂を含む粘質土が堆積する。遺物は、石鏃などが出土した。

**SK61057** (図14、図版6-7) 調査区西側中央で、SH61003の北西側に掘削された土坑である。SK61057の平面形は楕円形で、長軸1.10m、短軸0.56m、深さ22cm、断面形状は逆台形を呈する。埋土は灰黃褐色砂混粘質土の单層である。遺物は、壺の口縁部片と削器・砥石などが出土した。

**SK61070** (図14、図版6-8・図版7-1) 調査区南西側に位置する土坑である。平面で観察した遺構の重複関係より、SK61069が埋没したのちにSK61070が形成されたことが分かる。SK61070はやや歪な楕円形で、長軸2.30m、短軸1.50m、深さ28cm、断面形状は逆台形である。埋土は5層に分かれ、いずれも砂を含む粘質系の土が堆積する。遺物は一括して取り上げており、広口壺の口縁部片などの土器や、太型蛤刃石斧・石皿などが出土した。

**SK61081** (図14) 調査区南西側に位置し、かつSK61070の南東側に掘削された土坑である。SK61081は、先に埋没したピットと重複した位置に掘削されている。SK61081の平面形は楕円形で、長軸1.06m、短軸0.70m、深さ26cm、断面形状はU字を呈する。埋土は3層に分かれ、いずれも砂を含む粘質系の土が堆積する。遺物は一括して取り上げており、弥生土器の底部片などが出土した。

**SK61089** (図15、図版7-4) 調査区南西側に位置し、さらにSH61005の北東側に位置する土坑である。SK61089は不整形な平面形の掘り形で、底部が溝状に一段窪む形状をなす。また、遺構底部にピットが3基認められ、この点で堅穴住居跡と類似した状況が見られる。しかし、遺構の南北方向に設けた土層断面では、遺構南側の壁面も立ち上がっておりこれ以上南側に遺構が続くとは考えにくい。よって、堅穴住居跡ではなく土坑と判断した。SK61089の掘り形は溝状を呈し、長軸は4.72m、短軸は1.21m、深さは28cmである。断面形状は、二段に落ち

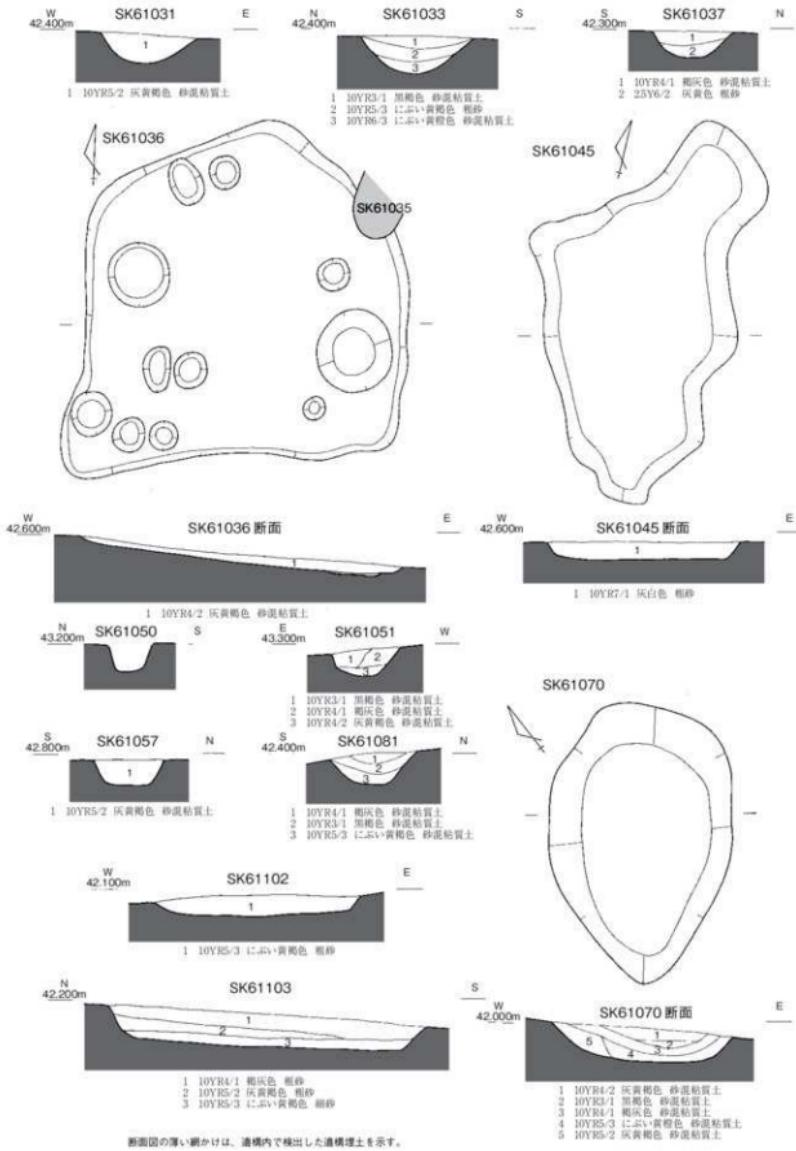


図14 土坑 平面図・断面図② (1/40)

込む形態をなす。埋土は2層に分かれ、上層が黒褐色砂混粘質土、下層がにぶい黄褐色砂混粘質土である。SK61089の出土遺物は一括して取り上げているものの、他の遺構と比較して多くの土器や石器が出土した。調査時の所見では、土坑西側の埋土上半から多数の遺物が出土する傾向が認められた。遺物は、壺の口縁部から体部にかけての破片や石鏃・砥石・石皿などが出土した。

**SK61102** (図14) 調査区中央やや南西側に位置する。SK61102の北側は、SH61008などの堅穴住居跡が隣接して構築される地点で、南側は多数の土坑が密集して掘削されている。ただし、SK61102の東側1mには遺構は分布しておらず、その点からSK61102の東側の狭い範囲は遺構の分布が希薄な箇所と言えるだろう。SK61102は北辺の中央付近がくびれる不整形な平面形で、長軸3.50m、短軸1.67m、深さ18cm。断面形状は浅い逆台形を呈する。埋土はにぶい黄褐色粗砂の単層である。SK61102からは比較的多くの土器が出土しており、土器は壺・壺・鉢などの破片がある。

**SK61103** (図14) 調査区中央やや南側に位置する土坑である。SK61103は、遺物が大量に出土したSK61226が埋没したのちに形成された土坑である。SK61103は不整形な平面形で、長軸4.14m、短軸2.53m、深さ27cm。断面形状は浅い逆台形を呈する。埋土は3層に分かれ、上層が褐灰色粗砂、中層が灰黄褐色粗砂、下層がにぶい黄褐色細砂である。出土遺物は一括して取り上げており、壺・鉢の破片や石鏃などが出土した。

**SK61105** (図15) 調査区中央やや南西側に位置する土坑である。平面で確認した遺構の重複関係より、SK61105はSK61226の埋没後に形成された遺構と判断できる。SK61105の平面形は梢円形で、長軸88cm、短軸70cm、深さ42cm。断面形状はU字を呈する。埋土は2層に分かれ、上層が灰黄褐色粗砂、下層が灰黄褐色細砂である。遺物は一括して取り上げており、弥生土器の底部片などが出土した。

**SK61110** (図15) 調査区中央やや南西側に位置し、かつSK61102の南側に掘削される土坑である。SK61110の西側の一部は、後世のピットによって破壊される。SK61110の平面形は隅丸方形で、土坑の北東隅が一段深く掘り込まれる。土坑の長軸は71cm、短軸は62cm、平均的な深さは16cmである。断面形状は一部二段落ちとなる箇所もあるが、それ以外は逆台形を呈する。埋土は褐灰色砂混粘質土の単層で、弥生土器の底部片などが出土した。

**SK61117** (図15) 調査区南側中央付近に位置する土坑である。SK61117はSK61118に遺構の東半が破壊される。SK61117の長軸は55cm、深さ8cm。断面形状は浅い逆台形を呈する。遺物は磨石などが出土した。

**SK61121** (図15) 調査区南側中央に位置する土坑である。平面で観察した重複関係より、SK61121はSH61012に先行して構築された遺構であることが分かる。SK61121の北側の一部はSH61012に破壊されるため遺構の全容は不明で、長軸は1.04m、深さは19cm。断面形状はU字を呈する。埋土は褐灰色粗砂の単層である。遺物は、弥生土器の底部片などが出土した。

**SK61123** (図15) 調査区南側中央に位置する東西に長い土坑である。平面で確認した遺構の重複関係から、SK61123がSK61124に先行して掘削された遺構であることが分かる。SK61123の平面形は隅が丸みを持つ長方形で、長軸2.60m、短軸0.95m、深さ12cm。断面形状は浅い逆台形である。埋土は褐灰色粗砂の単層で、遺物は広口壺の口縁部片などが出土した。

**SK61130・SK61131** (図15) 調査区北側中央に位置する。平面で観察した遺構の重複関係では、SK61131がSK61130に先行する遺構であることが分かる。SK61130とSK61131は、遺構の一部を失うものの円弧を描く平面形で、かつ近接するⅦ区でも当遺構から北東方向へ約10mの位置に堅穴住居跡(Ⅶ区: SH71005)が所在することから、堅穴住居跡である可能性も否定できない。しかし、遺構の遺存度が低いため詳細は不明で、かつ底部の遺構分布が希薄であることからも積極的に堅穴住居跡と判断する根拠がない。よって、SK61130・SK61131の双方を土坑と判断した。双方の土坑はいずれもSD61008によって遺構の西側が破壊され、さらに両者の重複する部分も新しい時期の搅乱によって改変されるため、全容は明らかにできなかった。遺構の深さは、SK61130が8cm、SK61131が4cmである。SK61131からは土器の底部片が出土した。

**SK61135** (図15) 調査区中央やや北側に検出した土坑である。SK61135の平面形は不整形で、長軸2.93m、短軸1.64m、深さ24cm。断面形状はレンズ状を呈する。埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。遺物は壺の口縁部から体部にかけての破片や底部片、削器などが出土した。

**SK61141** (図15) 調査区中央やや北側に位置し、SK61135の東側に掘削された土坑である。SK61141には他の遺構との重複関係は認められない。SK61141の平面形はほぼ円形で、直径約60cm、深さ28cm。断面形状はU字である。埋土は褐灰色砂混粘質土の単層で、遺物は弥生土器の底部片が出土した。

**SK61145** 調査区北東側に位置し、SH61014・SK61146と重複関係を有する遺構である。平面で確認した遺構の前後関係では、SK61145はSK61146よりも古くSH61014よりも新しい遺構と判断できる。SK61145は、遺構の北側が調査区の外側に統くため遺構の全容を知ることはできないが、遺構の規模から考えると堅穴住居跡である可能性も否定できない。しかし、調査した範囲で積極的に住居と判断できる状況は認められなかつたため、土坑と判断した。SK61145の東西方向の長さは3.5m以上、深さは15cm。断面形状はレンズ状を呈する。埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。遺物は、弥生土器の底部片が出土した。

**SK61156** 調査区北東側に位置し、SH61014の南東側に掘削された土坑である。SK61156の平面形は梢円形で、長軸62cm、短軸44cm、深さ14cm。断面形状は逆台形を呈する。遺物は、弥生土器の底部片が出土した。

**SK61165** 調査区北東側に位置し、隣接した位置にはSD61012が掘削されている。SK61165は他の遺構によって大部分を破壊されるが、遺存した箇所から平面形を推定するとおむね梢円形と考えられる。SK61165の長軸は74cm、短軸は38cm、深さは6cm。断面形状は浅い逆台形を呈する。遺物は、広口壺の口縁部から頸部にかけて

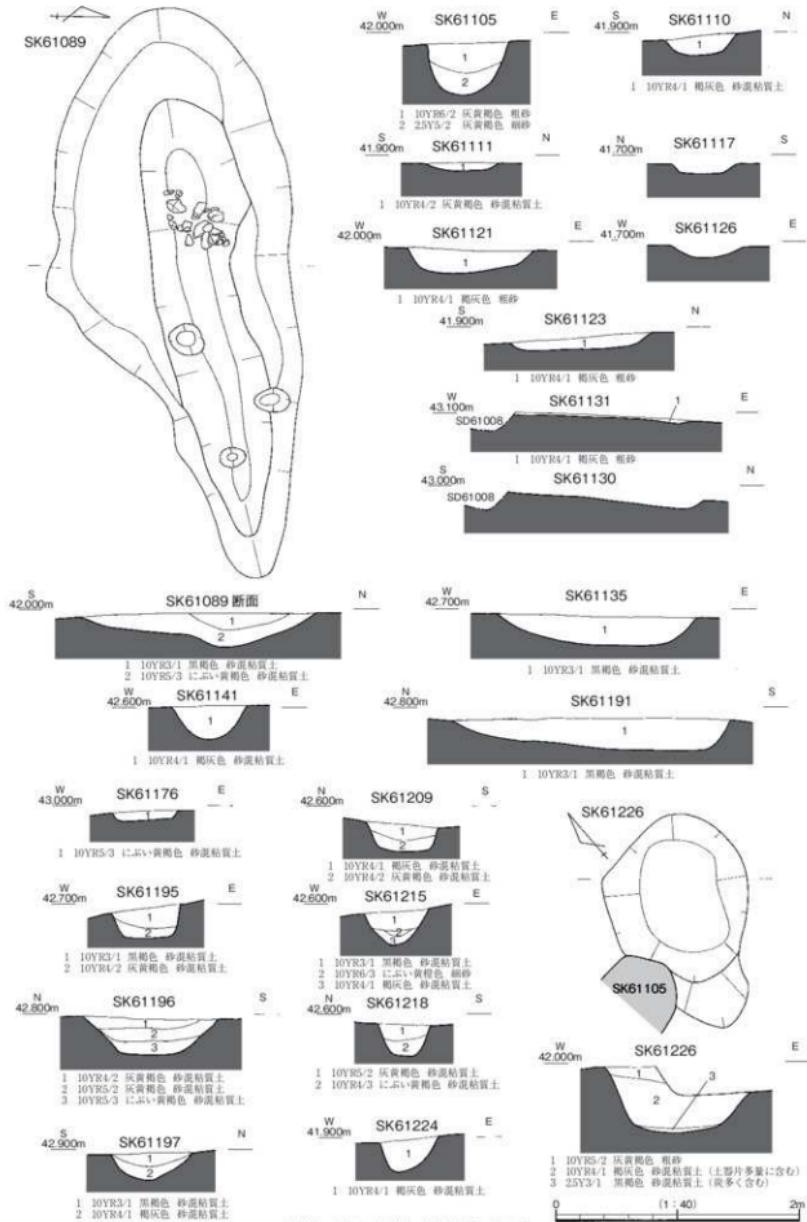


图 15 土坑 平面图・断面图③ (1/40)

の破片などが出土した。

**SK61176** (図15) 調査区中央やや北東側に位置する土坑である。SK61176は南西から北東方向に細長い溝状を呈する掘り形である。SK61176の長軸は1.6m、短軸は0.4m、深さは8cm、断面形状は浅い逆台形である。埋土にはにぶい黄褐色砂混粘質土の單層である。遺物は、広口壺の口縁部から頸部にかけての破片などが出土した。

**SK61191** (図15、図版7-5) 調査区中央やや北東側に位置し、SH61012の北東側約50cmの場所に掘削された土坑である。SK61191の平面形は不整形で、長軸3.06m、短軸1.74m、深さ26cm、断面形状は逆台形を呈する。埋土は黒褐色砂混粘質土の單層である。遺物は、広口壺の口縁部から頸部にかけての破片や底部片などが出土した。

**SK61195** (図15、図版7-6) SK61191の南側20cmの場所に位置する土坑である。SK61195の東西にはSH61012とSK61196が掘削されている。SK61195の平面形はほぼ円形で、長軸64cm、短軸58cm、深さ26cm、断面形状は逆台形を呈する。埋土は2層に分かれ、上層は黒褐色砂混粘質土、下層は灰黄褐色砂混粘質土である。遺物は一括して取り上げており、砥石などが出土した。

**SK61196** (図15、図版7-7) SK61195の東側に位置する土坑である。SK61196はSK61192・SK61197などの遺構と重複関係にあり、いずれの遺構も先行して形成されたことが分かる。SK61196は東側の隅がやや外側に開く不整形な平面形で、長軸1.82m、短軸1.12m、深さ30cm、断面形状は逆台形を呈する。埋土は3層に分かれ、上層は灰黄褐色砂混粘質土、中層は灰黄褐色砂混粘質土、下層はにぶい黄褐色砂混粘質土である。遺物は一括して取り上げており、弥生土器の底部片や石礫などが出土した。

**SK61197** (図15、図版7-8) SK61196の一部を破壊する土坑である。SK61197の平面形は遺構の南辺がやや崖むな不整形な形状で、長軸1.10m、短軸0.49m、深さ22cm、断面形状はU字を呈する。埋土は2層に分かれ、上層は黒褐色砂混粘質土、下層は褐灰色砂混粘質土である。遺物は一括して取り上げており、壺の口縁部片などが出土した。

**SK61209** (図15) 調査区中央やや東側に位置し、SH61012の東側に掘削された土坑である。SK61209の平面形は梢円形で、長軸76cm、短軸55cm、深さ20cm、断面形状は逆台形を呈する。埋土は2層に分かれ、上層は褐灰色砂混粘質土、下層は灰黄褐色砂混粘質土である。遺物は一括して取り上げており、弥生土器の底部片などが出土した。

**SK61215** (図15) 調査区南東側に位置し、SH61012の東側に掘削された土坑である。SK61215の平面形は梢円形で、長軸66cm、短軸54cm、深さ28cm、断面形状はU字を呈する。埋土は3層に分かれ、上層は黒褐色砂混粘質土、中層はにぶい黄橙色細砂、下層は褐灰色砂混粘質土である。遺物は一括して取り上げており、壺の口縁部片などが出土した。

**SK61218** (図15) SK61215の南側約50cmの位置に掘削された土坑である。SK61218の平面形は東西に細長い梢円形を呈し、長軸96cm、短軸36cm、深さ25cm、断面形状はU字である。埋土は2層に分かれ、上層は灰黄褐色砂混粘質土、下層はにぶい黄褐色砂混粘質土である。遺物は一括して取り上げており、遺存状態の良好な甕などが出土した。

**SK61226** (図15) 調査区中央やや南側で検出した土坑である。SK61226はSK61103とSK61105に一部を破壊される。SK61226はおむね梢円形を呈する土坑で、長軸1.78m、短軸1.2m、深さ52cm、断面形状は逆台形を呈する。埋土は3層に分かれ、上層は灰黄褐色粗砂(層厚約10cm)、中層は土器片を多量に含む褐灰色砂混粘質土(層厚約35cm)、下層は炭化物を多量に含む黒褐色砂混粘質土(層厚約5cm)である。遺物は、層單位で取り上げていないが、調査時の所見では中層の遺物出土量がコンテナ整理箱約15箱分と最も多い。また、下層からは石庖丁が出土した。土器は、甕・壺・鉢のほか擬朝鲜系無文土器の甕口縁部片が1点出土した。石器は、石礫・石庖丁・石皿・台石などが出土した。遺物の出土層位や出土量から、SK61226は廃棄土坑と考えられる。

### c. 溝

Ⅵ区では、特に調査区東側に多数の溝が掘削される傾向が認められた。調査区東側の地形面は、丘陵から緩やかに傾斜しており、その傾斜面と平坦面との変換点付近に多数の溝が開削される。さらに、これらの溝は地形面の傾斜に平行するように掘削される。図化しうる遺物が出土したのはSD61008・61027の2条の溝のみである。

**SD61002**は調査区の西側で検出した長さ約4.35mの溝で、SK61034が埋没したのちに開削される。SD61002は南西から北東方向に向て掘削されており、幅は21~36cm、深さは14cm。断面の形状は逆台形である。SD61003は調査区の南西側で検出した長さ約2.65mの溝で、SK61067が埋没したのちに開削される。SD61003の主軸はほぼ正方位で、幅は34~46cm、深さは5cm、断面形状は浅いU字である。溝の埋土は、黒褐色砂混粘質土の單層である。**SD61004**は調査区の南西側で検出した検出長約1.0mの溝で、調査区の外側に続くため溝の全容は不明である。SD61004の幅は35cm、深さは8cm、断面形状は浅いU字を呈する。溝の埋土は、黒褐色砂混粘質土の單層である。**SD61005**は調査区の南西側で検出した検出長約7.2mの溝で、溝の南側は調査区の外側に続くため全容は不明である。SD61005は南西から北東に向て掘削されており、遺構の重複関係からSK61096が埋没したのちに開削された溝であることが分かる。溝の幅は25~38cm、深さは4cm、断面の形状は浅い皿状を呈する。**SD61006**は調査区の南西側に位置し、SD61005の約1.5m南東側にはほぼ平行して掘削された溝である。SD61006の検出長は約1.0m、幅は20cm、深さは2cmである。

**SD61008**は調査区の北側中央で検出した溝で、SH61010によって溝の南端を、SK61017によって溝の屈曲部をそれぞれ破壊される。さらに、SD61008はⅦ区の方向にも連続して掘削されているよう、位置関係・断面形状・埋土・深さから溝の延長部分の候補として挙げられるのがⅦ区のSK71046である。SK71046は土坑と判断したが、

平面形態は溝状を呈しており、おおむねSD61008の北東側延長線上に位置することから、SD61008の北側延長部分に相当する可能性も考えておく。SD61008とSK71046を一連の遺構と見ると、溝の東側に多数の遺構が掘削されることから、区画溝になる可能性も考えられる。SD61008は、溝の北側では幅70cmで南北から北東に主軸をとるが、溝のなかほどで屈曲し、屈曲部より南側では幅10~60cmと溝の幅が狭くなり主軸も北西から南東へへ変化する。溝の深さは4cmで、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は、甕の口縁部片や底部片、石礫などが出土している。SD61009は、SD61008の東側約2.2mの位置に掘削された南北から北東方向に主軸をとる溝である。SD61009の北側は調査区の外側へと続くが、隣接するVII区で溝の延長部分は認められなかった。SD61009の検出長は約41m、幅は30~42cm、深さは15cm、断面形状は逆台形を呈する。溝の埋土は、黒褐色砂混粘質土の単層である。SD61010は調査区の北東隅に位置する溝で、地形面の傾斜に平行して南東から北西方に掘削される。溝の検出長は約11.5m、幅は21cm、深さは4cm、断面形状は浅い皿状を呈する。SD61011は調査区の北東側に掘削された長さ1.87m、幅13~34cm、深さ3cmの溝で、断面形状は浅い皿状を呈する。SD61011も地形面の傾斜にはほぼ平行して掘削される。SD61012はSD61011に隣接した位置に掘削された溝である。SD61012は南東から北西方に掘削されるが、おおむね地形面の傾斜に平行して掘削されている。溝の長さは3.8m、幅は20~31cm、深さは8cm、断面形状は浅いU字を呈する。

SD61013~SD61017は、調査区東側に隣接して掘削された溝である。SD61013はほぼ正方位に掘削された溝で、北端で二股に分岐する。SD61013の長さは1.72m、幅は22cm、深さは7cm、断面形状は浅いU字を呈する。SD61014は、SD61013の東側に位置するほぼ正方位に掘削された溝である。SD61014の北側は搅乱によって破壊されるが検出長は4.0m、幅は20~52cm、深さは6cm、断面形状は浅い皿状を呈する。SD61015は、SD61014とSD61016の間に掘削された南北方向の溝で、長さ65cm、幅19cm、深さ3cm、断面形状は浅い皿状を呈する。SD61016は、SD61017の西側に掘削された溝で、長さは1.17m、幅は16cm、深さは3cm、断面形状は浅い皿状である。SD61017は、5条の溝のなかで最も東側に掘削された溝で、長さは6.0m、幅は16~34cm、深さは4cm、断面形状は浅い皿状である。

SD61018~SD61025は、調査区南東隅に掘削された8条の溝である。これらの溝の大半は、北東から南西に向けて低くなる地形面の傾斜に平行して掘削されるという特徴が見られる。SD61018~SD61025のなかで最も東側の高所部に掘削されたのがSD61018で、長さは1.88m、幅は25~36cm、深さは4cmで、断面形状は浅い皿状を呈する。SD61018の西側に掘削されるのがSD61019で、溝の南側延長部分が調査区の外側へと続くため全容は不明である。SD61019の検出長は約6.45m、幅は17~40cm、深さは9cm、断面形状は浅いU字を呈する。SD61020も同様に溝の南側は調査区の外側に続いている。検出長は約4.45m、幅は36~65cm、深さは2cmで、断面形状は浅い皿状である。SD61021は長さ1.14m、幅16cm、深さ2cmで、断面形状は浅い皿状を呈する。SD61022とSD61023は、10cmの間隔を空けてほぼ同じ方向に掘削された溝である。SD61022は長さ1.06m、幅は12cm、深さは3cmで、断面形状は浅い皿状を呈する。SD61023の長さは1.41m、幅は15cm、深さは3cm、断面形状は浅い皿状である。SD61024はほぼ正方位に掘削された溝という点で、周囲の溝とは若干掘削された方位が異なる。SD61024の長さは3.7m、幅は12~30cm、深さは7cmで、断面形状はU字を呈する。SD61025はやや円弧を描いて掘削された溝で、長さが約1.25m、幅は21~27cm、深さは2cmで、断面形状は浅い皿状を呈する。SD61026は調査区の南東隅で検出した溝で、SH61015の北東側約20cmの位置に掘削される。溝の一部は後世の搅乱で破壊され、さらには溝の南側延長部分は調査区の外側に続いたため、溝の全容は不明である。SD61026はやや円弧を描いており、掘削方向はSH61015の平面形に沿うようにも見える。しかし、SH61015との関係については明らかにできなかった。SD61026の検出長は約4.3m、幅は19~26cm、深さは14cm、断面形状はU字である。

SD61027は調査区の中央付近に掘削された溝で、遺構の重複関係よりSH61012よりも新しく、SH61011よりも古い時期に形成されたことが分かる。SD61027の南側延長部分はSH61011によって破壊されるため、溝の全容は不明である。SD61027の検出長は約1.85m、幅は22~61cm、深さは15cm、断面形状はU字を呈する。遺物は、弥生土器の底部片と器割などが出土した。

## d. ピット

VII区の堅穴住居跡などに伴わない単独のピットの検出数は合計1,144基であり、これは北側に隣接するVII区のピット検出数をはるかに上回る数である。ピットが濃密に分布することからも、集落域としての土地利用の主要な範囲がVII区であることが推定できる。次にピットの平面分布を見ると、調査区東半は西半と比較してピットが著しく重複して分布する傾向が読み取れる。VII区で検出した堅穴住居跡の大半は調査区中央から西側にかけて分布しており、この点からピットと堅穴住居跡の分布の傾向はやや異なると言える。なお、いくつかのピットから土器や石器などが出土しており、弥生時代中期前半に帰属する遺物が大半を占める。

遺物実測図を掲載したのは12基から各1点ずつ、合計12点の土器と石器である。なお、本書に掲載するにあたり、ピットの遺構番号のみ再整理して報告している。

## 第3節 遺構出土遺物

### 遺構出土遺物の概要

VII区の出土遺物の総数は、Ⅲ層出土遺物も含めてコンテナ整理箱で約100箱分である。遺物の内訳は、土器・土製品が88箱、石器（礫石器を含む）が11箱である。遺構から出土した遺物のうち本書に掲載した遺物の点数は、

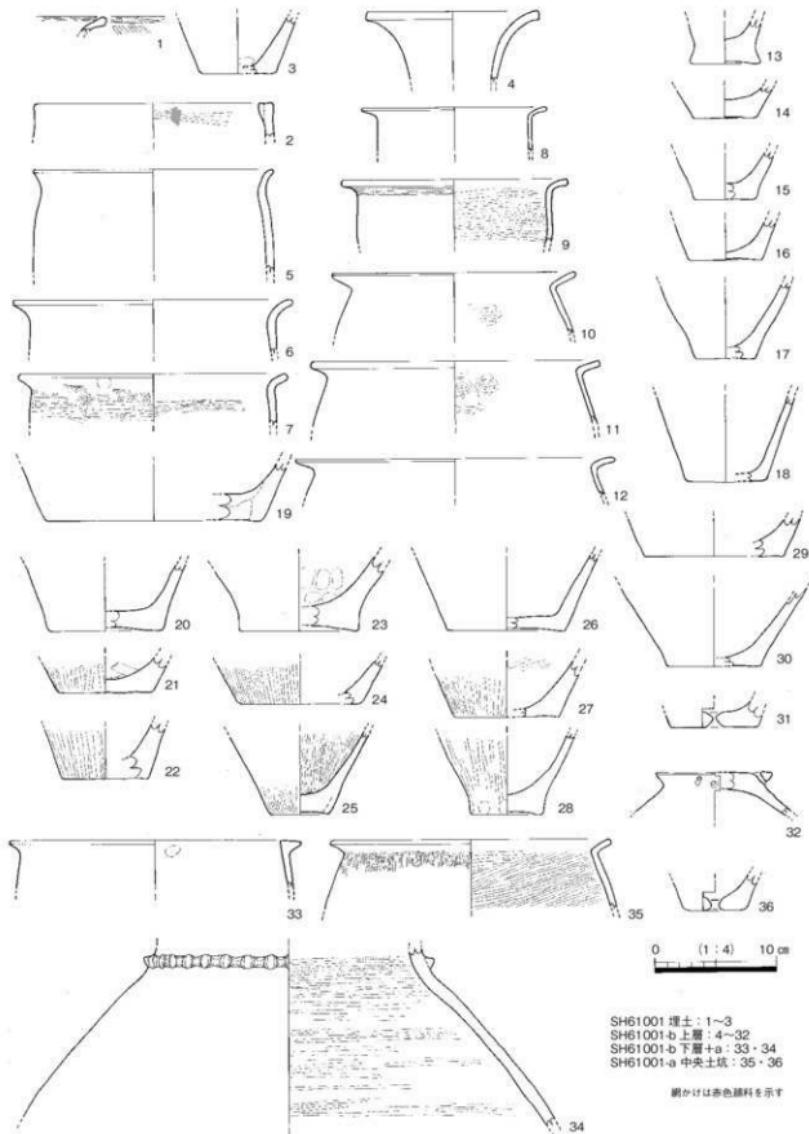


図16 SH61001 出土土器実測図 (1/4)

土器504点、土製品9点、石器171点の合計684点である。なお、遺物については、出土層位や出土状況について各遺構の報告で記載しており、その記載と対応するよう遺物実測図を掲載した。

土器については、弥生時代中期前半の遺物が中心を占める。出土した遺物の組成は、甕・壺・鉢・高杯・蓋である。土器のなかで注目できるのが、SK61226から擬朝鮮系無文土器(461)が1点出土した点である。VI区のⅢ層から出土した擬朝鮮系無文土器の点数と合わせると、合計5点が出土したことになる。擬朝鮮系無文土器は出土点数こそ少ないが、集落の性格の一端を示す遺物と捉えることができるだろう。

土製品については、堅穴住居跡とⅢ層から出土した。まず、ほぼ円形で直径3.5~5.0cm程度の大きさの紡錘車が合計5点出土している。紡錘車が出土した遺構と出土点数は、SH61001から2点(37・39)、SH61011から1点(205)、SH61012から2点(248・249)である。また、なかほどがくびれる形態で、刺突・絞線・穿孔などよって顔を表現したと思われる土製品がVI区の遺構から3点出土している。これらの遺物に施された調整を顔面表現と判断して顔状土製品と呼称する。顔状土製品はⅢ層からも2点出土しており、これを合わせるとVI区では合計5点が出土した。遺構から出土した顔状土製品の内訳は、SH61001(38)・SH61002(53)・SH61012(329)の3棟から各1点ずつが出土している。以上のように、出土数が少ない土製品の大半が堅穴住居跡から出土している点は特筆すべきだろう。

石器については、本書に掲載した遺構出土遺物も171点と多數あるが、Ⅲ層からも膨大な量の石器が出土している。Ⅲ層には石礫などの製品も相当数含まれていた。遺構から出土した石器は、大多数が堅穴住居跡と土坑から出土している。堅穴住居跡については、SH61005・SH61009・SH61014の3棟からは石器が出土していないものの、そのほかの12棟からは製品・礫石器などの石器が出土している。各住居より出土した石器の重量については表3に示したが、各住居の1m<sup>2</sup>あたりの石器出土量では、SH61002とSH61011の2棟の割合が高い。なお、先述したとおり、堅穴住居跡からはチップや剥片なども出土しており、住居内で石器製作を行っていた可能性があると考えられる。堅穴住居跡以外では、SK61017・SK61089・SK61196・SK61226の4基の土坑からは、一定量の石器が出土している。SK61226は土器の出土量が多い点はすでに述べたが、石器の出土量も多く、なおかつ出土した石器の組成が石礫・石砕丁・石臼・石皿など多様である点も特徴のひとつと言える。

以下に出土遺物の傾向を踏まえたうえで特徴的な点のみ述べるが、各個体の詳細は観察表(表7・8)を参照されたい。

#### a. 土器・土製品(図16~40、図版8~16)

堅穴住居跡から出土した遺物のうち、層位を分けて取り上げたのがSH61001とSH61012の2棟である。双方の住居は、遺物の出土状況も考慮すると、埋土上位から出土した遺物を住居の大半が埋没した後に廃棄された遺物と判断することができる。従って、埋土の上位から出土した遺物は、住居の廃絶時期を示すものと言える。

SH61001については、前後する2棟の住居が重複していることが調査から推定でき、新しい方の住居であるSH61001-bは焼失したのちに完全に埋没したことが分かっている。SH61001-bの埋土上層から出土した遺物は、炭化材よりも上から出土しており、住居焼失後の遺物群であることは明確である。SH61001-bの廃絶に伴う遺物には、甕(5~12)や広口壺(4)、さらに器種を特定できない底部片(13~31)が多数出土している。また、底部に穿孔を施す土器(31)も認められる。また、同一の層位より、土器を転用し円形に打ち欠いた平面形で、中央付近に1cm程度の円孔を穿つ紡錘車(37)。下半部がくびれ、縫面には連続した刺突、表面には絞線・穿孔を施す顔状土製品(38)が各1点出土している。SH61001-bの炭化材よりも下から出土した遺物のうち図化できた遺物は極めて少なく、甕(33)や押圧突起を貼り付けた壺(34)などがある。床面中央で検出した土坑からは、甕(35)や底部なかほどに穿孔を施した土器底部片(36)、不整形状で中心付近に円孔を穿つ紡錘車(39)が出土している。

SH61002は、土坑から出土した遺物以外は一括して取り上げている。住居の埋土からは、甕(40~42)・壺(43)のほかに、器種を特定できない底部片(44~50)や外側に開く脚部を有する土器底部(51)、弥生土器の蓋(52)、さらに顔状土製品(53)が1点出土している。53はなかほどくびれ、表面と縫面に刺突を連続して施し、くびれ部付近に円孔を2孔穿つ。表面に施した刺突は、V字に近い配置をとることが特徴である。53は先述した38の顔状土製品とはほぼ同じ形態で、なおかつ大きさもおおむね同じである。

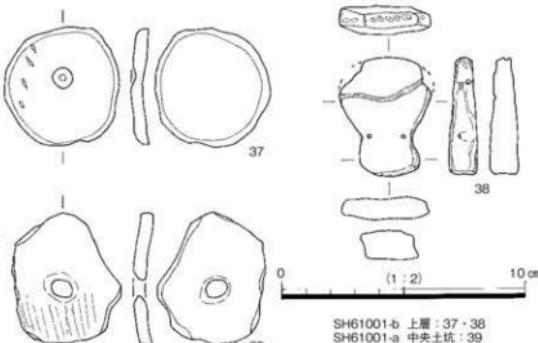


図17 SH61001 出土土製品実測図(1/2)

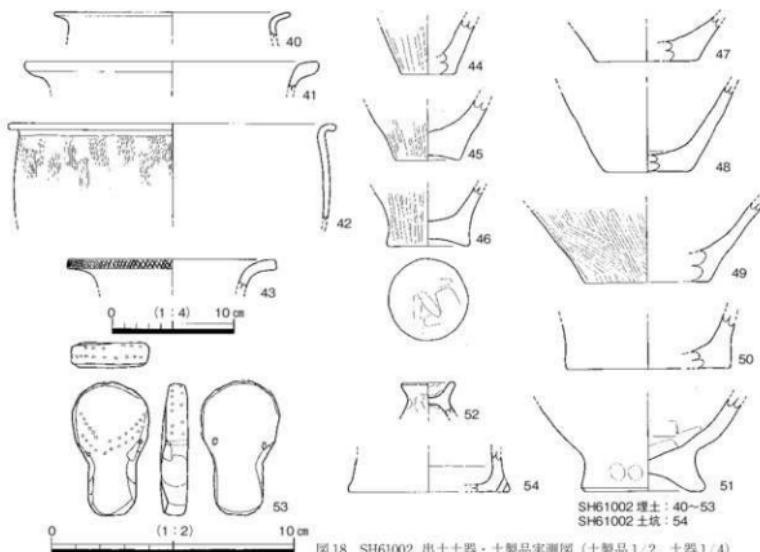


图18 SH61002 出土土器・土製品実測図（土製品1/2、土器1/4）

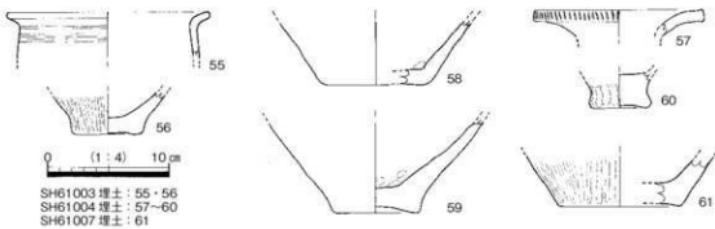


图19 SH61003・61004・61007 出土土器実測図（1/4）

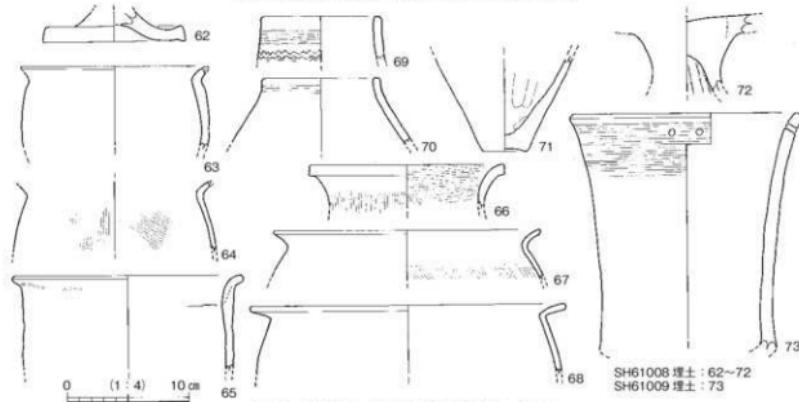


图20 SH61008・61009 出土土器実測図（1/4）

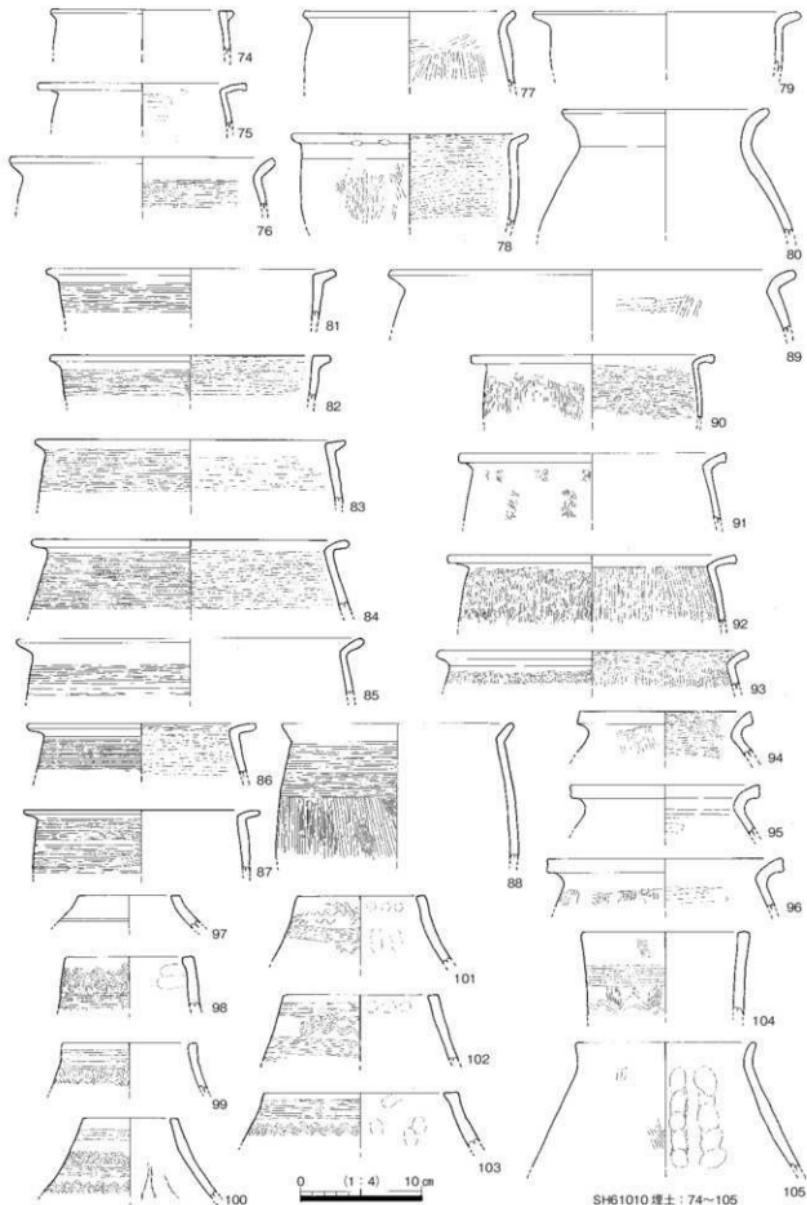


图21 SH61010 出土器実測図① (1/4)

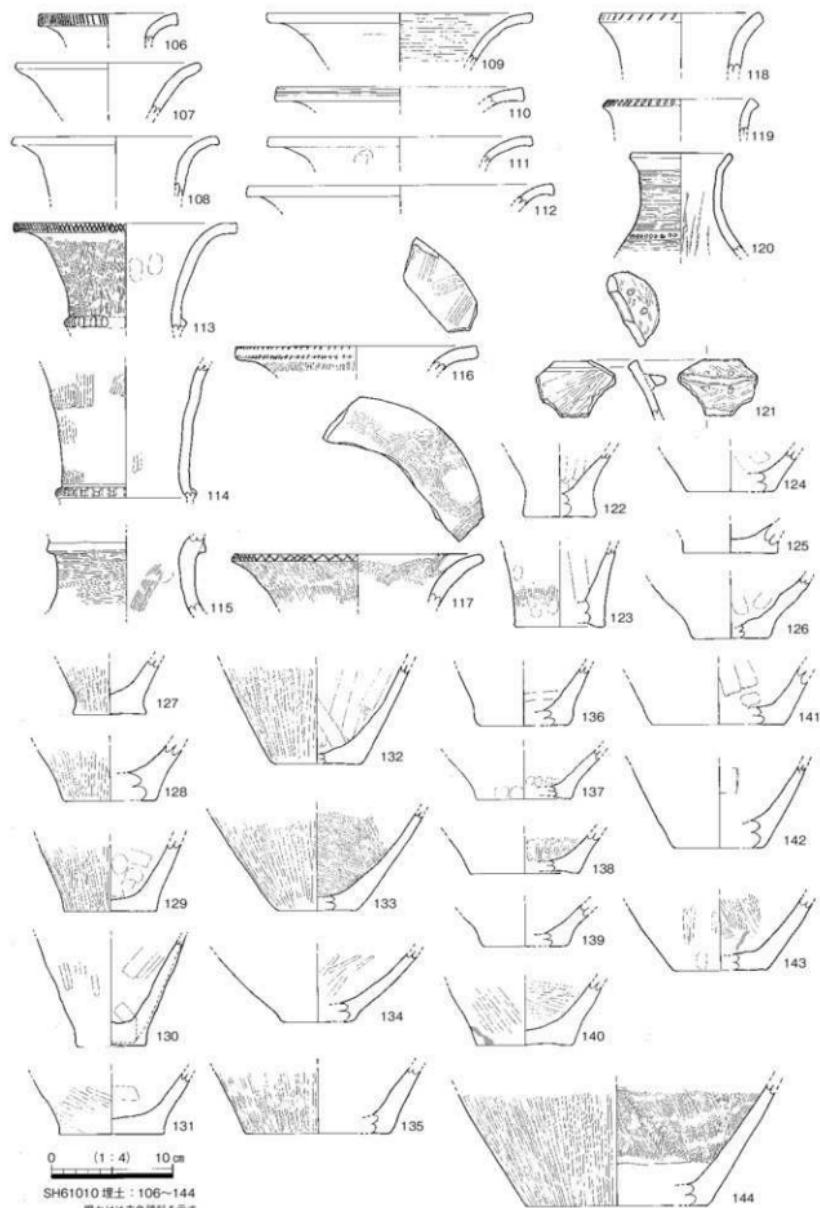


図22 SH61010 出土土器実測図② (1/4)

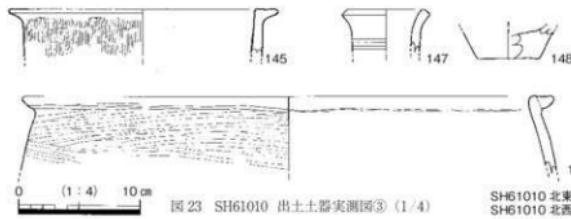


图23 SH61010 出土土器实测图③ (1/4)

SH61010 北东土坑 : 145·146  
SH61010 北西土坑 : 147·148

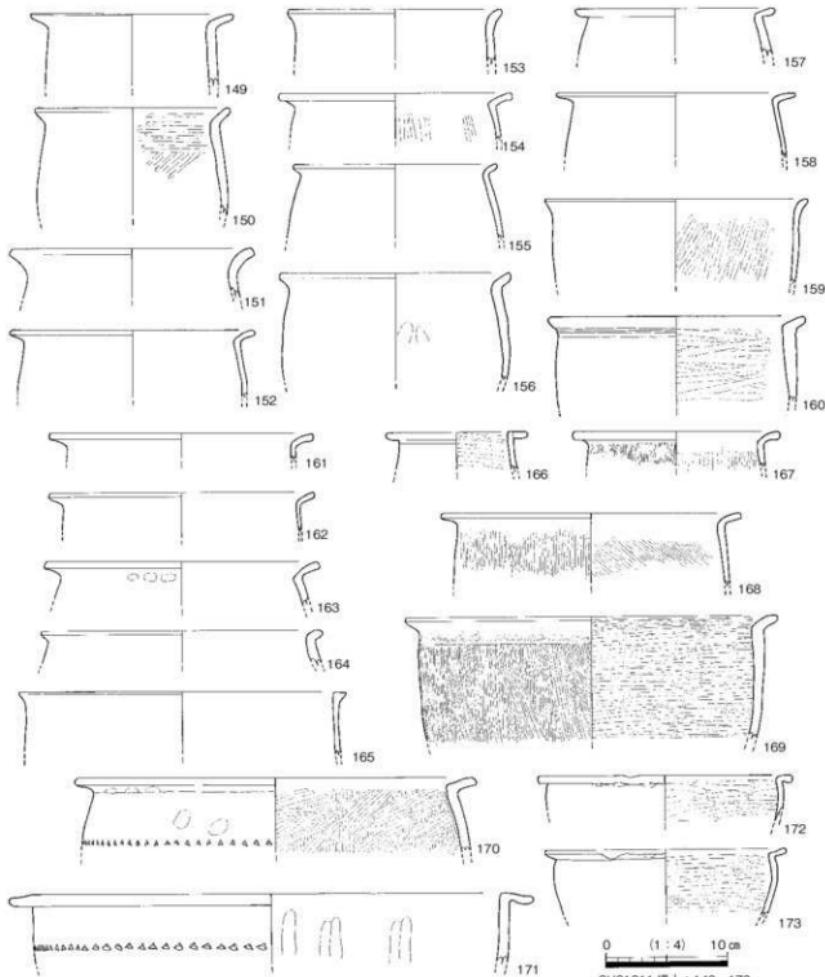


图24 SH61011 出土土器实测图① (1/4)

SH61011 埋土 : 149·173

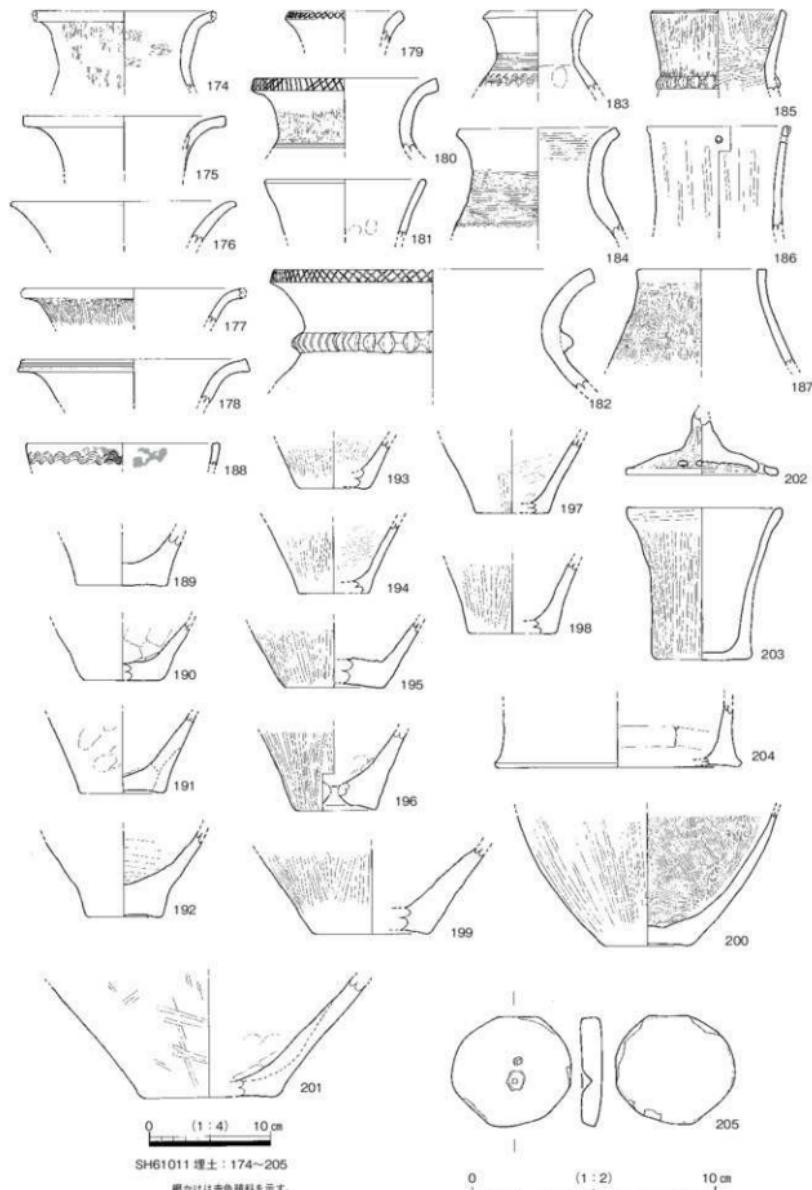


図 25 SH61011 出出土器・土製品実測図② (土製品 1/2, 土器 1/4)

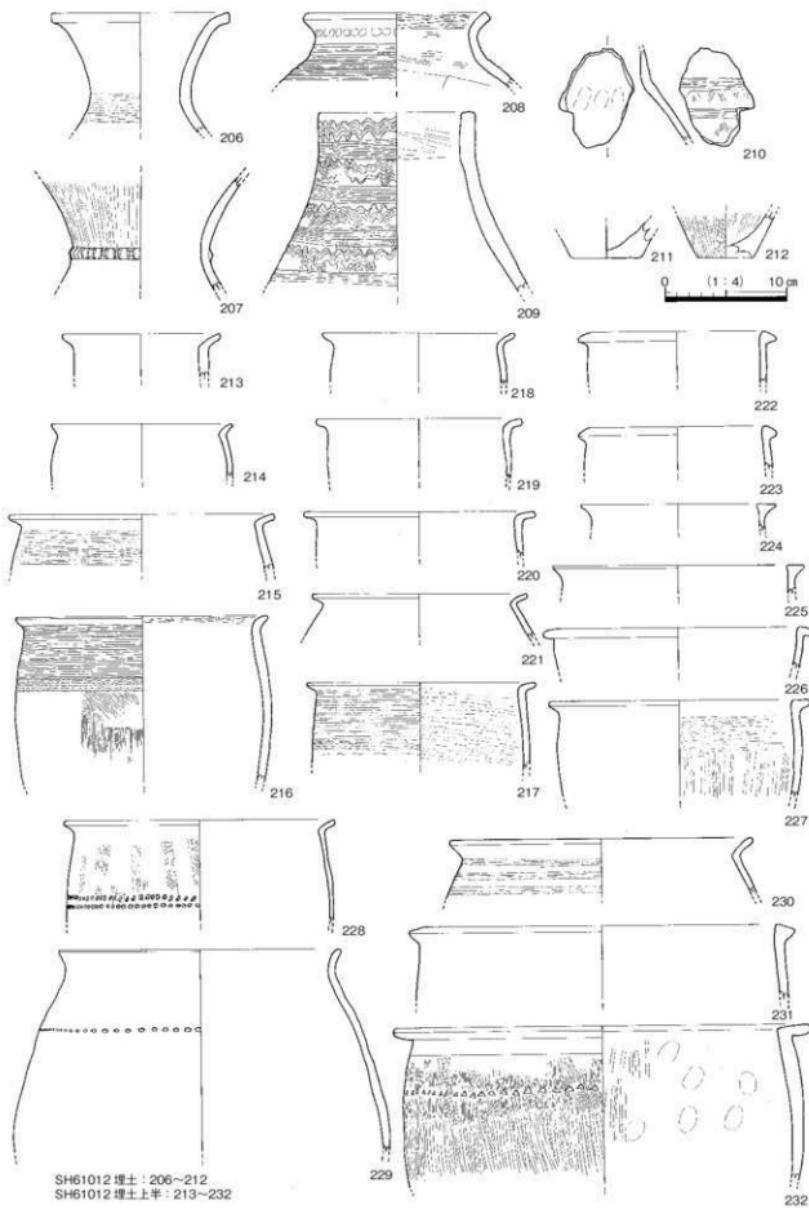


图 26 SH61012 出土土器实测图① (1/4)

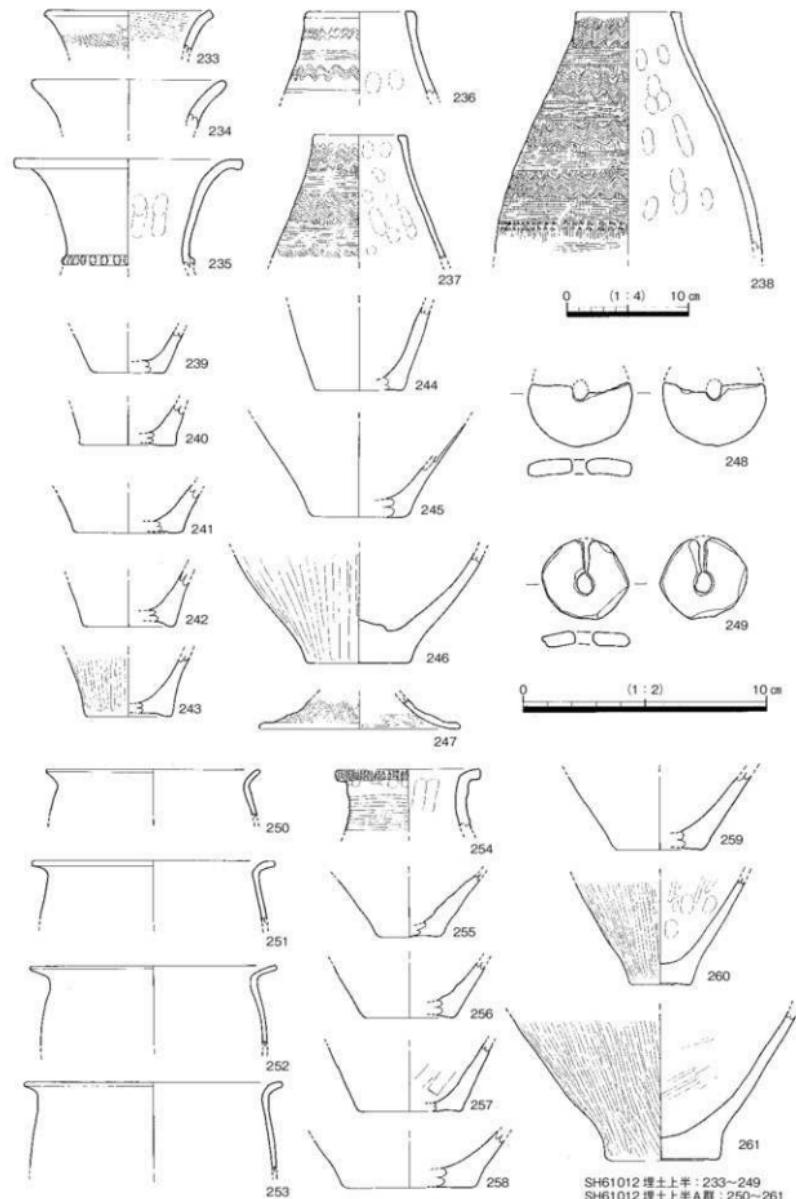


図27 SH61012 出土土器・土製品実測図② (土製品1/2, 土器1/4)

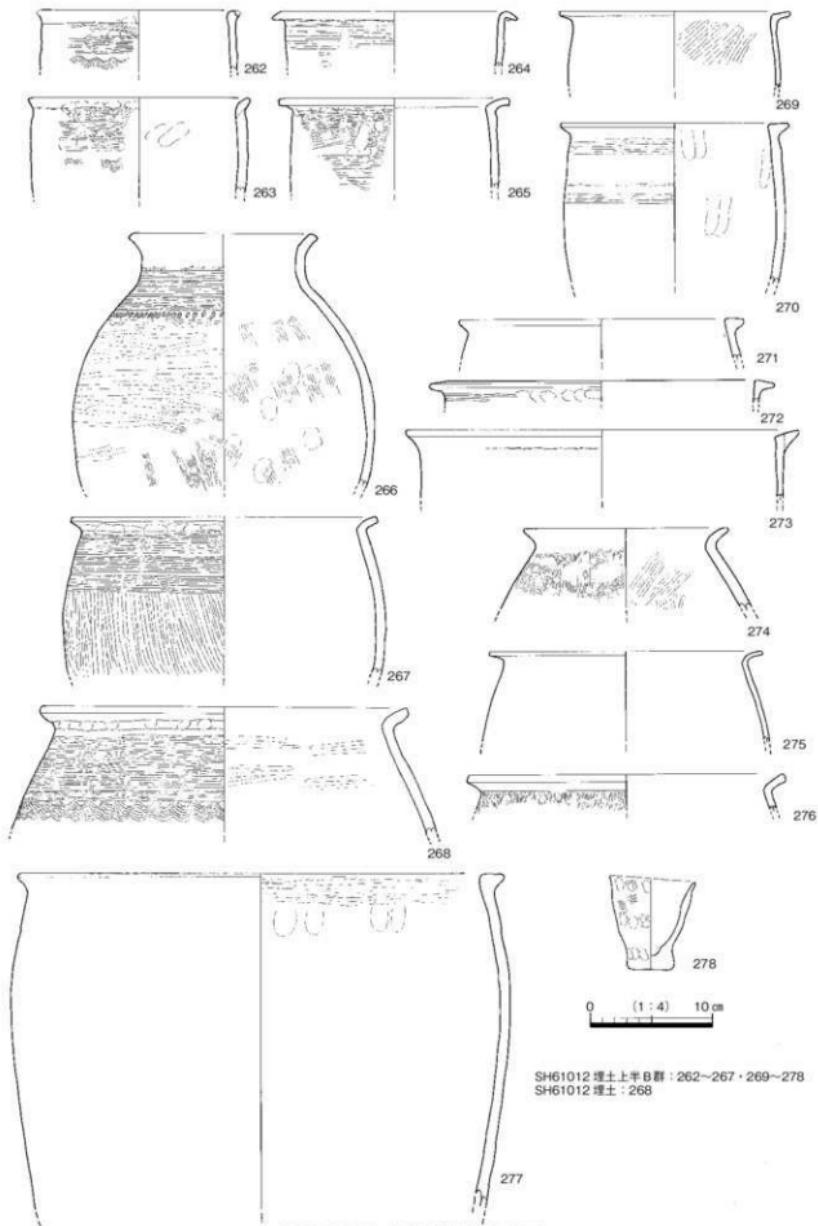


图 28 SH61012 出土土器实测图③ (1/4)

SH61012 埋土上半 B 群 : 262~267 · 269~278  
SH61012 埋土 : 268

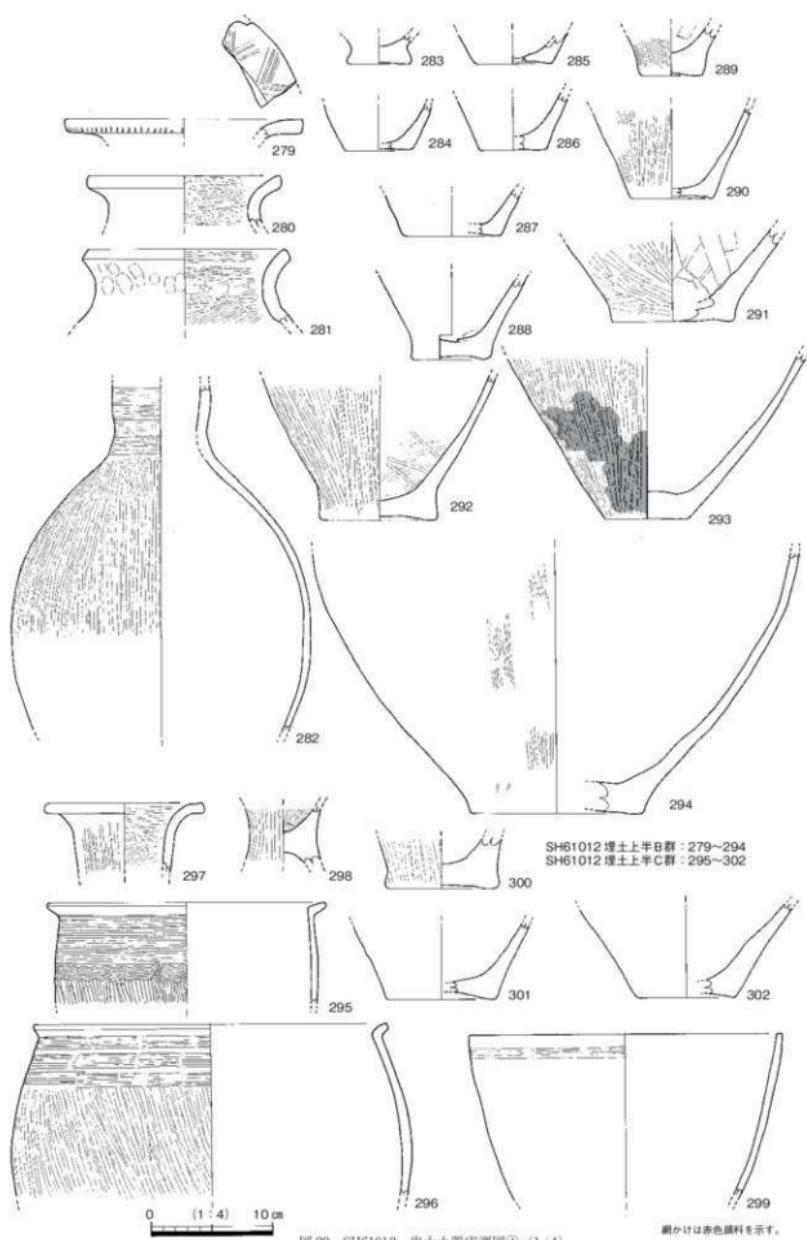


図29 SH61012 出土土器実測図④ (1/4)

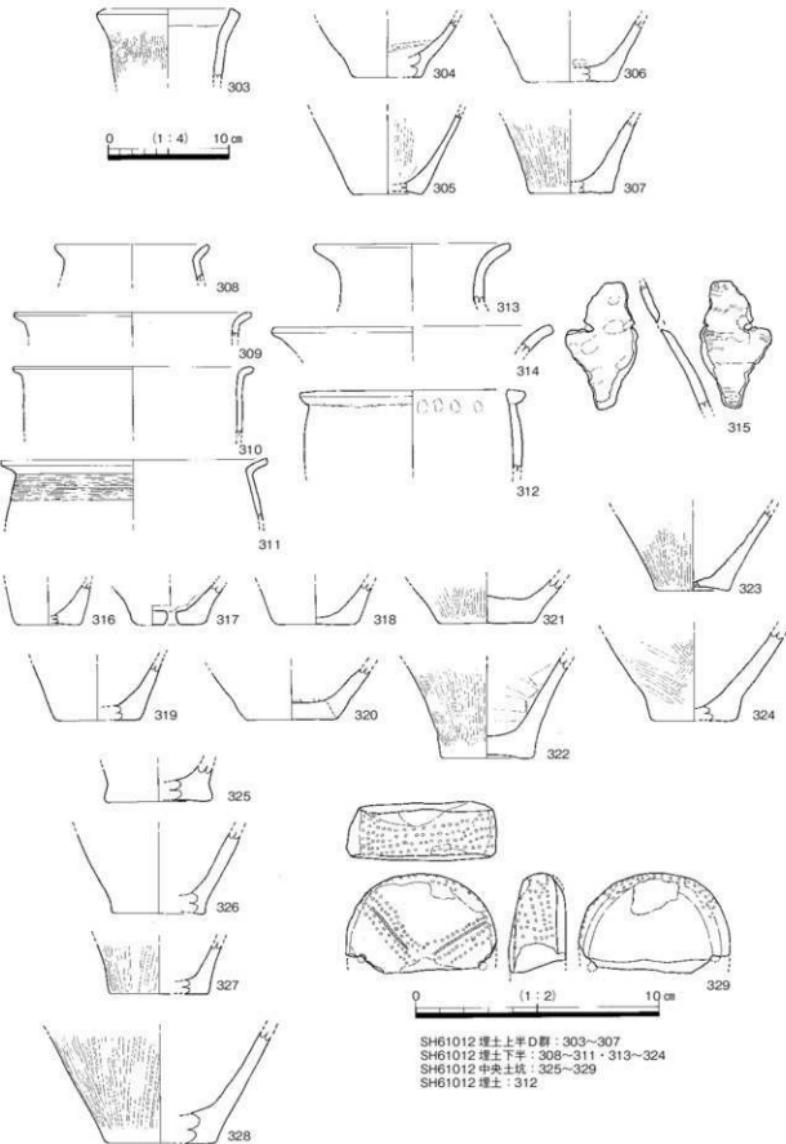


図30 SH61012 出土土器・土製品実測図⑤ (土製品1/2, 土器1/4)

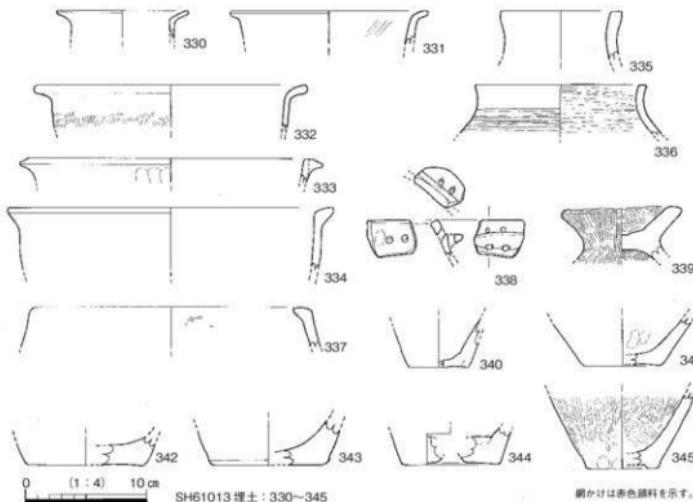


図31 SH61013 出土土器実測図(1/4)

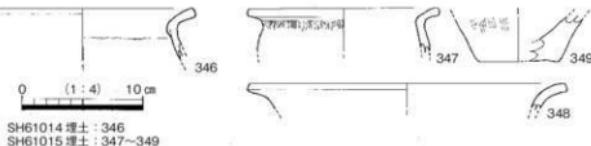


図32 SH61014・61015 出土土器実測図(1/4)

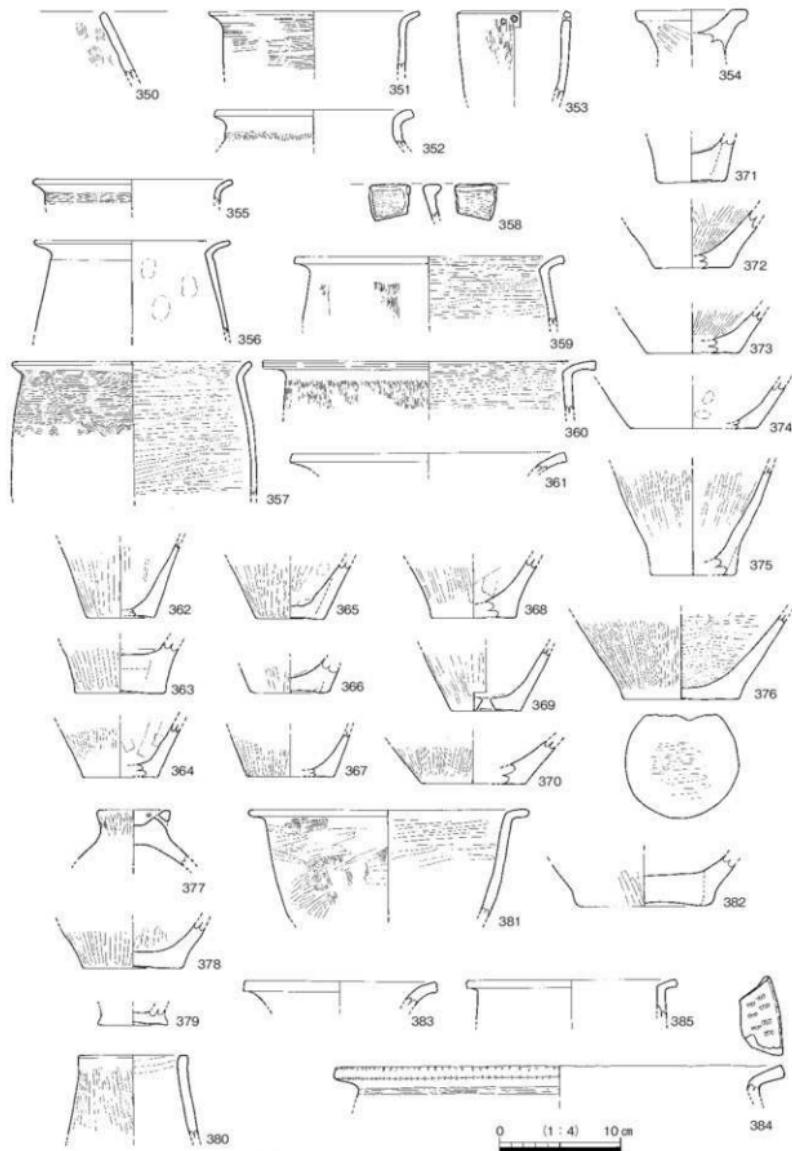
SH61008の出土遺物は一括して取り上げており、壺(63~65・67・68)のほか、他の住居では出土数が少ない無頸壺(69・70)や蓋(62)、高杯の脚部(72)が出土している。

SH61009は土器・石器とともに出土数は極めて少ないが、口縁部から体部にかけて遺存するバケツ形の鉢(73)が1点出土している。

SH61010は、埋土から出土した遺物と床面で検出した土坑から出土した遺物がある。SH61010の埋土出土遺物は、逆L字形の口縁部で横描直線文を施す壺(81~87)や口縁端部の外側に面を持つ壺(94~96)などがある。また、無頸壺(97~103・105)・広口壺(80・106~113・116~118)・長頸壺(120)・直口壺(119)など壺の細部器種のバリエーションが豊富であることもSH61010の特徴と言えるだろう。このほか、底部付近の外面に赤色顔料が付着した土器(140)と内面に赤色顔料が付着した土器(143)が各1点出土している点は注目される。SH61010の東北土坑からは壺の口縁部から体部にかけての破片が2点(145・146)、北西土坑からは広口壺の口縁部から頸部にかけての破片(147)と器種を特定できない土器の底部片(148)が各1点出土した。

SH61011では、体部外面に列点文を施す壺(170・171)や蓋(202)、バケツ形を呈する鉢(203・204)、土器を円形に加工し中央付近に末貫通ながら穿孔を2ヶ所試みた紡錘車と考えられる土器品(205)などがある。また、口縁部のみ出土した鉢と考えられる土器品(188)には、外表面とともに赤色顔料が認められる。

SH61012は埋土上半から出土した遺物については出土状況を図11で示したが、壺や壺のほか、円孔を穿つ紡錘車(248・249)、てづくね土器(278)が1点出土している。なお、293は弥生土器の底部片で、外面には赤色顔料が広範囲に付着する。SH61012埋土下半からは壺や壺、器種を特定できない土器の底部片などが出土している(308~311・313~324)。SH61012の中央土坑からは、器種を特定できない土器底部片(325~328)のほか、下半部を欠損する顎状土製品(329)が1点出土している。329は丸みを持つ形状で、幅は6.1cm、縦方向の長さは欠損しているため残存長となるが4.0cm、厚さは2.3cmである。表面には左右に1条ずつ合計2条の沈線を施し、沈線の脇には刺突が連続して端面まで認められる。土器品の欠損部付近には、円形と思われる孔を2孔穿つ。SH61012から出土した329は、SH61001出土の38とSH61002出土の53と比べて大型ではあるが、



SK61001 墓土 : 350  
SK61003 墓土 : 351  
SK61011 墓土 : 352~354  
SK61017 墓土 : 355~376

SK61022 墓土 : 377  
SK61023 墓土 : 378  
SK61025 墓土 : 379~380  
SK61028 墓土 : 381

SK61029 墓土 : 382  
SK61031 墓土 : 383·384  
SK61033 墓土 : 385

0 (1:4) 10 cm

384

図33 土坑 出土土器実測図① (1/4)

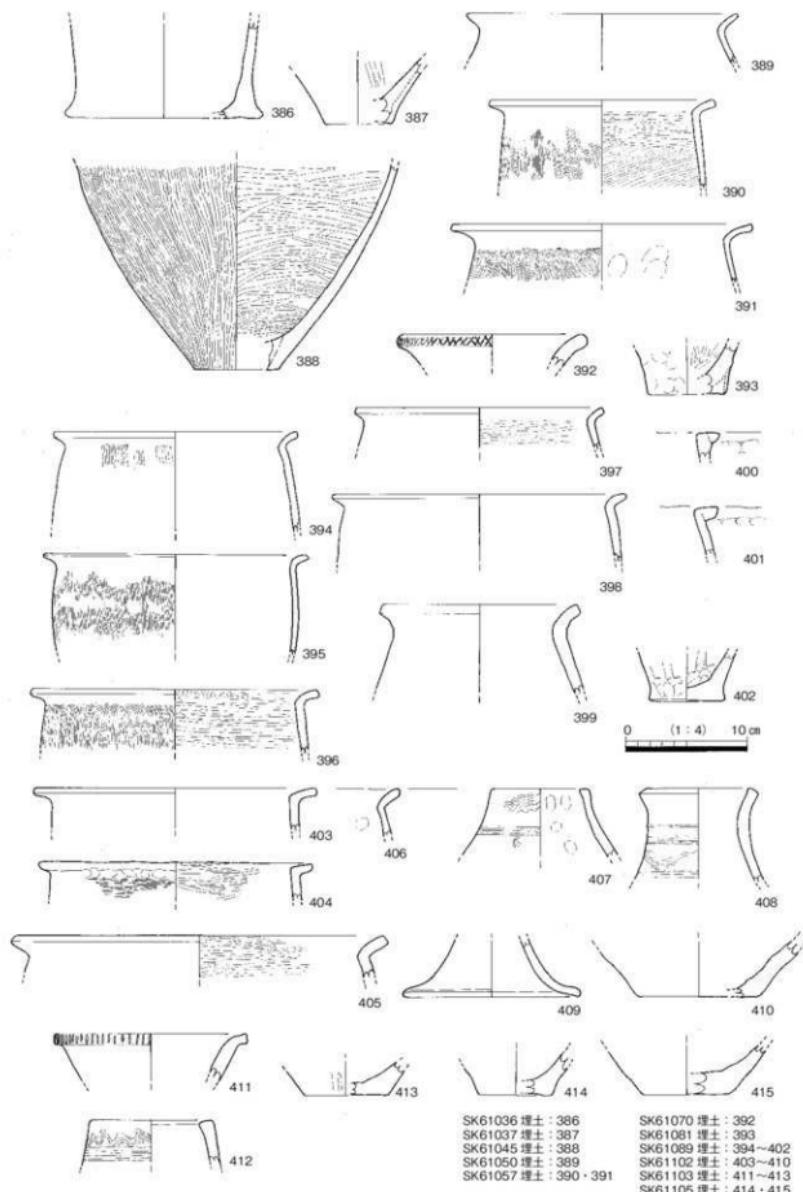


图 34 土坑 出土土器实测图③ (1/4)

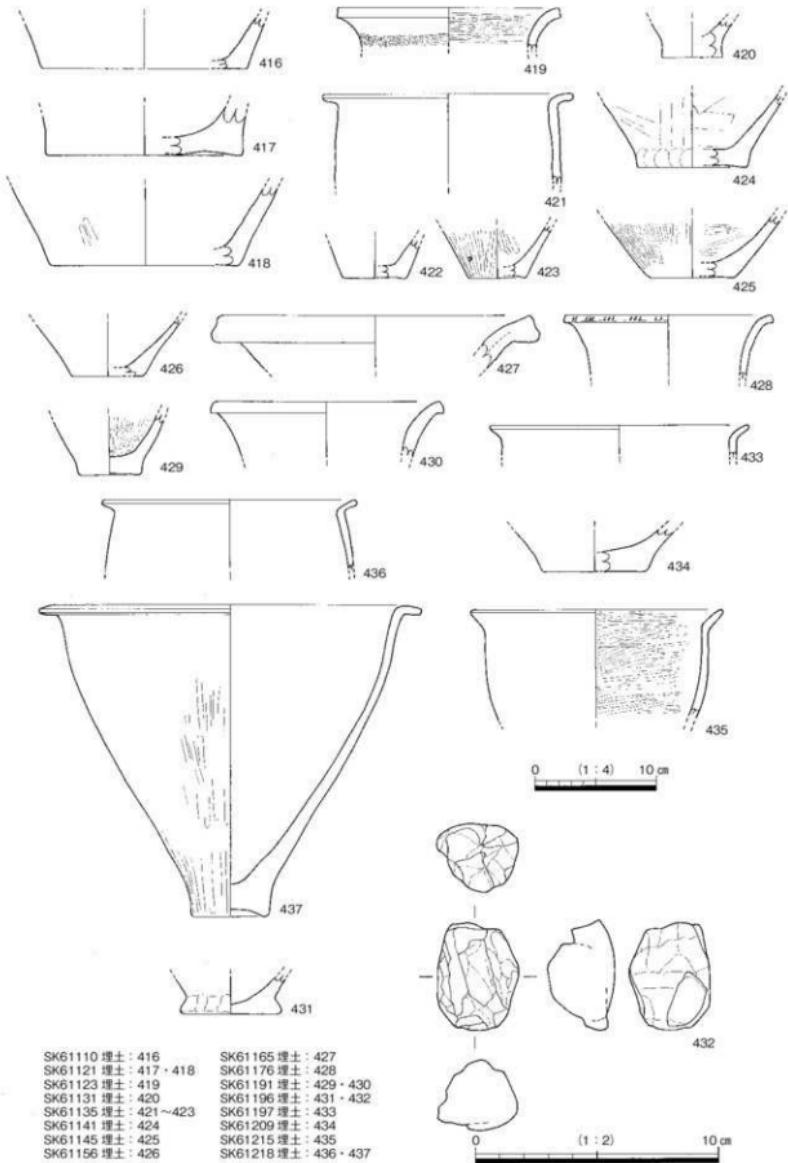


図 35 土坑 出土土器・土製品実測図③ (土製品 1/2, 土器 1/4)

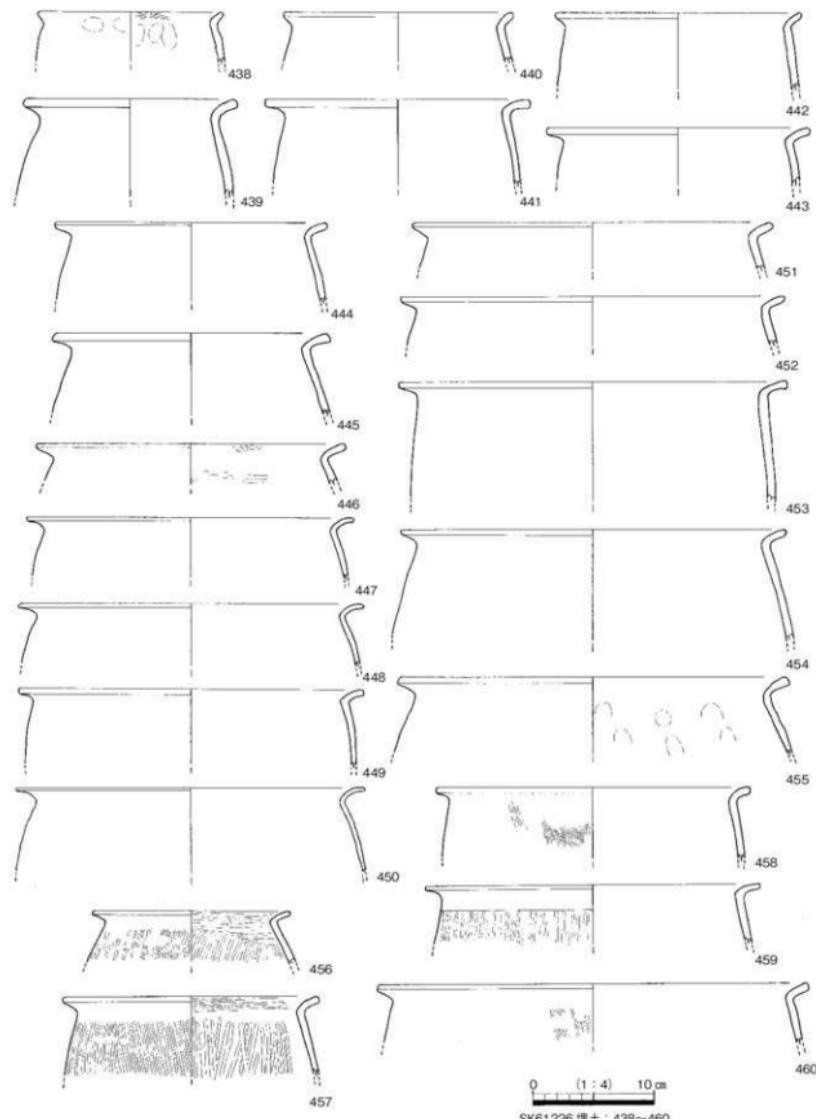


图36 土坑 出土土器实画图④ (土器 1/4)

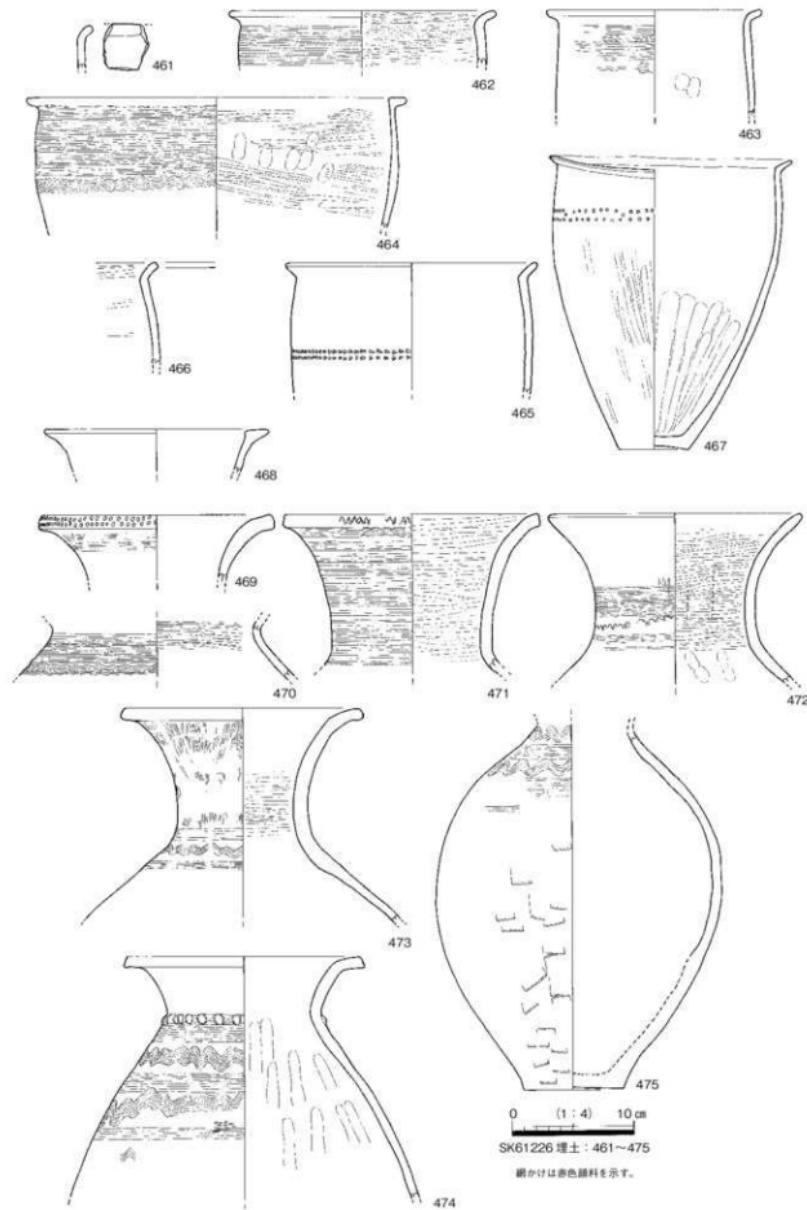
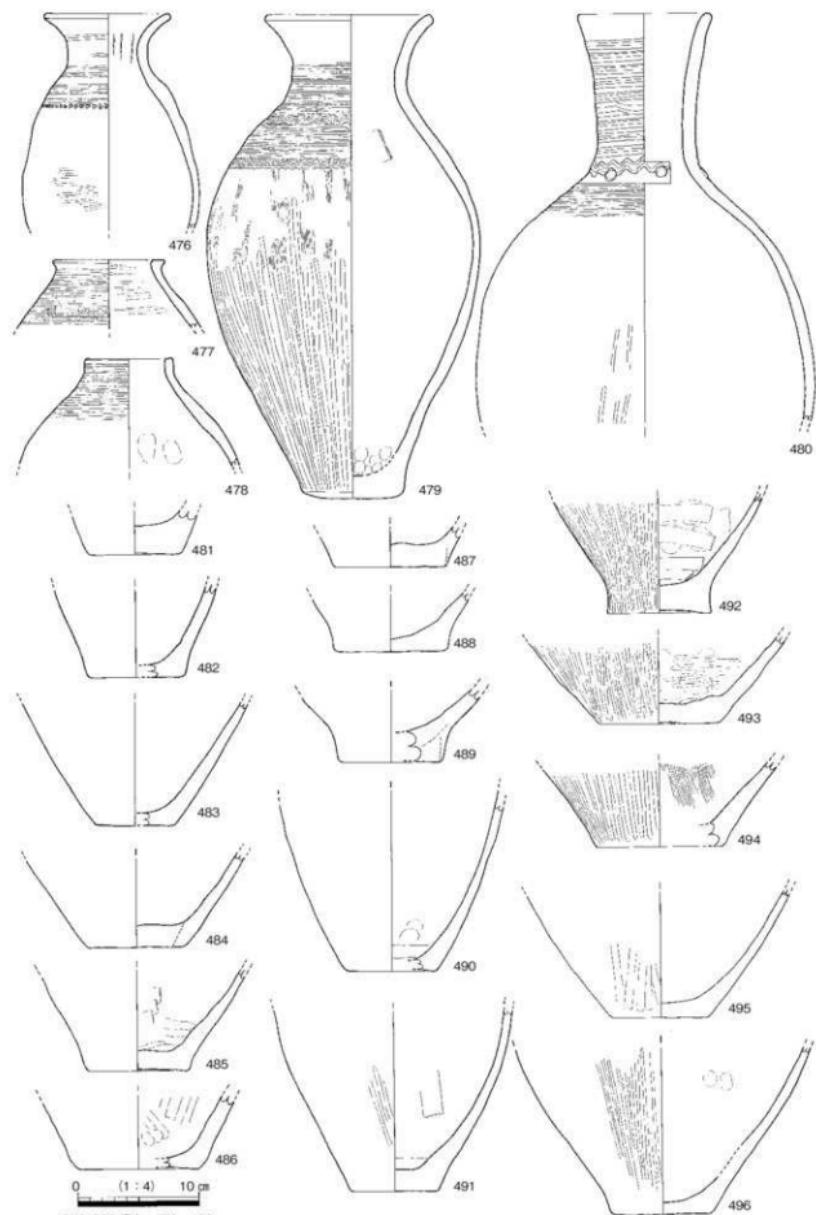


図37 土坑 出土土器実測図⑤ (1/4)



SK61226 理土：476~496

图 38 土坑 出土土器实测图⑥ (1/4)

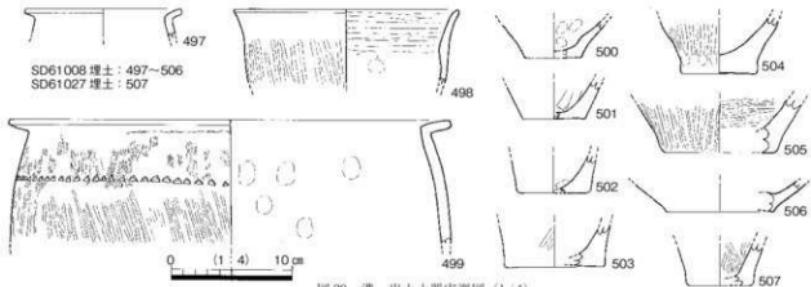


図39 溝 出土土器実測図(1/4)

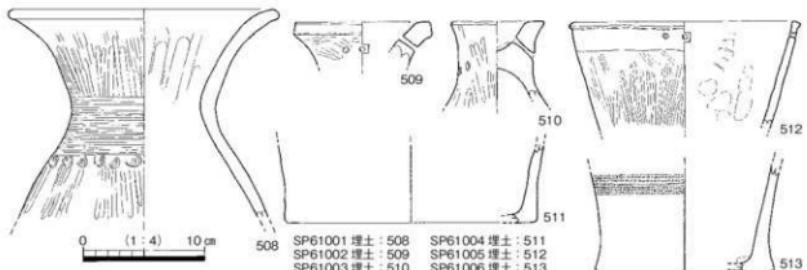


図40 ピット 出土土器実測図(1/4)

沈線・穿孔・刺突という同じ手法を用いて顔面表現を施している点は共通する。

SH61013～SH61015からも土器は出土しているが(330～349)、図化できる土器の量は少なく、遺物の内容も他の住居と大きな相違は認められない。

土坑からも堅穴住居跡と同時期の遺物が出土しているが、SK61017・SK61089・SK61102・SK61226の4基からは比較的まとめて土器が出土している。このうち、SK61226は残りの良い広口壺を中心とする多数の土器片が出土しており、他の遺構とは遺物を包含する密度が明らかに異なる点は特筆すべきだろう。SK61226の出土遺物は、個体数も多く、なおかつ石器も含めて多様な器種が出土している点は特徴的である。また、壺では、組成のなかに擬朝鮮系無文土器(461)が1点ではあるが含まれることには留意すべきだろう。461は壺の口縁部の小破片で、口縁端部は丸みを持ち、端部外側は肥厚する。口縁部は全面に横ナデを施し、そのほかの部位はナデで仕上げる。これら以外には、SK61226からは外面を縱方向のハケで仕上げる壺(456～460)、体部の外面に列点文、ないしは竹管文を施した壺(465・467)、逆L字形の口縁部で飾直線文、および波状文を施す壺(462～464)などがある。

SK61226以外の土坑としては、SK61218から外面を縱方向のヘラミガキ、内面はナデで仕上げる遺存状態が良好な壺(437)が1点出土している。

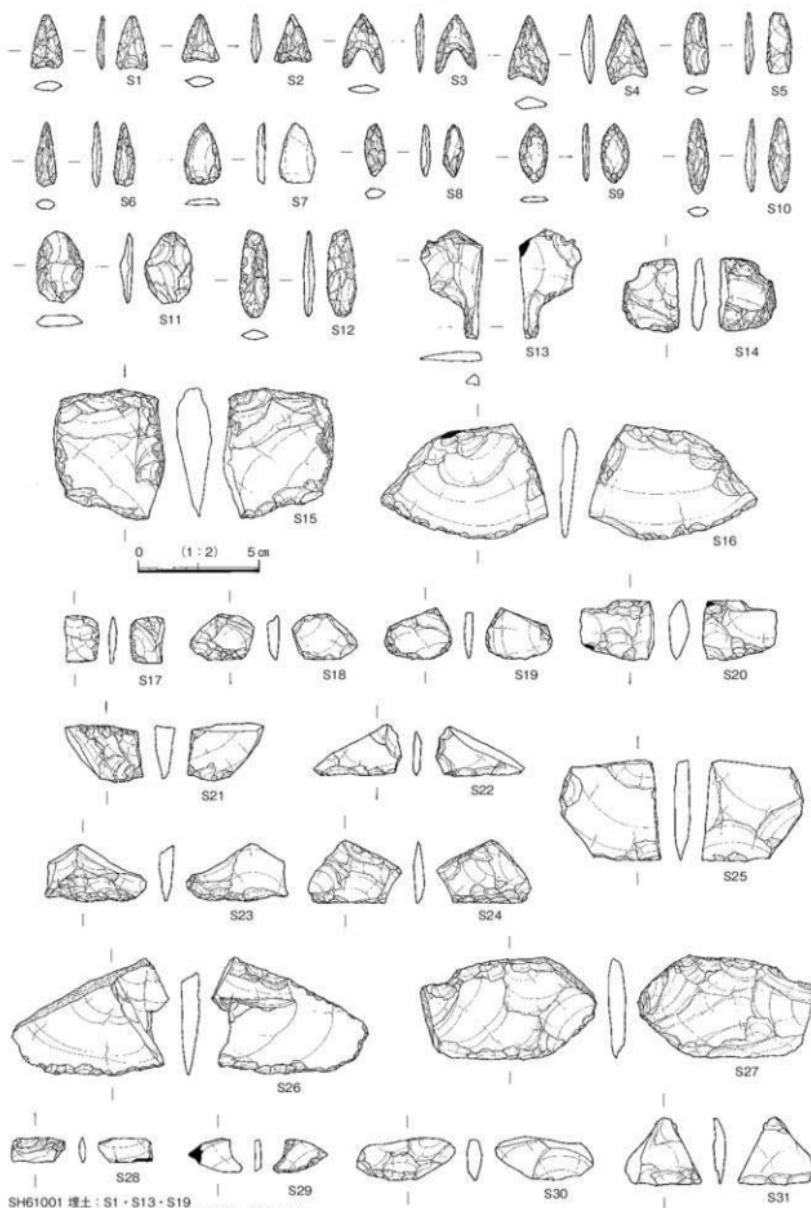
溝から出土した遺物のうち、SD61008とSD61027の2条の溝からは図化しうる土器が出土している。SD61008からは、壺(497・499)、鉢(498)、土器底部片(500～506)、SD61027からは土器底部片(507)が出土している。

ピット出土遺物は、遺跡全体から見て出土数の少ない器種を抽出して限定的に掲載した(508～513)。これらの土器以外にもピットからは土器が多数出土しているが、本報告では紙幅の都合により割愛した。

#### b. 石器(図41～54、図版17・18)

VI区で検出した堅穴住居跡・土坑・溝・ピットの各遺構からは、土器のほかに多数の石器も出土している。出土した石器には、石鏃・石錐・削器・石庖丁・石斧・剥片・砥石・凹石・磨石・石皿・台石など製品や礫石器などがある。石器の石材には、サスカイト・安山岩・花崗岩・砂岩・綠泥片岩などが用いられる。堅穴住居跡から出土した石器を見ると、半数近くの住居から石鏃が出土しており、SH61001・SH61010・SH61011・SH61012の4棟からは打製石庖丁が出土している。

堅穴住居跡以外の遺構では、石鏃・打製石庖丁・石皿・台石など多様な器種が出土している点は注目できる。なお、SH61013からナイフ形石器(S117)が1点出土しており、今後調査地周辺における旧石器時代の動向を検討する場合に重要な資料となるだろう。



SH61001 填土: S1・S13・S19  
SH61001-b 上層: S2~S12, S14~S18, S20~S31

图 41 SH61001 填土・b 上層 出土石器実測図① (1/2)

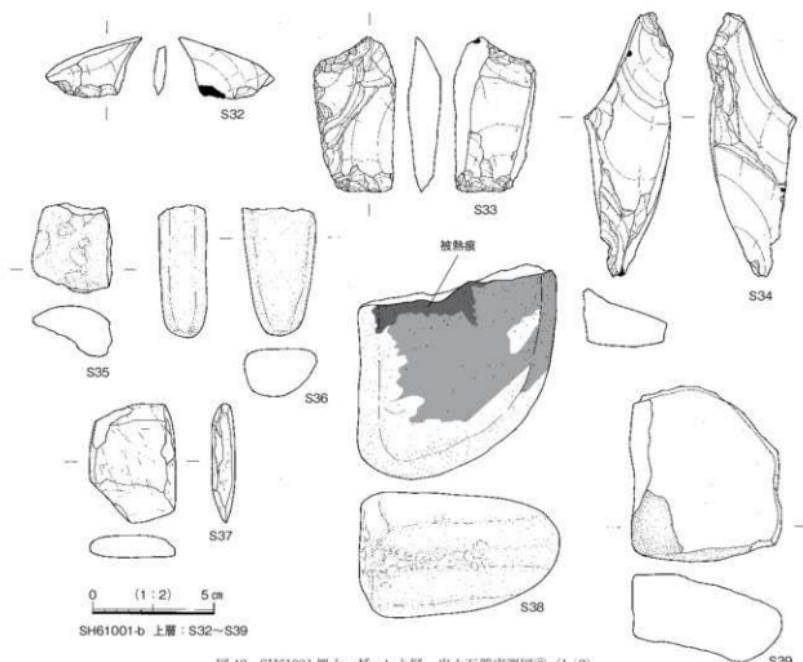


圖 42 SH61001 墓土一括・b 上層 出土石器実測図② (1/2)

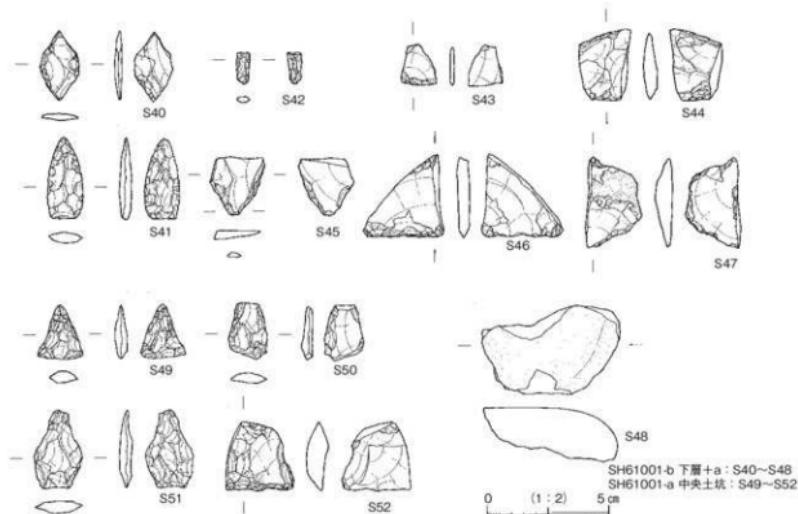


圖 43 SH61001-b 下層・a 中央土坑 出土石器実測図① (1/2)

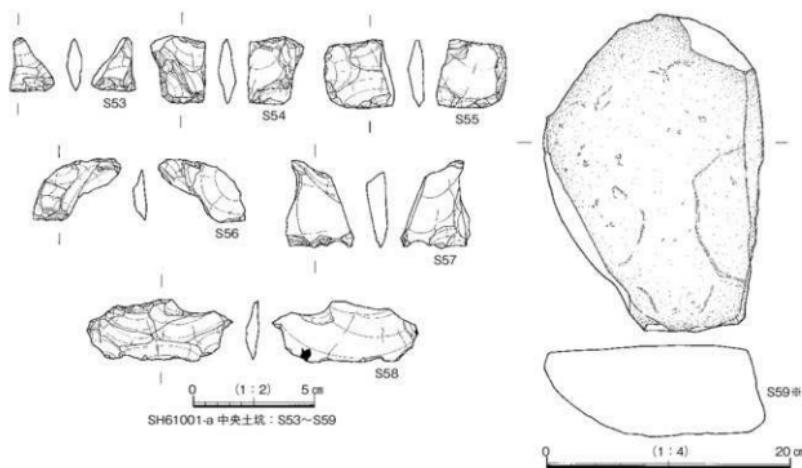


図44 SH61001-b 下層・a 中央土坑 出土石器実測図③ (S59:1/4, その他:1/2)

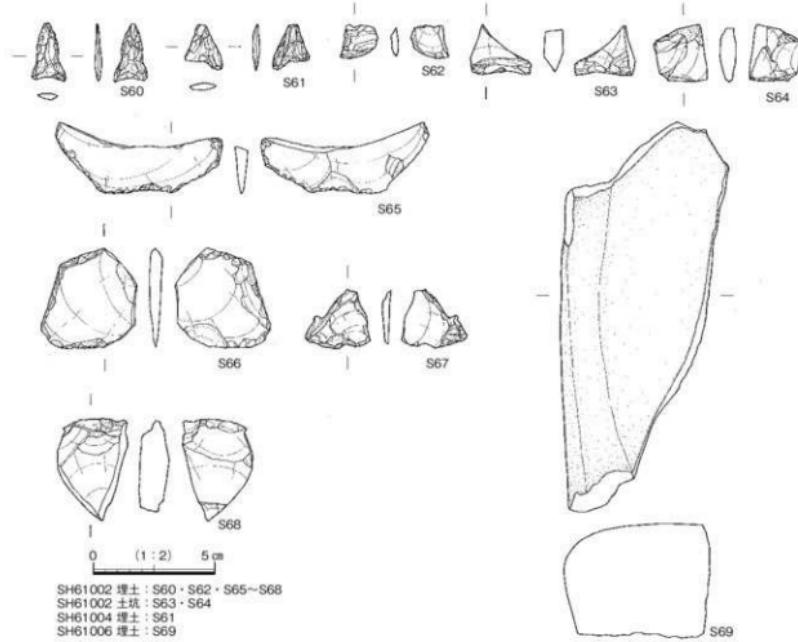


図45 SH61002・61004・61006 出土石器実測図 (1/2)

表3 堪穴住居の石器出土量集計表

遺構名	層位	住居 調査面積 (m <sup>2</sup> )	重量(g)						サヌカイト・ チャート (ml/g)	
			実測遺物		未実測遺物		サヌカイト チャート 合計	總石器等 合計		
			サヌカイト チャート	總石器等	サヌカイト チャート	總石器等				
SH61001	層位不明	約28.0	7.7	-	284	-	36.1	-	7812.1	
	b 上層		299.0	889.2	287.2	400.9	586.2	1290.1		
	b 下層 + a		233	412	890	-	112.3	41.2		
	a 土坑		46.0	5100.0	594	540.8	105.4	5640.8		
SH61002	埋土一括	約8.0	48.3	-	97.1	1200以上	145.4	1200以上	1345.4以上	
SH61003	埋土一括	約7.0	-	-	4.4	-	4.4	-	0.63	
SH61004	埋土一括	約2.3	0.5	-	10.4	-	10.9	-	10.9	
SH61005	埋土一括	約5.4	-	-	-	-	-	-	4.74	
SH61006	埋土一括	約9.1	-	657.6	-	-	-	657.6	657.6	
SH61007	埋土一括	約1.8	-	-	8.1	-	8.1	-	4.50	
SH61008	埋土一括	約11.2	16.7	850.3	8.2	233.7	24.9	1084.0	1108.9	
SH61009	埋土一括	約14.8	-	-	-	-	-	-	0.0	
SH61010	埋土一括	約17.7	117.7	-	60.9	71.6	178.6	71.6	250.2	
SH61011	埋土一括	約22.9	146.3	36.1	130.5	190.2	276.8	226.3	503.1	
SH61012	埋土上半	約74.5	250.0	1400.3	213.5	165.2	463.5	1565.5	2659.8	
	埋土下半		33.5	-	30.6	517.0	64.1	517.0		
	土坑		-	-	49.7	-	49.7	-		
SH61013	埋土一括	約19.8	61.7	-	32.8	45.5	94.5	45.5	140.0	
SH61014	埋土一括	約11.0	-	-	-	-	-	-	0.0	
SH61015	埋土一括	約3.4	-	-	1.5	-	1.5	-	0.44	
合計	-	-	1043.0	8974.7	1083.3	2164.9	2126.3	11251.4以上	13396.1以上	

SH61001 の調査面積は、SH61001-b で算出した。

「サヌカイト・チャート」とは、tool (製品・未製品を含む) とその残滓 (剝片・チップ) を示す。

「總石器等」とは、1 個体の重量が重く総重量に影響を与えるやすい石器を示す。

各住居の石器の総重量は、層位に関係なく合算して算出した。

調査面積は、調査区内で調査できた住居の範囲を示す。なお、住居の平面形が不整形なものもあるため、おおまかな値を示した。

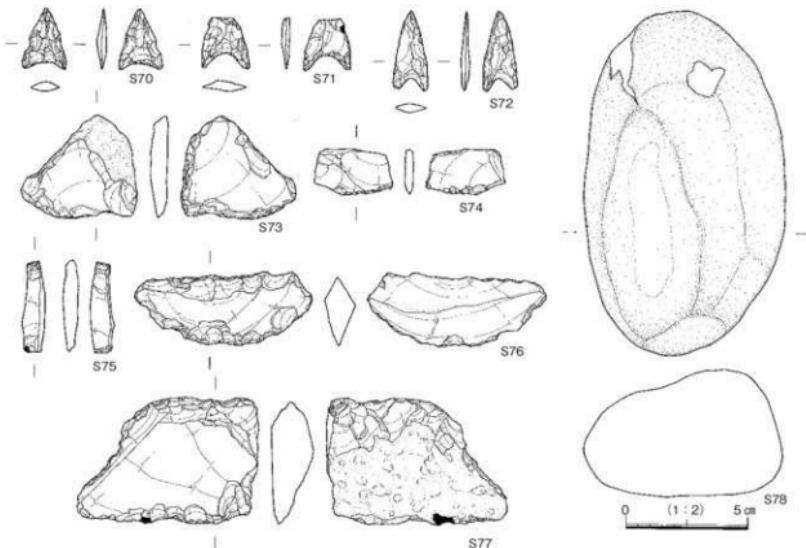


図46 SH61008・61010 出土石器実測図(1/2)

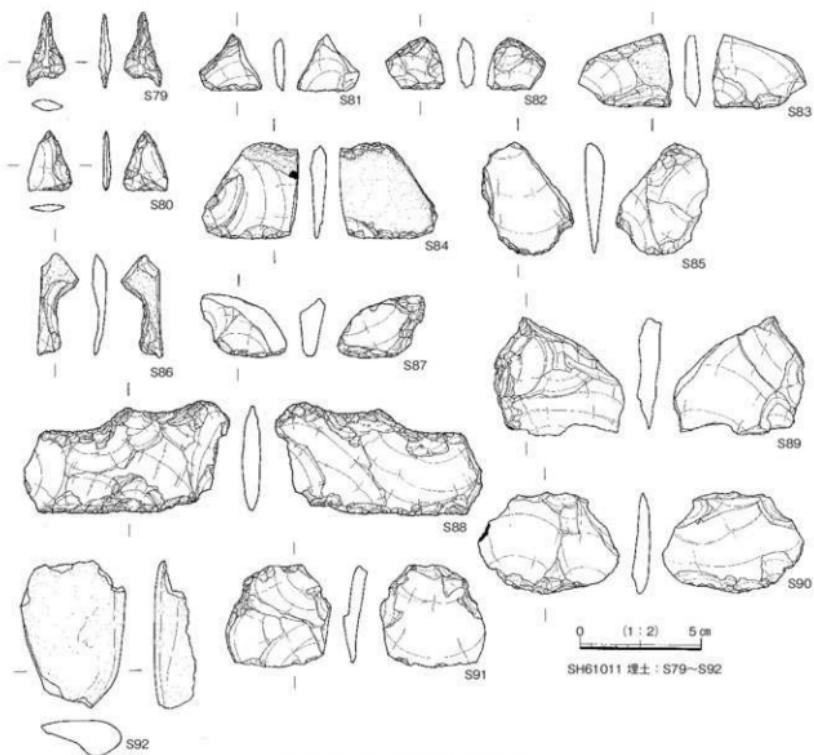


図47 SH61011 出土石器実測図(1/2)

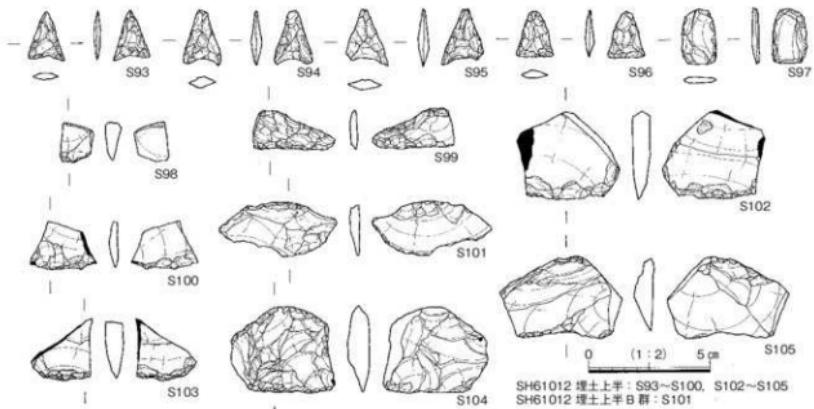


図48 SH61012 出土石器実測図①(1/2)

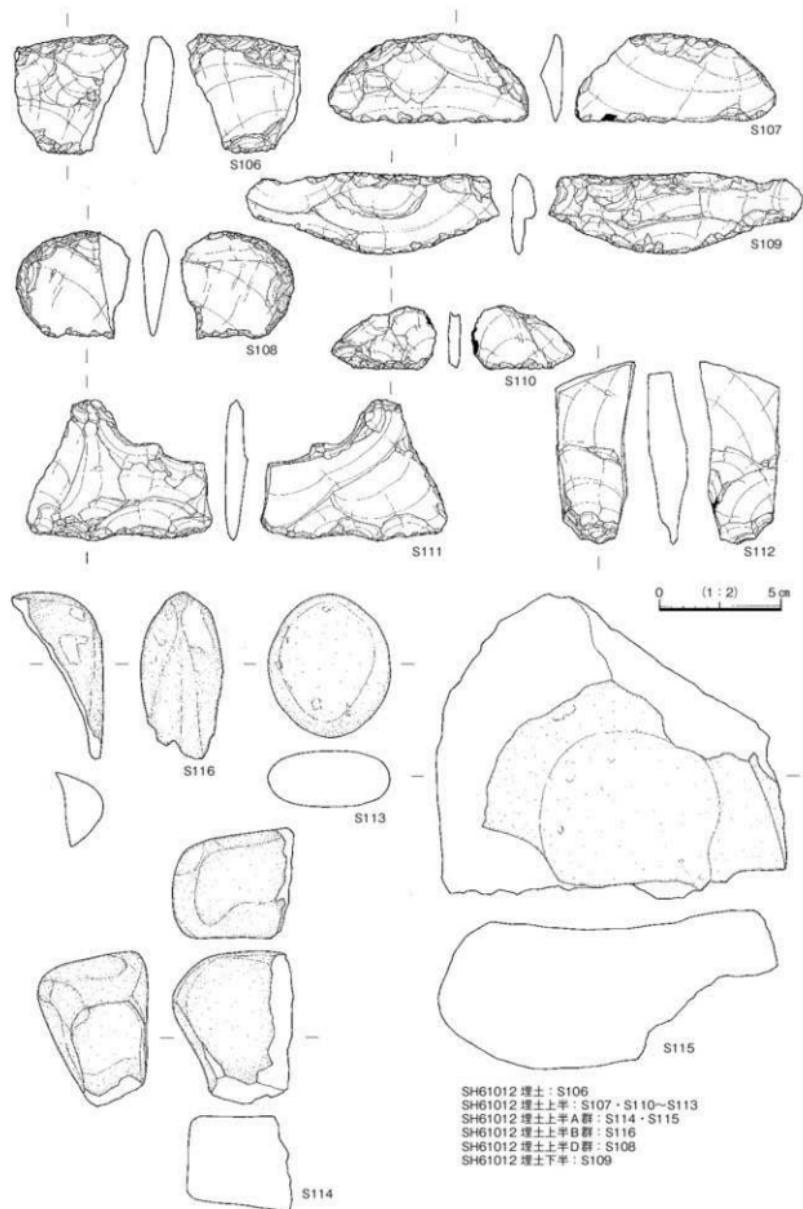


图49 SH61012 出土石器实测图② (1/2)

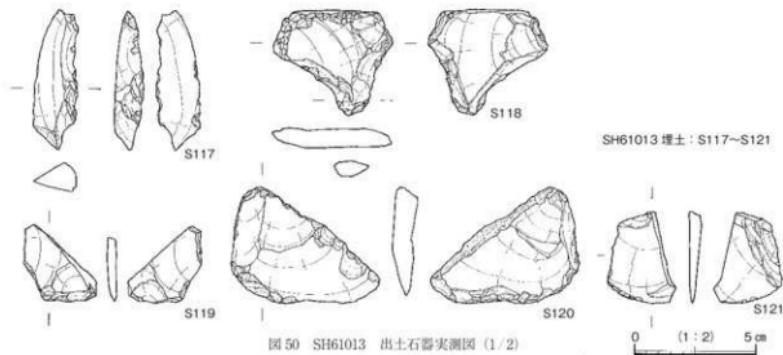


図50 SH61013 出土石器実測図(1/2)

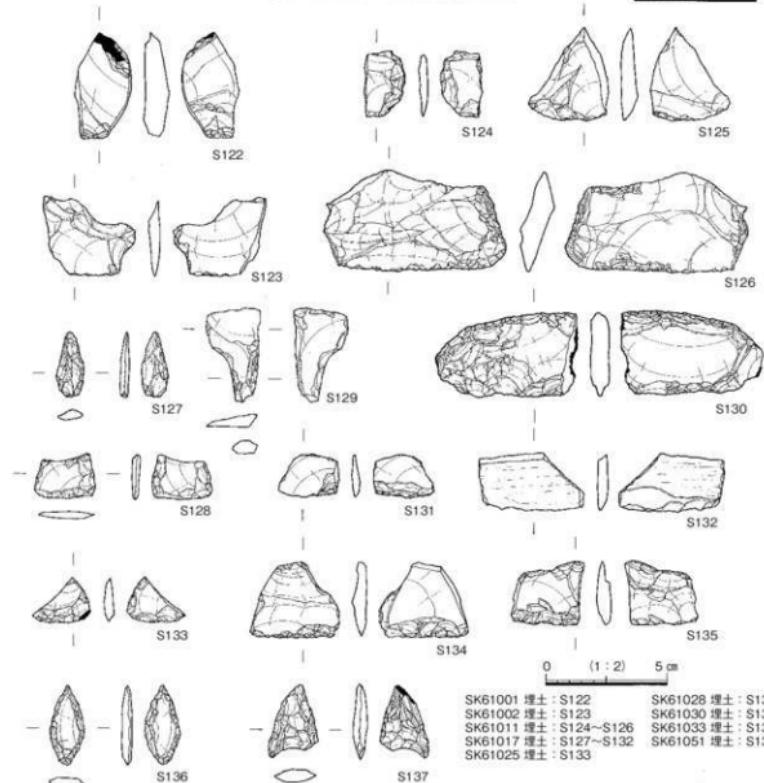


図51 土坑 石器実測図①(1/2)

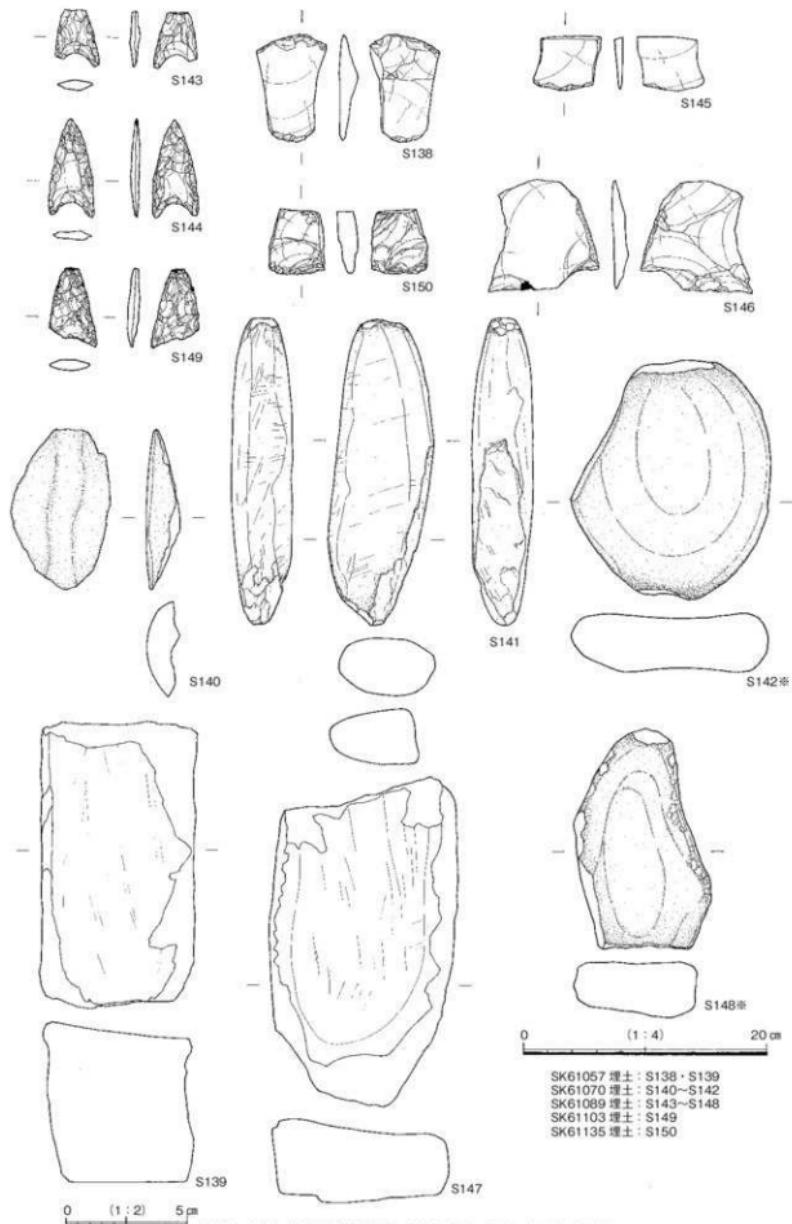


図 52 土坑 出土石器実測図③ (S142・148: 1/4, その他: 1/2)

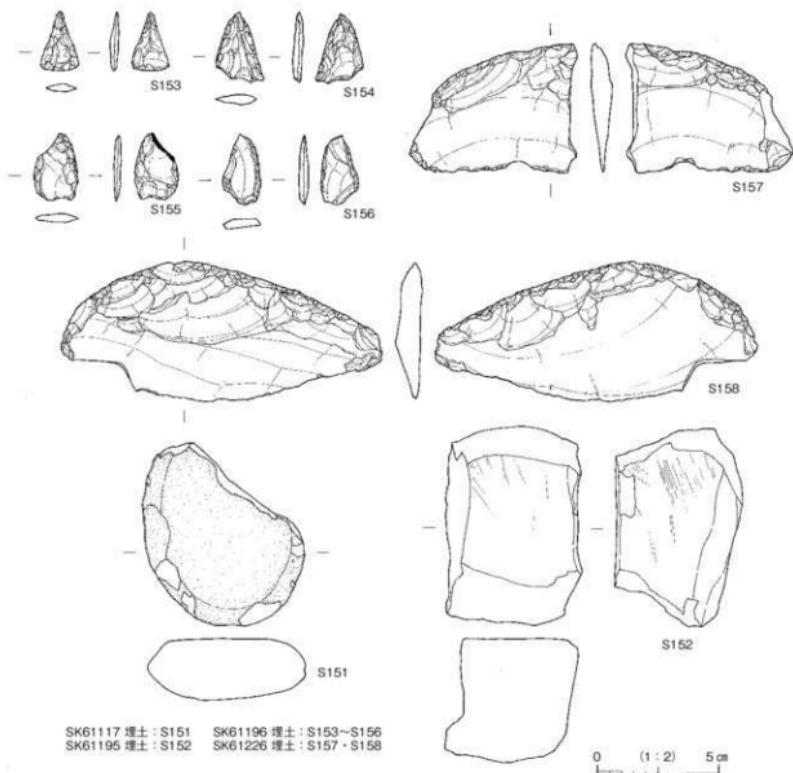


图 53 土坑 出土石器实测图③ (1 / 2)

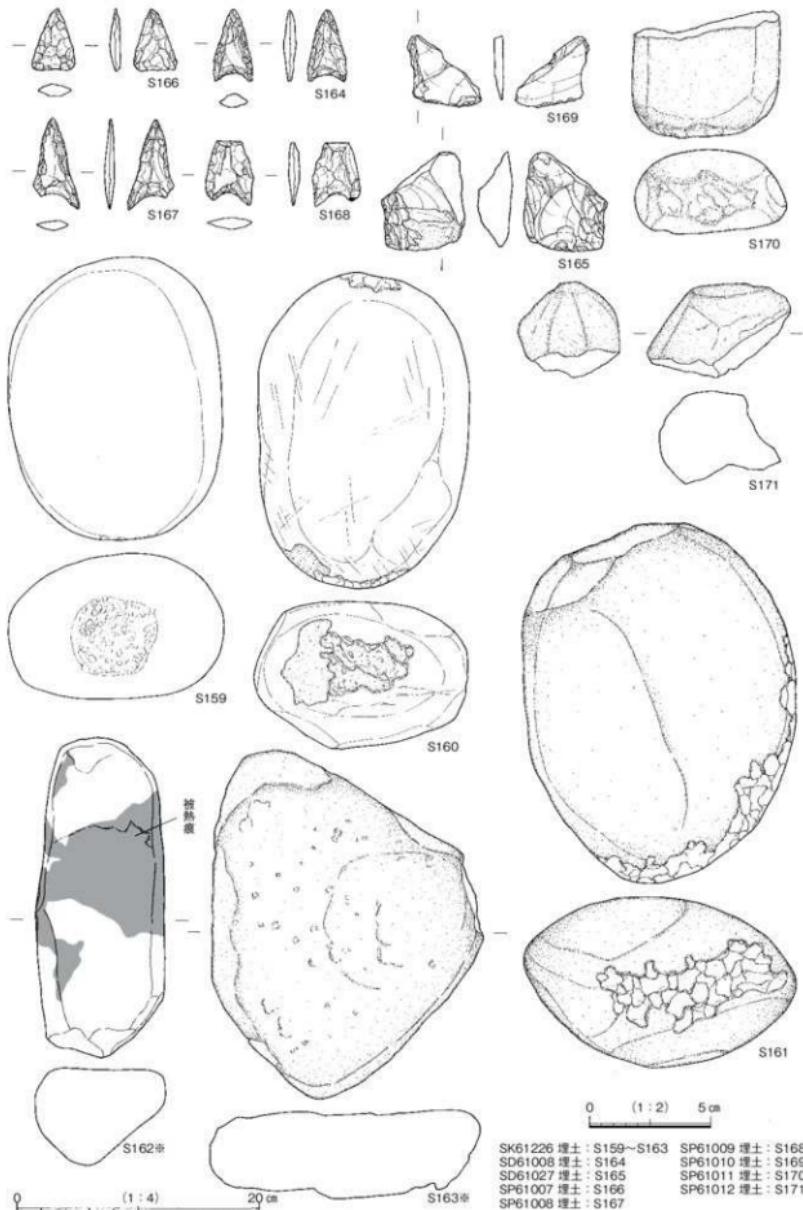


図54 土坑出土石器実測図④、溝・ピット出土石器実測図 (S162・163:1/4, その他:1/2)

# 第5章 総括

## 第1節 VI区の調査成果

VI区では1,100m<sup>2</sup>を発掘調査し、堅穴住居跡15棟（SH61001は1棟とする）、土坑225基、溝25条、ピット1,144基を検出した。また、遺物包含層（Ⅲ層）から出土したものも含めると、VI区からはコンテナ整理箱約100箱の遺物が出土した。VI区の北側に隣接するVII区は、堅穴住居跡7棟、土坑161基などVI区よりも遺構数が少ないとから、VI区の方が遺構密度の高い調査区と言える。さらに、遺構の数と同様に、VI区の方がVII区よりも遺物の出土量が多い点も傾向のひとつである。VI区とVII区の層序は細部の違いはあるがおおむね共通しており、対応する土層との関係から、双方で検出した弥生時代中期前半に帰属する遺構は、同一の集落を構成する遺構と見られる。さらに、VI区は遺構密度が高く、遺物量が多い、なおかつ地形的にも傾斜の緩やかな地形面であることを考えると、集落の中心付近に位置する調査区と考えられる。

出土遺物を見ると、主体を占めるのは弥生時代中期前半の土器や石器で、それ以外にナイフ形石器や古墳時代の須恵器、近世の陶器類などが少量出土している。ナイフ形石器については、出土数が1点であるため積極的には評価できないが、ナイフ形石器の出土により調査地周辺に旧石器時代の遺跡が存在する可能性は推定できる。今後、調査地周辺における旧石器時代の動向を把握するうえで重要な資料となるだろう。また、古墳時代と近世の遺物は、出土層位などから調査地東側にある丘陵からの流れ込みに伴う遺物の可能性が高いと判断できる。

以上のように、VI区で確認した遺構や遺物を整理すると、当地区は弥生時代中期前半の集落に関連した遺構を中心を占めることが改めて確認できる。次節以降では、VI区の主要な遺構の形成時期にあたる弥生時代中期前半に絞って集落の状況を整理する。

## 第2節 弥生時代中期の集落について

### 1. 堅穴住居跡について

#### a. 重複関係

VI区で検出した堅穴住居跡には、住居と住居の重複関係が認められる。特に調査区中央やや南側における住居の重複は著しく、この点から時間的な前後差を有して住居が構築された様子が想定できる。ここでは、調査で確認した遺構の重複関係から、住居の構築順序を整理する。

当地区の住居の構築順序を明らかにする方法は、「住居と住居」の重複関係と、「住居とそれ以外の遺構」との重複関係を整理する2つの方法がある。これらを整理すると、直接的に重複しない住居であっても構築順序を明らかにできる場合がある。表4に各住居が直接的に重複関係を有する住居やその他の遺構との前後関係を示した。SH61001とSH61002の前後関係から見ると、SH61002が先行して構築された住居であることが分かる。次にSH61003・SH61008・SH61009・SH61010・SH61011・SH61012・SH61013の7棟については、SK61047・SK61063・SK61137の3基の土坑との重複関係も合わせて考えると、古い方から順にSH61003→SH61008→SH61009→SH61010という構築順序と、SH61013→SH61012→SH61011→SH61010という構築順序の2つが明らかとなる。この住居の構築順序から断定できることは、これら7棟の堅穴住居跡のなかで最後に造られた住居がSH61010であること、SH61003・SH61008～SH61013の7棟は、2棟までしか同時に存在したことがないこと、以上2点である。なお、SH61009とSH61011は直接的な重複関係がないため、いずれの住居もSH61010より古い住居と言えるが、双方が構築された前後関係については特定することができない。

次に、平面での重複関係は有さないが、他の住居との位置や距離を参考として同時に存在した住居かどうかという点を検証する。SH61003とSH61004は隣接した位置に構築されていることから、双方が同時に存在した可能性は低いと思われる。これと同様に、SH61005とSH61006の2棟についても同時に存在した可能性は低いと考えられる。よって、この4棟については、3棟以上の同時存在の可能性は低い。以上のことから推定できるのは、VI区では多くても6～7棟前後の住居しか同時に存在しなかった可能性が高いという点である。この検討については、同一の集落と考えられる隣接地区的調査成果も考慮して、遺跡全体で検討を進めていく必要があるだろう。

ここで、住居から出土した土器のおおまかな年代観も見ておくと、SH61010から出土した81～87は、他の住居で出土した類似する甕の屈曲部よりも明瞭に屈曲している点を読み取れる。このことから、SH61010から出土した遺物は、他の住居よりも新しい様相を示すものと考えられる。この遺物の新旧関係は、先に示した住居の重複関係とも対応しており整合的に理解することができる。今後は、Ⅲ区やVII区など、隣接する地区的住居出土遺物との比較も検討課題となるだろう。

なお、最も住居が著しく重複する調査区中央やや南側は、調査区のなかでは比較的平坦な地形と言える。この点を考慮すると、当地区での住居の構築に最も適した場所は、調査区中央付近の傾斜の少ない地点であると推定できる。

#### b. 平面形・床面積

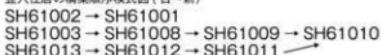
住居の平面形については、後世に削平を受けている場合や掘り形が調査区の外側に続く場合があるため、本来の形状を知ることができないものが多数ある。よって、ある程度の詳細が分かれる住居に限って住居の平面形を見ることにする。

表4 VI区検出の堅穴住居跡一覧

住居名	平面形	床面積 (m <sup>2</sup> )	調査面積 (m <sup>2</sup> )	床面検出遺構	主な遺構との前後関係	備考
SH61001	円形	(約44.0)	約26.0	土坑、ピット、壁溝	SH61001-a → SH61001-b → SK61011	松菊里型住居。
	方形	(約46.0)	約28.0	土坑、ピット		炭化材出土。焼失住居。 発掘後に遺物投棄。
SH61002	円形?	約8.0	約8.0	土坑、ピット	SK61002 → SH61002 → SH61001	
SH61003	不整形	(約7.0)	約7.0	ピット、壁溝	SH61003 → SK61063	
SH61004	円形?	(約23)	約23	土坑、ピット、壁溝		
SH61005	方形?	(約5.4)	約5.4	ピット、壁溝		
SH61006	円形?	(約9.1)	約9.1	土坑、ピット		炭化材出土。 焼失住居の可能性がある。
SH61007	不明	(約1.8)	約1.8	—	SH61007 → SK61096	
SH61008	円形?	約11.2	約11.2	土坑、ピット	SK61063 → SH61008 → SH61009・SK61093	
SH61009	不整形	約14.8	約14.8	土坑、ピット	SH61008 → SH61009 → SK61047	
SH61010	不整形	約17.7	約17.7	土坑、ピット、壁溝	SK61047・SK61137・SD61008 → SH61010	
SH61011	円形	約22.9	約22.9	土坑、ピット	SH61012 → SD61027 → SH61011 → SK61137	
SH61012	円形	約75.4	約75.4	土坑、ピット	SH61013・SK61121 → SH61012	埋土上半から多量の遺物が出土。
SH61013	方形	約19.8	約19.8	土坑、ピット、溝	SH61013 → SH61012	
SH61014	不整形	(約11.0)	約11.0	土坑、ピット	SH61014 → SK61145	
SH61015	円形?	(約3.4)	約3.4	ピット		

住居面積の欄で、( )は復元値、( )は残存値を示す。  
おもな遺構との前後関係については、左から古い遺構の順に示した。

堅穴住居の構築順序模式図(古→新)



VI区で検出した堅穴住居跡の平面形は、ほぼ円形の住居と住居の隅が丸みを有するやや方形気味の住居の2通りに分けることができる。前者の具体例として、SH61011やSH61012などを挙げることができるが、いずれも正円ではなく一部がやや歪む円形である。また、後者については、SH61008やSH61009などで、掘り形の隅が丸みを持つものの全体的には方形の掘り形と言える。いずれにしても、当地区には明瞭に方形と言える住居は存在しない。

床面積については、推定値も含めてある程度正確に算出できるSH61002・SH61008・SH61009・SH61010・SH61011・SH61012・SH61013の7棟を検討の対象とする<sup>1)</sup>。まず、7棟のなかで最大の床面積のがSH61012の約75.4m<sup>2</sup>である<sup>2)</sup>。それに次ぐのがSH61011の約22.9m<sup>2</sup>であるから、SH61012はSH61011の3倍以上の床面積であることが分かる。VI区他の住居と比較すると、当地区で最大規模の床面積を有する住居がSH61012であることはほぼ間違いないだろう。なお、床面積の最小値はSH61002の約8.0m<sup>2</sup>で、上記7棟の床面積の平均値は約24.3m<sup>2</sup>である。

### c. 住居内の検出遺構

床面で検出した遺構には、ピット・壁溝・土坑がある。まず、住居の上屋を支える柱を据えつけたピットから見ることにする。遺存状態の良い住居で見ると、SH61008・SH61011・SH61012・SH61013の4棟は、住居の壁面に沿うような位置にピットを配置する傾向が読み取れた。このようにピットを配置する住居は、壁面沿いに設けられた複数の柱で梁などの上屋を支えたのだろう。住居の壁面付近に柱を配置することで住居の中心部分を広く活用できるという利点も想定できることから、住居内で行う諸活動を念頭において柱の配置を決定した可能性を考えられる。なお、4棟以外の住居については遺構の遺存状態が不良であるため柱の配置を復元することは困難であるが、少なくとも明瞭に4本主柱などのピットの配置をとる住居は認められない。上記4棟における柱の配置を考慮すれば、これらの住居も住居の壁面に沿った位置に柱を配置した可能性が高いと考えられる。

次に壁溝については、15棟のうち明確に壁溝を確認できたのがSH61001-a・SH61003～SH61005・SH61010の5棟である。しかし、大半の住居の壁溝は住居内を全周しておらず、検出長はわずかである。よって、壁溝の詳細については不明と言わざるを得ない。なお、VI区の堅穴住居跡では、調査によって住居の出入り口を特定できる痕跡はほとんど認められなかった。唯一、SH61001-aの壁溝に約3mの空白域が認められ、その部分は南へ下る緩やかな傾斜面でもあることから、住居の出入り口と考えるのには一定の蓋然性があると言える。

ピット・壁溝以外の遺構としては、土坑がある。このうち、SH61001-aは住居中央付近に2基のピットを有する土坑が掘削されており、いわゆる「松菊里型住居」と考えられる。SH61001-aの床面で検出した土坑と同様の形態を示す遺構は他の住居では認められないことから、SH61001-aは他の住居とは内部構造の異なる住居と見ることができる。SH61001-a以外の住居の土坑については、遺存状態が不良で、個別の土坑の機能を推定できるものはない。また、堅穴住居跡の床面で明確に跡と判断できる遺構は確認できず、住居内での諸活動に関わる状況を復元することは困難である。

## d. 遺物出土状況

VI区の調査では、住居から出土した遺物の大半を層単位で取り上げていないため、遺物の詳細な出土層位を知ることはできるのは一部の住居である。しかし、SH61001-bの上層出土遺物とSH61012の埋土上半から出土した遺物については、出土した層ごとに分けて取り上げており、層位の解釈に基づいた遺物の評価ができる。例えば、SH61001-bの上層出土遺物とSH61012の埋土上半の遺物は、住居の機能が停止し埋没が一定程度進行した段階で投棄された遺物と解釈できる。よって、これらの遺物は住居が廃絶した時期の上限を示す遺物と評価できる。さらに、両住居の遺物出土状況の細部を見ると、SH61001-bでは住居の焼失の際に生じた炭化材の上から遺物が出土しており（SH61001-b上層の遺物）、住居が焼失したのちにその窓地に土器や石器が廃棄されたことが分かる。

SH61012の埋土上半の遺物については、断面図に示した住居内の土層との細かい対応関係までは示すことができないが、床面より20cm程度上から遺物が出土したことは判明しており、床面出土の遺物ではなく住居の埋没の進行段階で投棄された遺物と評価できる。なお、SH61012の埋土上半からは、土器・石器とともに拳大の自然礫が1箇所に集中して出土した（図11 平面図で示した標識）。他の住居ではこのような状況は認められず自然礫の評価には苦慮するが、住居の廃絶の際に行われた祭祀などに伴う自然礫である可能性などが考えられる。

SH61001とSH61012以外の住居の出土遺物については、層位ごとに遺物を分離していないため、特に住居床面における土器・石器の使用状況を復元することはできなかった。

このほか、住居から出土した石器の出土量に関する定量的な分析結果を表3に示した。各住居から出土した石器の重量についておおまかに整理すると、換算値ではあるがSH61002・SH61010・SH61011の3棟で住居1mあたり10g以上の石器が出土したことになる。VI区で検出した他の住居の換算値と比較すると、上記の3棟は相対的に1mあたりの石器出土量が多い住居と言える<sup>3)</sup>。なお、一部の遺物を層位的に取り上げたSH61012は、土器と同様に石器についても埋土上半からの出土量が多い点を傾向として把握できた。

他方で、一定の面積を調査したSH61008・SH61009の2棟については、他の住居と比べて石器の出土量が極めて少ない点は注目できる。双方の住居について考えられることは、SH61009は土器の出土量も少なく、住居の廃絶に伴い住居内で使用した日常雑器である土器、および石器を持ち出している可能性、2棟の住居内では積極的に石器製作が行われなかったという可能性。後後に住居が削平されたためその段階で遺物が失われた可能性。以上3つの可能性を推定することができる。今回の整理でこの点を明らかにすることはできなかったが、少なくともこの2棟の事例は、集落内における生業の多様性という観点で各住居を評価していく必要性を示しているものと言えよう。

さて、次に住居から出土した特徴的な遺物を概観する。SH61001-b・SH61002・SH61012の3棟からは、顔状土製品が各1点出土した。出土した層位などを見ると、SH61001-bは住居の機能が停止したのちの住居を埋める堆積層（SH61001-b上層）、SH61002は住居の埋土、SH61012では床面の中央付近に掘削された土坑から出土した。3点の顔状土製品がどのように使用されたのかについては出土状況を記録していないため明らかにできなかったが、SH61012から出土した土製品（図30-329）は下半部を欠損しており、祭祀にあたって土製品の一部を破壊するような行為が行われた可能性などが考えられる。

## e. 住居の廃絶

住居の廃絶に至る経緯については大半の住居が明瞭ではないが、SH61001-bについては、炭化材の出土状況などから焼失住居と考えられるため、住居が焼失したのちに完全に埋没し廃絶に至ったことが分かる。ただし、SH61001-bは、住居機能時の失火か、あるいは住居を放棄したのちの失火かまでは明らかにできなかった。また、少量の炭化材が出土したSH61006については、SH61001-bと比較して炭化材の出土量が少ないため焼失住居とは断定していないが、これについても焼失住居である可能性が考えられる。なお、SH61001-bやSH61012で見られるように、奥の坊遺跡の集落では、住居が廃絶し埋没が進行する段階で使用した土器や石器を住居の窓みに廃棄した事例が確実に存在するようだ。

## 2. 松菊里型住居について

VI区で検出したSH61001-aの住居は、住居中央に位置するピットを持つ土坑の存在から、いわゆる松菊里型住居と考えられる。香川県内ではこれまでのところ、さぬき市の鶴部・川田遺跡<sup>4)</sup>などで弥生時代前期後半～中期にかけての松菊里型住居が検出されている。奥の坊遺跡のSH61001-aは、住居が重複するため断片的な様子しか明らかにできなかったが、集落内で他とは異なる構造の住居が存在することは確実である。重要な視点としては、他の住居との関係で、松菊里型住居が集落内で調和的に存在するのか否かという点だろう。この点を検討することで、当該集落のあり方を推定する情報のひとつとなりうる。しかし、SH61001-aは重複するSH61001-bによって多くを破壊されているため、他の住居と比較することが困難な状況にある。住居が構築された場所を見

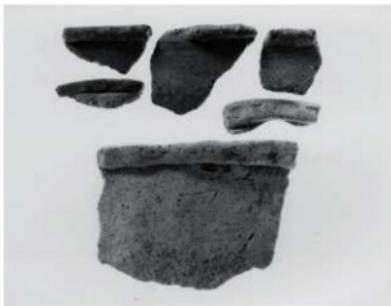


写真2 壁穴住居跡・Ⅲ層出土の擬朝鮮系無文土器

ると、他の住居から隔絶したというよりもむしろ隣接した場所に立地する点を読み取ることができるだろう。どの住居と同時に存在したのかという問題はあるが、例えば好条件の場所に構築されるといった立地に関する優位性は想定しにくい。その見方が正しければ、集落内でSH61001-bが調和的に存在した可能性があり、集落のあり方を考える場合のひとつの指標となるだろう。なお、松菊里型住居以外に、VI区の遺構や遺物包含層（Ⅲ層）からは合計5点の擬朝鮮系無文土器が出土している点にも留意する必要がある（写真2）。松菊里型住居と擬朝鮮系無文土器から、奥の坊遺跡は朝鮮半島との関連性を想定することができる。以上のように考えると、SH61001-aの存在は、集落の性格を検討する場合に重要な住居と位置付けることができるだろう。

### 第3節 集落の特徴と今後の検討課題

整理途上ではあるが、VI区の調査成果から分かること集落の特徴は以下のとおりと考えられる。

- ①弥生時代中期前半に営まれた集落で、その期間内に重複して住居を構築する。
  - ②松菊里型住居が存在し、さらに擬朝鮮系無文土器も出土していることから、朝鮮半島との関連性が想定される。
  - ③一部の住居を除いて大半の住居から一定量の石器が出土しており、集落内の住居で石器製作が行われた可能性がある。
  - ④3棟の住居から顔状土製品が出土しており、住居周辺などで土製品を用いた祭祀が行われた可能性がある。
- 奥の坊遺跡の集落の特徴について4点にまとめたが、本書で報告したのはVI区の遺構と遺構出土遺物のみである。次年度以降、VI区の遺物包含層から出土した大量の土器・土製品・石器や、隣接して調査したⅢ区の調査成果について報告する予定である。これらを整理・報告することで、奥の坊遺跡の集落の具体像がより一層明らかになるとと考えられる。今後は、奥の坊遺跡の範囲や、中期前半の集落が廃絶したのちにどのような遺跡の変遷をたどるのか、周辺の調査成果との関連も合わせて検討していきたい。

#### 註・引用文献

- 1) SH61001は推定値を算出したものの、掘り形の大部分が調査区の外側に続くため、今回の検討からは除外した。
- 2) 住居の掘り形が歪むため、床面積がこの値よりも小さくなる可能性もある。
- 3) SH61001出土石器については、aとbに明確に分離することができなかつたため、今回の検討からは除外した。
- 4) 森 格也1997『高松道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第7冊 鶴部・川田遺跡1』香川県教育委員会

## 付編　自然科学分析

# 付編 自然科学分析

## SH61001出土炭化材の樹種同定

株式会社 吉田生物研究所

### (1) 試料

試料は、高松市奥の坊遺跡（VI区）で検出した竪穴住居SH61001から出土した炭化材4点である。試料の出土位置については、図55に示してある。試料は、調査時に上屋構造のうちどの部位に使用された材かを観察し、それを遺物ラベルに記載してある。表5にも、構築材のどの箇所で使用された材かを示した。

### (2) 観察方法

試料の観察方法は、約5mm四方のブロックを試料本体から採取し、エポキシ樹脂に包埋して研磨し、木口（横断面）、柾目（放射方向）、板目（接線方向）の3方向について薄片プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

### (3) 結果

同定結果（広葉樹3種）表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の解剖学的特徴を記す。

#### 1) ニレ科ニレ属 (*Ulmus sp.*)

（遺物 No.4、写真 No.4）

環孔材である。木口では大道管（~300um）が2~3列で孔圈部を形成している。孔圈外では小道管が多数接合して複合管孔を形成し、束状、斜線状、接線状に比較的規則的に配列する。軸方向柔細胞は周囲状が顯著である。柾目では大道管は單穿孔と側壁に交互壁孔を持つ。小道管はさらに螺旋肥厚を持つ。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。板目では放射組織は1~6細胞列、高さ~740umである。ニレ属はハルニレ、アキニレ、オヒヨウがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

#### 2) クワ科クワ属 (*Morus sp.*)

（遺物 No.1・3、写真 No.1・3）

環孔材である。木口では大道管（~280um）が年輪界に沿って1~5列並んで孔圈部を形成している。孔圈外では小道管が2~6個、斜線状ないし接線状、集合状に不規則に複合して散在している。柾目では道管は單穿孔と対列壁孔を有する。小道管には螺旋肥厚もある。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管内には充填物（チロース）が見られる。板目では放射組織は1~6細胞列、高さ~1.1mmからなる。単列放射組織はあまり見られない。クワ属はヤマグワ、ケグワ、マグワなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

#### 3) クスノキ科クスノキ属 ヤブニッケイ (*Cinnamomum japonicum* Sieb.)

（遺物 No.2、写真 No.2）

散孔材である。木口では中庸の道管（~100um）が単独または2ないし数個が放射方向あるいは斜方向に連続して年輪内に平等に分布する。軸方向柔細胞は道管の周囲を厚く鞘状に囲んでいる。道管の壁がやや厚い。柾目では道管は單穿孔とまれに階段穿孔。側壁に交互壁孔とかすかな螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔は円形、レンズ状、節上の壁孔が並んでいる。板目では放射組織は1~3細胞列、高さ~750umからなる。放射組織の直立細胞や軸方向柔細胞が油細胞（樟脳油貯蔵細胞）となるがあまり顯著でない。ヤブニッケイは本州（宮城、富山以西南）、四国、九州、琉球に分布する。

### 参考文献

- 島地 謙・伊藤 隆夫1988『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣出版  
島地 謙・伊藤 隆夫1982『図説木材組織』地球社  
伊藤 隆夫1999『日本産広葉樹材の解剖学的記載 I ~ V』京都大学木質科学研究所  
北村 四郎・村田 源1979『原色日本植物図鑑木本編 I・II』保育社  
深澤 和三1997『樹体の解剖』海青社

### 使用顕微鏡

Nikon MICROFLEX UFX-DX Type 115

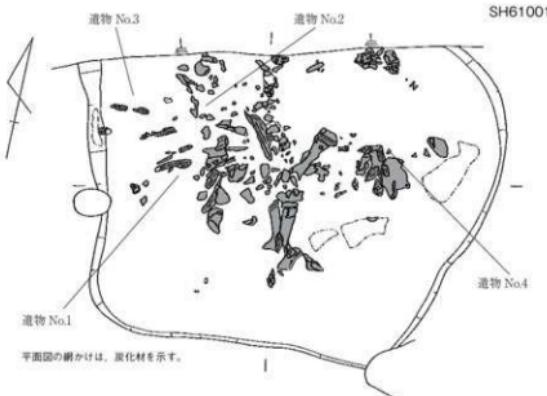


図 55 SH61001 分析試料採取位置 (1/80)

表 5 SH61001 出土炭化材樹種同定結果

遺物 No.	写真 No.	遺物名	樹種
1	1-1~3	炭化材 杖材 3	クワ科クワ属
2	2-1~3	炭化材 組木 1	クスノキ科クスノキ属ヤブニッケイ
3	3-1~3	炭化材 杖材 1	クワ科クワ属
4	4-1~3	炭化材 屋根材 1	ニレ科ニレ属

遺物名は、遺物取り上げの際に記載した内容を示す。



SH61001 出土炭化材

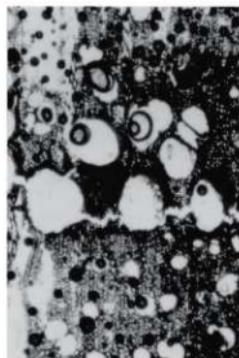


写真 1-1 木口×40

遺物 No.1 クワ科クワ属



写真 1-2 犀目×40



写真 1-3 板目×40

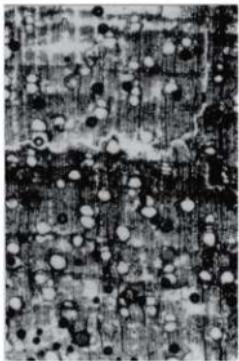


写真2-1 木口×40



写真2-2 径目×40



写真2-3 板目×40

遺物 No.2 クスノキ科クスノキ属ヤブニッケイ

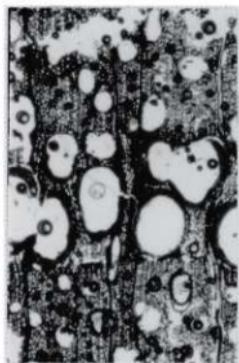


写真3-1 木口×40



写真3-2 径目×40

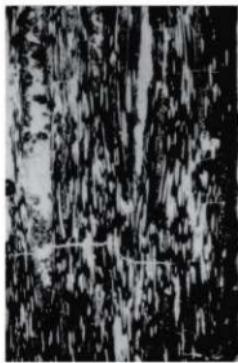


写真3-3 板目×40

遺物 No.3 クワ科クワ属

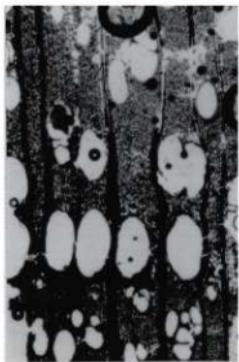


写真4-1 木口×40

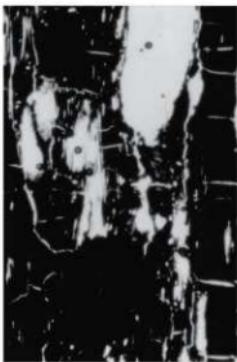


写真4-2 径目×40



写真4-3 板目×40

遺物 No.4 ニレ科ニレ属

# 遺構・遺物觀察表

表 6 土坑 観察表 (1)

土壤番号 (SK)	形状	造構法量 (m)			埋土	
		長軸	短軸	深さ		
61001	不明	浅いU字	1.15	0.60	0.08	① 10YR6/1 黒褐色 砂混粘質土
61002	椭円形	逆台形	0.60	0.40	0.21	② 2.5Y4/1 黄灰色 砂混粘質土
61003	円形	逆台形	0.67	0.58	0.08	③ 10YR5/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61004	不明	逆台形	1.70	1.04	0.08	④ 10YR5/1 黒褐色 砂混粘質土
61005	円形	逆台形	0.40	0.38	0.27	—
61006	不明	浅いU字	0.67	0.50	0.10	① 10YR4/1 黒褐色 砂混粘質土
61007	不整形	浅いU字	(245)	1.50	0.06	② 2.5Y5/2 灰灰褐色 砂混粘質土
61008	椭円形	逆台形	0.68	0.52	0.04	③ 5YR6/4 にぶい褐色 粘質土
61009	椭円形	U字	0.58	0.44	0.14	④ 10YR3/1 黑褐色 砂混粘質土
61010	椭円形	逆台形	0.64	0.54	0.10	—
61011	溝状	逆台形	(5.00)	1.53	0.16	① 10YR4/1 黒褐色 粗砂
61012	椭円形	逆台形	0.66	0.55	0.32	—
61013	椭円形	逆台形	0.75	0.45	0.33	① 10YR4/1 黒褐色 粗砂
61014	隅丸方形	逆台形	1.06	0.90	0.45	② 10YR4/1 黒褐色 粗砂
61015	椭円形	逆台形	0.54	0.45	0.12	③ 2.5Y5/2 灰黄褐色 精砂
61016	椭円形	逆台形	1.14	0.69	0.13	④ 10YR4/1 黒褐色 砂混粘質土
61017	不整形	二段落ち	4.29	2.38	0.53	① 10YR4/2 灰黄褐色 粗砂 ② 10YR5/3 にぶい 黄褐色 粗砂 ③ 10YR2/1 黑褐色 砂混粘質土 ④ 10YR6/2 灰黄褐色 粗砂 ⑤ 10YR6/3 にぶい 黄褐色 粗砂 ⑥ 10YR4/1 黒褐色 砂混粘質土 ⑦ 10YR2/1 黑褐色 砂混粘質土
61018	溝状	逆台形	(2.30)	1.05	0.17	① 10YR3/1 黑褐色 砂混粘質土
61020	椭円形	逆台形	0.70	0.38	0.28	—
61021	不明	逆台形	0.43	0.39	0.30	—
61022	不明	レンズ状	(1.00)	1.25	0.12	① 10YR5/2 灰黄褐色 粗砂
61023	円形	逆台形	0.76	0.72	0.20	② 10YR3/1 黑褐色 粗砂 (炭多(含む))
61024	不整形	レンズ状	1.36	0.90	0.08	③ 10YR5/1 黑褐色 粗砂
61025	椭円形	逆台形	0.74	0.64	0.44	④ 10YR4/1 黒褐色 砂混粘質土
61026	円形	浅い逆台形	0.64	0.58	0.13	⑤ 2.5Y5/1 黄褐色 精砂
61027	溝状?	逆台形	2.32	0.76	0.15	⑥ 5YR5/6 浅い 黄褐色 砂混粘質土
61028	椭円形	逆台形	1.04	0.74	0.59	⑦ 10YR5/1 黑褐色 砂混粘質土
61029	椭円形	逆台形	0.74	0.60	0.40	⑧ 10YR3/1 黑褐色 砂混粘質土
61030	隅丸方形	浅い逆台形	0.94	0.64	0.15	⑨ 2.5Y6/2 黑褐色 精砂
61031	椭円形	U字	1.02	0.73	0.24	⑩ 10YR5/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61032	不整形	浅い逆台形	(1.34)	1.00	0.16	⑪ 10YR4/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61033	隅丸方形	U字	1.06	0.90	0.31	⑫ 2.5Y6/2 黑褐色 精砂
61034	不明	逆台形	0.98	0.62	0.28	⑬ 10YR3/1 黑褐色 砂混粘質土
61035	椭円形	逆台形	0.96	0.44	0.21	⑭ 10YR4/1 黑褐色 砂混粘質土
61036	不整形	レンズ状	3.36	2.64	0.10	⑮ 10YR4/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61037	椭円形	U字	0.76	0.68	0.22	⑯ 10YR4/1 黑褐色 砂混粘質土
61038	椭円形	逆台形	0.88	0.34	0.34	⑰ 2.5Y5/2 黑褐色 粗砂
61039	椭円形	逆台形	0.72	0.48	0.16	⑱ 10YR5/3 にぶい 黄褐色 砂混粘質土
61040	椭円形	浅い逆台形	0.73	0.60	0.12	⑲ 10YR5/3 にぶい 黄褐色 砂混粘質土
61041	隅丸方形	逆台形	0.58	0.54	0.18	⑳ 10YR5/3 にぶい 黄褐色 粗砂
61042	不明	逆台形	(0.50)	0.50	0.27	—
61043	隅丸方形	U字	0.61	0.46	0.21	—
61044	円形	浅い逆台形	0.44	0.43	0.08	—
61045	不整形	浅い逆台形	3.22	1.24	0.16	① 10YR7/1 白白色 粗砂
61046	椭円形	逆台形	1.42	0.82	0.20	② 10YR4/1 黑褐色 粗砂
61047	不明	浅い逆台形	1.24	1.00	0.10	③ 10YR6/1 黑褐色 砂混粘質土
61048	椭円形	浅い逆台形	0.74	0.46	0.08	④ 10YR4/1 黑褐色 砂混粘質土
61049	椭円形	逆台形	0.56	0.44	0.21	—
61050	椭円形	逆台形	0.54	0.35	0.22	—
61051	円形	U字	0.64	0.57	0.22	⑤ 10YR3/1 黑褐色 砂混粘質土
61052	円形	浅い逆台形	0.60	0.55	0.22	⑥ 10YR5/1 黑褐色 砂混粘質土
61053	椭円形	逆台形	0.78	0.33	0.20	⑦ 10YR4/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61054	椭円形	U字	0.96	0.64	0.18	⑧ 10YR4/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61055	椭円形	逆台形	0.59	0.39	0.22	—
61056	椭円形	浅い逆台形	0.62	0.49	0.10	⑨ 10YR5/3 にぶい 黄褐色 砂混粘質土

土坑 観察表(2)

土壤番号 (SK)	形状	土壤法量 (m)			埋土	
		平面	断面	長軸		
61057	椭円形	逆台形	1.10	0.56	0.22	① 10YR5/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61058	椭円形	浅い逆台形	0.74	0.50	0.10	① 10YR4/1 黄褐色 砂混粘質土
61059	隔丸方形	浅い逆台形	0.88	0.60	0.09	① 10YR4/1 黄褐色 砂混粘質土
61060	椭円形	U字	(0.64)	0.33	0.16	—
61061	椭円形	逆台形	0.52	0.32	0.24	—
61062	不整形	浅い逆台形	1.28	0.72	0.13	① 10YR4/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61063	不明	レンズ状	(1.45)	1.18	0.08	① 10YR4/1 黄褐色 砂混粘質土
61064	椭円形	レンズ状	1.18	0.96	0.11	① 10YR3/1 黑褐色 砂混粘質土
61065	椭円形	逆台形	0.54	0.45	0.15	—
61066	不整形	浅いU字	1.74	0.68	0.13	① 10YR3/1 黑褐色 砂混粘質土
61067	不明	逆台形	0.75	0.46	0.20	① 10YR3/1 黑褐色 砂混粘質土
61068	椭円形	浅いU字	0.64	0.52	0.08	① 10YR5/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61069	不整形	浅いU字	1.80	1.30	0.10	① 10YR4/1 黄褐色 砂混粘質土
61070	椭円形	逆台形	2.30	1.50	0.28	① 10YR4/2 灰黄褐色 砂混粘質土 ② 10YR3/1 黄褐色 砂混粘質土 ③ 10YR5/2 黄褐色 砂混粘質土 ④ 10YR5/3 にぶい黄褐色 砂混粘質土 ⑤ 10YR5/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61071	椭円形	浅いU字	1.42	0.50	0.10	① 10YR5/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61072	椭円形	浅い逆台形	0.70	0.50	0.10	① 10YR4/1 黄褐色 砂混粘質土
61073	隔丸方形	逆台形	0.73	0.66	0.18	① 10YR5/3 にぶい黄褐色 砂混粘質土
61074	不整形	逆台形	0.94	0.60	0.15	① 10YR2/1 黑褐色 砂混粘質土
61075	椭円形	浅い逆台形	(1.18)	0.60	0.09	—
61076	円形	逆台形	0.50	0.45	0.18	—
61077	椭円形	浅いU字	(1.28)	0.56	0.12	① 10YR3/1 黑褐色 砂混粘質土
61078	隔丸方形	浅いU字	(0.58)	0.57	0.10	① 10YR5/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61079	椭円形	U字	0.96	0.78	0.18	① 10YR4/1 黄褐色 砂混粘質土
61080	椭円形	逆台形	0.57	0.40	0.22	—
61081	椭円形	U字	1.06	0.70	0.26	① 10YR4/1 黄褐色 砂混粘質土 ② 10YR3/1 黑褐色 砂混粘質土 ③ 10YR5/3 にぶい黄褐色 砂混粘質土
61082	椭円形	U字	0.68	0.44	0.10	① 10YR3/1 黑褐色 砂混粘質土
61083	円形	逆台形	0.46	0.38	0.27	—
61084	椭円形	浅いU字	0.90	0.36	0.06	① 10YR4/1 黄褐色 砂混粘質土
61085	不整形	U字	0.92	0.62	0.12	① 10YR4/1 黄褐色 砂混粘質土
61086	椭円形	浅い逆台形	0.72	0.42	0.08	—
61087	椭円形	逆台形	0.66	0.44	0.13	—
61088	椭円形	浅いU字	1.54	1.06	0.12	① 10YR4/2 灰黄褐色 砂混粘質土 ② 10YR3/1 黑褐色 砂混粘質土 ③ 10YR5/3 にぶい黄褐色 砂混粘質土
61089	溝状	二段落ち	4.72	1.21	0.28	① 10YR4/1 黄褐色 砂混粘質土 ② 10YR3/1 黑褐色 砂混粘質土 ③ 10YR5/3 にぶい黄褐色 砂混粘質土
61090	隔丸方形	浅い逆台形	0.78	0.63	0.11	① 10YR3/1 黑褐色 砂混粘質土 ② 10YR5/3 にぶい黄褐色 砂混粘質土
61091	隔丸方形	浅い逆台形	1.46	1.04	0.06	① 10YR4/1 黄褐色 砂混粘質土
61092	椭円形	レンズ状	1.14	0.88	0.06	① 10YR4/1 黄褐色 砂混粘質土
61093	椭円形	浅い逆台形	0.83	0.52	0.04	① 10YR4/1 黄褐色 砂混粘質土 ② 10YR5/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61094	不整形	レンズ状	1.08	0.40	0.09	① 10YR5/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61095	不整形	U字	0.16	0.56	0.13	① 10YR4/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61096	不整形	逆台形	3.60	1.22	0.14	① 10YR5/1 黄褐色 砂混粘質土
61097	円形	浅い逆台形	0.66	0.57	0.10	① 10YR5/2 灰黄褐色 砂混粘質土 ② 10YR4/1 黄褐色 砂混粘質土
61098	溝状	U字	3.30	0.84	0.15	① 10YR5/2 灰黄褐色 粗鈍 ② 10YR5/1 黄褐色 相鈍 ③ 10YR2/1 黄褐色 砂混粘質土 ④ 10YR4/1 黄褐色 細鈍
61099	溝状	逆台形	3.78	0.66	0.20	—
61100	椭円形	U字	0.52	0.40	0.33	—
61101	椭円形	逆台形	0.72	0.76	0.24	① 2.5Y5/2 結灰黄色 雜鈍
61102	不整形	浅い逆台形	3.50	1.67	0.18	① 10YR5/3 にぶい黄褐色 相鈍 ② 10YR4/1 黄褐色 相鈍 ③ 10YR5/2 灰黄褐色 相鈍 ④ 10YR5/3 にぶい黄褐色 細鈍
61103	不整形	浅い逆台形	4.14	2.53	0.27	① 10YR4/2 灰黄褐色 砂混粘質土 ② 2.5Y5/2 結灰黄色 雜鈍
61104	椭円形	U字	1.28	0.74	0.23	① 10YR6/2 灰黄褐色 粗鈍 ② 2.5Y5/2 結灰黄色 雜鈍
61105	椭円形	U字	0.88	0.70	0.42	① 10YR5/2 灰黄褐色 粗鈍 ② 2.5Y5/2 結灰黄色 雜鈍
61106	椭円形	U字	0.75	0.56	0.37	① 10YR5/2 灰黄褐色 粗鈍 ② 10YR3/1 黑褐色 砂混粘質土
61107	円形	逆台形	0.53	0.46	0.32	—
61108	不整形	逆台形	0.60	0.47	0.14	—
61109	隔丸方形	浅い逆台形	0.98	0.68	0.06	① 10YR4/1 黄褐色 砂混粘質土
61110	隔丸方形	逆台形	0.71	0.62	0.16	① 10YR4/1 黄褐色 砂混粘質土
61111	椭円形	レンズ状	0.63	0.50	0.06	① 10YR4/2 灰黄褐色 砂混粘質土

土坑 観察表(3)

透構番号 (SK)	形状		透構法量 (m)			埋土
	平面	断面	長軸	短軸	深さ	
61112	円形	レンズ状	0.58	0.52	0.09	① 10YR4/1 暗灰色 砂混粘質土
61113	円形	浅い逆台形	0.60	0.55	0.08	—
61114	不明	レンズ状	1.10	0.53	0.14	① 10YR4/2 暗黄褐色 砂混粘質土
61115	不整形	逆台形	0.75	0.36	0.07	—
61116	円形	逆台形	0.56	0.50	0.15	① 10YR4/1 暗灰色 粗砂
61117	不明	浅い逆台形	0.55	0.26	0.08	—
61118	椭円形	U字	1.13	0.90	0.20	① 10YR4/1 暗灰色 粗砂
61119	不明	U字	(1.07)	0.51	0.10	① 10YR4/1 暗灰色 砂混粘質土
61120	円形	U字	0.68	0.58	0.24	① 10YR5/2 暗黄褐色 粗砂 ② 2.5Y5/2 剛柔黄色 シルト質無機物
61121	不明	U字	1.04	0.94	0.19	① 10YR4/1 暗灰色 粗砂
61122	円形	逆台形	0.50	0.48	0.28	—
61123	長方形	浅い逆台形	2.60	0.95	0.12	① 10YR4/1 暗灰色 粗砂
61124	溝状	浅い逆台形	1.93	0.87	0.08	① 10YR5/1 暗灰色 砂混粘質土
61125	不明	U字	(0.52)	0.22	0.20	—
61126	不明	レンズ状	(0.60)	0.24	0.10	—
61127	不明	レンズ状	(0.91)	0.15	0.07	—
61128	椭円形	U字	0.48	0.28	0.18	—
61129	椭円形	逆台形	0.53	0.44	0.28	—
61130	不明	浅い逆台形	(5.39)	(1.26)	0.08	—
61131	不明	浅い逆台形	(2.78)	(1.40)	0.04	① 10YR4/1 暗灰色 粗砂
61132	不明	逆台形	0.72	0.40	0.22	—
61133	椭円形	U字	0.80	0.60	0.22	① 10YR3/1 黒褐色 砂混粘質土
61134	椭円形	U字	1.06	0.60	0.15	① 10YR4/1 暗灰色 砂混粘質土
61135	不整形	レンズ状	2.93	1.64	0.24	① 10YR3/1 黒褐色 砂混粘質土
61136	不整形	U字	1.84	0.34	0.12	—
61137	不明	逆台形	0.53	0.40	0.13	—
61138	椭円形	逆台形	0.60	0.50	0.16	—
61139	椭円形	逆台形	0.80	0.43	0.24	—
61140	隅丸形	U字	0.84	0.62	0.24	① 10YR4/1 暗灰色 砂混粘質土
61141	円形	U字	0.65	0.59	0.28	① 10YR4/1 暗灰色 砂混粘質土
61142	椭円形	U字	0.62	0.42	0.30	—
61143	椭円形	U字	0.59	0.42	0.30	—
61144	円形	レンズ状	0.62	0.58	0.14	① 10YR4/1 暗灰色 砂混粘質土
61145	不明	レンズ状	(3.62)	(0.80)	0.15	① 10YR3/1 黒褐色 砂混粘質土
61146	不明	レンズ状	0.48	0.29	0.07	—
61147	不明	レンズ状	0.64	(0.31)	0.06	—
61148	椭円形	逆台形	0.74	0.45	0.12	① 10YR4/2 暗黄褐色 砂混粘質土
61149	不明	浅い逆台形	(1.50)	(0.26)	0.11	—
61150	椭円形	逆台形	0.74	0.35	0.20	—
61151	椭円形	U字	1.20	0.44	0.10	① 10YR3/1 黒褐色 砂混粘質土
61152	椭円形	U字	0.61	0.42	0.95	—
61153	椭円形	U字	0.76	0.42	0.08	① 10YR4/2 暗黄褐色 砂混粘質土
61154	椭円形	U字	0.68	0.43	0.10	① 10YR4/1 暗灰色 砂混粘質土
61155	椭円形	U字	0.60	0.40	0.11	—
61156	椭円形	逆台形	0.62	0.44	0.14	—
61157	椭円形	U字	0.54	0.40	0.20	① 10YR3/1 黒褐色 砂混粘質土
61158	椭円形	U字	0.53	0.27	0.10	—
61159	椭円形	逆台形	1.09	0.48	0.04	① 10YR3/1 黒褐色 砂混粘質土
61160	椭円形	レンズ状	1.54	1.02	0.12	① 10YR4/2 暗黄褐色 砂混粘質土
61161	椭円形	逆台形	0.58	0.44	0.15	—
61162	椭円形	浅い逆台形	0.58	0.48	0.09	—
61163	椭円形	浅いU字	0.76	0.47	0.04	① 2.5Y6/1 黄灰色 砂混粘質土
61164	円形	逆台形	0.43	0.40	0.10	—
61165	椭円形	浅い逆台形	0.74	0.38	0.06	—
61166	椭円形	レンズ状	1.34	0.53	0.09	① 10YR4/2 暗黄褐色 砂混粘質土
61167	不整形	浅い逆台形	3.12	0.82	0.07	① 10YR5/3 にぶい黄褐色 粘質シルト
61168	椭円形	U字	0.62	0.39	0.12	—
61169	椭円形	浅いU字	0.95	0.44	0.04	① 10YR6/1 暗灰色 粘質シルト
61170	隅丸形	逆台形	0.58	0.40	0.14	—
61171	円形	逆台形	0.50	0.46	0.11	—
61172	不整形	U字	0.97	0.55	0.24	① 10YR4/2 暗黄褐色 砂混粘質土
61173	溝状	浅いU字	1.86	0.48	0.05	① 10YR6/3 にぶい黄褐色 粘質シルト
61174	椭円形	U字	0.60	0.45	0.16	① 10YR5/1 暗灰色 粘土
61175	椭円形	U字	1.07	0.77	0.16	① 10YR4/2 暗黄褐色 粗砂
61176	溝状	浅い逆台形	1.60	0.40	0.08	① 10YR5/3 にぶい黄褐色 砂混粘質土
61177	椭円形	浅い逆台形	0.86	0.46	0.11	① 10YR5/1 暗灰色 砂混粘質土

土坑 観察表(4)

遺構番号 (SK)	形状		遺構法量 (m)			埋土
	平面	断面	長軸	短軸	深さ	
61178	椭円形	U字	(0.84)	0.41	0.14	① 10YR4/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61179	椭円形	レンズ状	0.64	0.50	0.07	① 10YR5/2 にぶい黄褐色 砂混粘質土
61180	椭円形	U字	0.92	0.46	0.10	① 10YR4/1 暗灰色 砂混粘質土
61181	円形	U字	0.52	0.46	0.12	① 10YR4/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61182	椭円形	U字	0.68	0.30	0.08	① 10YR3/1 黑褐色 砂混粘質土
61183	椭円形	U字	0.58	0.44	0.12	① 10YR4/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61184	椭円形	浅い逆台形	0.74	0.33	0.09	① 10YR4/1 暗灰色 砂混粘質土
61185	椭円形	レンズ状	0.70	0.54	0.09	① 10YR4/1 暗灰色 砂混粘質土
61186	隅丸方彌	レンズ状	0.54	0.45	0.08	① 10YR4/1 暗灰色 砂混粘質土
61187	椭円形	浅い逆台形	0.56	0.35	0.08	—
61188	椭円形	浅い逆台形	0.59	0.38	0.06	—
61189	不整形	レンズ状	1.42	0.59	0.07	① 10YR6/1 暗灰色 砂混粘質土
61190	椭円形	逆台形	1.51	0.64	0.20	① 10YR4/1 暗灰色 砂混粘質土 ② 2.5Y6/4 にぶい黄色 シルト質土
61191	不整形	逆台形	3.06	1.74	0.26	① 10YR3/1 黑褐色 砂混粘質土
61192	椭円形	逆台形	1.36	0.68	0.16	① 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂混粘質土
61193	不整形	U字	1.12	0.56	0.10	① 10YR4/1 暗灰色 砂混粘質土
61194	不明	逆台形	0.75	0.49	0.18	① 2.5Y6/4 にぶい黄色 粘土
61195	円形	逆台形	0.64	0.58	0.26	① 10YR3/1 黑褐色 砂混粘質土 ② 10YR4/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61196	不整形	逆台形	1.82	1.12	0.30	① 10YR4/2 灰黄褐色 砂混粘質土 ② 10YR5/2 灰黄褐色 砂混粘質土 ③ 10YR5/3 にぶい黄褐色 砂混粘質土
61197	不整形	U字	1.10	0.49	0.22	① 10YR3/1 黑褐色 砂混粘質土 ② 10YR4/1 暗灰色 砂混粘質土
61198	椭円形	浅いU字	1.38	0.58	0.04	① 10YR4/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61199	椭円形	逆台形	0.58	0.46	0.22	—
61200	不整形	浅いU字	1.35	0.46	0.04	① 10YR5/1 暗灰色 砂混粘質土
61201	椭円形	浅い逆台形	0.83	0.60	0.06	① 10YR4/1 暗灰色 砂混粘質土
61202	椭円形	浅い逆台形	0.59	0.42	0.08	—
61203	椭円形	浅いU字	1.06	0.56	0.04	① 10YR4/1 暗灰色 砂混粘質土
61204	不整形	逆台形	0.76	0.32	0.22	—
61205	円形	逆台形	0.50	0.43	0.15	—
61206	三角形	逆台形	0.80	0.50	0.30	—
61207	椭円形	逆台形	0.77	0.40	0.32	—
61208	椭円形	浅い逆台形	0.92	0.52	0.06	① 10YR4/1 暗灰色 砂混粘質土
61209	椭円形	逆台形	0.76	0.55	0.20	① 10YR4/1 暗灰色 砂混粘質土 ② 10YR4/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61210	不明	レンズ状	0.53	0.46	0.06	① 10YR6/1 暗灰色 粘質シルト
61211	椭円形	レンズ状	0.92	0.70	0.08	① 10YR4/1 暗灰色 砂混粘質土
61212	椭円形	U字	0.86	0.60	0.16	① 10YR4/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61213	不整形	U字	0.95	0.30	0.24	—
61214	椭円形	浅い逆台形	(0.87)	0.34	0.08	—
61215	椭円形	U字	0.66	0.54	0.28	① 10YR3/1 黑褐色 砂混粘質土 ② 10YR6/3 にぶい黄褐色 粘土 ③ 10YR4/1 暗灰色 砂混粘質土
61216	円形	レンズ状	1.08	0.90	0.09	① 10YR3/1 黑褐色 砂混粘質土 ② 2.5Y5/3 黄褐色 砂混粘質土
61217	椭円形	逆台形	1.32	0.76	0.12	① 10YR3/1 黑褐色 砂混粘質土 ② 10YR4/1 暗褐色 砂混粘質土 ③ 2.5Y5/3 黄褐色 砂混粘質土
61218	椭円形	U字	0.96	0.36	0.25	① 10YR5/2 灰黄褐色 砂混粘質土 ② 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂混粘質土
61219	椭円形	逆台形	0.63	0.24	0.10	—
61220	円形	逆台形	0.54	0.50	0.12	—
61221	不整形	逆台形	1.16	0.58	0.24	① 10YR4/1 暗灰色 砂混粘質土 ② 10YR6/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61222	椭円形	浅いU字	1.00	0.64	0.04	① 10YR5/1 暗灰色 砂混粘質土
61223	不整形	逆台形	0.74	0.56	0.29	① 10YR3/1 黑褐色 砂混粘質土 ② 10YR5/2 灰黄褐色 砂混粘質土
61224	椭円形	U字	0.86	0.50	0.26	① 10YR4/1 暗灰色 砂混粘質土
61225	不明	浅い逆台形	0.54	0.32	0.09	—
61226	椭円形	逆台形	1.78	1.20	0.52	① 10YR5/2 灰黄褐色 粘土 ② 10YR4/1 暗灰色 砂混粘質土 (土器片多量に含む) ③ 2.5Y3/1 黑褐色 砂混粘質土 (炭多く含む)

V区で検出した土坑は、SK61001～SK61226 (SK61019は欠番)までの合計225基である。

遺構名の「SK」は省略した。

遺構法量欄の（ ）の数値は、遺構の残存値を示す。

遺構の平面形状は、他の遺構に競換されている場合などを「不明」とした。

「埋土」の欄で示した土色の番号は、断面図の番号と対応する。

SK61017とSK61099に接合関係がある土器を実測しているが、上記表には示していない。

表7 弁生土器・土製品 観察表(1)

記載番号	種別 番号	遺物名 層位名	器種	法量 (cm)		調整	色調	地土	焼成	
				口径	底径					
1	16	SH61000- a	(口縁部)	-	-	(1.2)	縁・横突きガキ	縁付ミガキ	75YR 4-2 黄褐色 10YR 6.5 棕褐色	
2	16	SH61000- b	無頭壺	(196)	-	(2.9)	ナデ	縁付ミガキ (赤褐色剥落)	75YR 4-6 棕褐色 75YR 6-6 棕褐色	
3	16	SH61001- b	(底部)	-	赤色	(4.6)	摩滅 (不明)	指オサエ	75YR 5-4 にい褐色 75YR 4-2 黄褐色	
4	16	SH61001- b	上層	広口壺	(142)	-	(5.6)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明) 10YR 6.4 にい・黄褐色	
5	16	SH61001- b	上層	壺	(196)	-	(8.3)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明) 10YR 7.0 にい・黄褐色	
6	16	SH61001- b	上層	壺	(230)	-	(4.3)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明) 75YR 2.6 棕褐色 75YR 6-6 棕褐色	
7	16	SH61001- b	上層	壺	(220)	-	(4.6)	指オサエ 縦突きガキ→縁付ミガキ	縁付ミガキ 75YR 4-2 黄褐色 10YR 6.5 棕褐色	
8	16	SH61001- b	上層	壺	(152)	-	(3.5)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明) 10YR 7.3 にい・黄褐色	
9	16	SH61001- b	上層	壺	(186)	-	(3.2)	鶴瓶直腹文木口束1条	縁付ミガキ 25YR 6-3 にい・黄褐色 10YR 7.3 にい・黄褐色	
10	16	SH61001- b	上層	壺	(200)	-	(4.9)	摩滅 (不明)	縁付ミガキ 75YR 6-4 にい・褐色 75YR 5-4 にい・褐色	
11	16	SH61001- b	上層	壺	(238)	-	(4.8)	摩滅 (不明)	指オサエ→縦突きガキ 75YR 5-3 にい・褐色 75YR 5-4 にい・褐色	
12	16	SH61001- b	上層	壺	(264)	-	(3.6)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明) 75YR 2.6 棕褐色 75YR 7.0 にい・褐色	
13	16	SH61001- b	上層	壺	(152)	-	(3.5)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明) 75YR 5-3 にい・褐色	
14	16	SH61001- b	上層	壺	(186)	-	(2.5)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明) 75YR 5-6 棕褐色 75YR 6-6 棕褐色	
15	16	SH61001- b	上層	壺	(200)	-	(5.0)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明) 75YR 5-8 棕褐色 75YR 6-8 棕褐色	
16	16	SH61001- b	上層	壺	(160)	(3.1)	ナデ	ナデ	75YR 7.4 にい・褐色 75YR 6-3 にい・褐色	
17	16	SH61001- b	上層	壺	(150)	(6.0)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明) 75YR 5-6 棕褐色 10YR 6.4 にい・黄褐色		
18	16	SH61001- b	上層	壺	(160)	(6.8)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明) 75YR 6-6 棕褐色		
19	16	SH61001- b	上層	壺	(178)	(4.7)	ナデ	ナデ	75YR 5-4 にい・褐色 75YR 6-6 棕褐色	
20	16	SH61001- b	上層	壺	(160)	(5.0)	摩滅 (不明)	ナデ	75YR 5-6 棕褐色 75YR 6-6 棕褐色	
21	16	SH61001- b	上層	壺	(78)	(2.9)	縦突きガキ	板ナデ	25YR 6-6 棕褐色 75YR 4-2 黄褐色	
22	16	SH61001- b	上層	壺	(78)	(4.4)	縦突きガキ	ナデ	10YR 5.2 にい・黃褐色 75YR 5-4 にい・褐色	
23	16	SH61001- b	上層	壺	(160)	(6.1)	摩滅 (不明)	指オサエ	75YR 7.6 棕褐色 10YR 6.4 にい・黄褐色	
24	16	SH61001- b	上層	壺	(160)	(6.6)	縦突きガキ	ナデ	75YR 5-6 明赤褐色 25YR 6-6 棕褐色	
25	16	SH61001- b	上層	壺	(48)	(6.0)	縦突きガキ	縦・横突きガキ、指オサエ	75YR 6-6 棕褐色 75YR 6-6 棕褐色	
26	16	SH61001- b	上層	壺	(160)	(6.9)	摩滅 (不明)	ナデ	25YR 5-6 棕褐色 75YR 6-6 棕褐色	
27	16	SH61001- b	上層	壺	(88)	(4.6)	縦突きガキ	縁付ミガキ	25YR 5-6 明赤褐色 75YR 6-4 にい・褐色	
28	16	SH61001- b	上層	壺	(160)	(6.4)	指オサエ、縦突きガキ	ナデ	75YR 7.6 棕褐色 75YR 6-6 棕褐色	
29	16	SH61001- b	上層	壺	(114)	(3.1)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明) 75YR 6-6 棕褐色	75YR 5-6 棕褐色 25YR 6-6 棕褐色	
30	16	SH61001- b	上層	壺	(78)	(6.4)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明) 75YR 6-6 棕褐色	75YR 6-6 棕褐色 75YR 6-6 棕褐色	
31	16	SH61001- b	上層	壺	(78)	(2.9)	ナデ	ナデ	75YR 4-4 にい・黄褐色 75YR 5-4 にい・褐色	
32	16	SH61001- b	上層	壺	(65)	-	摩滅 (不明)	摩滅 (不明) 10YR 3.1 黄褐色 10YR 2.1 黄褐色 (片刃貫通)	ナデ 10YR 3.1 黄褐色 10YR 2.1 黄褐色	
33	16	SH61001- b	下層 a	壺	(64)	(4.0)	摩滅 (不明)	指オサエ	75YR 5-4 にい・褐色 75YR 5-3 にい・褐色	
34	16	SH61001- b	下層 a	器 (部分)	-	(14.5)	摩滅 (不明)	縁付ミガキ	75YR 7.6 棕褐色 75YR 8.1 にい・黄褐色	
35	16	SH61001- b	下層 a	壺	(228)	-	(5.6)	縦突きハケ	縁付ミガキ 75YR 6-6 棕褐色 30YR 6-6 棕褐色	
36	16	SH61001- b	中层土壠	(底部)	-	(5.0)	摩滅 (不明)	ナデ	75YR 5-6 棕褐色 75YR 6-6 棕褐色	
37	17	SH61001- b	上層	縦縫甃	縫 47	47	厚5 0.6	陶文、内孔1孔 (発現前)、 土転用	75YR 6-6 棕褐色 75YR 6-6 棕褐色	
38	17	SH61001- b	上層	土質品	48	3.8	厚5 1.2	上面剥離: 刻痕、斜格子文 外壁: 内孔2.孔、沈澱	ナデ	10YR 5.1 黄褐色 10YR 5-1 黄褐色
39	17	SH61001- b	中层土壠	縦縫甃	縫 54	4.4	厚5 0.6	陶文、内孔1孔 (発現後)、 土転用	ナデ	10YR 4/2 从黄褐色 75YR 6-6 棕褐色
40	18	SH61002- b	土壠	壺	(196)	-	(1.9)	ナデ	ナデ	75YR 7.6 棕褐色 75YR 6-6 棕褐色
41	18	SH61002- b	土壠	壺	(242)	-	(2.1)	摩滅 (不明)	ナデ	75YR 6-6 棕褐色 75YR 6-6 棕褐色
42	18	SH61002- b	土壠	壺	(269)	-	(7.7)	縦突きハケ	ナデ	75YR 6-6 棕褐色 75YR 5-6 明赤褐色
43	18	SH61002- b	土壠	壺	(172)	-	(2.0)	摩滅 (不明) (口縁部: 斜格子文)	モリ	75YR 4-3 棕褐色 10YR 5-8 半色
44	18	SH61002- b	土壠	壺	-	(4.3)	縦突きガキ	ナデ	75YR 5-4 にい・褐色 10YR 4/2 从黄褐色	
45	18	SH61002- b	土壠	壺	-	(5.2)	縦突きガキ	モリ	75YR 7.6 棕褐色 10YR 7.4 にい・黄褐色	
46	18	SH61002- b	土壠	壺	-	(6.6)	(4.7)	縦突きガキ	ナデ	75YR 6-6 棕褐色 75YR 7.4 にい・半色

## 弥生土器・土製品 観察表(2)

記号	標本番号	通称名 覆面名	器種	測量 (cm)		調整		色調		胎土	焼成		
				口径	底径	高さ	外側	内側	上:底:下:内側				
47	18	SH61002 土器	-	8.2	(3.5)	摩減 (不明)	摩減 (不明)	10YR 7/4 に赤褐色 5YR 6/6 淡褐色	5mm以下の石英・長石含む 1mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好		
48	18	SH61002 土器	-	6.6	(6.9)	摩減 (不明)	摩減 (不明)	7.5YR 6/6 淡褐色 7.5YR 6/6 淡褐色	粗	良			
49	18	SH61002 土器	-	10.0	(6.4)	縦裂ミガキ	摩減 (不明)	5YR 7/6 明褐色 7.5YR 5/6 明褐色	粗	良好			
50	18	SH61002 土器	-	11.0	(4.5)	摩減 (不明)	摩減 (不明)	7.5YR 5/3 に赤褐色 10YR 7/4 に赤褐色	7mm以下の石英・長石含む 5mm以下の石英・長石含む	やや粗	良		
51	18	SH61002 土器	-	9.6	(7.5)	白付跡	板ナメ	2.5YR 7/6 特褐色 5YR 7/6 特褐色	3mm以下の石英・長石含む 4mm以下の石英・長石含む	やや粗	良		
52	18	SH61002 土器	蓋	4.4	-	12.6	ナデ	ナデ、指オサエ	5YR 7/6 灰褐色・3N-0 暗褐色 5YR 7/6 灰褐色・3N-0 暗褐色	4mm以下の石英・長石含む	良好		
53	18	SH61002 土器	蓋	5.4	3.2	厚	厚	上端部:灰褐色 外側:1.7mm, 2孔:刺突	ナデ	7.5YR 6/6 淡褐色 7.5YR 6/6 淡褐色	1mm以下の石英・長石含む	良	
54	18	SH61002 土器	蓋	-	13.0	(3.2)	摩減 (不明)	指捺ナデ	2.5YR 6/6 特褐色 5YR 5/6 明褐色	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好		
55	19	SH61003 土器	蓋	(16.0)	-	(3.8)	ナデ	摩減直面文 6 条	ナデ	7.5YR 5/3 に赤褐色 10YR 5/3 に赤褐色	1-3mmの石英・長石含む	良好	
56	19	SH61003 土器	蓋	-	5.4	(3.3)	縦裂ミガキ	摩減 (不明)	10YR 5/2 に赤褐色 10YR 5/2 に赤褐色	5mm以下の石英・長石含む 黄土含む	やや粗	良	
57	19	SH61004 土器	広口壺	(14.0)	-	(2.0)	ナデ	ナデ	7.5YR 6/6 淡褐色 7.5YR 6/6 淡褐色	1mm以下の石英・長石含む	良好		
58	19	SH61004 土器	蓋	-	6.0	(5.1)	摩減 (不明)	指オサエ	5YR 5/6 明褐色 7.5YR 5/6 明褐色	1mm以下の石英・長石含む	良好		
59	19	SH61004 土器	蓋	-	6.8	(7.4)	摩減 (不明)	指オサエ	2.5YR 7/6 に赤褐色	1-3mmの石英・長石含む	やや粗	良好	
60	19	SH61004 土器	蓋	-	4.6	(2.8)	指捺ナデ	ナデ	5YR 7/4 に赤褐色 5YR 7/4 に赤褐色	3mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好	
61	19	SH61005 土器	蓋	-	10.0	(4.0)	縦裂ミガキ	ナデ	10YR 7/3 に赤褐色 2.5Y 8/2 白色	5mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好	
62	20	SH61008 土器	蓋	(11.6)	-	(2.4)	摩減ミガキ 内凹 1孔 2対	横裂ミガキ	10YR 7/6 明褐色 10YR 7/4 に赤褐色	5mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好	
63	20	SH61008 土器	蓋	-	-	(6.4)	摩減 (不明)	摩減 (不明)	2.5YR 4/6 赤褐色 2.5YR 5/6 明褐色	粗	良好		
64	20	SH61008 土器	蓋	-	-	(5.6)	縦裂ハケ	縦裂ハケ	2.5YR 7/3 に赤褐色 2.5YR 7/3 に赤褐色	1-3mmの石英・長石含む	やや粗	良好	
65	20	SH61008 土器	蓋	(19.0)	-	(7.5)	摩減 (不明)	摩減 (不明)	10YR 7/3 に赤褐色 10YR 4/4 淡褐色	5mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好	
66	20	SH61008 土器	広口壺	(16.0)	-	(3.5)	縦裂ミガキ	縦裂ミガキ	5YR 6/6 白色 5YR 6/6 淡褐色	1-3mmの石英・長石・黄土含む	やや粗	良好	
67	20	SH61008 土器	蓋	(22.0)	-	(4.0)	摩減 (不明)	縦裂ハケ (窓型)	10YR 5/1 黄褐色 10YR 7/4 に赤褐色	5mm以下の石英・長石含む	やや粗	良	
68	20	SH61008 土器	蓋	(26.0)	-	(5.5)	摩減 (不明)	摩減 (不明)	2.5YR 6/6 白色 2.5YR 6/6 淡褐色	3mm以下の石英・長石含む	やや粗	良	
69	20	SH61008 土器	無蓋	(10.0)	-	(3.4)	縦裂直面文 6 条 1 条 縦裂直面文 2 条	摩減 (不明)	2.5YR 7/6 白色 10YR 4/4 淡褐色	1-3mmの石英・長石含む	やや粗	良好	
70	20	SH61008 土器	無蓋	(9.4)	-	(3.4)	縦裂直面文 4 条	ナデ	10YR 4/4 淡褐色 10YR 6/6 淡褐色	5mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好	
71	20	SH61008 土器	蓋	(7.0)	-	(7.0)	摩減 (不明)	指捺ナデ、指オサエ	5YR 6/8 黄褐色 2.5Y 6/6 淡褐色	粗	良好		
72	20	SH61008 土器	蓋	(6.0)	-	(6.0)	摩減 (不明)	摩減 (不明)	2.5YR 6/6 淡褐色 2.5YR 6/6 淡褐色	3mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好	
73	20	SH61009 土器	傳	(18.2)	-	(19.1)	縦裂直面文 7 条 1 条 3 条 内凹 1孔 2対 1孔	ナデ (棘口目)	2.5YR 6/6 淡褐色 2.5YR 7/6 淡褐色	5mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好	
74	21	SH61010 土器	蓋	(15.0)	-	(3.4)	ナデ	ナデ	2.5YR 4/1 赤褐色 2.5YR 4/1 赤褐色	1-3mmの石英・長石含む	やや粗	良好	
75	21	SH61010 土器	蓋	(17.0)	-	(3.5)	ナデ	横裂ミガキ	2.5YR 4/1 赤褐色 2.5YR 4/1 赤褐色	2mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好	
76	21	SH61010 土器	蓋	(21.0)	-	(3.9)	摩減 (不明)	横裂ミガキ	2.5YR 6/6 淡褐色 2.5YR 7/6 淡褐色	1-5mmの石英・長石含む	やや粗	良好	
77	21	SH61010 土器	蓋	(17.0)	-	(5.0)	ナデ	横裂ミガキ	5YR 5/3 に赤褐色 5mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好		
78	21	SH61010 土器	蓋	(19.0)	-	(7.0)	指オサエ、縦裂ハケ→ 縦裂ミガキ	横裂ミガキ	2.5YR 5/3 に赤褐色 10YR 5/1 黄褐色	1-3mmの石英・長石含む	やや粗	良好	
79	21	SH61010 土器	蓋	(22.0)	-	(4.7)	摩減 (不明)	摩減 (不明)	2.5YR 6/3 に赤褐色 2.5YR 7/2 黄褐色	3mm以下の石英・長石含む	やや粗	良	
80	21	SH61010 土器	広口壺	(17.0)	-	(10.0)	摩減 (不明)	摩減 (不明)	2.5YR 6/6 淡褐色 2.5YR 7/6 淡褐色	1-3mmの石英・長石含む	やや粗	良	
81	21	SH61010 土器	蓋	(23.0)	-	(4.1)	縦裂直面文 7 条 1 条 2 条	摩減 (不明)	2.5YR 7/4 に赤褐色 2.5Y 6/6 淡褐色	1-3mmの石英・長石含む	やや粗	良好	
82	21	SH61010 土器	蓋	(23.0)	-	(3.7)	ナデ	縦裂直面文 6 条 1 条 2 条	10YR 7/4 に赤褐色 2.5Y 6/6 淡褐色	1-3mmの石英・長石含む	やや粗	良好	
83	21	SH61010 土器	蓋	(25.0)	-	(5.1)	ナデ	縦裂直面文 6 条 1 条 2 条	2.5YR 6/6 淡褐色 2.5Y 7/6 淡褐色	3mm以下の石英・長石含む	やや粗	良	
84	21	SH61010 土器	蓋	(26.0)	-	(5.6)	縦裂ハケ	横裂ミガキ	10YR 6/6 淡褐色 5YR 6/6 淡褐色	1-3mmの石英・長石・黄土含む	やや粗	良好	
85	21	SH61010 土器	蓋	(28.0)	-	(4.5)	摩減 (不明)	摩減 (不明)	10YR 6/4 淡褐色 10YR 6/4 淡褐色	1-3mmの石英・長石含む	やや粗	良好	
86	21	SH61010 土器	蓋	(19.0)	-	(4.2)	縦裂ハケ	横裂ミガキ	2.5YR 6/6 淡褐色 2.5YR 7/6 淡褐色	1-3mmの石英・長石含む	やや粗	良好	
87	21	SH61010 土器	蓋	(19.0)	-	(5.1)	縦裂直面文 6 条 1 条 4 条	ナデ	2.5YR 4/2 黄褐色 2.5YR 7/4 に赤褐色	1-3mmの石英・長石含む	やや粗	良好	
88	21	SH61010 土器	蓋	(19.0)	-	(11.0)	縦裂ハケ→縦裂ミガキ 縦裂直面文 6 条 1 条 4 条	ナデ	5YR 6/4 に赤褐色 2.5YR 7/4 に赤褐色	2mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好	
89	21	SH61010 土器	蓋	(33.0)	-	(5.0)	摩減 (不明)	横裂ミガキ→縦裂ミガキ	10YR 7/6 淡褐色 10YR 7/4 に赤褐色	1mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好	
90	21	SH61010 土器	蓋	(19.0)	-	(5.2)	縦裂ハケ	縦裂ミガキ→縦裂ミガキ	2.5YR 6/6 に赤褐色 2.5YR 7/4 に赤褐色	3mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好	
91	21	SH61010 土器	蓋	(22.0)	-	(15.5)	縦裂ハケ	ナデ	5YR 6/6 淡褐色 2.5YR 6/6 淡褐色	1-3mmの石英・長石含む	やや粗	良	
92	21	SH61010 土器	蓋	(23.0)	-	(5.5)	ナデ	縦裂ミガキ→縦裂ミガキ	2.5YR 6/6 淡褐色	3mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好	

弥生土器・土製品観察表(3)

監査番号	検査番号	遺物名	器種	法量(cm)			調整		色調		胎土	焼成
				口径	底径	高さ	外側	内面	上:外側 下:内面			
93	21	SH61010 地上	茶	(25.2)	-	(29)	ナデ, 錐窓ハケ	錐窓ミガキ→板状ミガキ	75XR 6.6 褐色 75XR 6.6 褐色	やや粗 1mm以下の石英・長石・雲母含む	良好	
94	21	SH61010 地上	茶	(14.2)	-	(36)	錐窓ハケ	ナデ, 錐窓ミガキ	75XR 4.2 黄褐色 75XR 6.3 にぶい褐色	やや粗 1~4mmの石英・長石含む	良好	
95	21	SH61010 地上	茶	(15.0)	-	(41)	穿成(不明)	錐窓ミガキ	75XR 4.2 黄褐色 75XR 6.3 にぶい褐色	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良好	
96	21	SH61010 地上	茶	(19.0)	-	(40)	ナデ, 錐窓ハケ	ナデ, 錐窓ミガキ	75XR 7.4 にぶい褐色 10XR 6.3 にぶい黄褐色	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好	
97	21	SH61010 地上	無柄鏡	(8.9)	-	(26)	ナデ	錐窓直腹文2条	ナデ	75XR 7.3 にぶい黄褐色 10XR 7.4 にぶい黄褐色	1~5mmの石英・長石含む	良好
98	21	SH61010 地上	無柄鏡	(10.4)	-	(42)	ナデ, 錐窓ハケ	錐窓直腹文2条+1条+錐窓直腹文1条	ナデ, 錐窓ナデ	10XR 3.3 淡黃褐色 10XR 8.3 淡黃褐色	2mm以下の石英・長石含む	良好
99	21	SH61010 地上	無柄鏡	(11.0)	-	(37)	ナデ	錐窓直腹文2条+1条+錐窓直腹文1条	ナデ(不明)	10XR 4.4 淡黃褐色 10XR 8.3 淡黃褐色	2mm以下の石英・長石含む	良好
100	21	SH61010 地上	無柄鏡	(7.0)	-	(65)	ナデ	錐窓直腹文2条+1条+錐窓直腹文1条+錐窓直腹文1条	ナデ(板付日)	75XR 7.4 にぶい褐色 10XR 2.2 にぶい黄褐色	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好
101	21	SH61010 地上	無柄鏡	(10.0)	-	(36)	ナデ	錐窓直腹文8本+1束1条	ナデ, 錐窓ナデ	10XR 7.4 にぶい黄褐色 25XR 8.4 淡褐色	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好
102	21	SH61010 地上	無柄鏡	(12.8)	-	(33)	ナデ	錐窓直腹文8本+1束2条	錐オサエ	75XR 7.6 棕色 10XR 4.4 にぶい黄褐色	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好
103	21	SH61010 地上	無柄鏡	(16.0)	-	(45)	ナデ	錐窓直腹文8本+1束1条	ナデ, 錐窓ナデ	10XR 6.4 にぶい黄褐色 10XR 10.0 淡褐色	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好
104	21	SH61010 地上	直口壺	(13.0)	-	(67)	ナデ	錐窓直腹文8本+1束+錐窓直腹文8本+1束+錐窓直腹文8本+1束	穿成(不明)	10XR 6.2 にぶい黄褐色 10XR 6.3 にぶい黄褐色	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
105	21	SH61010 地上	無柄鏡	(14.0)	-	(10)	ナデ	錐窓ミガキ	錐オサエ	75XR 6.4 にぶい褐色 75XR 7.4 にぶい褐色	やや粗 1~5mmの石英・長石含む	良好
106	22	SH61010 地上	広口壺	(11.2)	-	(21)	ナデ	錐窓端部: 刻目	ナデ	75XR 6.6 棕色 75XR 6.6 棕色	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好
107	22	SH61010 地上	広口壺	(15.2)	-	(40)	穿成(不明)	穿成(不明)	10XR 6.4 にぶい黄褐色 10XR 6.4 にぶい黄褐色	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好	
108	22	SH61010 地上	広口壺	(16.0)	-	(49)	穿成(不明)	ナデ	10XR 6.4 にぶい黄褐色 10XR 6.4 にぶい黄褐色	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好	
109	22	SH61010 地上	広口壺	(22.0)	-	(39)	ナデ	穿成(不明)	錐窓ミガキ	75XR 6.6 棕色 75XR 6.6 棕色	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好
110	22	SH61010 地上	広口壺	(20.0)	-	(16)	ナデ	錐窓端部: 巴塔文2条	ナデ	75XR 7.6 棕色 75XR 7.6 棕色	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好
111	22	SH61010 地上	広口壺	(21.7)	-	(22)	ナデ	錐窓端部: 巴塔文	ナデ	10XR 7.6 にぶい黄褐色 10XR 7.6 にぶい黄褐色	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好
112	22	SH61010 地上	広口壺	(25.5)	-	(17)	ナデ	ナデ	ナデ	10XR 7.6 にぶい黄褐色 10XR 8.4 にぶい黄褐色	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好
113	22	SH61010 地上	広口壺	(18.4)	-	(8.5)	ナデ	錐窓ハケ	斜骨子文 押印直腹文	75XR 6.6 棕色 75XR 6.6 棕色	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
114	22	SH61010 地上	直口壺	-	-	(107)	ナデ	錐窓ハケ	ナデ, 錐窓ミガキ	10XR 7.3 にぶい黄褐色 10XR 7.4 にぶい黄褐色	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
115	22	SH61010 地上	直口壺	-	-	(6.3)	ナデ	錐窓直腹文8本+1束4条	錐窓ミガキ	25XR 5.6 明褐色	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好
116	22	SH61010 地上	広口壺	(20.0)	-	(20)	ナデ	錐窓ハケ	斜骨子文	25XR 8.5 淡褐色 25XR 8.5 淡褐色	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良好
117	22	SH61010 地上	広口壺	(20.0)	-	(42)	ナデ	錐窓ハケ	斜骨子文	10XR 6.4 にぶい黄褐色 10XR 7.4 にぶい黄褐色	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良好
118	22	SH61010 地上	広口壺	(13.2)	-	(46)	穿成(不明)	穿成(不明)	ナデ	25XR 7.6 棕色 25XR 7.6 棕色	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好
119	22	SH61010 地上	直口壺	(11.8)	-	(27)	ナデ	錐窓端部: 刻目	ナデ	10XR 7.3 にぶい黄褐色 10XR 7.6 明褐色	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
120	22	SH61010 地上	直口壺	(8.0)	-	(8.1)	ナデ	錐窓直腹文8本+1束4条+錐窓直腹文2本	ナデ	10XR 6.4 にぶい黄褐色 10XR 7.6 明褐色	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
121	22	SH61010 地上	直口付	-	-	(47)	ナデ	ナデ(小) 小2.0, 大2.1	錐窓ミガキ	25XR 6.6 淡褐色 25XR 6.6 淡褐色	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
122	22	SH61010 地上	(底部)	-	(5.0)	(31)	穿成(不明)	板ナデ	3YR 6.6 棕色 3YR 5.4 にぶい少褐色	粗 1~5mmの石英・長石・蛋白含む	良好	
123	22	SH61010 地上	(底部)	-	(6.0)	(6.0)	ナデ, 錐オサエ, 錐窓ミガキ	ナデ, 板ナデ	75XR 6.4 にぶい褐色 10XR 6.3 にぶい黄褐色	やや粗 2mm以下の石英・長石・蛋白含む	良好	
124	22	SH61010 地上	(底部)	-	(6.0)	(34)	穿成(不明)	板ナデ	75XR 7.4 にぶい黄褐色 75XR 7.4 にぶい黄褐色	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好	
125	22	SH61010 地上	(底部)	-	(6.0)	(7.0)	(24)	穿成(不明)	穿成(不明)	75XR 6.6 棕色 75XR 7.6 棕色	粗 1~5mmの石英・長石含む	良好
126	22	SH61010 地上	(底部)	-	(6.0)	(48)	ナデ	錐窓ミガキ	錐オサエ	10XR 6.4 にぶい黄褐色 10XR 7.6 棕色	粗 1mm以下の石英・長石含む	良好
127	22	SH61010 地上	(底部)	-	(6.0)	(4.3)	錐窓ミガキ	ナデ	75XR 6.4 にぶい黄褐色 10XR 6.4 にぶい黄褐色	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好	
128	22	SH61010 地上	(底部)	-	(7.0)	(4.5)	錐窓ミガキ	ナデ	10XR 6.1 暗褐色 10XR 7.2 にぶい黄褐色	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好	
129	22	SH61010 地上	(底部)	-	(7.0)	(3.4)	錐窓ミガキ	ナデ	10XR 7.4 にぶい黄褐色 10XR 7.5 にぶい黄褐色	やや粗 1~5mmの石英・長石含む	良好	
130	22	SH61010 地上	(底部)	-	(5.0)	(8.0)	錐窓ミガキ	板ナデ	75XR 6.3 にぶい褐色 75XR 7.5 にぶい褐色	粗 3mm以下の石英・長石含む	良好	
131	22	SH61010 地上	(底部)	-	(8.0)	(4.9)	錐窓ミガキ	板ナデ	10XR 7.4 にぶい黄褐色 10XR 7.5 にぶい黄褐色	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良好	
132	22	SH61010 地上	(底部)	-	(7.0)	(7.9)	錐窓ミガキ	錐窓ミガキ→板ナデ	3YR 5.4 にぶい少褐色 3YR 6.6 淡褐色	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好	
133	22	SH61010 地上	(底部)	-	(6.0)	(7.9)	錐窓ミガキ	錐窓ミガキ	10XR 7.6 明褐色 10XR 8.0 にぶい褐色	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好	
134	22	SH61010 地上	(底部)	-	(5.0)	(5.5)	穿成(不明)	錐窓ミガキ	10XR 6.4 にぶい黄褐色 10XR 7.4 にぶい黄褐色	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好	
135	22	SH61010 地上	(底部)	-	(12.0)	(3.3)	錐窓ミガキ	ナデ	10XR 3.2 黑褐色 10XR 4.2 にぶい褐色	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好	
136	22	SH61010 地上	(底部)	-	(7.0)	(16)	穿成(不明)	ナデ	10XR 5.9 にぶい黄褐色 10XR 7.2 にぶい黄褐色	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好	
137	22	SH61010 地上	(底部)	-	(7.0)	(4.0)	ナデ, 錐オサエ	ナデ, 錐オサエ	10XR 5.7 にぶい黄褐色 10XR 5.7 暗褐色	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好	

弥生土器・土製品 観察表(4)

標	標	通	通	器種	法量(cm)			調整		色調		胎土	焼	
					口徑	底径	高さ	外面	内面	上:外面 下:内面				
138	22	SH61010	土	(底部)	-	(8.8)	(3.0)	ナデ	縦目ハケ	10YR 6.3に赤い黄褐色 10YR 7.3に赤い黄褐色	赤 1m以下の石英-長石含む	良好		
139	22	SH61010	土	(底部)	-	(6.8)	(3.5)	ナデ	ナデ	10YR 7.3に赤い黄褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良好		
140	22	SH61010	土	(底部)	-	(8.8)	(5.0)	縦目ミガキ (赤色削付付)	横目ミガキ 靴足+サエ	10YR 6.3に赤い黄褐色 10YR 7.3に赤い黄褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良好		
141	22	SH61010	土	(底部)	-	(11.0)	(4.7)	ナデ	指頭ナデ+板ナデ	10YR 7.4に赤い黄褐色 10YR 7.0に赤い黄褐色	1~5mmの石英-長石含む 1~5mmの石英-長石含む	良好		
142	22	SH61010	土	(底部)	-	(7.0)	(6.6)	摩滅 (不明)	板ナデ	7.5YR 6.8赤褐色 10YR 7.4に赤い黄褐色	1~5mmの石英-長石含む	良		
143	22	SH61010	土	(底部)	-	(7.0)	(5.8)	縦目ミガキ (赤色削付付)	縦目ミガキ	10YR 5.2に赤褐色 10YR 7.3に赤い黄褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良好		
144	22	SH61010	土	(底部)	-	(14.8)	(9.7)	縦目ミガキ	縦目ハケ+横ナデ	10YR 8.4に淡褐色 10YR 7.3に赤い黄褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良好		
145	23	SH61010	土	北内土坑	奥	(22.5)	-	(3.8)	縦目ハケ	ナデ	2.5YR 3.4稍褐色 2.5YR 3.1赤褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良	
146	23	SH61010	土	北内土坑	奥	(43.0)	-	(6.0)	縦目ミガキ	ナデ 口縁部:ミガキ	2.5YR 5.4稍褐色 2.5YR 5.6稍褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良	
147	23	SH61010	土	北内土坑	広口部	(6.3)	-	(3.4)	ナデ	横直直鉢	10YR 6.7赤褐色 10YR 6.5赤褐色	1~5mmの石英-長石含む	良	
148	23	SH61010	土	北内土坑	(底部)	-	(5.0)	(2.4)	ナデ	摩滅 (不明)	2.5YR 5.8赤褐色 2.5YR 5.2赤褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良好	
149	24	SH61011	土	奥	(16.0)	-	(5.7)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	10YR 7.3に赤い黄褐色 10YR 8.4淡褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良		
150	24	SH61011	土	奥	(16.2)	-	(8.7)	摩滅 (不明)	縦目ミガキ+縦目ミガキ	10YR 8.4淡褐色 10YR 7.4に赤い黄褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良好		
151	24	SH61011	土	奥	(20.0)	-	(4.0)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	10YR 7.4に赤い黄褐色 10YR 7.0赤褐色	やや赤 1~5mmの石英-長石含む	良好		
152	24	SH61011	土	奥	(20.8)	-	(5.3)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	2.5YR 7.6赤褐色 2.5YR 5.2赤褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良		
153	24	SH61011	土	奥	(17.0)	-	(4.2)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	10YR 5.1稍褐色 10YR 5.0稍褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良好		
154	24	SH61011	土	奥	(19.2)	-	(3.6)	ナデ	縦目ミガキ	10YR 6.4に赤い黄褐色 10YR 6.5稍褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良好		
155	24	SH61011	土	奥	(16.8)	-	(6.0)	摩滅 (不明)	ナデ	10R 6.6赤褐色 10R 6.6赤褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良好		
156	24	SH61011	土	奥	(19.0)	-	(8.7)	摩滅 (不明)	ナデ, 指オサエ	7.5YR 7.4に赤い帶色 10YR 7.3に赤い黄褐色	赤 1m以下石英-長石含む	良好		
157	24	SH61011	土	奥	(15.9)	-	(3.8)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	SYR 4.1淡褐色 2.5YR 5.6赤褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良		
158	24	SH61011	土	奥	(19.9)	-	(5.2)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	10YR 7.4赤褐色 10YR 7.5明褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良好		
159	24	SH61011	土	奥	(21.0)	-	(6.8)	摩滅 (不明)	横目ミガキ+縦目ミガキ	7.5YR 7.4に赤い橙色 SYR 6.6橙色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良好		
160	24	SH61011	土	奥	(21.0)	-	(16.9)	ナデ	横目ミガキ	7.5YR 6.6橙色 SYR 6.6橙色	やや赤 1~5mmの石英-長石含む	良好		
161	24	SH61011	土	奥	(21.8)	-	(2.6)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	SYR 6.6 橙色 SYR 6.8 橙色	やや赤 1m以下石英-長石-漂白含む	良好		
162	24	SH61011	土	奥	(22.0)	-	(3.1)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	2.5Y 5.3 黄褐色 2.5Y 4.3 黄褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良好		
163	24	SH61011	土	奥	(22.0)	-	(3.6)	ナデ, 指オサエ	ナデ	7.5YR 7.2赤褐色 7.5YR 6.8带状赤褐色	1m以下石英-長石含む	良好		
164	24	SH61011	土	奥	(23.0)	-	(2.7)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	10YR 5.1稍褐色 10YR 5.2灰褐色	やや赤 1m以下石英-長石-漂白含む	良		
165	24	SH61011	土	奥	(25.2)	-	(5.6)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	SYR 5.6 明赤褐色 SYR 5.6 暗赤褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良		
166	24	SH61011	土	奥	(11.6)	-	(3.0)	ナデ (沈没 2条)	横目ミガキ	10YR 5.1稍褐色 7.5YR 5.4赤褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良好		
167	24	SH61011	土	奥	(16.8)	-	(12.6)	縦目ハケ	縦目ミガキ	7.5YR 6.2赤褐色 7.5YR 6.4赤褐色	やや赤 1m以下石英-長石-漂白含む	良好		
168	24	SH61011	土	奥	(24.9)	-	(5.7)	縦目ハケ	縦目ハケ	7.5YR 6.4赤褐色 10YR 6.4赤褐色	やや赤 1m以下石英-長石-漂白含む	良好		
169	24	SH61011	土	奥	(31.0)	-	(10.0)	縦目ハケ+横ナデ	横目ミガキ	7.5YR 6.4赤褐色 10YR 6.4赤褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良好		
170	24	SH61011	土	奥	(32.0)	-	(6.0)	指オサエ 列文	縦目ミガキ+横目ミガキ	10YR 6.2に赤い黄褐色 10YR 6.3に赤い黄褐色	1~5mmの石英-長石含む	良好		
171	24	SH61011	土	奥	(37.0)	-	(5.6)	ナデ 列文	指頭ナデ	2.5Y 3.5黄褐色 10YR 7.5明褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良好		
172	24	SH61011	土	奥	(38.0)	-	(3.7)	ナデ	横目ミガキ	10YR 7.4に赤い黄褐色 10YR 5.2灰褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良好		
173	24	SH61011	土	奥	(20.0)	-	(5.3)	ナデ	横目ミガキ	2.5Y 4.1 黄褐色 10YR 7.3に赤い黄褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良好		
174	25	SH61011	土	広口部	-	-	(6.1)	縦目ハケ	ナデ, 縦目ハケ	2.5Y 6.6赤褐色 2.5Y 6.5赤褐色	1m以下石英-長石含む	良好		
175	25	SH61011	土	広口部	(底部)	(16.8)	(4.5)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	2.5Y 5.8赤褐色 7.5YR 7.8暗褐色	やや赤 1~5mmの石英-長石含む	良		
176	25	SH61011	土	広口部	(底部)	(18.0)	-	(3.4)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	10YR 6.4に赤い黄褐色 10YR 6.4に赤い黄褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良	
177	25	SH61011	土	広口部	-	-	(2.7)	横目ハケ+縦目ミガキ	ナデ	SYR 6.4赤褐色 2.5YR 6.8赤褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良		
178	25	SH61011	土	広口部	(18.0)	-	(3.5)	摩滅 (不明) (沈没部: 沈没 2条)	摩滅 (不明)	10YR 6.3赤褐色 10YR 6.3暗褐色	赤 1m以下石英-長石含む	良		
179	25	SH61011	土	広口部	(9.0)	-	(2.6)	ナデ 口縁部: 斜格子文	ナデ	10YR 7.6明褐色 7.5YR 6.3赤褐色	やや赤 1~5mmの石英-長石含む	良		
180	25	SH61011	土	広口部	(15.0)	-	(5.7)	ナデ 斜格子文	ナデ	2.5YR 6.8暗褐色 10YR 6.5赤褐色	やや赤 1~5mmの石英-長石含む	良好		
181	25	SH61011	土	斜	(13.2)	-	(4.5)	摩滅 (不明)	指オサエ	10YR 5.1灰褐色 10YR 6.2灰褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良		
182	25	SH61011	土	広口部	(26.0)	-	(9.6)	摩滅 (不明) 口縁部: 斜格子文 斜格子文: 斜格子文	摩滅 (不明)	10YR 7.4淡褐色 10YR 6.4赤褐色	やや赤 1m以下石英-長石含む	良好		

弥生土器・土製品 観察表(5)

器種	種類番号	通巻名	器種	測量 (cm)		調整	色調	鉄土	焼成		
				口径	底径						
						外側	内面	上:外側 下:内面			
183	25	SH60101 埋土	広口壺	(8.0)	-	(6.3)	褐色直腹文 1 条+1 条 褐色波状文 1 条+1 条	板ナデ、指サエ	7.5YR 7.4 にない褐色 7.5YR 5.4 にない褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
184	25	SH60101 埋土	広口壺	(10.0)	-	(9.0)	摩滅 小柄 褐色直腹文 1 条+3 条	縫合ミダキ	7.5YR 8.4 淡青褐色 7.5YR 8.4 淡青褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
185	25	SH60101 埋土	広口壺	(10.0)	-	(6.4)	褐色ハラ 押立突起物	指サエ工→縫合、縫合ミダキ	7.5YR 7.8 黄褐色 7.5YR 7.6 明黄褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良
186	25	SH60101 埋土	鉢?	(11.0)	-	(8.4)	褐色ミダキ 円孔 1 孔	縫合ミダキ	7.5YR 8.6 棕褐色 7.5YR 6.6 明黄褐色	鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
187	25	SH60101 埋土	無蓋	(10.0)	-	(7.0)	褐色ハラ 褐色直波文 1 条+2 条 褐色波状文 5 条+1 条+1 条	ナデ	7.5YR 6.2 淡青褐色 7.5YR 7.3 にない褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
188	25	SH60101 埋土	鉢	(16.0)	-	(1.8)	ナデ 褐色波状文 1 条+1 条 (赤色斜材付着)	ナデ (赤色斜材付着)	7.5YR 7.6 棕褐色 7.5YR 7.6 棕褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
189	25	SH60101 埋土	(底部)	-	G.28	(4.3)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	7.5YR 6.3 にない黃褐色 7.5YR 6.3 にない黃褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良
190	25	SH60101 埋土	(底部)	-	G.28	(4.7)	摩滅 (不明)	板ナデ	7.5YR 7.6 明黄褐色 7.5YR 8.6 黄褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
191	25	SH60101 埋土	(底部)	-	G.0	(6.3)	ナデ	ナデ、指サエ	7.5YR 6.1 にない黃褐色 7.5YR 6.1 にない黃褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
192	25	SH60101 埋土	(底部)	-	G.0	(7.0)	摩滅 (不明)	ナデ	7.5YR 6.1 にない褐色 7.5YR 7.1 棕褐色	鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
193	25	SH60101 埋土	(底部)	-	G.0	(3.9)	縫合ミダキ	縫合ミダキ→縫合ミダキ	7.5YR 6.0 にない褐色 7.5YR 7.2 棕褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
194	25	SH60101 埋土	(底部)	-	G.0	(5.5)	縫合ミダキ	縫合ミダキ	2.5YR 6.6 棕褐色 7.5YR 4.4 にない褐色	鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
195	25	SH60101 埋土	(底部)	-	G.0	(5.0)	縫合ミダキ	摩滅 (不明)	7.5YR 8.6 棕褐色 7.5YR 7.4 にない黃褐色	鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
196	25	SH60101 埋土	(底部)	-	G.0	(6.6)	縫合ミダキ 乳頭: 円孔 (焼成前)	指サエ工 乳頭: 円孔 1 孔 (焼成前)	7.5YR 7.4 にない黃褐色 7.5YR 7.4 にない黃褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
197	25	SH60101 埋土	(底部)	-	G.0	(5.9)	縫合ミダキ	縫合ミダキ	7.5YR 7.4 にない褐色 7.5YR 7.4 にない褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
198	25	SH60101 埋土	(底部)	-	G.28	(5.7)	縫合ミダキ	摩滅 (不明)	7.5YR 5.6 棕褐色 7.5YR 5.6 明青褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
199	25	SH60101 埋土	(底部)	-	G.0	(6.0)	縫合ミダキ	摩滅 (不明)	7.5YR 6.3 にない黃褐色 7.5YR 7.3 にない黃褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
200	25	SH60101 埋土	(底部)	-	G.0	(10.7)	縫合ミダキ	ハケ	7.5YR 7.3 にない黃褐色 7.5YR 6.2 淡青褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
201	25	SH60101 埋土	(底部)	-	(11.0)	(9.0)	摩滅 縫合ミダキ (一端剥離)	ナデ	7.5YR 7.4 にない褐色 7.5YR 7.4 にない褐色	鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
202	25	SH60101 埋土	壺	(12.0)	-	(5.1)	縫合ミダキ 2孔	縫合ミダキ	7.5YR 7.4 にない褐色 2.5YR 6.6 棕褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
203	25	SH60101 埋土	鉢	(12.3)	7.5	(12.2)	縫合ミダキ	ナデ	2.5YR 6.4 にない褐色 7.5YR 6.4 にない褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
204	25	SH60101 埋土	鉢	-	G.0	(5.4)	摩滅 (不明)	板ナデ	2.5YR 6.6 棕褐色 5YR 7.6 棕褐色	やや鉄 1~4m の石美、長石含む	良好
205	25	SH60101 埋土	縫合 瓶	厚 5.5	4.4	4.9	内孔 2 孔 (未調査)	ナデ	7.5YR 7.4 にない黃褐色 10YR 6.4 にない黃褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
206	25	SH60102 埋土	縫合	-	-	-	ナデ	ナデ	7.5YR 6.3 にない黃褐色 7.5YR 6.6 明黄褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良
207	26	SH60102 埋土	壺	(11.0)	-	(9.3)	褐色直腹文 1 条	摩滅 (不明)	7.5YR 7.6 棕褐色 7.5YR 7.6 明青褐色	鉄 1~4m の石美	良好
208	26	SH60102 埋土	広口壺	(15.0)	-	(6.0)	褐色ナデ 褐色直波文 1 条+4 条以上	縫合ミダキ。ナデ、板ナデ	5YR 6.4 にない褐色 7.5YR 6.4 にない褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
209	26	SH60102 埋土	無蓋	(12.0)	-	(14.6)	縫合ハラ 褐色直波文 1 条+3 条+6 条 褐色波状文 1 条+1 条	ナデ、縫合ミダキ	7.5YR 7.2 淡青褐色 7.5YR 6.2 淡青褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
210	26	SH60102 埋土 (解剖)	壺	-	-	(8.0)	褐色直腹文 1 条 褐色波状文 1 条+4 条	指オサエ	7.5YR 6.4 棕褐色 7.5YR 8.8 棕褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
211	26	SH60102 埋土 (解剖)	壺	-	G.0	(2.0)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	7.5YR 6.6 明黄褐色 7.5YR 6.6 明青褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良
212	26	SH60102 埋土	鉢	-	G.0	(3.6)	縫合ミダキ	縫合ミダキ	2.5YR 7.4 にない褐色 5YR 6.4 にない褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
213	26	SH60102 埋土 (手)	壺	(13.0)	-	(3.5)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	7.5YR 8.4 淡青褐色 7.5YR 8.4 淡青褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良
214	26	SH60102 埋土 (手)	壺	(15.0)	-	(4.4)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	7.5YR 7.6 明黄褐色 7.5YR 7.6 明青褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良
215	26	SH60102 埋土 (手)	壺	(22.0)	-	(4.7)	褐色直腹文 1 条+3 条	摩滅 (不明)	7.5YR 7.4 にない褐色 7.5YR 7.4 にない褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
216	26	SH60102 埋土 (手)	壺	(20.0)	-	(13.5)	縫合ハラ 褐色直腹文 1 条+5 条+ 褐色波状文 1 条+6 条	縫合ミダキ	7.5YR 7.4 にない褐色 7.5YR 6.6 棕褐色	鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
217	26	SH60102 埋土 (手)	壺	(19.0)	-	(7.1)	褐色直腹文 1 条+4 条 褐色波状文 1 条+6 条	縫合ミダキ	SYR 6.2 棕褐色 SYR 6.2 淡青褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
218	26	SH60102 埋土 (手)	壺	(15.0)	-	(4.1)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	SYR 6.6 棕褐色 10YR 7.1 棕褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
219	26	SH60102 埋土 (手)	壺	(16.0)	-	(4.6)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	7.5YR 7.6 棕褐色 7.5YR 7.6 棕褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良
220	26	SH60102 埋土 (手)	壺	(18.0)	-	(3.6)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	7.5YR 6.8 棕褐色 7.5YR 6.8 棕褐色	鉄 Imal12下の石美、長石含む	良
221	26	SH60102 埋土 (手)	壺	(17.0)	-	(3.5)	摩滅 (不明)	ナデ	7.5YR 6.4 にない褐色 7.5YR 6.3 にない褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好
222	26	SH60102 埋土 (手)	壺	(14.0)	-	(4.2)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	7.5YR 7.6 棕褐色 7.5YR 7.6 棕褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良
223	26	SH60102 埋土 (手)	壺	(14.0)	-	(3.5)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	7.5YR 7.6 棕褐色 7.5YR 7.6 棕褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良
224	26	SH60102 埋土 (手)	壺	(15.0)	-	(4.4)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	7.5YR 7.6 明黄褐色 7.5YR 7.6 明青褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良
225	26	SH60102 埋土 (手)	壺	(20.0)	-	(12.0)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	7.5YR 5.4 にない黃褐色 7.5YR 7.6 棕褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良
226	26	SH60102 埋土 (手)	壺	(20.0)	-	(3.4)	ナデ	SYR 6.2 淡青褐色 SYR 6.2 にない褐色	やや鉄 Imal12下の石美、長石含む	良好	

弥生土器・土製品 観察表 (6)

通 報 書 番 号	種 別 番 号	遺 跡 名 前 位 名	器 種	量 (cm)			測定		色調		地 質	地 成	
				口 徑	底 徑	高 度	外 面	内 面	上：外 下：内				
									口 徑	底 徑	高 度		
227	26	SH61012 理土上平	甕	(21.4)	-	(7.8)	摩滅 (不明)	指ササエ、縦條々ガキ→ 横位ミガキ	7.5YR 8/4 にない褐色 7.5YR 8/4 にない褐色	やや暗 1mm以下の石英、長石含む	良好		
228	26	SH61012 理土上平	甕	(22.5)	-	(8.0)	縦條々ガキ 列点文	摩滅 (不明)	7.5YR 8/6 暗褐色 7.5YR 8/6 明褐色	粗 1~5mmの石英、長石含む	良好		
229	26	SH61012 理土上平	甕	(23.0)	-	(16.3)	列点文	摩滅 (不明)	7.5YR 8/4 暗褐色 7.5YR 8/2 黄褐色	やや暗 5mm以下の石英、長石含む	良		
230	26	SH61012 理土上平	甕	(24.2)	-	(4.7)	摩滅 (不明) 輪郭直線文4本1束3条	摩滅 (不明)	10YR 8/1 灰褐色 10YR 8/1 にない暗褐色	やや暗 1~2mmの石英、長石含む	良好		
231	26	SH61012 理土上平	甕	(29.2)	-	(6.0)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	7.5YR 8/4 にない褐色 7.5YR 8/4 にない褐色	やや暗 2mm以下の石英、長石含む	良好		
232	26	SH61012 理土上平	甕	(33.0)	-	(12.6)	縦條々ガキ→縦位ミガキ 列点文	指ササエ→縦條々ガキ 列点文	7.5YR 8/3 にない褐色 7.5YR 8/3 にない褐色	やや暗 2mm以下の石英、長石含む	良好		
233	27	SH61012 理土上平	広口壺	(13.4)	-	(3.3)	縦條々ガキ	横位ミガキ	7.5YR 8/3 にない褐色 7.5YR 8/3 にない褐色	やや暗 2mm以下の石英、長石含む	良好		
234	27	SH61012 理土上平	広口壺	(16.0)	-	(4.0)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	7.5YR 8/2 暗褐色 7.5YR 8/2 暗褐色	粗 6mm以下の石英、長石含む	良		
235	27	SH61012 理土上平	広口壺	(18.9)	-	(8.6)	摩滅 (不明) 輪郭直線文	指頭ナツメ	10YR 7/4 にない暗褐色 10YR 7/4 にない暗褐色	やや暗 1~2mmの石英、長石含む	良好		
236	27	SH61012 理土上平	無縫甕	(8.8)	-	(6.0)	輪郭直線文2本1束3条以上, 輪郭直線文5本1束2条	指ササエ	25YR 8/2 从白色 25Y 8/2 从白色	やや暗 1mm以下の石英、長石含む	良好		
237	27	SH61012 理土上平	無縫甕	(7.0)	-	(10.0)	輪郭直線文2本1束2条, 輪郭直線文5本1束3条以上, 輪郭直線文5本1束2条	指頭ナツメ, 指頭ミサツ	5YR 6/6 暗褐色 5YR 6/6 暗褐色	やや暗 1mm以下の石英、長石含む	良好		
238	27	SH61012 理土上平	無縫甕	(6.0)	-	(19.5)	ナード→横條々ガキ→縦條々ガキ 輪郭直線文2本1束3条以上, 輪郭直線文5本1束2条, 列点文	指頭ナツメ, 指頭ササエ	5YR 5/4 にない半褐色 7.5YR 6/4 にない褐色	半 1mm以下の石英、長石含む	良好		
239	27	SH61012 理土上平	(底部)	-	6.0	(3.3)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	5YR 6/6 暗褐色 10YR 5/3 にない黃褐色	粗 1mm以下の石英、長石含む	良		
240	27	SH61012 理土上平	(底部)	-	6.0	(3.3)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	25YR 7/6 暗褐色 25Y 7/6 暗褐色	やや暗 1mm以下の石英、長石含む	良		
241	27	SH61012 理土上平	(底部)	-	6.0	(4.0)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	7.5YR 8/4 暗褐色 10YR 8/4 从白色	やや暗 5mm以下の石英、長石含む	良		
242	27	SH61012 理土上平	(底部)	-	G.0	(4.6)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	5YR 7/6 暗褐色 7.5Y 7/3 にない褐色	やや暗 4mm以下の石英、長石含む	良		
243	27	SH61012 理土上平	(底部)	-	G.0	(4.8)	縦位ミガキ	ナード	5YR 6/6 暗褐色 7.5Y 6/2 暗褐色	やや暗 4mm以下の石英、長石含む	良		
244	27	SH61012 理土上平	(底部)	-	G.0	(6.7)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	25YR 8/3 明褐色 25Y 8/3 明褐色	粗 1mm以下の石英、長石含む	良		
245	27	SH61012 理土上平	(底部)	-	G.0	(7.0)	摩滅 (不明)	ナード	10YR 7/3 にない黃褐色 10YR 7/3 にない黃褐色	やや暗 2mm以下の石英、長石含む	良		
246	27	SH61012 理土上平	(底部)	-	G.0	(8.0)	縦條々ガキ	ナード	10YR 7/6 明褐色 10YR 5/2 从黃褐色	やや暗 3mm以下の石英、長石含む	良好		
247	27	SH61012 理土上平	壺	(16.0)	-	(2.5)	縦位ミガキ	横位ミガキ	10YR 7/3 にない黃褐色 10YR 7/2 にない黃褐色	やや暗 3mm以下の石英、長石含む	良		
248	27	SH61012 理土上平	縫跡串	(24.1)	4.2	(0.6)	摩滅 (不明) 縫跡串 (焼成後), 土器軸用	摩滅 (不明)	7.5YR 8/3 暗褐色 7.5YR 8/3 暗褐色	やや暗 2mm以下の石英、長石含む	良好		
249	27	SH61012 理土上平	縫跡串	(23.0)	(3.6)	(0.5)	摩滅 (不明) 縫跡串 (焼成後), 土器軸用	摩滅 (不明)	7.5YR 8/6 暗褐色 10YR 7/6 暗褐色	やや暗 1mm以下の石英、長石含む	良好		
250	27	SH61012 理土上平	甕	(17.0)	-	(3.8)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	7.5YR 7/2 暗褐色 7.5Y 7/2 暗褐色	1~2mmの石英、長石含む	良好		
251	27	SH61012 理土上平	甕	(20.2)	-	(5.0)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	7.5YR 6/4 にない黃褐色	やや暗 1mm以下の石英、長石含む	-		
252	27	SH61012 理土上平	甕	(20.4)	-	(6.5)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	5YR 5/6 明赤褐色 7.5Y 5/6 明赤褐色	やや暗 1mm以下の石英、長石含む	良好		
253	27	SH61012 理土上平	甕	(21.4)	-	(7.1)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	5YR 5/6 明赤褐色 5YR 5/6 明赤褐色	やや暗 1mm以下の石英、長石含む	良		
254	27	SH61012 理土上平	広口壺	(11.0)	-	(4.0)	ナード 指頭ササエ 輪郭直線文2本1束3条 縫跡串	ナード, 指頭ササエ ナード, 回頭ナツメ	5YR 6/5 暗褐色 5YR 6/5 暗褐色	やや暗 3mm以下の石英、長石含む	良好		
255	27	SH61012 理土上平	(底部)	-	4.6	(5.0)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	7.5YR 8/6 明褐色 7.5Y 8/6 明褐色	やや暗 3mm以下の石英、長石含む	良		
256	27	SH61012 理土上平	(底部)	-	7.4	(4.5)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	5YR 4/6 从褐色 5YR 5/4 にぶる赤褐色	やや暗 2mm以下の石英、長石含む	良		
257	27	SH61012 理土上平	(底部)	-	8.6	(5.5)	摩滅 (不明)	板ナード	7.5YR 7/6 暗褐色 5YR 6/5 暗褐色	半 3mm以下の石英、長石含む	良好		
258	27	SH61012 理土上平	(底部)	-	10.3	(4.6)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	5YR 5/6 明赤褐色 5YR 5/6 明赤褐色	半 3mm以下の石英、長石含む	良好		
259	27	SH61012 理土上平	(底部)	-	7.0	(6.0)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	7.5YR 7/6 暗褐色 7.5Y 7/6 暗褐色	半 3mm以下の石英、長石含む	良好		
260	27	SH61012 理土上平	(底部)	-	5.0	(8.6)	縦條々ガキ	指ササエ→縦條々ガキ	10YR 7/4 从白色 7.5YR 7/4 にない褐色	やや暗 2mm以下の石英、長石含む	良好		
261	27	SH61012 理土上平	(底部)	-	8.8	(12.0)	縦條々ガキ	横位ミガキ	10YR 7/4 从白色 7.5YR 7/4 にない褐色	やや暗 1mm以下の石英、長石含む	良好		
262	28	SH61012 理土上平且群	甕	(16.7)	-	(4.8)	指ササエ 輪郭直線文2本1束3条 縫跡串	指ササエ 摩滅直線文2本1束3条 縫跡串	5YR 5/6 明赤褐色 5YR 5/6 明赤褐色	やや暗 5mm以下の石英、長石含む	良		
263	28	SH61012 理土上平且群	甕	(18.2)	-	(7.9)	ナード 指頭ササエ 輪郭直線文2本1束3条 縫跡串	ナード, 指頭ササエ ナード, 指頭ササエ	10YR 7/3 黑褐色 25Y 6/2 にぶる褐色	やや暗 1mm以下の石英、其石含む	良好		
264	28	SH61012 理土上平且群	甕	(18.6)	-	(4.5)	縦條々ガキ	摩滅 (不明)	5YR 5/4 にぶる赤褐色 7.5Y 5/4 にぶる褐色	やや暗 1mm以下の石英、長石含む	良好		
265	28	SH61012 理土上平且群	甕	(18.9)	-	(7.6)	指頭ササエ 輪郭直線文2本1束	摩滅 (不明)	10YR 7/3 にぶる褐色 10YR 7/3 にぶる褐色	やや暗 1mm以下の石英、長石含む	良好		
266	28	SH61012 理土上平且群	広口壺	(14.8)	-	(26.5)	縦條々ガキ 指頭ササエ 輪郭直線文2本1束 縫跡串	指ササエ→縦條々ガキ 指ササエ 摩滅直線文2本1束3条 縫跡串	7.5YR 8/2 暗褐色 7.5Y 8/2 暗褐色	やや暗 1mm以下の石英、長石含む	良好		
267	28	SH61012 理土上平且群	甕	(25.0)	-	(12.7)	縦條々ガキ 指頭ササエ 輪郭直線文2本1束3条	ナード	10YR 7/4 にぶる褐色 10YR 6/4 にぶる褐色	半 1mm以下の石英、長石含む	良好		
268	28	SH61012 理土上平且群	甕	(29.9)	-	(10.3)	ナード 指頭ササエ 輪郭直線文2本1束5条 縫跡串	ナード, 指頭ササエ ナード, 指頭ササエ	10YR 7/3 にぶる褐色 10YR 5/4 にぶる褐色	やや暗 1mm以下の石英、長石含む	良好		
269	28	SH61012 理土上平且群	甕	(19.9)	-	(6.1)	摩滅 (不明)	縦條々ガキ	10YR 6/4 にぶる褐色 10YR 6/3 にぶる褐色	やや暗 2mm以下の石英、長石含む	良好		

## 弥生土器・土製品 観察表 (7)

通巻 番号	場所 番号	地名	施設名	器種	法量 (cm)			調整		色調		鉢土	焼成
					口径	底径	高さ	外面	内面	上: 面	下: 面		
270	28	SH6102	植土上平台部	甕	(187)	-	[13.0]	甕底直筒: 1.9cm 縁直筒直筒: 2.5cm以上1束1条、 5cm以上1束1条	指頭ナデ	75YR 5/4 にふい褐色 5YR 5/4 にふい褐色	相 3cm以下の石英・具石含む	真	
271	28	SH6102	植土上平台部	甕	(23.0)	-	[3.2]	甕底(不明)	甕底(不明)	10YR 5/4 にふい褐色 10YR 5/4 にふい褐色	相 3cm以下の石英・具石含む	真好	
272	28	SH6102	植土上平台部	甕	(28.0)	-	[1.8]	指頭サエ 指頭直筒直筒: 2条	指頭ナデ	10YR 6/4 にふい褐色 25YR 6/6 棕色	やや相 1~5mmの石英・具石含む	良好	
273	28	SH6102	植土上平台部	甕	(32.0)	-	[5.5]	甕底(不明)	甕底(不明)	75YR 5/6 棕色 5YR 7/6 棕色	相 1~5mmの石英・具石含む	良好	
274	28	SH6102	植土上平台部	甕	(16.0)	-	[6.5]	縁位ハケ	縁位ミガキ	5YR 7/3 にふい褐色 5YR 7/6 棕色	やや相 1~5mmの石英・具石含む	真好	
275	28	SH6102	植土上平台部	甕	(22.0)	-	[7.3]	甕底(不明)	甕底(不明)	75YR 6/6 棕色 10YR 7/6 明顯褐色	やや相 2cm以下の石英・具石含む	真好	
276	28	SH6102	植土上平台部	甕	(26.0)	-	[2.9]	縁位ハケ	ナデ	25YR 6/6 棕色 25YR 6/6 棕色	やや相 2cm以下の石英・具石含む	真好	
277	28	SH6102	植土上平台部	甕	(40.0)	-	[28.4]	ナデ	指オサエ→縁位ミガキ	75YR 6/4 に二い褐色 25YR 5/6 棕褐色	やや相 4mm以下の石英・具石含む	真	
278	28	SH6102	植土上平台部	手づくね土器	(7.0)	4.0	[7.7]	指オサエ→縁位ハケ	甕底(不明)	10YR 4/4 に黄褐色 10YR 8/4 淡紫褐色	やや相 1mm以下の石英・具石含む	良好	
279	29	SH6102	植土上平台部	広口甕	(19.0)	-	[1.6]	ナデ	縁位ミガキ	ナデ	10YR 8/2 白褐色 10YR 8/3 淡紫褐色	やや相 2mm以下の石英・長石含む	真
280	29	SH6102	植土上平台部	広口甕	(15.0)	-	[3.9]	ナデ	縁位ミガキ	5YR 7/6 棕色 25YR 6/6 棕色	やや相 1~5mmの石英・具石含む	真好	
281	29	SH6102	植土上平台部	広口甕	(16.0)	-	[6.1]	ナデ、指オサエ	指オサエ→縁位ミガキ	10YR 6/6 棕褐色 25YR 5/6 棕褐色	やや相 2mm以下の石英・具石含む	真好	
282	29	SH6102	植土上平台部	直筒甕	(8.0)	-	[27.9]	縁位ハケ→縁位ミガキ 指頭直筒直筒: 1束1条	ナデ	10YR 3/3 にふい褐色 10YR 3/3 黑褐色	やや相 1~5mmの石英・具石含む	真好	
283	29	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	5.2	[2.3]	甕底(不明)	甕底(不明)	10YR 5/1 黑褐色	やや相 3cm以下の石英・長石含む	真好	
284	29	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	5.6	[3.7]	甕底(不明)	ナデ	10YR 6/5 にふい褐色	やや相 3cm以下の石英・長石含む	真	
285	29	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	6.0	[2.5]	甕底(不明)	甕底(不明)	25YR 7/6 棕色 75YR 4/1 黑褐色	やや相 2mm以下の石英・長石含む	真好	
286	29	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	6.0	[7.0]	縁位ミガキ	ナデ	10YR 6/5 黑褐色	やや相 1~5mmの石英・長石含む	真好	
287	29	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	6.0	[4.6]	甕底(不明)	甕底(不明)	10YR 6/5 黑褐色	やや相 1~5mmの石英・長石含む	真好	
288	29	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	6.0	[8.2]	甕底(不明)	甕底(不明)	75YR 7/4 棕色 75YR 6/6 棕色	やや相 2mm以下の石英・具石含む	真好	
289	29	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	6.0	[6.8]	ナデ	指オサエ 「シボリサケを明帯に残す」	5YR 6/6 棕色 75YR 6/3 にふい褐色	やや相 4mm以下の石英・具石含む	真好	
290	29	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	6.0	[3.9]	縁位ミガキ	板ナデ	5YR 7/4 にふい褐色 75YR 7/4 にふい褐色	やや相 4mm以下の石英・長石含む	真	
291	29	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	6.0	[7.0]	縁位ミガキ	ナデ	25YR 6/4 にふい褐色 5YR 6/4 にふい褐色	やや相 1~5mmの石英・長石含む	真好	
292	29	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	10.0	[7.5]	縁位ミガキ	板ナデ	10YR 6/5 黑褐色	やや相 3cm以下の石英・長石含む	真好	
293	29	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	9.4	[11.0]	縁位ミガキ	ナデ+ミガキ	25YR 5/6 棕褐色 5YR 6/4 にふい褐色	やや相 3cm以下の石英・具石含む	真好	
294	29	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	6.0	[6.8]	縁位ミガキ	ナデ+ミガキ	5YR 6/6 棕色 75YR 6/3 にふい褐色	やや相 4mm以下の石英・具石含む	真好	
295	29	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	6.0	[3.9]	縁位ミガキ (赤色顔料付着)	甕底(不明)	5YR 7/4 にふい褐色 75YR 6/3 黑褐色	やや相 4mm以下の石英・具石含む	真好	
296	29	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	14.0	[21.0]	縁位ミガキ 縁位ハケ、縁位ミガキ	ナデ	25YR 6/4 にふい褐色 25YR 6/2 黑褐色	やや相 4mm以下の石英・長石含む	真好	
297	29	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	14.0	[8.2]	縁位ミガキ 縁位直筒直筒: 1束1条 縁位直筒直筒: 1束1条	甕底(不明)	75YR 4/3 褐色 75YR 6/6 褐色	やや相 3cm以下の石英・長石含む	真好	
298	29	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	14.0	[3.8]	縁位ミガキ 縁位直筒直筒: 1束1条 縁位直筒直筒: 1束1条	ナデ	75YR 6/4 にふい褐色 75YR 5/2 黑褐色	やや相 3cm以下の石英・長石含む	真好	
299	29	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	14.0	[13.3]	縁位ミガキ 縁位直筒直筒: 1束1条 縁位直筒直筒: 1束1条	ナデ	10YR 6/3 黑褐色	やや相 3cm以下の石英・長石含む	真好	
300	29	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	8.7	[4.0]	縁位ミガキ	ナデ	25YR 7/6 棕色 10YR 5/3 にふい褐色	やや相 3cm以下の石英・長石含む	真好	
301	29	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	8.0	[6.2]	甕底(不明)	甕底(不明)	25YR 6/4 にふい褐色 75YR 7/2 黑褐色	やや相 2mm以下の石英・長石含む	真好	
302	29	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	8.0	[7.6]	甕底(不明)	甕底(不明)	25YR 6/8 棕色 75YR 7/6 棕色	やや相 3cm以下の石英・長石含む	真好	
303	30	SH6102	植土上平台部	広口甕	(10.0)	-	[5.6]	縁位ミガキ	ナデ	5YR 6/5 明細褐色 75YR 6/6 棕色	やや相 3cm以下の石英・長石含む	真好	
304	30	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	5.0	[4.7]	甕底(不明)	縁位ミガキ	10YR 7/4 にふい褐色 10YR 7/4 にふい褐色	やや相 3cm以下の石英・長石含む	真好	
305	30	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	5.0	[6.4]	甕底(不明)	甕底ミガキ、指オサエ	5YR 5/6 明細褐色 75YR 5/3 にふい褐色	やや相 3cm以下の石英・長石含む	真好	
306	30	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	5.0	[5.4]	甕底(不明)	ナデ、指オサエ	75YR 6/6 棕色 75YR 7/4 にふい褐色	やや相 4mm以下の石英・具石含む	真好	
307	30	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	5.0	[5.9]	縁位ミガキ	甕底(不明)	75YR 6/4 にふい褐色 75YR 7/6 棕色	やや相 4mm以下の石英・長石・貝舌含む	真好	
308	30	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	5.0	[3.0]	甕底(不明)	甕底(不明)	75YR 6/6 棕色 75YR 6/6 棕色	やや相 4mm以下の石英・長石含む	真	
309	30	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	5.0	[2.0]	甕底(不明)	甕底(不明)	75YR 7/6 棕色 75YR 6/6 棕色	やや相 3cm以下の石英・長石含む	真好	
310	30	SH6102	植土上平台部	(底部)	-	5.0	[5.4]	甕底(不明)	甕底(不明)	75YR 6/6 棕色 75YR 6/6 棕色	やや相 3cm以下の石英・長石含む	真	
311	30	SH6102	植土上平台部	甕	(22.0)	-	[4.9]	ナデ 縁位直筒直筒: 1束1条	ナデ	75YR 6/6 棕色 75YR 6/4 にふい褐色	やや相 1~2mmの石英・長石含む	真好	
312	30	SH6102	植土上平台部	甕	(15.0)	-	[6.4]	甕底(不明)	ナデ、指オサエ	75YR 6/6 明細褐色 75YR 5/4 にふい褐色	やや相 3cm以下の石英・長石含む	良好	
313	30	SH6102	植土上平台部	広口甕	(16.0)	-	[4.8]	甕底(不明)	甕底(不明)	75YR 6/6 棕色 75YR 6/8 棕色	相 3cm以下の石英・長石含む	真	
314	30	SH6102	植土上平台部	広口甕	(23.0)	-	[22.0]	ナデ	10YR 6/2 に灰褐色 75YR 5/3 にふい褐色	やや相 3cm以下の石英・長石含む	真好		

弥生土器・土製品 観察表(8)

番号	場所	遺物名	器種	測量 (cm)			調整		色調		地土	焼成
				口径	底径	高さ	外側	内側	上:外側 下:内側			
315	30	SH6102 理土下平	盃	-	-	[10.3]	摩滅(不明) 縹緲波文、横推波状 模様、穿孔1孔。(焼成後)	ナデ	ナデ・指オサエ	IORY 7/4 にない褐色 IORY 7/3 にない褐色	青 Ims以下の石英・長石含む	良好
316	30	SH6102 理土下平	(底部)	-	6.0	[3.3]	摩滅(不明)	ナデ	ナデ	7.5YR 5.6 明褐色 7.5YR 5.3 にない褐色	やや青 2mm以下の石英・長石含む	良
317	30	SH6102 理土下平	(底部)	-	6.0	[3.3]	摩滅(不明) 穿孔: 穿孔1孔。(焼成前)	指オサエ	ナデ	SYR 5.6 明褐色 7.5YR 5.3 にない褐色	やや青 1~5mmの石英・長石含む	良好
318	30	SH6102 理土下平	(底部)	-	6.0	[3.3]	摩滅(不明)	ナデ	ナデ	SYR 6.6 棕褐色 IORY 6.2 棕褐色	やや青 1~5mmの石英・長石含む	良好
319	30	SH6102 理土下平	(底部)	-	7.0	[4.6]	摩滅(不明)	摩滅(不明)	ナデ	7.5YR 6.6 棕褐色 2.5YR 6.6 棕褐色	やや青 1~2mmの石英・長石含む	良好
320	30	SH6102 理土下平	(底部)	-	7.0	[4.1]	摩滅(不明)	指オサエ	ナデ	7.5YR 6.3 にない褐色 IORY 6.2 淡褐色	やや青 3mm以下の石英・長石含む	良
321	30	SH6102 理土下平	(底部)	-	7.0	[3.5]	縦竪ミガキ	ナデ	ナデ	SYR 6.6 棕褐色 SYR 6.3 淡褐色	やや青 3mm以下の石英・長石含む	良好
322	30	SH6102 理土下平	(底部)	-	7.4	[8.2]	縦竪ミガキ	板ナデ	ナデ	7.5YR 7.4 にない褐色 7.5YR 6.3 にない褐色	やや青 4mm以下の石英・長石含む	良
323	30	SH6102 理土下平	(底部)	-	-	[4.5]	縦竪ミガキ	摩滅(不明)	ナデ	SYR 4.4 淡褐色 SYR 4.1 淡褐色	やや青 4mm以下の石英・長石含む	良好
324	30	SH6102 理土下平	(底部)	-	7.0	[7.2]	縦竪ミガキ	摩滅(不明)	ナデ	IORY 7/4 にない褐色 IORY 7/4 にない褐色	やや青 5mm以下の石英・長石含む	良好
325	30	SH6102 中央土坑	(底部)	-	8.0	[2.0]	摩滅(不明)	摩滅(不明)	ナデ	SYR 5.6 明褐色 SYR 5.6 明褐色	やや青 4mm以下の石英・長石含む	良
326	30	SH6102 中央土坑	(底部)	-	7.0	[6.6]	摩滅(不明)	ナデ	ナデ	7.5YR 6.9 明褐色 7.5YR 6.6 淡褐色	やや青 4mm以下の石英・長石含む	良好
327	30	SH6102 中央土坑	(底部)	-	8.0	[4.0]	縦竪ミガキ	ナデ	ナデ	2.5YR 5.6 明褐色 SYR 4.7 淡褐色	やや青 4mm以下の石英・長石含む	良好
328	30	SH6102 中央土坑	(底部)	-	9.0	[9.0]	縦竪ミガキ	ナデ	ナデ	IORY 6.2 淡褐色 7.5YR 6.4 にない褐色	やや青 5mm以下の石英・長石含む	良好
329	30	SH6102 中央土坑	鉢	6.0	2.3	[5.5]	上縁直、内縁: 刺突・円孔2孔。 沈縫	-	ナデ	SYR 6.5 棕褐色 7.5YR 7.4 にない褐色	微細砂	良
330	31	SH6103 土坑	甕	10.0	-	[2.2]	摩滅(不明)	摩滅(不明)	ナデ	7.5YR 6.6 棕褐色 IORY 6.6 明褐色	相 3mm以下の石英・長石含む	良
331	31	SH6103 土坑	甕	16.0	-	[2.7]	摩滅(不明)	縦竪ミガキ	ナデ	7.5YR 6.4 にない褐色 7.5YR 6.4 にない褐色	やや青 3mm以下の石英・長石含む	良好
332	31	SH6103 土坑	甕	22.0	-	[3.5]	縦竪ハケ	横ナデ	ナデ	2.5YR 5.6 明褐色 SYR 6.5 棕褐色	やや青 5mm以下の石英・長石含む	良好
333	31	SH6103 土坑	甕	22.0	-	[1.9]	ナデ・指オサエ	ナデ	ナデ	7.5YR 5.4 にない褐色 7.5YR 5.2 にない褐色	やや青 2mm以下の石英・長石含む	良好
334	31	SH6103 土坑	甕	26.0	-	[5.0]	ナデ	ナデ	ナデ	SYR 6.6 棕褐色 7.5YR 6.4 にない褐色	相 1~5mmの石英・長石含む	良
335	31	SH6103 土坑	無断面	10.0	-	[3.9]	摩滅(不明)	摩滅(不明)	ナデ	SYR 4.7 淡褐色 SYR 4.4 にない褐色	相 1~3mmの石英・長石・白雲母含む	良好
336	31	SH6103 土坑	無断面	14.0	-	[4.0]	ナデ	縦竪直書き文5本1束2条	横ナデ	7.5YR 6.4 にない褐色 IORY 6.2 にない褐色	やや青 4mm以下の石英・長石含む	良好
337	31	SH6103 土坑	無断面	23.0	-	[3.3]	摩滅(不明)	(赤色部分付着)	ナデ	7.5YR 6.4 にない褐色 7.5YR 6.4 にない褐色	やや青 3mm以下の石英・長石含む	良好
338	31	SH6103 手持	手持	-	-	[3.0]	摩滅(不明)	指オサエ	ナデ	7.5YR 6.4 にない褐色 IORY 7/3 にない褐色	相 1~3mmの石英・長石含む	良好
339	31	SH6103 土坑	蓋	9.0	-	[4.1]	縦・横嵌ミガキ	縦・横嵌ミガキ	ナデ	2.5YR 6.4 にない赤褐色 2.5YR 6.4 にない赤褐色	相 1~4mmの石英・長石含む	良好
340	31	SH6103 土坑	(底部)	-	6.0	[4.0]	摩滅(不明)	摩滅(不明)	ナデ	7.5YR 6.6 淡褐色 7.5YR 6.6 淡褐色	相 4mm以下の石英・長石含む	良好
341	31	SH6103 土坑	(底部)	-	9.0	[3.8]	摩滅(不明)	指オサエ	ナデ	2.5YR 6.6 明褐色 SYR 6.5 棕褐色	やや青 4mm以下の石英・長石含む	良好
342	31	SH6103 土坑	(底部)	-	19.0	[2.3]	摩滅(不明)	摩滅(不明)	ナデ	IORY 6.2 淡褐色 SYR 6.5 明褐色	やや青 2mm以下の石英・長石含む	良好
343	31	SH6103 土坑	(底部)	-	19.0	[3.6]	摩滅(不明)	摩滅(不明)	ナデ	7.5YR 6.4 にない褐色 IORY 6.2 にない褐色	相 1~4mmの石英・長石含む	良好
344	31	SH6103 土坑	(底部)	-	19.0	[2.7]	摩滅(不明) 瓦: 穴孔、穿孔	摩滅(不明)	ナデ	7.5YR 6.6 棕褐色 SYR 6.5 棕褐色	やや青 3mm以下の石英・長石含む	良好
345	31	SH6103 土坑	(底部)	-	6.0	[6.0]	縦竪ミガキ・指オサエ	横ナデ	ナデ	SYR 5.4 にない赤褐色 SYR 6.4 にない赤褐色	相 4mm以下の石英・長石含む	良好
346	32	SH6104 土坑	甕	16.0	-	[1.0]	摩滅(不明)	摩滅(不明)	ナデ	IORY 6.2 淡褐色 7.5YR 6.7 淡褐色	やや青 1mm以下の石英・長石含む	良好
347	32	SH6105 土坑	広口甕	15.0	-	[3.5]	縦竪ハケ	摩滅(不明)	ナデ	IORY 8/4 にない赤褐色 IORY 8/4 淡褐色	やや青 1~3mmの石英・長石含む	良
348	32	SH6105 土坑	広口甕	26.0	-	[2.6]	摩滅(不明)	摩滅(不明)	ナデ	2.5YR 5.6 明褐色 2.5YR 5.6 明褐色	やや青 3mm以下の石英・長石含む	良
349	32	SH6105 (底部)	-	16.0	-	[3.6]	縦竪ミガキ	摩滅(不明)	ナデ	IORY 5.6 にない赤褐色 IORY 5.2 にない赤褐色	相 1~3mmの石英・長石含む	良
350	33	SH61003 土坑	無断面	-	-	[5.2]	摩滅(不明)	縦竪ハケ・指オサエ	ナデ	7.5YR 6.2 淡褐色 7.5YR 5.3 淡褐色	やや青 1~2mmの石英・長石含む	良好
351	33	SH61003 土坑	甕	17.0	-	[4.7]	ナデ	ナデ	ナデ	7.5YR 7/4 にない褐色 7.5YR 8/4 浅褐色	やや青 4mm以下の石英・長石含む	良好
352	33	SH61003 土坑	(底部)	16.0	-	[2.0]	縦竪ハケ	摩滅(不明)	ナデ	IORY 4.2 淡褐色 IORY 4.2 淡褐色	やや青 1~2mmの石英・長石・白雲母含む	良好
353	33	SH61003 土坑	甕	17.0	-	[2.7]	縦竪ハケ 瓦: 穴孔、穿孔	ナデ	IORY 5.2 淡褐色 7.5YR 5.3 にない褐色	やや青 1~2mmの石英・長石・白雲母含む	良好	
354	33	SH61003 土坑	甕	19.0	-	[3.7]	縦竪ミガキ	ナデ	7.5YR 6.4 にない褐色 7.5YR 6.4 にない褐色	やや青 1~2mmの石英・長石含む	良	
355	33	SH6104 土坑	甕	16.0	-	[2.0]	ナデ	ナデ	IORY 7/4 にない褐色 IORY 7/4 にない褐色	相 1~2mmの石英・長石含む	良好	
356	33	SH6104 土坑	甕	16.0	-	[1.7]	ナデ	ナデ	ナデ	IORY 7/4 にない褐色 IORY 7/4 にない褐色	相 1~2mmの石英・長石含む	良好
357	33	SH6104 土坑	甕	16.0	-	[1.7]	ナデ	ナデ	ナデ	IORY 5.6 淡褐色 SYR 5.4 にない褐色	やや青 1~2mmの石英・長石含む	良好
358	33	SH6104 土坑	甕	19.0	-	[1.2]	ナデ	ナデ	ナデ	2.5YR 5.6 淡褐色 2.5YR 5.6 淡褐色	やや青 1~2mmの石英・長石含む	良好
359	33	SH6104 土坑	甕	-	-	[5.4]	縦竪ハケ	摩滅直書き文本	ナデ	IORY 6/2 にない褐色 IORY 6/2 にない褐色	相 1~2mmの石英・長石含む	良好

弥生土器・土製品 観察表 (9)

監査番号	検査番号	通査名	器種	測量 (cm)		調整	色調		地質	地成	
				口径	底径		外面	内面			
360	33	SS61017 土器	甕	(27.4)	-	(4.0)	縦凹ハケ L脚端部・附縫文	縦拉ミガキ	SYR 5.4 にない・褐色 7.5YR 5.4 にない・褐色	やや堅 3m以下の石英・長石含む	良好
361	33	SS61017 土器	広口甕	(23.0)	-	(1.4)	ナデ	ナデ	7.5YR 4.5 暗褐色 7.5YR 4.5 にない・褐色	やや堅 3m以下の石英・長石含む	良好
362	33	SS61017 土器	甕部	-	(6.0)	(6.0)	縦拉ミガキ	縦拉ミガキ	7.5YR 6.6 暗褐色 7.5YR 6.6 にない・褐色	やや堅 4m以下の石英・長石含む	良好
363	33	SS61017 土器	甕部	-	(7.2)	(4.2)	縦拉ミガキ	板ナデ	7.5YR 6.6 暗褐色 7.5YR 6.6 にない・褐色	やや堅 4m以下の石英・長石含む	良好
364	33	SS61017 土器	甕部	-	(6.0)	(4.5)	縦拉ミガキ	板ナデ	7.5YR 6.7 にない・褐色 7.5YR 6.7 にない・褐色	やや堅 4m以下の石英・長石含む	良好
365	33	SS61017 土器	甕部	-	(5.0)	(4.5)	縦拉ミガキ	ナデ・指オサエ→縦拉ミガキ	7.5YR 6.6 暗褐色 7.5YR 6.6 にない・褐色	やや堅 4m以下の石英・長石含む	良好
366	33	SS61017 土器	甕部	-	(7.0)	(3.4)	縦拉ミガキ 底部: 粘土・指オサエ	ナデ・指オサエ	7.5YR 6.7 にない・褐色 7.5YR 6.7 にない・褐色	やや堅 4m以下の石英・長石含む	良好
367	33	SS61017 土器	甕部	-	(7.2)	(3.5)	縦拉ミガキ	ナデ	7.5YR 6.3 にない・褐色 7.5YR 6.3 にない・褐色	やや堅 4m以下の石英・長石含む	良好
368	33	SS61017 土器	甕部	-	(7.0)	(4.7)	縦拉ミガキ	板ナデ	7.5YR 5.4 にない・褐色 7.5YR 5.4 にない・褐色	やや堅 4m以下の石英・長石含む	良好
369	33	SS61017 土器	甕部	-	(6.0)	(5.2)	縦拉ミガキ 底部: 粘土・孔 (焼成前)	ナデ・指オサエ	7.5YR 6.2 暗褐色 7.5YR 6.2 にない・褐色	やや堅 4m以下の石英・長石含む	良好
370	33	SS61017 土器	甕部	-	(8.0)	(6.0)	縦拉ミガキ	ナデ	7.5YR 4.3 暗褐色 7.5YR 4.3 暗褐色	やや堅 4m以下の石英・長石含む	良好
371	33	SS61017 土器	甕部	-	(6.0)	(3.7)	摩滅 (不明)	ナデ→指オサエ	10YR 7.3 にない・黃褐色 10YR 7.3 にない・黃褐色	やや堅 4m以下の石英・長石含む	良好
372	33	SS61017 土器	甕部	-	(6.0)	(4.7)	ナデ	縦拉ミガキ	25YR 6.6 暗褐色 25YR 6.6 にない・褐色	やや堅 4m以下の石英・長石含む	良好
373	33	SS61017 土器	甕部	-	(7.0)	(3.4)	摩滅 (不明)	縦拉ミガキ	25YR 6.6 にない・褐色 25YR 6.6 にない・褐色	やや堅 4m以下の石英・長石含む	良好
374	33	SS61017 土器	甕部	-	(10.0)	(3.5)	摩滅 (不明)	指オサエ	25YR 6.1 にない・褐色 25YR 6.1 黑褐色	やや堅 4m以下の石英・長石含む	良
375	33	SS61017 土器	甕部	-	(6.0)	(8.5)	縦拉ミガキ	縦拉ミガキ	10YR 7.2 にない・黃褐色 10YR 7.2 にない・黃褐色	やや堅 3m以下の石英・長石含む	良好
376	33	SS61017 土器	甕部	-	(9.4)	(6.0)	縦拉ミガキ	指オサエ→縦拉ミガキ	25YR 6.4 にない・褐色 25YR 6.4 にない・褐色	やや堅 3m以下の石英・長石含む	良好
377	33	SS61022 土器	直	-	(6.0)	(4.5)	ナデ・縦拉ミガキ 指オサエ 2 才 1 才 2 才 (焼成前)	摩滅 (不明)	7.5YR 7.4 にない・褐色 10YR 6.6 暗褐色	やや堅 3m以下の石英・長石含む	良好
378	33	SS61023 土器	甕部	-	(8.0)	(3.7)	縦拉ミガキ	縦拉ミガキ	7.5YR 6.6 明褐色 7.5YR 6.6 にない・褐色	やや堅 3m以下の石英・長石・墨目含む	良好
379	33	SS61025 土器	甕部	-	(5.0)	(1.0)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	10YR 6.3 にない・黃褐色 10YR 6.3 にない・黃褐色	やや堅 3m以下の石英・長石・墨目含む	良好
380	33	SS61025 土器	無腹甕	(6.0)	-	(6.0)	縦拉ミガキ	縦拉ミガキ	7.5YR 7.4 にない・褐色 7.5YR 7.4 2 次褐色	やや堅 3m以下の石英・長石・墨目含む	良好
381	33	SS61028 土器	直	(2.7)	-	(8.0)	縦凹ハケ→縦拉ミガキ	縦拉ミガキ	10YR 6.3 にない・黃褐色 10YR 6.3 にない・黃褐色	やや堅 3m以下の石英・長石含む	良好
382	33	SS61029 土器	甕部	-	(10.0)	(4.2)	縦拉ミガキ	摩滅 (不明)	7.5YR 6.6 暗褐色 7.5YR 6.6 暗褐色	やや堅 3m以下の石英・長石含む	良好
383	33	SS61031 土器	広口甕	(15.0)	-	(12.0)	ナデ	ナデ	SYR 6.6 暗褐色 SYR 6.6 暗褐色	やや堅 4m以下の石英・長石含む	良好
384	33	SS61031 土器	甕	(36.0)	-	(2.5)	摩滅 (不明) L脚部・側壁修復による剥突 L脚部・削痕	摩滅 (不明) 摩滅 (不明)	SYR 6.5 暗褐色 7.5YR 6.6 暗褐色	やや堅 1~3mmの石英・長石含む	良
385	33	SS61033 土器	甕	(17.0)	-	(3.0)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	25YR 6.6 暗褐色 25YR 6.6 暗褐色	やや堅 3m以下の石英・長石含む	良好
386	34	SS61036 土器	伴	-	(15.0)	(7.0)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	7.5YR 5.4 淡褐色 7.5YR 6.6 淡褐色	やや堅 3m以下の石英・長石含む	良好
387	34	SS61037 土器	甕部	-	(5.0)	(5.5)	ナデ・瓶底付付帯や剥離	ナデ・ミガキ	25YR 5.6 明褐色 7.5YR 5.3 にない・褐色	やや堅 2m以下の石英・長石含む	良好
388	34	SS61045 土器	(甕部)	-	(7.0)	(16.0)	縦拉ミガキ	縦拉ミガキ	SYR 5.6 明褐色 25YR 5.6 暗褐色	やや堅 4m以下の石英・長石・墨目含む	良好
389	34	SS61050 土器	甕	(22.0)	-	(4.0)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	10YR 6.3 にない・黃褐色 10YR 6.3 にない・黃褐色	やや堅 3m以下の石英・長石含む	良好
390	34	SS61065 土器	甕	(18.0)	-	(7.0)	縦凹ハケ	縦拉ミガキ	10YR 7.4 にない・黃褐色 10YR 8.0 暗褐色	やや堅 3m以下の石英・長石含む	良好
391	34	SS61065 土器	甕	(24.0)	-	(14.0)	縦凹ハケ	指オサエ	10YR 6.3 にない・黃褐色 10YR 7.4 にない・黃褐色	やや堅 3m以下の石英・長石含む	良好
392	34	SS61070 土器	広口甕	(14.0)	-	(2.0)	ナデ	摩滅 (不明)	10YR 7.4 にない・黃褐色 7.5YR 6.6 暗褐色	やや堅 3m以下の石英・長石含む	良好
393	34	SS61081 土器	(甕部)	-	(5.0)	(4.1)	ナデ・指オサエ	縦拉ミガキ	25YR 6.6 暗褐色 7.5YR 5.3 にない・黃褐色	やや堅 3m以下の石英・長石・墨目含む	良
394	34	SS61089 土器	伴	(20.0)	-	(8.0)	縦凹ハケ	摩滅 (不明)	7.5YR 6.6 暗褐色 7.5YR 6.6 暗褐色	やや堅 3m以下の石英・長石・墨目含む	良好
395	34	SS61089 土器	甕	(21.0)	-	(7.0)	縦凹ハケ	ナデ	7.5YR 5.3 にない・褐色 10YR 7.4 にない・黃褐色	やや堅 3m以下の石英・長石含む	良好
396	34	SS61089 土器	甕	(23.0)	-	(4.0)	縦凹ハケ	縦拉ミガキ	7.5YR 5.3 にない・褐色 7.5YR 5.3 にない・褐色	やや堅 3m以下の石英・長石・墨目含む	良好
397	34	SS61089 土器	甕	(60.2)	-	(3.0)	摩滅 (不明)	縦拉ミガキ	10YR 7.4 にない・黃褐色 10YR 6.4 にない・黃褐色	やや堅 3m以下の石英・長石含む	良好
398	34	SS61089 土器	甕	(24.0)	-	(5.5)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	7.5YR 6.6 暗褐色 7.5YR 6.6 暗褐色	やや堅 3m以下の石英・長石含む	良好
399	34	SS61089 土器	甕	(16.0)	-	(7.0)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	SYR 6.6 暗褐色 SYR 6.6 暗褐色	やや堅 2m以下の石英・長石含む	良
400	34	SS61089 土器	甕	-	-	(22.0)	ナデ・指オサエ	摩滅 (不明)	7.5YR 6.4 にない・褐色 10YR 6.4 にない・褐色	やや堅 2m以下の石英・長石含む	良好
401	34	SS61089 土器	甕	-	-	(4.0)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	7.5YR 6.3 にない・褐色 7.5YR 6.4 にない・褐色	やや堅 2m以下の石英・長石含む	良
402	34	SS61089 土器	(甕部)	-	(6.0)	(4.5)	ナデ・指オサエ→縦拉ナデ	指オサエ→縦拉ナデ	25YR 6.6 暗褐色 7.5YR 6.1 暗褐色	やや堅 1~3mmの石英・長石含む	良
403	34	SS61102 土器	甕	(23.0)	-	(3.0)	ナデ	ナデ	7.5YR 6.6 暗褐色 10YR 6.6 明褐色	やや堅 3m以下の石英・長石含む	良好
404	34	SS61102 土器	甕	(22.0)	-	(3.0)	ナデ・指オサエ	縦拉ミガキ	7.5YR 6.6 暗褐色 7.5YR 6.6 暗褐色	やや堅 3m以下の石英・長石・墨目含む	良好

## 弥生土器・土製品 観察表 (10)

器種	器皿番号	遺構名	器種	法量 (cm)		調整		色調		胎土	焼成
				口径	底径	鉢底	外側	内面	上: 黒灰 下: 内面		
405	34	SS61102 土器	鉢	(30)9	-	(34)	摩滅 (不明)	微細ミガキ	75YR 7.6 黒褐色 75YR 6.6 黑色	密 Im3m以下の石英・長石・黒母岩含む	良好
406	34	SS61102 土器	鉢	-	-	(39)	ナデ	ナデ, 指オサエ	70YR 6.5 にふく・黒褐色 70YR 6.5 にふく・黒褐色	Im3m以下の石英・長石含む	良好
407	34	SS61102 土器	無頭器	(6)0	-	(5)6	摩滅 (不明) 錐孔直底鉢 5本 1束 1条, 錐孔	ナデ, 指ミサエ	25Y 8.4 黄褐色 25Y 8.4 黄褐色	Im3m以下の石英・長石含む	良好
408	34	SS61102 土器	広口壺	(62)	-	(7)6	ナデ	ナデ, 指ミサエ	70YR 7.0 にふく・黒褐色 70Y 7.0 にふく・黒褐色	Im3m以下の石英・長石含む	良好
409	34	SS61102 土器	蓋	14.6	-	(4.7)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	70YR 7.4 にふく・黒褐色 70YR 7.4 にふく・黒褐色	Im3m以下の石英・長石含む	良好
410	34	SS61102 土器	(追加)	-	(10)0	(4.5)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	75YR 8.6 黑褐色 75YR 8.6 黑褐色	やや粗 Im3m以下の石英・長石含む	良好
411	34	SS61103 土器	広口壺	(15)8	-	(3.8)	ナデ	ナデ, 指ミサエ	75YR 7.4 にふく・黒褐色 75YR 7.4 にふく・黒褐色	密 Im3m以下の石英・長石含む	良
412	34	SS61103 土器	無頭器	(10)8	-	(3.7)	筒状直底鉢 5本 1束 1条	微ナデ	70YR 8.2 白褐色 70Y 7.5 にふく・黒褐色	やや密 Im3m以下の石英・長石含む	良好
413	34	SS61103 土器	(底部)	-	(6)8	(2.7)	微ナデ 底部ミガキ	ナデ	70YR 6.5 にふく・黒褐色 70Y 6.5 にふく・黒褐色	やや密 Im3m以下の石英・長石含む	良好
414	34	SS61105 土器	(底部)	-	(5)8	(3.6)	摩滅 (不明)	ナデ	75YR 7.6 白褐色 70YR 7.4 にふく・黒褐色	やや粗 Im3m以下の石英・長石含む	良好
415	34	SS61105 土器	(底部)	-	(7)8	(4.0)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	10R 5.8 半褐色 10R 5.8 半褐色	粗 1~3mmの石英・長石含む	良
416	35	SS61110 土器	(底部)	-	(17)8	(4.2)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	10YR 8.4 淡黄褐色 10YR 8.4 淡黄褐色	やや粗 Im3m以下の石英・長石含む	良
417	35	SS61121 土器	(底部)	-	(16)8	(4.8)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	75YR 6.5 にふく・黒褐色 75YR 6.5 にふく・黒褐色	やや粗 Im3m以下の石英・長石・黒母岩含む	良
418	35	SS61121 土器	(底部)	-	(15)4	(6.3)	錐孔ミガキ	摩滅 (不明)	70YR 8.4 黄褐色 70YR 8.2 白褐色	やや粗 Im3m以下の石英・長石含む	良
419	35	SS61123 土器	広口壺	(18)2	-	(3.2)	ナデ, 锯波状ハケ	微ナデミガキ	SYR 5.8 明赤褐色 SYR 5.8 明赤褐色	密 Im3m以下の石英・長石・黒母岩含む	良好
420	35	SS61131 土器	(底部)	-	(5)8	(2.9)	摩滅 (不明)	ナデ	N 3.0 陶灰色 10YR 4.9 にふく・黒褐色	やや粗 2mm以下の石英・長石・墨玉含む	良
421	35	SS61135 土器	鉢	(20)6	-	(7.2)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	75YR 6.6 白褐色 75YR 6.6 白褐色	やや粗 Im3m以下の石英・長石含む	良
422	35	SS61135 土器	鉢	-	(5)6	(3.2)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	75YR 6.6 黄褐色 75YR 6.6 黄褐色	やや粗 Im3m以下の石英・長石含む	良
423	35	SS61135 土器	(底部)	-	(4)8	(4.1)	錐孔ミガキ (赤色粘料付着)	ナデ, 锯波ミガキ	75YR 6.4 にふく・黒褐色 75YR 6.4 にふく・黒褐色	やや粗 Im3m以下の石英・長石含む	良好
424	35	SS61143 土器	(底部)	-	(8)8	(6)0	1ヨキ, 锯オサエ	板ナデ	25Y 8.3 黄褐色 30YR 7.3 にふく・黒褐色	やや粗 2mm以下の石英・長石・黒母岩含む	良好
425	35	SS61145 土器	(底部)	-	(6)6	(4.9)	錐孔ミガキ	微ナデミガキ	75YR 7.4 にふく・黒褐色 75YR 7.4 にふく・黒褐色	やや粗 Im3m以下の石英・長石含む	良
426	35	SS61156 土器	(底部)	-	(5)8	(4.5)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	75YR 5.6 黑褐色 75YR 4.3 黑褐色	やや粗 Im3m以下の石英・長石含む	良
427	35	SS61165 土器	広口壺	(25)5	-	(4.3)	ナデ	ナデ	SYR 6.6 棕褐色 SYR 6.6 棕褐色	密 Im3m以下の石英・長石含む	良好
428	35	SS61176 土器	広口壺	(17)8	-	(5)8	ナデ	1ヨキ, 锯波状ハケ	75YR 6.4 にふく・黒褐色 75YR 6.4 にふく・黒褐色	やや粗 Im3m以下の石英・長石含む	良好
429	35	SS61191 土器	(底部)	-	(5)8	(4.5)	ナデ	錐, 锯波ミガキ	75YR 5.4 にふく・黒褐色 75YR 5.3 にふく・黒褐色	やや粗 Im3m以下の石英・長石含む	良好
430	35	SS61191 土器	広口壺	(18)6	-	(4.5)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	10YR 6.4 にふく・黒褐色 10YR 6.4 にふく・黒褐色	やや粗 Im3m以下の石英・長石含む	良好
431	35	SS61196 土器	(底部)	-	(7)6	(3.0)	指ナデ, 锯オサエ	ナデ	25YR 6.8 棕褐色 SYR 7.3 にふく・黒褐色	やや粗 Im3m以下の石英・長石含む	良
432	35	SS61196 土器	粘土塊	厚 5.2	厚 2.9	-	-	-	10YR 7.4 にふく・黒褐色 10YR 6.5 にふく・黒褐色	Im3m以下の石英・長石含む -	-
433	35	SS61197 土器	鉢	(21)4	-	(2.5)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	75YR 8.1 白褐色 75YR 8.1 白褐色	やや粗 Im3m以下の石英・長石含む	良好
434	35	SS61209 土器	(底部)	-	(6)8	(3.4)	ナデ	摩滅 (不明)	10YR 7.4 にふく・黒褐色 75YR 7.4 にふく・黒褐色	やや粗 Im3m以下の石英・長石含む	良好
435	35	SS61215 土器	鉢	(20)8	-	(8)8	摩滅 (不明)	微ナデミガキ	10R 6.4 にふく・黒褐色 25YR 4.4 にふく・黒褐色	やや粗 Im3m以下の石英・長石含む	良好
436	35	SS61218 土器	鉢	(20)6	-	(5)6	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	75YR 7.8 黑褐色 75YR 7.8 黑褐色	粗 3mm以下の石英・長石含む	良
437	35	SS61218 土器	鉢	(31)4	6.4	(25)3	錐孔ミガキ	ナデ	25YR 5.8 黑褐色 25YR 3.2 未開口	密 Im3m以下の石英・長石・黒母岩含む	良好
438	36	SS61226 土器	鉢	(15)8	-	(4)6	指オサエ	指オサエ, 锯波ミガキ	SYR 6.6 棕褐色 SYR 7.4 棕褐色	密 Im3m以下の石英・長石含む	良好
439	36	SS61226 土器	鉢	(7)3	-	(7)8	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	75YR 6.7 黑褐色 75YR 6.6 黑褐色	やや粗 2~3mmの石英・長石含む	良好
440	36	SS61226 土器	鉢	(18)8	-	(4.0)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	10YR 6.4 にふく・黒褐色 10YR 6.5 明黒褐色	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良好
441	36	SS61226 土器	鉢	(21)8	-	(6)9	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	10YR 7.6 黑褐色 10YR 7.6 明黒褐色	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良好
442	36	SS61226 土器	鉢	(20)8	-	(6.2)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	25Y 7.3 淡黄色 25Y 7.3 淡黄色	やや粗 4mm以下の石英・長石含む	良好
443	36	SS61226 土器	鉢	(21)6	-	(4.7)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	10YR 7.6 明黄色 75YR 7.6 淡黄色	やや粗 1~2mmの石英・長石含む	良好
444	36	SS61226 土器	鉢	(22)4	-	(6.4)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	25Y 7.2 仄圓形 10YR 6.7 にふく・黒褐色	粗 2mm以下の石英・長石含む	良
445	36	SS61226 土器	鉢	(22)4	-	(6.6)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	25Y 7.6 にふく・黒褐色 75YR 6.6 にふく・黒褐色	やや粗 1~2mmの石英・長石含む	良
446	36	SS61226 土器	鉢	(25)8	-	(3.3)	摩滅 (不明)	微ナデミガキ	75YR 6.4 にふく・黒褐色 75YR 6.4 にふく・黒褐色	やや粗 Im3m以下の石英・長石含む	良好
447	36	SS61226 土器	鉢	(27)8	-	(4.9)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	25Y 5.3 淡黄色 10YR 8.4 淡黄色	やや粗 Im3m以下の石英・長石含む	良好
448	36	SS61226 土器	鉢	(28)8	-	(5.6)	摩滅 (不明)	ナデ	25YR 7.4 にふく・黒褐色 SYR 4.4 にふく・黒褐色	やや粗 Im3m以下の石英・長石含む	良
449	36	SS61226 土器	鉢	(28.0	-	(6.1)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	10YR 7.4 にふく・黒褐色 10YR 7.4 に明黒褐色	やや粗 Im3m以下の石英・長石含む	良

## 弥生土器・土製品 観察表(11)

記号	標団番号	通称名 部位名	器種	測量 (cm)		調査	色調	地成
				口径	底径			
				高さ	鉢底			
450	36	SS61226 土器	葉	C29.0	-	(6.8) 摺成 (不明)	摺成 (不明)	やや粗 3m以下の石英・長石含む 良
451	36	SS61226 土器	葉	C29.2	-	(3.8) 摺成 (不明)	摺成 (不明)	やや粗 3m以下の石英・長石含む 良
452	36	SS61226 土器	葉	G18.9	-	(4.0) 摺成 (不明)	摺成 (不明)	やや粗 3m以下の石英・長石含む 良
453	36	SS61226 土器	葉	G31.0	-	(9.6) 摺成 (不明)	摺成 (不明)	やや粗 3m以下の石英・長石含む 良好
454	36	SS61226 土器	葉	G31.0	-	(9.0) 摺成 (不明)	摺成 (不明)	やや粗 3m以下の石英・長石含む 良
455	36	SS61226 土器	葉	G32.0	-	(6.2) 摺成 (不明)	指サエニ	やや粗 3m以下の石英・長石含む 良好
456	36	SS61226 土器	葉	G16.0	-	(4.3) 突起ハケ	摺成ミガキ→摺成ミガキ 摺成ミガキ、削オサエニ	やや粗 3m以下の石英・長石含む 良好
457	36	SS61226 土器	葉	G20.9	-	(6.4) ナデ、観察ハケ	ナデ	やや粗 3m以下の石英・長石含む 良好
458	36	SS61226 土器	葉	G25.8	-	(5.8) 突起ハケ	ナデ	やや粗 3m以下の石英・長石含む 良好
459	36	SS61226 土器	葉	G27.0	-	(4.8) 突起ミガキ	ナデ	やや粗 3m以下の石英・長石含む 良好
460	36	SS61226 土器	葉	G35.0	-	(4.8) 突起ハケ	摺成 (不明)	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良好
461	37	SS61226 土器	葉	-	-	(3.6) ナデ	ナデ	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良好
462	37	SS61226 土器	葉	G21.0	-	(4.4) ナデ	摺成ミガキ	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良好
463	37	SS61226 土器	葉	G17.0	-	(8.4) 摺成 (不明) 摺成直面と8本縫合状況3本	ナデ、削オサエニ	やや粗 3m以下にない褐色 5m以下にない褐色 良好
464	37	SS61226 土器	葉	G31.0	-	[106] 摺成直面と6本以上1束1条	指サエニ→摺成ミガキ	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良好
465	37	SS61226 土器	葉	G20.0	-	[105] 摺成 (不明) 摺成直面と2列	摺成 (不明)	やや粗 3m以下にない褐色 10.5m以下にない褐色 良
466	37	SS61226 土器	葉	-	-	[82] 摺成 (不明)	摺成ミガキ	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良
467	37	SS61226 土器	葉	196	56	238 突起ミガキ 竹皮文2列	削脱ナデ	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良好
468	37	SS61226 土器	葉	18.0	-	[35] 摺成 (不明)	摺成 (不明)	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良好
469	37	SS61226 土器	広口壺	G19.0	-	[53] 突起ハケ 口縁端部・刃突2列	ナデ	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良好
470	37	SS61226 土器	広口壺	-	-	[46] ナデ	摺成直面7本1束2条・5本1束1条、摺成直面6本1束1条	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良
471	37	SS61226 土器	広口壺	G20.7	-	[131] ナデ	摺成直面・2束9条・縫合状況 摺成直面6本1束1条 口縁端部・横筋直面	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良好
472	37	SS61226 土器	広口壺	G20.0	-	[338] 突起ハケ 摺成直面6本1束2条・3束 摺成直面6本1束1条	摺成ミガキ ナデ	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良好
473	37	SS61226 土器	広口壺	G19.0	-	[170] ナデ	摺成直面6本1束2条・5本1束1条、摺成直面6本1束1条	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良好
474	37	SS61226 土器	広口壺	G19.0	-	[196] 摺成直面6本1束2条・ 摺成直面6本1束2条 (小字) 実寄付 (小字) 寄付付	削脱ナデ	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良好
475	37	SS61226 土器	蓋	-	(8.0)	[295] 摺成直面6本1束2条・ 摺成直面5本1束2条	ナデ	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良好
476	38	SS61226 土器	広口壺	G10.2	-	[174] 体上半・手・ 横筋直面22本、 刃突2列	ナデ(絞り目)	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良
477	38	SS61226 土器	無蓋壺	G9.1	-	[55] 突起ハケ 摺成直面8本1束3条	摺成ミガキ	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良好
478	38	SS61226 土器	無蓋壺	G7.0	-	[87] 摺成 (不明) 摺成直面30本	指サエニ	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良好
479	38	SS61226 土器	蓋	133	82	395 突起ハケ・縫合ミガキ 摺成直面6本1束2条・ 摺成直面5本1束2条	指サエニ	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良好
480	38	SS61226 土器	長柄壺	10.8	-	[283] 体上半・手・ 横筋直面1束2条・ 縫合直面1束2条・ 摺成直面7本1束7条・ 摺成直面15本	摺成 (不明)	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良好
481	38	SS61226 土器	(地盤)	-	G7.0	(3.5) ナデ	ナデ	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良好
482	38	SS61226 土器	(地盤)	-	G8.0	(7.4) 摺成 (不明)	摺成 (不明)	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良好
483	38	SS61226 土器	(地盤)	-	G6.0	[100] 摺成 (不明)	摺成 (不明)	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良好
484	38	SS61226 土器	(地盤)	-	G8.0	(7.6) 摺成 (不明)	摺成 (不明)	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良
485	38	SS61226 土器	(地盤)	-	R.2	(8.2) 摺成 (不明)	指脱ナデ、板ナデ	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良
486	38	SS61226 土器	(地盤)	-	G10.0	(6.0) 摺成 (不明)	板ナデ、指サエニ	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良好
487	38	SS61226 土器	(地盤)	-	R.2	(3.3) ナデ	指脱ナデ	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良好
488	38	SS61226 土器	(地盤)	-	G8.0	(4.7) 摺成 (不明)	摺成 (不明)	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良好
489	38	SS61226 土器	(地盤)	-	R.2	(5.9) 摺成 (不明)	摺成 (不明)	やや粗 3m以下にない褐色 7.5m以下にない褐色 良好

弥生土器・土製品 観察表(12)

標識番号	標団番号	遺構名 層位名	器種	測量 (cm)			調査	色調	地成		
				口径	底径	鉢底					
490	38	SK6126 土	-	7.2	(14.8)	摩滅 (不明)	指オサエ	10YR 8.4 淡灰褐色 75YR 6.5 淡褐色	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良	
491	38	SK6126 土	-	7.0	(14.7)	縦纹ミガキ	ナド、板ナデ	75YR 7.3 にない黄褐色 10YR 6.2 淡灰褐色	やや粗 3mm以下の石英・長石・雲母含む	良好	
492	38	SK6126 土	-	8.0	(9.4)	縦纹ミガキ	指オサエ→板ナデ	75YR 7.4 にない黄褐色 75YR 7.6 棕褐色	やや粗 1~2mmの石英・長石含む	良好	
493	38	SK6126 土	-	9.6	(7.0)	縦纹ミガキ	指オサエ、ナド→ 横紋ミガキ	10YR 7.4 にない黄褐色 25YR 6.6 棕褐色	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良好	
494	38	SK6126 土	-	(10.0)	(6.8)	縦纹ミガキ	縦位ハケ	25YR 8.2 淡灰褐色 25YR 8.3 淡黃褐色	良 3mm以下の石英・長石含む	良好	
495	38	SK6126 土	-	6.8	[10.3]	板ナデ	摩滅 (不明)	10YR 6.2 淡灰褐色 10YR 6.6 明灰褐色	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良好	
496	38	SK6126 土	-	7.6	(13.6)	縦纹ミガキ	指頭ナゲ、指オサエ	75YR 8.4 にない棕褐色 10YR 6.2 にない棕褐色	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良好	
497	39	SD6108 土	ナ	(12.7)	-	(2.3)	ナデ	ナデ	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良好	
498	39	SD6108 土	跡	(18.6)	-	(6.0)	縦纹ミガキ、指オサエ	10YR 7.3 にない黄褐色 10YR 7.4 にない黄褐色	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良好	
499	39	SD6108 土	要	(36.0)	-	(100.0)	縦位ハケ→縦位ミガキ 剥皮文	指オサエ	25Y 6.7 淡灰褐色 10YR 8.3 淡棕褐色	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良好
500	39	SD6108 土	-	(4.8)	(3.0)	ナ	ナデ、指オサエ	75YR 8.4 にない棕褐色 75YR 8.6 棕褐色	やや粗 1~5mmの石英・長石含む	良好	
501	39	SD6108 土	-	6.0	(3.0)	ナ	板ナデ	10R 6.9 淡棕褐色 10R 6.9 淡褐色	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良好	
502	39	SD6108 土	-	5.0	(3.1)	摩滅 (不明)	ナデ、指オサエ	25YR 6.8 淡褐色 10YR 6.6 明灰褐色	良 3mm以下の石英・長石含む	良	
503	39	SD6108 土	-	6.0	(3.4)	縦纹ミガキ	摩滅 (不明)	10YR 6.6 淡褐色 10YR 6.6 棕褐色	やや粗 4mm以下の石英・長石・雲母含む	良	
504	39	SD6108 土	-	6.0	(4.5)	指オサエ、縦位ミガキ	ナ	75YR 7.2 棕褐色 10YR 6.6 棕褐色	やや粗 4mm以下の石英・長石含む	良好	
505	39	SD6108 土	-	6.0	(4.3)	縦位ミガキ	縦位ミガキ	SYR 6.5 棕色 SYR 5.6 明赤褐色	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良好	
506	39	SD6108 土	-	6.0	(2.4)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	10YR 7.4 にない黄褐色 75YR 6.6 棕褐色	良 3mm以下の石英・長石含む	良好	
507	39	SD6107 土	-	6.0	(3.5)	ナ	縦位ミガキ	SYR 6.5 棕色 SYR 6.5 棕褐色	粗 3mm以下の石英・長石含む	良好	
508	40	SP61001 土	広口壺	(22.2)	-	(17.0)	ナデ、縦位ミガキ 横縞直彫文+手本1束7束、彫影文	10YR 8.4 にない棕褐色 75YR 4.4 棕褐色	粗 3mm以下の石英・長石含む	良好	
509	40	SP61002 土	蓋	(11.3)	-	(3.0)	縦位ミガキ 円孔2孔1対	ナ	75YR 6.6 棕褐色 75YR 5.3 にない棕褐色	やや粗 2mm以下の石英・長石・雲母含む	良好
510	40	SP61003 土	蓋	7.5	-	(7.0)	縦位ミガキ 円孔2孔1対2箇所	摩滅 (不明)	SYR 6.5 棕色 10YR 7.6 明灰褐色	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良好
511	40	SP61004 土	跡	-	(20.4)	(6.2)	摩滅 (不明)	摩滅 (不明)	25YR 8.4 にない棕褐色 SYR 6.4 にない棕褐色	粗 3mm以下の石英・長石・雲母含む	良
512	40	SP61005 土	跡	(14.2)	-	(8.8)	ナデ、縦位ミガキ 手本1束7束、彫影文	ナ	SYR 4.0 淡褐色 SYR 4.0 淡褐色	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
513	40	SP61006 土	跡	-	(14.2)	[1]	ナデ、縦位ミガキ 彫影文+2束の刻文	ナデ、指オサエ	SYR 6.6 棕褐色 10YR 6.6 棕褐色	粗 3mm以下の石英・長石含む	良好

\*法値の( )は復元値。( )は残存値を示す。

表 8 石器・観察表(1)

形態 番号	博物 館番号	遺物名 層位名	基種	測量(cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
S1	41	SH61001 墓土	石鏡	22	13	0.3	0.8	サヌカイト	円弧式。完形品。全体に粗い調整。
S2	41	SH61001- b 上層	石鏡	20	15	0.4	0.9	サヌカイト	円弧式。完形品。両面より細かく調整。
S3	41	SH61001- b 上層	石鏡	24	16	0.3	0.8	サヌカイト	円弧式。完形品。両面より細かく調整。
S4	41	SH61001- b 上層	石鏡	28	15	0.5	1.6	サヌカイト	円弧式。完形品。両面より細かく調整。
S5	41	SH61001- b 上層	石鏡	25	10	0.3	0.9	サヌカイト	平底式。全体に粗い調整。
S6	41	SH61001- b 上層	石鏡	26	0.8	0.4	0.7	サヌカイト	基部を欠く。側身の形態。両面より細かく調整。
S7	41	SH61001- b 上層	石鏡(未製品)	25	15	0.3	1.8	サヌカイト	平底式。片面のみ調査。
S8	41	SH61001- b 上層	石鏡	21	0.8	0.4	0.7	サヌカイト	側縁部のみ残る。両面より細かく調整。
S9	41	SH61001- b 上層	石鏡	24	11	0.2	0.8	サヌカイト	凸底式。完形品。両面より細かく調整。
S10	41	SH61001- b 上層	石鏡	30	0.9	0.4	1.0	サヌカイト	側身の形態。両面より細かく調整。
S11	41	SH61001- b 上層	石鏡(未製品)	29	20	0.5	2.9	サヌカイト	全体に粗い調整。
S12	41	SH61001- b 上層	石鏡	35	12	0.4	1.9	サヌカイト	先端部を欠く。両面より細かく調整。
S13	41	SH61001 墓土	石鏡	(44)	26	0.4	4.2	サヌカイト	側部の先端部を欠く。全体に粗い調整。
S14	41	SH61001- b 上層	打製石盾丁	23	30	0.6	4.7	サヌカイト	側縁部のみ残る。両面より細かく調整。抉りあり。
S15	41	SH61001- b 上層	打製石盾丁	4.6	5.3	1.5	38.4	サヌカイト	刃部は両面より調整。
S16	41	SH61001- b 上層	打製石盾丁	6.9	4.7	0.7	21.5	サヌカイト	背部と刃部は両面より細かく調整。
S17	41	SH61001- b 上層	刮削器	14	1.9	0.3	1.2	サヌカイト	わずかに刃部をつくる。
S18	41	SH61001- b 上層	刮削器	2.7	1.9	0.4	3.0	サヌカイト	両面より調査。
S19	41	SH61001 墓土	刮削器	2.8	21	0.4	2.7	サヌカイト	両面より調査。
S20	41	SH61001- b 上層	刮削器	3.0	2.4	0.9	5.9	サヌカイト	全体に粗い調整。
S21	41	SH61001- b 上層	刮削器	32	2.4	0.8	6.8	サヌカイト	両面より調査。
S22	41	SH61001- b 上層	刮削器	3.6	1.9	0.5	2.7	サヌカイト	刃部は両面より調査。
S23	41	SH61001- b 上層	刮削器	4.1	2.9	0.7	5.9	サヌカイト	刃部は両面より細かく調整。白色風化。
S24	41	SH61001- b 上層	刮削器	3.8	2.6	0.4	4.9	サヌカイト	両面より細かく調整。
S25	41	SH61001- b 上層	刮削器	4.1	4.1	0.7	12.4	サヌカイト	剥片を利用して刃部をつくる。
S26	41	SH61001- b 上層	刮削器	6.5	4.75	0.8	21.3	サヌカイト	背部と自然面を残す。刃部は両面より調査。
S27	41	SH61001- b 上層	刮削器	7.2	4.2	0.7	27.8	サヌカイト	両側面部に自然面を残す。全体に粗い調査。
S28	41	SH61001- b 上層	剥片	22	1.0	0.3	0.9	サヌカイト	調査痕あり。
S29	41	SH61001- b 上層	剥片	22	1.3	0.3	0.8	サヌカイト	調査痕あり。石鏡未製品の可能性もある。
S30	41	SH61001- b 上層	剥片	4.0	1.7	0.6	4.1	サヌカイト	わずかに調査痕あり。白色風化。
S31	41	SH61001- b 上層	剥片	3.1	2.2	0.5	4.0	サヌカイト	わずかに調査痕あり。
S32	42	SH61001- b 上層	剥片	4.9	2.0	0.5	4.5	サヌカイト	わずかに調査痕あり。
S33	42	SH61001- b 上層	剥片	6.3	3.4	1.3	34.4	サヌカイト	全体に粗い調整。白色風化。
S34	42	SH61001- b 上層	剥片	10.8	3.6	2.35	65.8	サヌカイト	調査痕あり。
S35	42	SH61001- b 上層	碧石	37	3.3	2.1	28.6	砂岩	一部が残る。
S36	42	SH61001- b 上層	柱状片岩斧(未製品)?	52	30	2.0	44.8	安山岩	
S37	42	SH61001- b 上層	扁平片岩斧	4.9	4.6	1.0	27.8	緑泥片岩	擦痕あり。
S38	42	SH61001- b 上層	叩き石	87	8.3	5.1	478.0	砂岩	敲打痕と被熱痕あり。
S39	42	SH61001- b 上層	石頭	71	6.3	6.1	316.0	砂岩	一部分が残る。被熱痕あり。
S40	43	SH61001- b 下層 + SH61001- a	石鏡(未製品)	28	16	0.3	1.2	サヌカイト	わずかに調査痕あり。
S41	43	SH61001- b 下層 + SH61001- a	石鏡	33	15	0.5	2.3	サヌカイト	凸底式。完形品。両面より細かく調整。
S42	43	SH61001- b 下層 + SH61001- a	石鏡	13	0.6	0.3	1.3	サヌカイト	側部のみ残る。
S43	43	SH61001- b 下層 + SH61001- a	刮削器	19	1.6	0.2	0.5	サヌカイト	片面のみ調査。
S44	43	SH61001- b 下層 + SH61001- a	刮削器	22	2.9	0.6	4.7	サヌカイト	両面より細かく調整。
S45	43	SH61001- b 下層 + SH61001- a	石鏡	26	2.0	0.3	2.0	サヌカイト	側部を欠く。側部調査のみ行う。
S46	43	SH61001- b 下層 + SH61001- a	刮削器	34	3.4	0.6	6.0	サヌカイト	刃部は両面のみ調査。
S47	43	SH61001- b 下層 + SH61001- a	剥片	37	2.3	0.8	5.3	サヌカイト	わずかに調査痕あり。
S48	43	SH61001- b 下層 + SH61001- a	碧石	57	4.6	2.2	41.2	砂岩	一部が残る。
S49	43	SH61001- a 中央土杭	石鏡	22	1.9	0.4	1.3	サヌカイト	平底式。完形品。両面より細かく調整。
S50	43	SH61001- a 中央土杭	石鏡	23	1.6	0.4	2.0	サヌカイト	先端部と基部を欠く。全体に粗い調整。
S51	43	SH61001- a 中央土杭	石鏡(未製品)	32	2.0	0.5	3.0	サヌカイト	全体に粗い調整。
S52	43	SH61001- a 中央土杭	打製石盾丁	28	2.8	0.9	6.3	サヌカイト	側縁部のみ残る。片面のみ調査。抉りあり。
S53	44	SH61001- a 中央土杭	刮削器	18	2.1	0.6	2.6	サヌカイト	両面より調査。
S54	44	SH61001- a 中央土杭	刮削器	2.3	2.7	0.7	4.6	サヌカイト	全体に粗い調整。
S55	44	SH61001- a 中央土杭	刮削器	29	2.7	0.6	5.8	サヌカイト	全体に粗い調整。
S56	44	SH61001- a 中央土杭	剥片	3.6	2.5	0.6	3.5	サヌカイト	調査痕あり。
S57	44	SH61001- a 中央土杭	剥片	2.9	3.5	0.9	8.1	サヌカイト	調査痕あり。

石器 観察表 (2)

規格 番号	博物 館番号	遺構名 層位名	基種	測量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)			
S58	44	SH61001- a中央土杭	刮片	6.1	25	0.6	73	サヌカイト	全体に粗い剥離面を持つ。
S59	44	SH61001- a中央土杭	石斧	308	180	74	5100.0	花崗岩	上面は平坦。
S60	45	SH61002 墓土	石鏃	23	14	0.3	06	サヌカイト	円錐形。完形品。両面より細かく調整。
S61	45	SH61004 墓土	石鏃	18	15	0.3	05	サヌカイト	円錐形。逆調整を欠く。全体に粗い調整。
S62	45	SH61002 墓土	刮削	15	14	0.3	08	サヌカイト	全体に粗い調整。
S63	45	SH61002 土杭	刮削	25	20	0.8	38	サヌカイト	全体に粗い調整。
S64	45	SH61002 土杭	刮削	23	23	0.7	31	サヌカイト	刃部は片面のみ調整。自然面を残す。
S65	45	SH61002 墓土	刮削	695	29	0.6	81	サヌカイト	わずかに刃部をつくる。
S66	45	SH61002 墓土	刮削	39	41	0.55	30.7	サヌカイト	圓錐形で細かく調整。白色風化。
S67	45	SH61002 墓土	刮片	27	24	0.3	24	サヌカイト	わずかに調整痕あり。
S68	45	SH61002 墓土	刮片	41	27	1.2	18.8	サヌカイト	調整痕あり。白色風化。
S69	45	SH61006 墓土	石鏃	15.9	69	4.7	657.6	鈴岩	一部分が残る。
S70	46	SH61008 墓土	石鏃	24	19	0.4	13	サヌカイト	円錐形。完形品。両面より細かく調整。
S71	46	SH61010 墓土	石鏃	21	20	0.4	13	サヌカイト	円錐形。完形品。両面より細かく調整。
S72	46	SH61010 墓土	石鏃	32	14	0.4	11	サヌカイト	円錐形。完形品。両面より細かく調整。
S73	46	SH61008 墓土	刮削	4.8	4.2	0.7	15.4	サヌカイト	背部は自然面を残す。全体に粗い調整。
S74	46	SH61010 墓土	刮削	19	33	0.4	26	サヌカイト	わずかに調整痕あり。
S75	46	SH61010 墓土	刮削	10	38	0.6	32	サヌカイト	刃部と背部のみ調整。
S76	46	SH61010 墓土	刮片	7.4	31	1.3	224	サヌカイト	完形品。片面より調整。
S77	46	SH61010 墓土	打製石底丁	7.4	52	1.8	75.9	サヌカイト	刃部は片面より調整。自然面を多く残す。
S78	46	SH61008 墓土	円石	14.1	82	5.2	8503	鈴岩	やや凹む。
S79	47	SH61011 墓土	石頭 or 石筆	3.0	15	0.5	11	サヌカイト	円錐形。全体に粗い調整。
S80	47	SH61011 墓土	石頭 (未製品)	24	18	0.3	11	サヌカイト	平底式。片面より調整。
S81	47	SH61011 墓土	刮削	26	23	0.4	28	サヌカイト	刃部は片面より調整。
S82	47	SH61011 墓土	刮削	24	20	0.7	4.1	サヌカイト	両面より調整。
S83	47	SH61011 墓土	刮削	3.8	29	0.6	90	サヌカイト	自然面を残す。刃部は両面より調整。
S84	47	SH61011 墓土	刮削	4.0	29	1.6	104	サヌカイト	刃部は両面より調整。全体に自然面を多く残す。
S85	47	SH61011 墓土	刮削	4.6	38	0.8	15.0	サヌカイト	全体に粗い調整。
S86	47	SH61011 墓土	打製石底丁	41	19	0.5	29	サヌカイト	側縁部のみ残る。抉りあり。
S87	47	SH61011 墓土	打製石底丁	35	26	1.1	80	サヌカイト	側縁部のみ残る。抉りあり。白色風化。
S88	47	SH61011 墓土	打製石底丁	8.5	43	0.7	41.0	サヌカイト	片面より細かく調整。
S89	47	SH61011 墓土	刮片	53	48	1.0	18.9	サヌカイト	調整痕あり。
S90	47	SH61011 墓土	刮片	5.7	42	0.8	15.1	サヌカイト	調整痕多数あり。
S91	47	SH61011 墓土	刮片	4.2	44	0.7	14.5	サヌカイト	刃部は擦痕あり。
S92	47	SH61011 墓土	大型始端石斧	60.0	(44)	(1.5)	361	花崗岩	一部が残る。
S93	48	SH61012 墓土上半	石鏃	20	15	0.3	06	サヌカイト	円錐形。完形品。両面より細かく調整。
S94	48	SH61012 墓土上半	石鏃	22	16	0.3	0.9	サヌカイト	円錐形。先端部を欠く。両面より細かく調整。
S95	48	SH61012 墓土上半	石鏃	23	18	0.4	10	サヌカイト	円錐形。全体に粗い調整。
S96	48	SH61012 墓土上半	石鏃	19	15	0.3	08	サヌカイト	平底式。完形品。両面より細かく調整。
S97	48	SH61012 墓土上半	石鏃	23	14	0.3	13	サヌカイト	円錐形。先端部を欠く。全体に粗い調整。
S98	48	SH61012 墓土上半	石鏃	33	17	0.3	27	サヌカイト	両面より細かく調整。
S99	48	SH61012 墓土上半	刮削	14	16	0.6	14	サヌカイト	刃部は片面より調整。背部に自然面を残す。
S100	48	SH61012 墓土上半	刮削	20	27	0.4	20	サヌカイト	全体に粗い調整。
S101	48	SH61012 墓土上半B群	刮削	49	23	0.5	36	サヌカイト	刮片を利用し刃部をつくる。
S102	48	SH61012 墓土上半	刮削	42	36	0.8	14.6	サヌカイト	刃部は両面より調整。
S103	48	SH61012 墓土上半	刮削	25	25	0.7	4.4	サヌカイト	刃部は片面より細かく調整。
S104	48	SH61012 墓土上半	刮削	43	35	0.9	15.2	サヌカイト	全体に粗い調整。
S105	48	SH61012 墓土上半	刮削	51	34	0.8	13.6	サヌカイト	両面より細かく調整。
S106	49	SH61012 墓土	打製石底丁	47	48	1.4	34.4	サヌカイト	背部は両面より調整。
S107	49	SH61012 墓土上半	打製石底丁	8.3	37	1.0	27.9	サヌカイト	完形品。刃部はわずかに調整。
S108	49	SH61012 墓土上半D群	打製石底丁	47	44	1.1	22.7	サヌカイト	側縁部のみ残る。全体に粗い調整。
S109	49	SH61012 墓土下半	打製石底丁	10.4	34	1.1	33.5	サヌカイト	完形品。両面より細かく調整。
S110	49	SH61012 墓土下半	刮片	42	26	0.5	56	サヌカイト	調整痕あり。
S111	49	SH61012 墓土下半	刮片	7.7	58	0.9	34.3	サヌカイト	多数の剥離面あり。白色風化。
S112	49	SH61012 墓土下半	刮片	7.4	33	1.7	49.4	サヌカイト	調整痕あり。
S113	49	SH61012 墓土下半	不明	5.9	5.0	2.3	86.6	花崗岩	円板形。
S114	49	SH61012 墓土上半A群	砧石	7.2	50	3.9	1598	鈴岩	3面を使用。

石器 観察表 (3)

規格 番号	標団 番号	遺構名 層位名	基種	測量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
S115	49	SH61012 理土上半A群	石盤	124	14.3	6.4	1100.0	安山岩	上面が凹む。
S116	49	SH61012 理土上半B群	大型船形石斧	68.0	13.8	3.5	539	緑泥片岩	一部分が残る。
S117	50	SH61013 理土	ナイフ形石器	57	1.8	1.2	9.5	サスカイト	白色化。
S118	50	SH61013 理土	石盤 (未製品)	43	5.0	0.8	195	サスカイト	未製品。片面より調整。
S119	50	SH61013 理土	刮削	30	3.1	0.3	41	サスカイト	全体に細い調整。
S120	50	SH61013 理土	削器	62	4.8	1.1	243	サスカイト	背部に自然面を残す。刃部は片面より調整。
S121	50	SH61013 理土	洞片	28	3.7	0.5	43	サスカイト	わずかに側面削あり。
S122	51	SH61001 理土	洞片	23	4.3	1.0	145	サスカイト	わずかに側面削あり。
S123	51	SK61002 理土	刮削	38	3.2	0.5	56	サスカイト	洞片を利用し刃部をつくる。
S124	51	SK61011 理土	刮削	17	2.7	0.4	25	サスカイト	全体に細い調整。
S125	51	SK61011 理土	刮削	33	3.8	0.7	85	サスカイト	全体に細い調整。
S126	51	SK61011 理土	洞片	76	4.1	1.0	453	サスカイト	多段の側面削を持つ。周囲に調整痕あり。
S127	51	SK61017 理土	石盤	27	1.1	0.3	11	サスカイト	凸弧式。両面より細かく調整。
S128	51	SK61017 理土	石盤	18	2.5	0.3	16	サスカイト	平基式。先端部を欠く。両面より細かく調整。
S129	51	SK61017 理土	石盤	38	2.1	0.7	46	サスカイト	鍼部の先端部を欠く。全体に細い調整。
S130	51	SK61017 理土	打製石砲丁	48	3.4	0.8	229	サスカイト	全体に細い調整。使用痕あり。
S131	51	SK61017 理土	洞片	25	1.8	0.4	15	サスカイト	調整痕あり。
S132	51	SK61017 理土	洞片	44	2.4	0.5	57	結晶片岩	石盤との可能性もある。
S133	51	SK61025 理土	刮削	18	2.4	0.4	18	サスカイト	全体に細い調整。
S134	51	SK61026 理土	刮削	31	3.7	0.6	71	サスカイト	両面より刃部をつくる。
S135	51	SK61030 理土	刮削	30	2.6	0.6	50	サスカイト	全体に細い調整。
S136	51	SK61033 理土	石盤	32	1.5	0.4	21	サスカイト	凸弧式。完形品。両面より細かく調整。
S137	51	SK61051 理土	石盤	30	2.0	0.6	24	サスカイト	四角式。先端部と逆剥部を欠く。両面より細かく調整。
S138	52	SK61057 理土	刮削	28	4.4	0.7	88	サスカイト	背部、刃部とも両面より細かく調整。
S139	52	SK61057 理土	砾石	11.7	6.5	6.5	899	安山岩	上面に擦痕あり。
S140	52	SK61070 理土	大型船形石斧	68.0	1.5†	0.9†	33.9	緑泥片岩	一部が残る。
S141	52	SK61070 理土	柱状片岩斧 (未製品)	12.5	4.3	2.5	208.1	緑泥片岩	未製品。
S142	52	SK61070 理土	石盤	19.5	16.5	4.8	2300.0	砂岩	上面はやや凹む。
S143	52	SK61089 理土	石盤	23	1.8	0.4	13	サスカイト	平基式。完形品。両面より細かく調整。
S144	52	SK61089 理土	石盤	4.1	1.9	0.4	22	サスカイト	平基式。完形品。両面より細かく調整。
S145	52	SK61089 理土	洞片	22	2.8	0.3	24	サスカイト	わずかに調整痕あり。
S146	52	SK61089 理土	洞片	4.6	4.6	0.7	16.7	サスカイト	自然面を残す。
S147	52	SK61089 理土	砾石	0.35	7.8	3.4	328.1	安山岩	上面に使用痕あり。
S148	52	SK61089 理土	石盤	18.0	11.3	4.8	1186.9	砂岩	上面は凹む。
S149	52	SK61103 理土	石盤	3.2	2.0	0.5	2.3	サスカイト	平基式。先端部と逆剥部を欠く。両面より細かく調整。
S150	52	SK61135 理土	刮削	23	2.6	0.8	7.7	サスカイト	全体に細い調整。
S151	53	SK61117 理土	磨石	7.5	6.7	2.5	156.7	砂岩	研磨着。
S152	53	SK61195 理土	砾石	8.1	5.6	5.1	358.0	安山岩	擦痕あり。
S153	53	SK61196 理土	石盤	24	1.6	0.4	10	サスカイト	平基式。完形品。両面より細かく調整。
S154	53	SK61196 理土	石盤	28	2.0	0.4	19	サスカイト	四角式。先端部と逆剥部を欠く。両面より細かく調整。
S155	53	SK61196 理土	石盤	27	1.8	0.3	18	サスカイト	凸弧式。先端部を欠く。両面より細かく調整。
S156	53	SK61196 理土	石盤 (未製品)	28	1.5	0.4	18	サスカイト	洞片を利用して細部調整。
S157	53	SK61226 理土	打製石砲丁	70	5.3	0.9	34.6	サスカイト	刃部のみ調整なし。
S158	53	SK61226 理土	打製石砲丁	132	6.7	1.1	885	サスカイト	背部と両面より細かく調整。刃部は調整なし。
S159	54	SK61226 理土	叩石	115	8.7	6.0	954.8	花崗岩	敲打痕あり。
S160	54	SK61226 理土	磨石	128	8.7	6.0	1057.6	花崗岩	擦痕あり。敲き石に転用。
S161	54	SK61226 理土	叩石	146	11.3	7.0	1500.0	砂岩	敲打痕あり。雖然也あり。
S162	54	SK61226 理土	石盤	36.0	10.6	7.7	3100.0	砂岩	雖然也あり。
S163	54	SK61226 理土	台石	38.3	22.1	7.2	6500.0	安山岩	上面は平坦。
S164	54	SK61008 理土	石盤	29	1.6	0.6	18	サスカイト	四角式。完形品。両面より細かく調整。
S165	54	SK61027 理土	刮削	40	3.5	1.5	21.0	サスカイト	自然面を残す。全体に細い調整。
S166	54	SK61007 理土	石盤	25	1.9	0.5	18	サスカイト	平基式。完形品。両面より細かく調整。
S167	54	SK61008 理土	石盤	37	1.9	0.4	16	サスカイト	門基式。逆剥部を欠く。両面より細かく調整。
S168	54	SK61009 理土	石盤	26	2.0	0.5	22	サスカイト	四角式。先端部を欠く。両面より細かく調整。
S169	54	SK61010 理土	刮削	39	3.0	0.4	39	サスカイト	刃部のみわざかに調整。
S170	54	SK61011 理土	敲き石	50	6.2	3.5	166.2	砂岩	敲打痕あり。
S171	54	SK61012 理土	大型船形石斧	63.9	6.9†	4.2†	95.2	花崗岩	基部のみ残る。

## 写真図版



写真3 SH61001の調査の様子（西から）



写真5 調査風景



写真4 測量風景



1 調査区近景（北西から：左側がVII区、右側がVI区）



2 調査区近景（北東から：手前がVII区、奥がVI区）

図版2

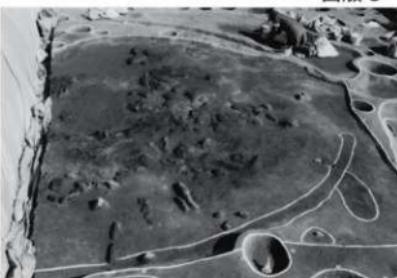


1 調査区垂直写真（上が北：北側がⅤ1区、南側がⅤ2区）

図版3



1 SH61001 調査状況（北西から）



2 SH61001-b 炭化材検出状況（西から）



3 SH61001-b 炭化材検出状況（北から）



4 SH61001-b 西半 炭化材検出状況（北西から）



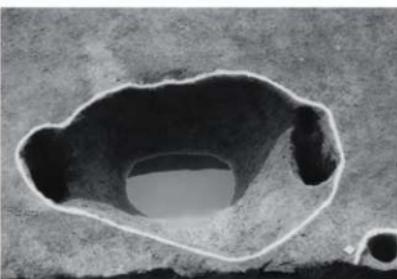
5 SH61001-b 西半 炭化材と遺物出土状況（北西から）



6 SH61001-b 炭化材検出状況（東から）

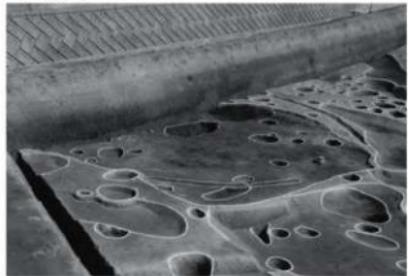


7 SH61001-a · b 実掘状況（北西から）

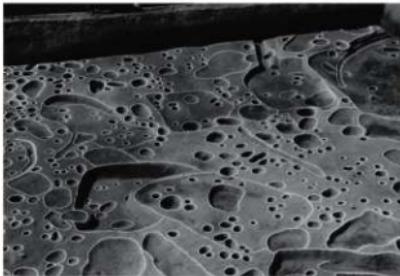


8 SH61001-b 中央土坑 実掘状況（北から）

図版4



1 SH61001・61002 完掘状況（南西から）



2 SH61003 とその周辺の住居 完掘状況（南東から）



3 SH61004 床面の遺構検出状況（東から）



4 SH61005・61006 床面の遺構検出状況（西から）



5 SH61006 北西隅 炭化材出土状況（北西から）



6 SH61008・61009 調査状況（南西から）



7 SH61010・61011 完掘状況（南東から）



8 SH61010 完掘状況（南西から）

図版5



1 SH61011 とその周辺の住居 完掘状況（北西から）



2 SH61011 完掘状況（南西から）



3 SH61012 北半 埋土上半 遺物出土状況（南から）



4 SH61012 北半 埋土上半 遺物出土状況（北西から）



5 SH61012 北半 埋土上半 遺物出土状況（西から）



6 SH61012 北半 埋土上半 遺物出土状況（北から）

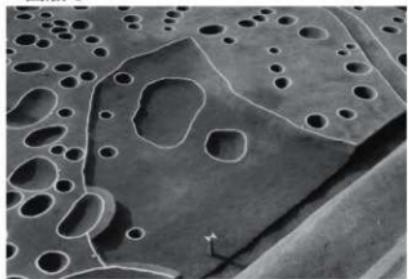


7 SH61011 と SH61012 の重複関係（南東から）

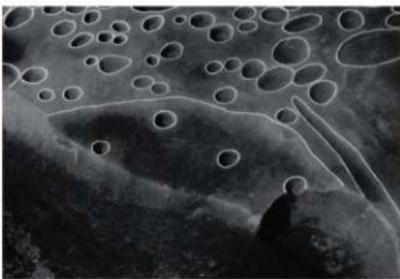


8 SH61012 床面の遺構配置状況（南西から）

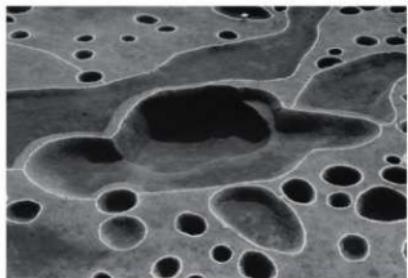
図版6



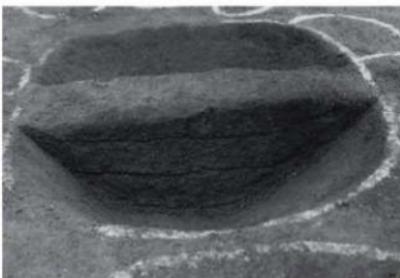
1 SH61014 底面の造構配置状況（北から）



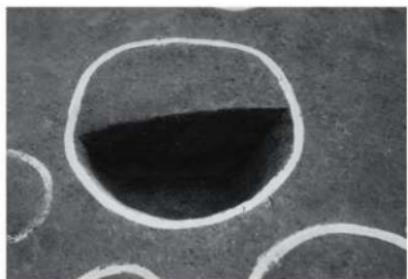
2 SH61015 底面の造構配置状況（南東から）



3 SK61017 完成状況（北西から）



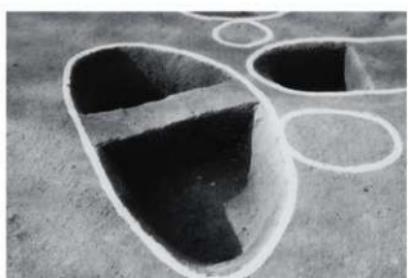
4 SK61033 断面（西から）



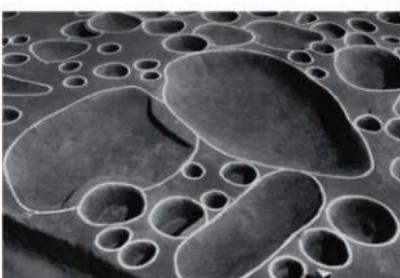
5 SK61051 断面（北から）



6 SK61053 断面（南から）

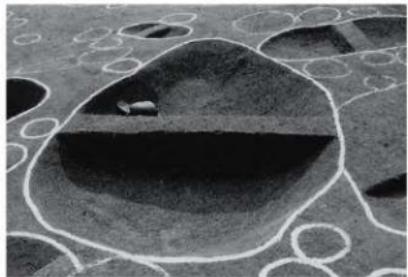


7 SK61057 断面（東から）

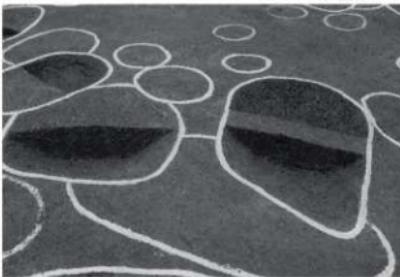


8 SK61069 ~ 61071 完成状況（南西から）

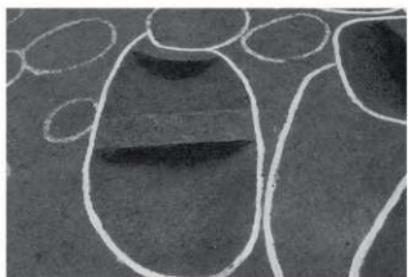
図版 7



1 SK61070 遺物出土状況（北東から）



2 SK61073・61074 断面（南から）



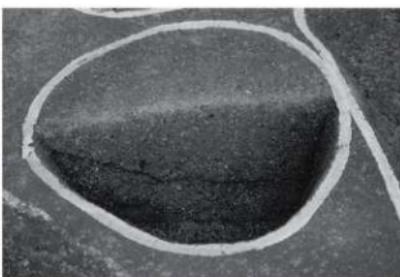
3 SK61077 断面（北東から）



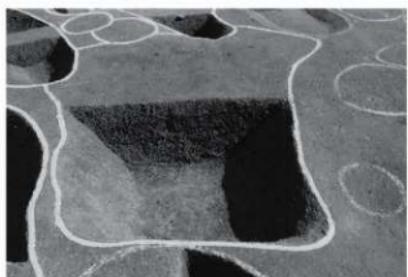
4 SK61089 断面（東から）



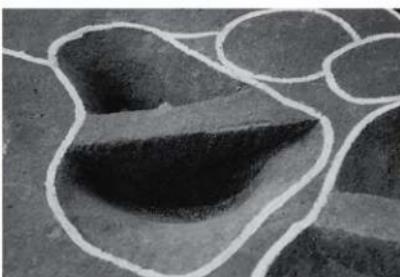
5 SK61191 断面（東から）



6 SK61195 断面（南から）

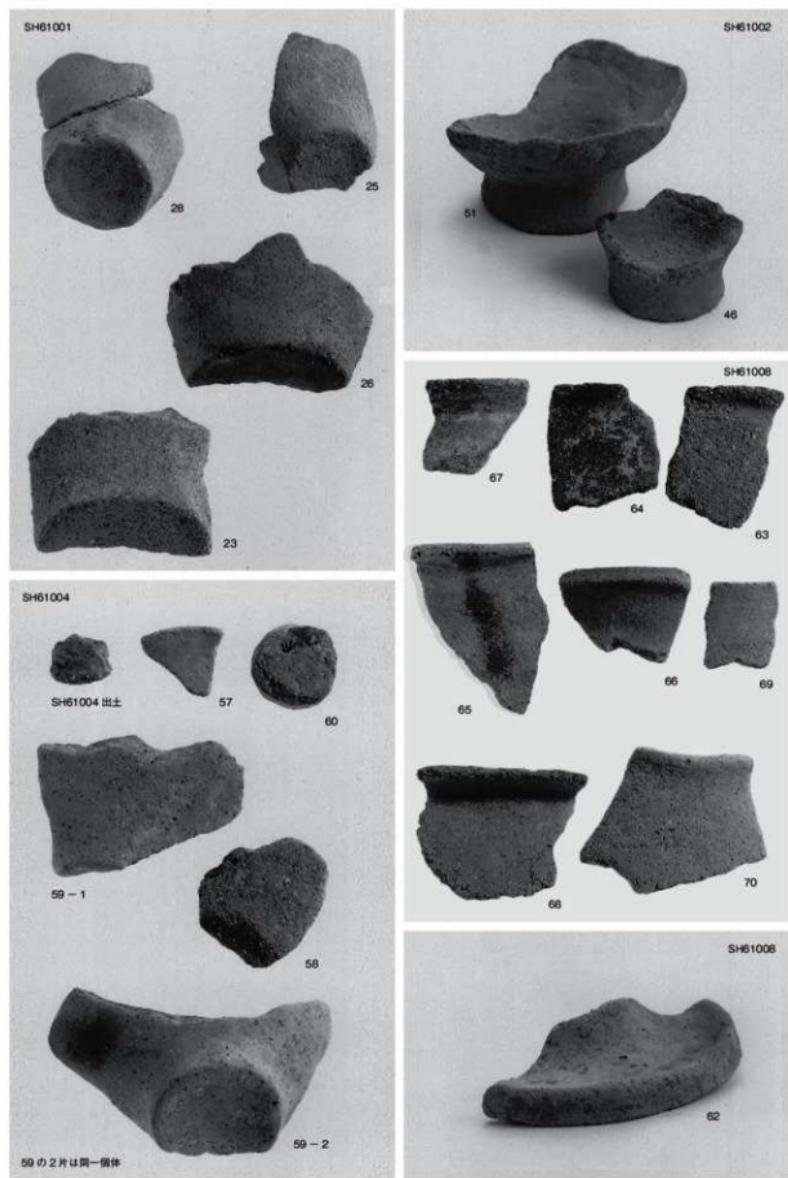


7 SK61196 断面（南西から）



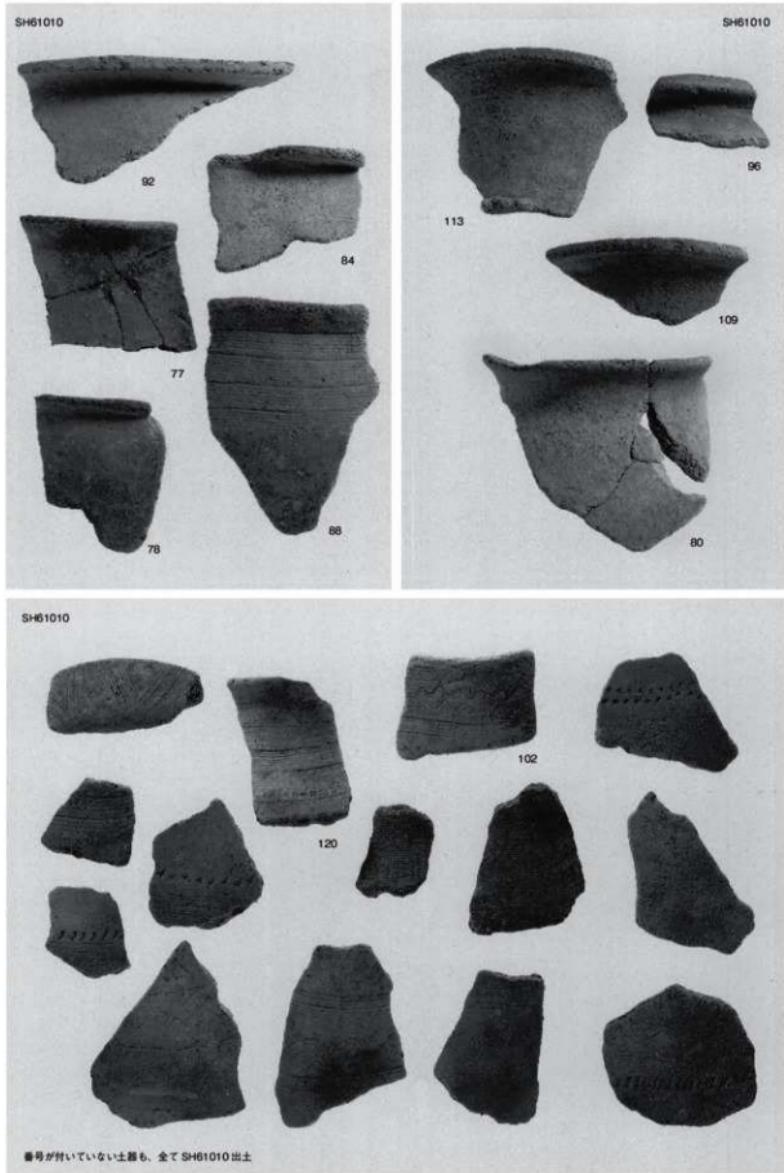
8 SK61197 断面（東から）

図版 8



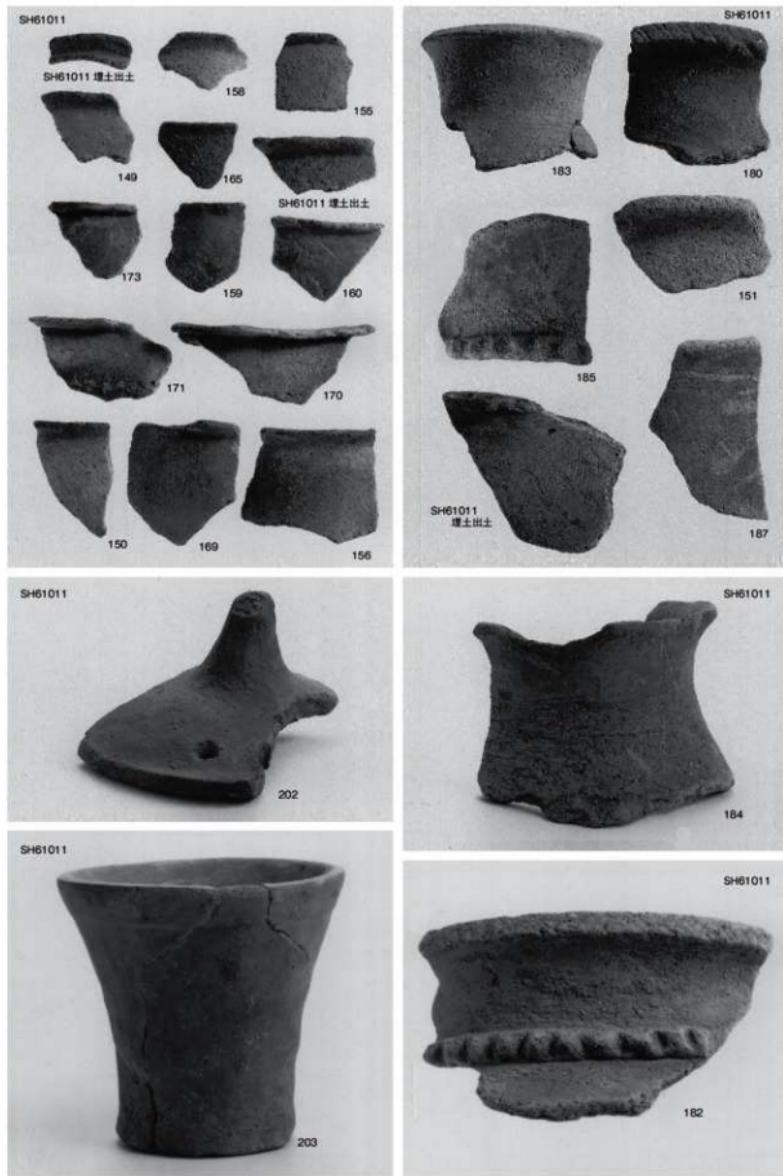
竪穴住居跡出土土器①

図版9

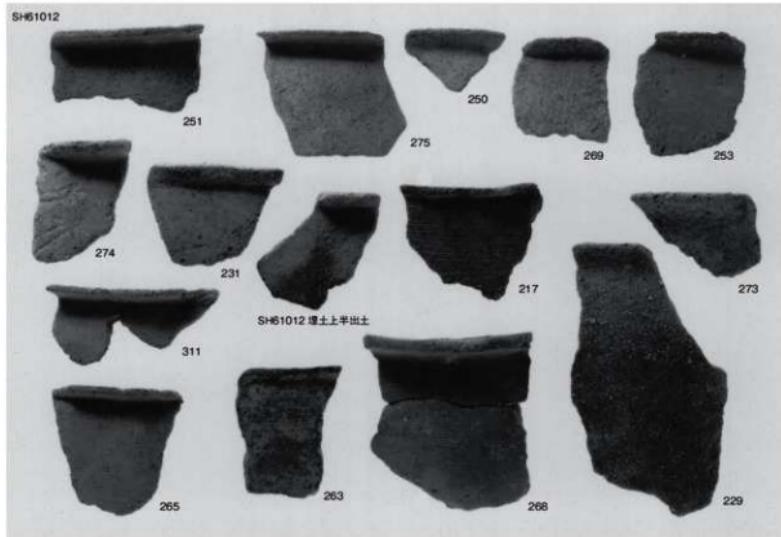


番号が付いていない土器も、全て SH61010 出土

図版 10



堅穴住居跡出土土器③



堅穴住居跡出土土器④

图版 12

SH61012



266

SH61012



267

SH61012



268

SH61012



269

SH61012



278

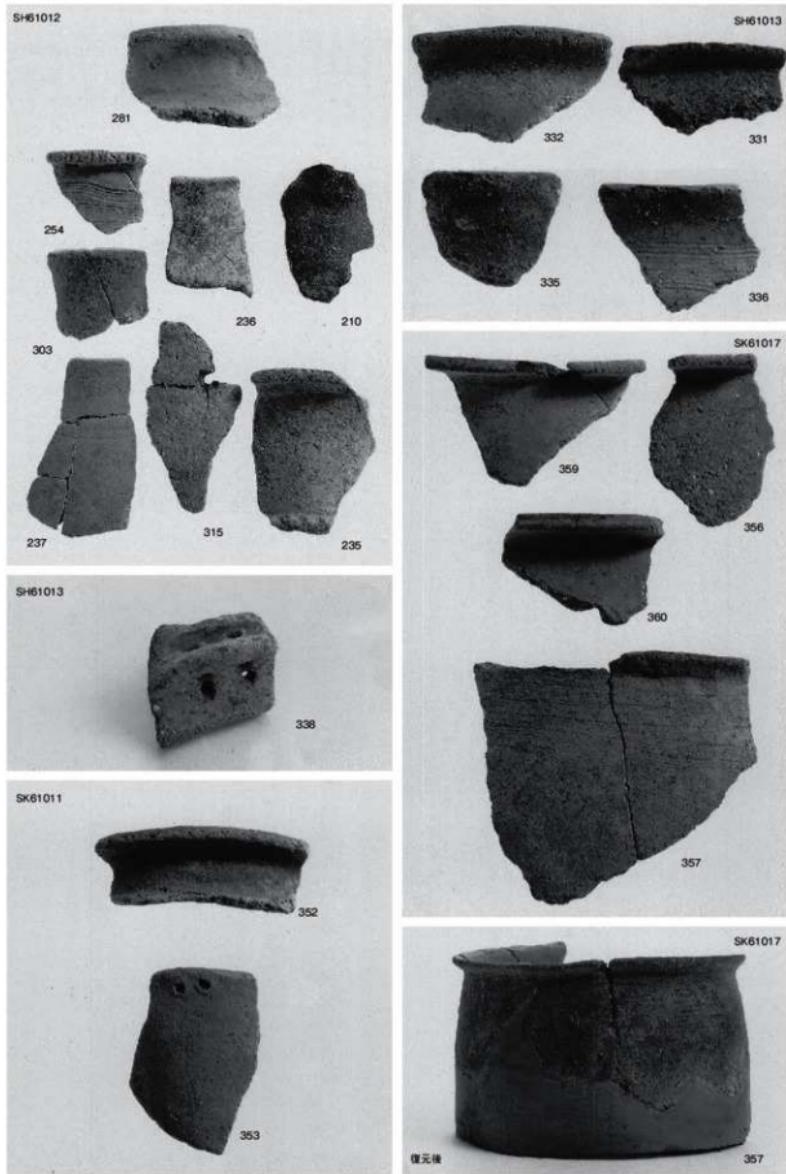
SH61012



282

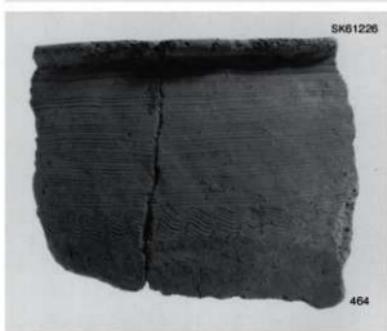
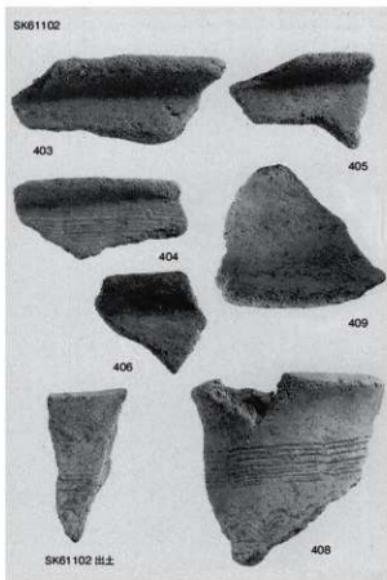
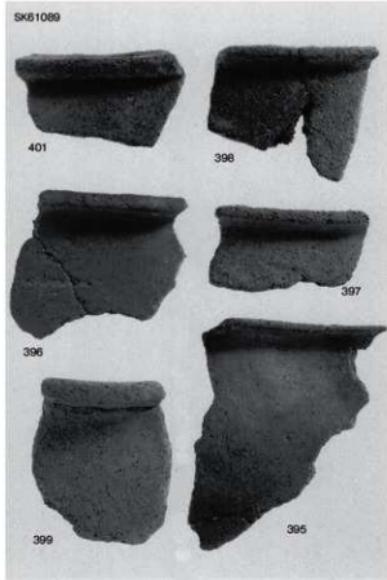
竖穴住居跡出土土器②

図版 13



堅穴住帮助出土土器⑥、土坑出土土器①

図版 14



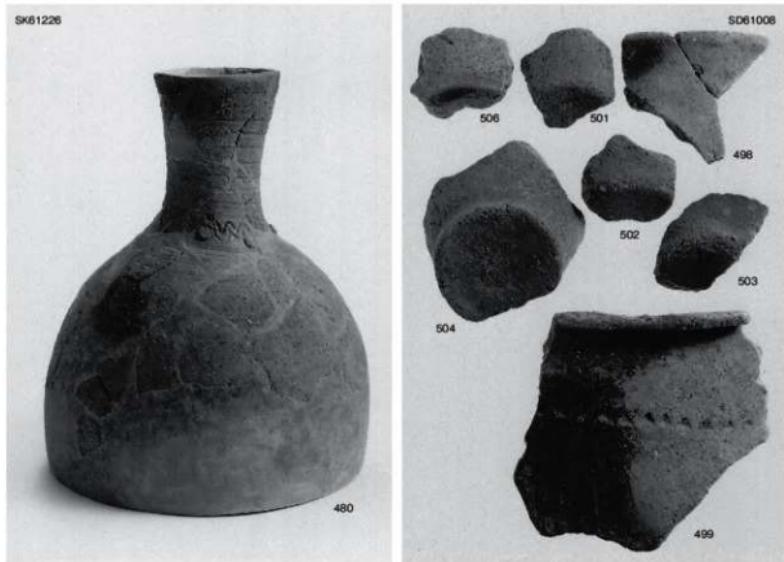
土坑出土土器②

図版 15

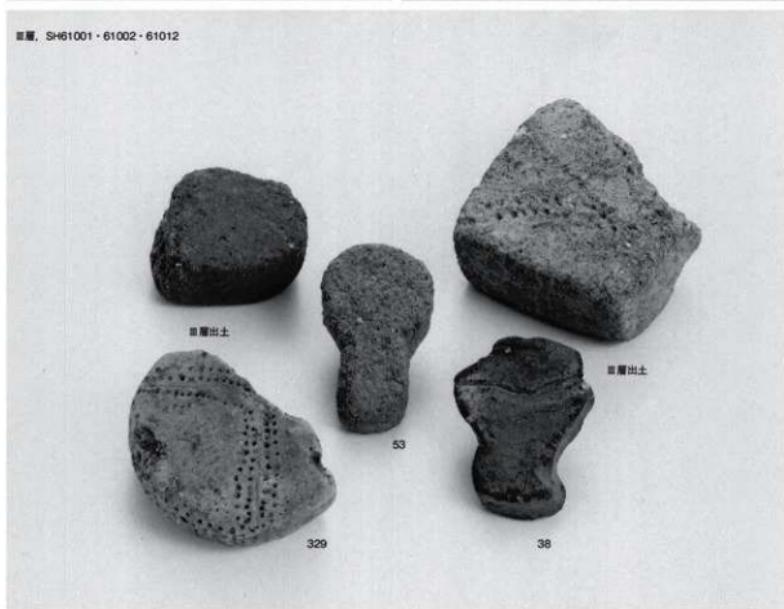


土坑出土土器③

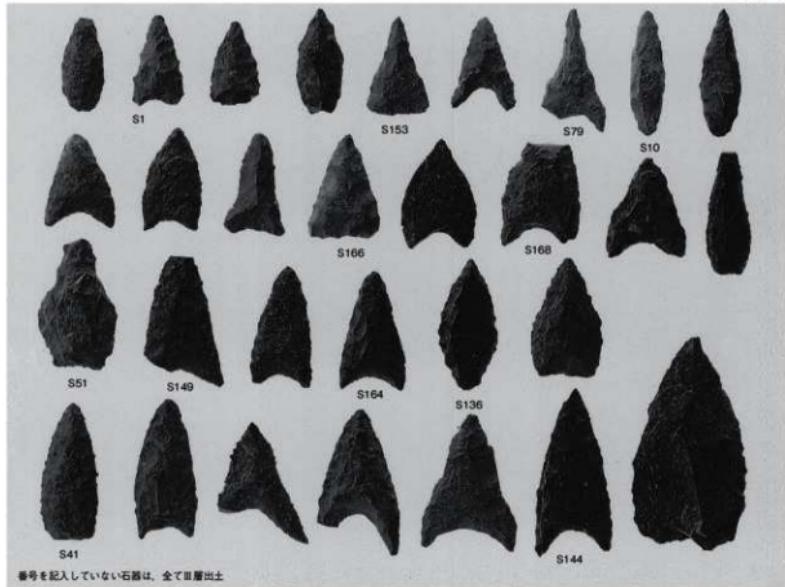
図版 16



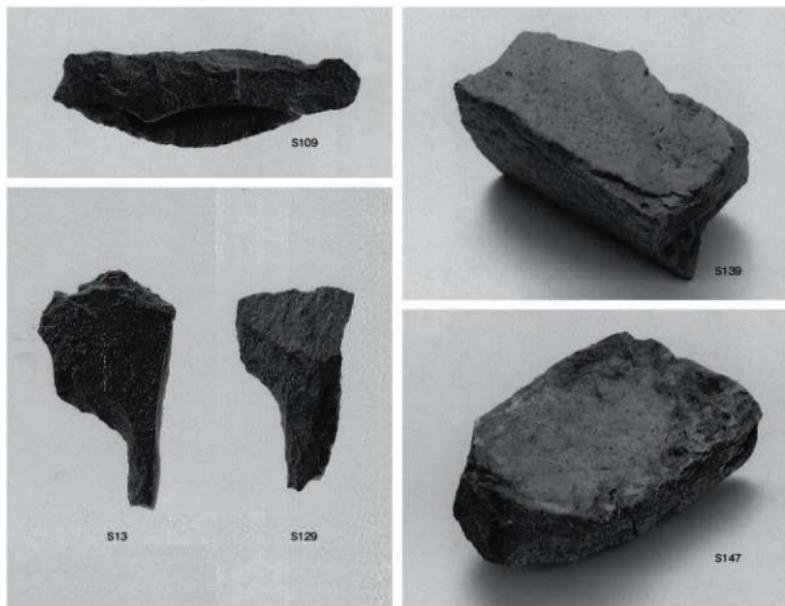
三層, SH61001・61002・61012



土坑出土土器④, 漢出土土器, 土製品集合

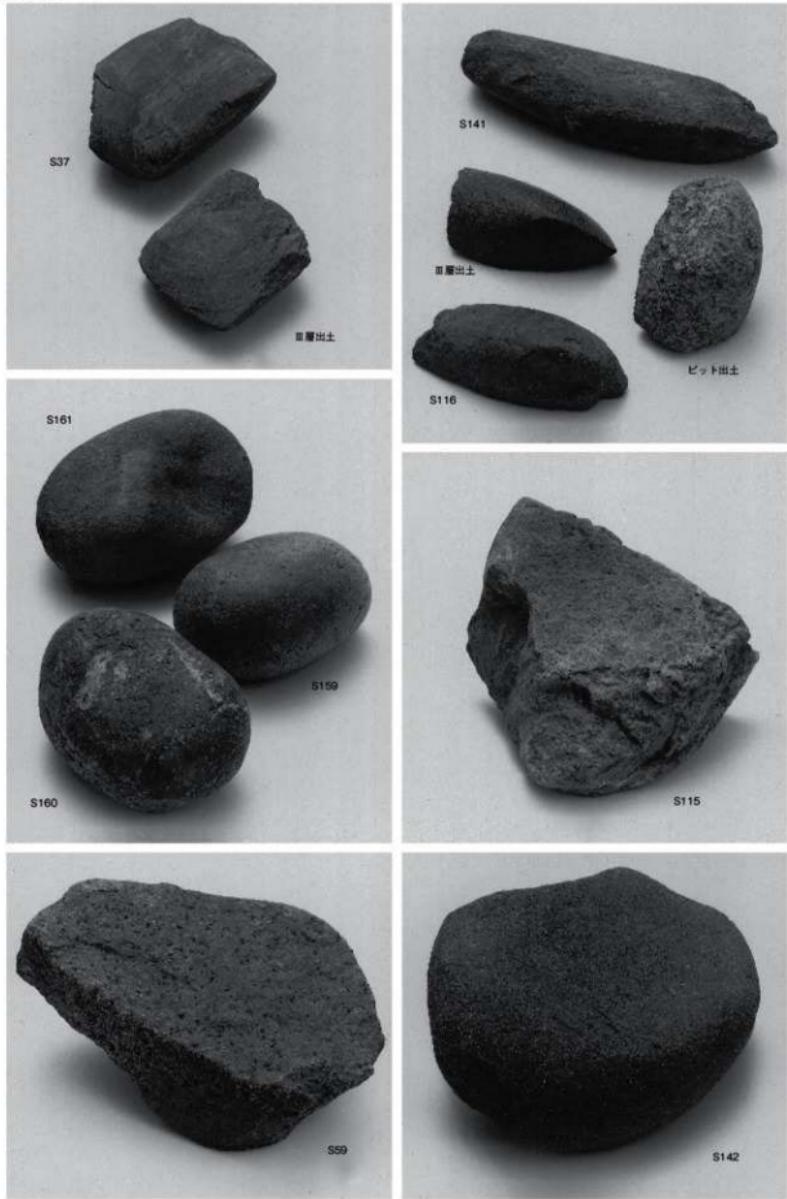


番号を記入していない石器は、全てⅢ層出土



出土石器①（竪穴住居跡、土坑、溝、ピット出土）

図版 18



出土石器③（堅穴住居跡、土坑、ビット出土）

## 報 告 書 抄 錄

高松市東部運動公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第9冊

奥の坊遺跡群IX  
(奥の坊遺跡 VI区)

平成23年3月31日

編集 高松市教育委員会  
高松市番町一丁目8番15号  
発行 高松市教育委員会  
印刷 有限会社 若葉プリント